

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

212 昭和13年5月27日

宇垣外相就任に当たり東亞局第一課が作成し

た「事變ニ關聯セル各種問題」

事變ニ關聯セル各種問題

(昭和三、五、七 亞一、松村)

一、宣戰布告問題

本件ハ客年十一月内閣參議會ニテ問題トナリタルコトアルモ宣戰ニヨル利益不利益ヲ比較考量セハ不利不便ノ方遙ニ大ナルノミナラス當時ノ國際情勢ニ鑑ミルモ時期不適當ナリトテ「ドロップ」セラレタル次第ナルカ今日ニ至リ宣戰スルモ其ノ主タル目的トスル戰時禁制品ノ輸送防遏及戰時封鎖ニヨリ第三國船ニヨル對支武器輸出防遏ハ蘇聯ニ對シ無効ナルノミナラス主タル輸送經路カ香港、佛印等ナル關係上英佛等トノ葛藤ヲ増シ武力衝突ニ迄至ル危險アルノミナラス米國中立法ノ適用ニヨル重要物資

ノ供給杜絶等ノ虞アルコト當時ニ異ラス特ニ常識的ニ云フモ既ニ「對手ニセス」ト聲明セル國民政府對手ニ宣戰布告ヲナスハ妥當ナラス

三、九國條約廢棄問題

帝國政府ノ九國條約ニ對スル方針ハ窮極ニ於テ之カ事實上ノ消滅ヲ目標トシツツモ今日迄我ヨリ進ンテ同條約ノ無効ヲ主張スルニ於テハ米、英其ノ他ノ國際輿論ヲ不必要ニ刺戟シ面白カラサル政治的影響ヲ招來スヘキ處アリタルニ鑑ミ前記事實上ノ消滅ノ目標ヲ常ニ明確ニ意識シツツ積極的否認ノ擧ニ出テサル一方苟クモ同條約ヲ論議スルカ如キ機會ハ極力之ヲ避ケ且如何ナル場合ニ於テモ之カ效力ヲ更メテ確認スルカ如キ言辭ハ嚴ニ之ヲ慎ミ漸次本條約ヲ自然消滅ニ導ク方針ヲ以テ進ミ來レル次第ナルカ今后帝國政府ニ於テ支那新政權ヲ中央政權トシテ承認ノ運ニ至ラハ東亞及世界ニ於ケル情勢ノ進展ヲ見窮メ同政府及帝國政府ニ於テ併行的ニ本條約脫退方ヲ考慮ス

ル價值アルヘク右ニ付テハ目下折角研究中ナリ
三、英國利用ニヨル時局收拾問題

英「カドーガン」外務次官ハ二月二十五日石井子ニ對シ
英ハ「日支兩國ヨリ依頼ナクンハ斡旋ノ勞ヲ執ル譯ニ行
カサルモ英國單獨ニテハ他國ノ疑惑ヲ受クル惧アル故米
國ト共同ニ非サレハ斡旋シ得ス」ト述ヘタル次第アル處
支那カ最モ頼ミトシ居ル英國トノ關係ヲ好轉セシメテ日
本ノ味方トシ國民政府ニ對シ背後ヨリノ壓迫ヲ感セシム
ルコトハ武力ニヨル國民政府ノ解決早急ニハ付キ兼ヌル
現狀ニ於テハ最善ノ方策ノ一ニシテ右ニ付テハ陸海軍共
原則トシテ異論ナキ所ナルカ日英關係調整ノ爲ニハ
(イ)不祥事件ノ發生防止

(ロ)英國關係懸案ノ公正ナル解決

(ハ)英國側ノ北中支ニ對スル資本投下ノ誘導及企業參加ノ
或程度ノ承認

(ニ)國內輿論ノ指導

等必要ナルカ本件ニ關聯シ英國側ニ香港經由武器輸入禁
止ヲ行ハシメ之ニ對シ我方ニ於テ若干ノ代償ヲ與ヘント
スルカ如キ具體的問題トシテ目下陸海海三省間^(外)ニ研究中

ナリ
四、臨時政府指導機關

二月中旬頃陸軍側ヨリ帝國政府ノ中華民國臨時政府ニ對
スル折衝並指導ハ作戰期間ハ北支那ニ於ケル陸軍最高指
揮官之ヲ代行スヘキ旨陸海外三省間ニ協定方申出アリタ
ル處右ニ對シテハ外務海軍共新政府ノ指導ハ中央ニ於テ
三省間ニ協議決定ノ上出先ヲ指導スヘキモノナリトノ建
前ニテ反對シ纏マリ居ラス(但シ實際^(三)ニシテハ顧問、
經濟協議會等軍司令官ニ於テ專ラ指導ニ當リツツ^(二)ルコ
ト御承知ノ通ナリ)

213

昭和13年5月28日

在上海日高總領事より
宇垣(一成)外務大臣宛(電報)

近衛内閣改造に対する上海の報道振り報告

付記 昭和十三年六月二十一日、情報部作成「支那

事變ニ關スル各國新聞論調(148)」より抜粋

六月十七日の外国人記者会見での宇垣外相談

話に関する各国論調

上海 5月28日後發

本省 5月28日夜着

第一六九七號

内閣改造ニ關シ二十八日當地英漢字紙ハ何レモ社説ヲ揭ケタルモ漢字紙ハ外國電報ヲ多數掲ケタルニ止マリ社説ヲ揭ケタルハ文匯報ノミナリ各紙ノ社説要領左ノ通り

一、「デイリー、ニユース」

今次内閣改造ハ從來ノ官僚及民間トノ妥協廢止、軍部獨裁ヲ實現シ國內政治經濟體系ヲ強化スルコトニ依リ急速ナル戰爭ノ終結ヲ企圖スルモノナルカ今後日本カ増兵スルト否トヲ問ハス莫大ナル軍費ヲ要スヘキヲ以テ如何ニ日本ノ財政經濟ノ整備ヲ計ルカガ重大ナル問題トナルヘキナリ最モ意外ナリシハ宇垣大將ノ外相就任ニシテ之ニ依リ日本ノ外交方針カ根本的ニ變更サルヘキヤ未タ豫想シ得サルモ廣田前外相ハ從來第三國ノ權益尊重ニ關シ累次聲明ヲ爲セルニ拘ラス現地官憲ニ對スル統制力ヲ缺如セル爲何等實際的效果ヲ充ササリシニ鑑ミ軍部出ノ宇垣外相カ改メテ同様ノ聲明ヲ爲シ之カ實行ニ努力センコトヲ期待ス

二、「プレス」

日本ハ南京陥落當時漢口迄攻略シ得ヘキ優勢ノ地位ニ在リタルニ拘ラス決斷ヲ怠リ支那軍ニ立直ル餘裕ヲ與ヘ徒ニ長期戰ニ引込マレ更ニ臺兒莊ニ於テ再ヒ重大ナル作戰上ノ錯誤ヲ爲シ多大ノ犠牲ヲ拂ヒ漸ク徐州ヲ攻略セル後初メテ内閣改造ヲ行ヒ對支戰爭ノ徹底の遂行ノ決意ヲ固メタルモノナル處之ニ依リ漢口及廣東ノ攻撃カ豫想セララルニ至レルモ徐州戰ニ於テ日本ノ主張スルカ如ク支那軍カ致命的の打撃ヲ蒙ラサリシ今日果シテ日本軍ノ希望スル即戰即決カ可能ナリヤ否ヤ甚タ疑問ナリ

三、「タイムス」

戰時内閣(改造)ノ屢々行ハルルハ歐洲大戰當時ノ各國ノ事例ニ徴シテモ明カナルカ今次ノ近衛内閣改造ハ漢口政府膺懲ニ對スル鞏固ナル國論ヲ背景トシテ出現セル強力内閣ニ外ナラス軍人閣僚ノ増加モ軍部獨裁ヲ意味スルニアラスシテ戰時中已ムヲ得サル必要ニ基クモノナルヘシ外國ニ取り廣田外相ノ引退ハ多少危惧ノ念ヲ抱クヘキモ戰時ニ際シ軍事及外交一元化ノ見地ヨリ宇垣外相ノ就任ハ最適任ナルヘク之ニ依リ第三國ノ權益尊重ナル日本ノ

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

從來ノ方針ニハ何等變更ナカルヘシ
四、文匯報

近衛内閣ハ今次ノ改造ニ依リ完全ニ軍人ノ手中ニ墜チタルモノニシテ右改造ノ眞因ハ對外的必要ニ基クモノニアラス幾多ノ對内的摩擦カ新陣容ヲ要求セルモノナルヘシ宇垣ノ出馬ハ日本ノ最モ苦痛トセルニ重外交ヲ調整シ外交權ノ集中ヲ計ルト共ニ同外相ニ依リ幾分ニテモ少壯派ノ氣焰ヲ抑壓セントシ又荒木ノ文相ハ末次内相ト協力シ危險思想ノ彈壓ニ努力スヘク池田ノ入閣ハ軍閥ノ歡心ヲ買ヒ政治の勢力ヲ運用スルニアラサレハ損潰ノ運命ヲ免ルルニ由ナキヲ以テ證明スルモノニ外ナラス斯カル國內の矛盾ヲ糊塗セントスル内閣改造ヲ以テシテモ對支戰ニ於ケル日本慘敗ノ宿命ヲ挽回スルコトハ不可能ナルヘシ漢口發路透ニ依レハ同地漢字紙ハ何レモ内閣改造ヲ大々的ニ報道シ居ルモ之カ日支戰爭ニ及ホス影響ニ付テハ夫々見解ヲ異ニシ一般ニ軍部獨裁ノ表面化セルコトハ支那ニ對スル更ニ激烈ナル軍事行動ヲ豫想セシムルモノナリト評シ居レルニ對シ大公報ハ宇垣ノ外相就任ハ近衛首相ノ後繼者タル前提ト看做シ且「フアツシヨ」ノ反對スル宇垣、荒木ヲ

共ニ入閣セシメタルハ近衛カ内閣ヲ更ニ舉國のトナラシムル意圖ナリト論シタル趣ナリ

(付記)

A 支那

△宇垣外相談ヲ報道

六月十八日上海各紙ハ東京發「ロイテル」電ヲ以テ、宇垣外相カ外人新聞記者會見ニ於テ、日本ト英國トハ傳統のニ特別ノ友誼關係ニ在ルカラ、今後原狀回復ニ盡力スルト共ニ、更ニ一層親善トスル考テアル。日本政府ノ態度ハ一月十六日ノ宣言以來何等ノ變更ナク、日支和平條件等ヲ考慮シタコトハナイカ、情勢カ根本的ニ變動スルヤウナ場合ニハ、政府ノ態度ニ付テ再考慮スルコトモアラウ。日本ハ支那ニ領土的野心ヲ有タヌト重ネテ確言シタト報道シタ。

尙戰況記事ニハ變化ナク、宋子文カ六月十七日香港ニ赴イタコトノ他、爆撃防止方ニ關スル英、米、佛方面ノ消息ヲ大キク詳報シタ。

B 米國

△宇垣外相ノ記者會見談ヲ報道

六月十七日「クリスチヤン・サイエンス・モニター」紙ハ宇垣外相ノ新聞記者會見ニ關スル電報ヲ報道シテ居ルカ、(他ノ新聞ハ未タ報道セヌ)其ノ際外相カ日本ハ重大ナ事態ノ變化ノアツタ場合ハ國民政府ヲ相手トセストノ既定方針ヲ再考スルコトモアラウト語ツタノテ、日本ハ必スシモ既定方針ヲ固執スルモノテナイトノ印象ヲ與ヘタト報シタ外、日本ノ「フアツシヨ」化問題及佛國ノ南寧鐵道問題等ニ關スル談話カアツタコトヲ報シタ。

C 英國

△宇垣外相談ヲ好感テ迎フ

六月十七日宇垣外相カ外人記者ニ與ヘタ會見談ハ十八日ノ重要諸新聞ニ報道セラレ、「日英關係ヲ從前ニモ増シテ親密ニシタイ」ノ言葉ハ特ニ好感情ヲ以テ迎ヘラレタ。尙「支那ノ事態ニ重大ナル變化カ起レハ、日本ハ支那政權ニ對スル方針ヲ再考スル必要カアラウ。但シ目下斯ノ如キ變化ハ豫想サレヌ」、「南北政權ノ合併ハ支那人ノ意嚮ニ懸ル問題テアル」。「防共協定強化ノ必要ハアルカ、日本ハ「フアシズム」ノ方向ニ向フモノテナイ。立憲議

會政治ヲ持續スル」等ノ話等カ特報サレタ。

214 昭和13年6月7日

駐日中国大使館引揚げに関する情報部長談話

駐日支那大使館引揚ニ關スル情報部長談(六月七日)

帝國政府カ去ル一月十六日國民政府ヲ對手トセストノ聲明ヲ發シタ後ニ於テモ政府當局ノ在本邦支那外交機關、領事機關及ヒ在留華僑ニ對スル取扱振ハ極メテ寛大テ殊ニ在京支那大使館員ニ對シテハ暗號電報ノ受理、租稅ノ免除、議會傍聽等他ノ諸外國ノ大公使館員ト同様ノ特殊榮譽ヲ認メ又財産建物ニ付テモ我方官憲ニ於テ充分ノ保護ヲ加ヘテ居ルノテアル。

現下ノ事變ニ拘ハラヌ漢口政權ニ屬スル外交機關カ斯ノ如キ寛大ナル取扱ヲ受ケツツアルコトハ蓋シ國際法上ニ於テモ類例ナキ所テアラウ。

然ルニ最近ノ情報ニヨレハ漢口政府ハ近ク在京支那大使館ヲ閉鎖スルコトニ決定セリトノコトテアル其ノ理由カ那邊ニアルカハ知ラナイカ右ハ漢口政府ノ任意ノ措置テアツテ

日本政府ノ關知スル所テナイ。
尙引揚後ノ同大使館ノ建物ニ付テハ我方官憲ニ於テ充分ノ
保護ヲ加フヘキコトハ勿論ノ次第テアル。

編注 本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第三號)」から抜粋。

215 昭和13年6月17日 在ベルギー來栖(三郎)大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

列國の動向に注意しつつ中国新政府の急速設
立を図り蔣政権が抗日容共政策を放棄して新
政府に参加するよう工作すべき旨意見具申

ブリュッセル 6月17日後發

本省 6月18日前着

第一五三號(極秘、館長符號扱)

北中支兩政權ノ合流ニ依ル支那新政府設立ニ關シテハ既ニ
著々諸般ノ準備ヲ進メラレツツアル儀ト拜察スル處愈々右
新政府成立ノ曉其ノ治下ニ屬スヘキ地域ハ現在ニ於テスラ
既ニ上海ヲ始メ諸外國重要權益ノ所在地ヲ包含シ居ル關係

上是等諸外國トシテモ滿洲國政府ニ對スルカ如ク長ク風馬
牛ノ態度ヲ固執スルヲ得サルヘク旁々以テ是等諸外國ノ態
度モ大體西班牙「ブルゴス」政府ニ對スル經緯ノ如ク次第
ニ變轉シ來ルヘキヤニ觀測セラルル處右ハ只管外力ニ依存
シツツアル蔣政権ノ最モ苦痛トスル所ナルヘキヲ以テ同政
權トシテハ右様事態ニ直面スルニ先立チ何トカ和平斡旋ニ
付既ニ諸外國ニ泣付キ居ルニアラスヤト察セラルル節アリ
(往電第一四一號孫科當地來訪ノ際此ノ點ニ觸レタルヤノ
情報アリ更ニ探查中)

蓋シ今日ノ情勢ニ於テ諸外國カ我國ノ意嚮ヲモ考ヘス濫リ
ニ蔣政権ノ運動ニ動カサルルカ如キハ萬之ナカルヘシトハ
思考スルモ客年ノ九國會議ニモ各國ノ要求ニ依リ再開シ得
ルコトヲ決議シ居リ假ニ支那側カ蘇聯等ト語ラヒ右會議再
開ヲ求メ來ルカ如キ場合ニ於テハ列國トシテモ該決議ノ手
前何トカ辻褄ヲ合ハセサルヘカラサルコトトナリ(ノルマ
ン・デビス)ハ米國赤十字代表トシテ目下滯英中ノ由)

先ツ二、三箇國ニ於テ一應和平ヲ勸告シ來リ我國カ第三國
介入排除、蔣政権否認ノ建前上之ヲ峻拒スルニ於テハ戰亂
繼續ノ責ヲ我方ニ嫁シ來ルカ如キコトナキヲ保セスト思考

セラルルニ付我國トシテモ此ノ際主要國ノ動向ニ注目シ事
態如何ニ依リテハ九國條約等ニ關シテモ適宜措置セラルル
ト共ニ支那新政府ノ設立ハ他ノ重要ナル事情ノ許ス限り成
ルヘク速ニ之ヲ實現セシメ且此ノ際戰亂繼續ノ責カ蔣政權
ニ存スル所以ヲ強ク中外ニ印象セシムル爲新政府ヲシテ現
漢口政權ニ對シテモ領土の野心否認ニ關スル帝國政府累次
ノ聲明ニ信賴シ速ニ抗日容共政策ヲ一擲シ且事變責任者ヲ
シテ潔ク責ヲ負ハシメタル上進ンテ新政府ノ傘下ニ集マリ
相携ヘテ和平ノ恢復、經濟ノ再建ニ協力スヘキコトヲ勸告
セシムルト同時ニ蔣政權ニ對シ各種ノ援助ヲ與ヘ直接間接
ニ同政權ノ抗戰繼續ヲ獎勵シツツアルカ如キ外來勢力ニ對
シテモ東亞和平確立ノ見地ヨリ充分戒告ヲ與ヘシメ置カル
ルノ要アリヤニ思考ス
右ハ既ニ折角御配意中ノコトトハ思考スルモ出先トシテノ
觀測何等御參考迄ニ稟申ス

216 昭和13年6月22日

王寵惠外交部長の和平論に関する情報部長談話

王寵惠ノ和平論ニ關スル情報部長談話(六月二十二日)
二十二日香港及上海發同盟ニ依レハ支那外交部長王寵惠君
ハ二十一日獨乙人記者ト會見シ「外務省「スポークスマ
ン」ハ「日本ハ蔣介石政權ノ合法性ヲ否認スルモノテナ
イ」ト言明シタカ右ハ明ニ日本カ蔣介石政權ノ不承認ヲ押
切ル意思ノナイコト即チ日本政府カ平和の解決ノ可能ヲ考
ヘテキルコトヲ物語ルモノナル」旨陳述シタ趣テアルカ自
分ハ六月八日外人記者ノ質問ニ應ヘ一月十六日ノ帝國政府
聲明ハ蔣政權ヲ和平交渉ノ對手トセサルコトヲ意味スルモ
ノト説明セルコトニ止リ政權ノ合法性云々ニ觸レタコトハ
ナイ。王寵惠君カ日本トノ平和の解決ヲ希望シ都合ヨク之
ヲ利用セントスル衷情ハ察スルニ難クハナイカ蔣政權ヲ對
手トセストノ帝國政府ノ方針ハ依然之ヲ堅持スルモノナル
コトヲ指摘シテ置カウ。

編注 本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第三號)から抜粋。

217

昭和13年6月24日 五相会議決定

「今後ノ支那事變指導方針」

今後ノ支那事變指導方針

昭和十三年六月二十四日

五相會議 決定

一、支那事變ノ直接解決ニ國力ヲ集中指向シ概ネ本年中ニ戰
争目的ヲ達成スルコトヲ前提トシ内外諸般ノ施策ヲシテ
總テ之ニ即應セシム

二、第三國ノ友好的橋渡シハ條件次第ニテ之ヲ受諾スルヲ妨
ケス



218

昭和13年6月28日 宇垣外務大臣
在本邦クレギー英國大使 會談

日中間調停のためあらゆる努力を払う用意が

あるとのクレギー大使提議について

★ 宇垣外相、「ク」大使會談内閣 一三、六、二八、

「ク」揚子江航行問題、上海ニ於ケル問題等ノ話ノ後英國
トシテハ日支間ノ調停ニ凡ユル努力ヲ拂フ用意アリ

「宇」先日池田氏ヲ通ジテ話ヲ承リ英國ガ日支間ノ問題ニ

配慮セラルルハ感謝シアリ唯自分トシテハ日支間ノ
現状ハ未ダ其ノ時機ニアラズト考ヘアリ、一例トシ
テ英政府ハ蔣政權ニ對シ長期「クレヂット」ヲ許シ
之ヲ支持スルハ事變ヲ遷延シテ非戰斗員ニ迄モ被害
ヲ余儀ナクシ人道ニモ反シ甚ダ遺憾ト思フ

「ク」池田氏ニ話シタルハ池田氏ハ貴大臣ト親シキ故話ガ
傳ハル爲ト考ヘタルガ故ナリ、日支間ノ調停ハ日支
双方共ニ納得スルトコロニアラザレバ成立シ難ク一
方ヲ壓伏スルガ如キハ宜シカラズ、

英國ハ「クレヂット」提供ノ希望ヲ妨害セザルベシ
トノコトアリシノミ、他ノ中立國ト同様ニナシツツ
アルノミ。

英國ハ事實支那ニ余リ武器ヲ供給シ居ラズ、支那ニ
這入ル武器ハ概ネ獨逸、伊太利、「チェッコ」ノモノ
ナリ。

又人道問題云々ハ外國ヲ納得セシメ得ズ支那政府ハ
若シ戰爭ヲ十分長引カシメ得レバ戰勝ヲモ獲得シ得
ト信ジアリ。

〔宇〕先日バトラー外務次官ハ議會ニ於テ英國人が支那ニ對シ商租クレヂット設定等ノ意思アル場合ハ政府トシテ考慮スル旨答ヘタルハ英國ガ支那ニ「モーラーサポート」ヲ與ヘタルモノトシテ不愉快ニ考ヘ居ルトコロナリ、

〔ク〕其ノ件ハ全然初耳ナリ、何日左様ノコトヲ述ベシカ解リ居ラバ知ラサレタシ、立掛ケテ更ニ質問ス

〔ク〕海南島問題ニ關シテハ前廣田外相當時「アシユランス」ヲ得タルモノト諒解シ居リタルトコロ其後時日モ經過シ又大臣モ更迭セラレタルコト故更メテ「アシユランス」ヲ得タシト思フ次第ナリ

〔宇〕政府トシテハ今海南島ヲ取ラントスルノ考ヲ有セザルモ今後漢口作戰ノ推移ニ伴ヒ廣東作戰モ考慮セラレルコトアルベク其等ノ場合海南島ニ對シテモ軍事行動ヲ執ルコトアルベシト思フ、但シ帝國ハ海南島ニ對シ領土の野心ヲ有セザルヲ以テ作戰ハ純軍事的見地ニ限ラルルコトハ明言シ得ベシ

〔ク〕海南島ニ對シテ英國ハ深キ「プレヂュヂス」ヲ有ス

ルヲ以テ若シ日本軍ガ同島ヲ占領スルガ如キコトアラバ「ミリタリー、テンション」ヲ來ス惧アルコトヲ了解セラレタシ
而シテ廣東作戰ハ政府ニテ「デシイジョン」セラレタル問題ナリヤ

〔宇〕未ダ決定シ居ラズ、

△(特情)

支那ガ諸列強ヨリ人員及物資ノ援助ヲ受ケアル限り日本ハ如何ナル形式ノ外國ノ調停ヲモ受諾シ難シ支那ハ外國ノ援助ナクシテハ日本ニ抗スルコト不可能ナルモ此ノ外國ヨリノ援助繼續セラルル限り日本ハ戰爭ヲ持續セザルベカラズ、其ノ場合ハ最後迄戰フノ已ムナカルベシ

◎

更ニ銘記セザルベカラザルコトハ

「漢口ガ遠カラズ陥落スベキコトハ疑ナキ所ナリ漢口陥落セバ現在ノ支那政府ハ蔣麾下軍隊ガ實際ニ占領シアル比較的小地域以外ノ支那地域ハ支配シ得ザル地方政權トナリ果

ツルニ至ルベシ、同時ニ日本軍ガ完全ニハ支配シ得ザル地域モ廣大ナルベシ此等支配シ得ザル地域ニ於テハ共產主義跋扈シ其ノ主義主張ハ殷盛ヲ極ムルニ至ルベシ」

219 昭和13年6月29日

蔣介石政権の動向に関する岩井副領事の香港視察報告

昭和十三年六月二十九日

漢口攻略後ニ於ケル蔣介石政権ノ動向ト我方對策

外務省情報部

本文ハ上海總領事館在勤岩井副領事カ過般當情報部ノ用務ヲ帶ヒテ香港ヲ視察セル際本務ノ傍ヲ蔣介石政権ノ現勢及今後ノ動向ニ付蒐集シタ材料ヲ取纏メタモノテアルカ何等執務參考ノ爲ニ配付ス

情報部第三課

目次

一、前言

二、漢口政府部内ノ和平氣運(概シ)ト蔣ノ下野問題

三、蔣政権ノ抗戦力

1、蔣獨裁下ニ於ケル黨軍政内部事情

2、國共合作ノ現在及將來

3、漢口失守後ニ於ケル作戦能力

4、財政的基礎ト第三國關係

5、地方軍閥ノ動向

四、漢口攻略後ニ於ケル我方對策

二、(中略)漢口政府部内ノ和平機運ト蔣ノ下野問題

私カ香港へ出發スル以前上海方面テハ漢口政府部内ノ和平機運ト云フモノカ相當強ク傳ヘラレタ。現ニ三月伊太利大使ヲ通スル和議申入レノ外ニ維新政府、實業部長王子惠カラモ私ニ對シ極秘ノ打明話トシテ孔祥熙ヨリ賈某ナルモノカ代表トシテ連絡ニ來ラ居ルトノ話モアツタシ、又我方ノ有象無象ノ支那通カ漢口政府ノ脈ノ引キ處トシテ居ル元孔祥熙祕書喬輔三カラモ極ク「プライベート」テハアルカ上海方面カラ適當ノ人ヲ寄越シテ欲シイ、次第ニ依ツテハ孔院長モ御目ニ掛ツテモ宜イト云フ話ナトアリ折柄徐州會戰ノ後テモアリ旁々何トナク和平機運頓ニ擡頭ヲ思ハシムル

モノカアツタノテアル。果シテ武漢政府部内ニ此種和平空氣アリヤ否ヤ。成程私カ香港テ會ツタ孔祥熙元祿書喬輔三ノ如キハ日支戰爭ノ現狀カ結局第三國ニ依リ漁夫ノ利ヲ占メラルルカ落チテ兩國及ヒ東洋民族ノ立場カラ云ヘハ速ニ和平解決ノ方途ニ出ツヘシタト云フ理由カラ和平解決ノ途ナキヤヲ質問シタリシテ居タ。之ナト孔祥熙ノ意向ヲ受ケルモノト見ラレヌテモナイカ更ニ一步突込シテ見レハ彼ハ要スルニ香港ニ於ケル孔ノ情報員テ日本側ノ出方ヲ研究シテ居リ其ノ材料ニ和平問題ヲ持出シテ居ルノニ過キナイノヂヤナイカトノ印象ヲ深メタ。何レニモセヨ香港全体ノ感シカラ云ヘハ上海方面テ感セラレタ和平機運ナトケシ飛ンテ徒ニ輿地ノ抗日決意ノ愈強固ナルヲ感セシムル許リテアツタ。私ノ親友テ漢口方面其ノ他各種消息ニ精通スル某君ノ如キモ和平解決ノ時機ハ從來ニナカツタコトハナカツタ。然シ時機ハ過キタ。現在テハ絶望テアル。支那側内部ニ於ケル抗日決意ハ實ニ鞏固ナルモノカアル。日本側トシテモ其ノ見透ノ下ニ對策ヲ樹テラレル要カアルト思フ。自分トシテハ遙々ト來港サレタ貴君ニ對シ和平解決望ミアリ等ト通り一片ノ喜ハセヲ云ツテ御茶ヲ濁スコトモ出來ルカ自分

ノ良心ハ貴君ヲ欺クコトハ出來ナイ日支間ニ和平ノ望ミハ萬々ナイト悲痛其ノモノノ顔ヲシテ物語ツタコトカアル。和平問題ニ關シ私ノ香港ニ於テ得タ印象ハ之カ全部テアル。和平問題ニ關聯シ帝國政府ノ蔣介石ヲ對手トセサル聲明ニ變化ナキ限り問題トナルノハ蔣ノ下野問題テアル。私ハ喬輔三ニ會ツタトキニ和平ノ途如何ト問ハレテ即座ニ蔣ノ下野カ最先決問題テアルト答ヘ更ニ附言シテ今次事變ニ於テ蔣ノ周圍ニ如何ナル事情アリ假令蔣ノ意思ニ反シテ起サレタモノトハ言ヘ無益ナ戰ニヨリテ百數十萬ノ民衆ヲ損傷シ國土ノ大半ヲ失ツタ責任ハ免レ得ヌ處テアル。由來我國ニ於テハ身ヲ殺シテ仁ヲ爲スト云フ言葉アリ、一人ノ犠牲ニ於テ多數ノ民衆ヤ國家ノ利益カ守ラレテ來タコトハ其ノ例枚擧ニ遑ナイ程テアル。カ此ノ道義の精神モ元ヨ云ヘハ支那カラ傳ハツタモノテアル。蔣介石ハ既ニ固有道德ノ復興ヲ提倡シテ居ル。蔣ニシテ眞ニ民ヲ愛シ國ヲ憂フルナラハ萬難ヲ排シ下野ヲ敢行スヘキテ之ノミカ支那ヲ救フ唯一ツノ途テアルト説イタノテアルカ、喬モ大分感動シタラシク孔ニ電報スルト云ツテ居タ。然シ二回目ニ會見ヲ求メラレタトキニハ彼ノ答ハ、蔣ノ下野ハ問題トナラス理由ハ周圍

ノ事情之ヲ許サス又之ヲ許ストシテモ蔣ヲ措イテ外ニ時局擔當ノ人ナシト云フニアツタ。

右ハ喬トノ應答ヲ一例ニ引用シタ迄テアルカ其ノ他ノ意見モ略同様テアツタ。之ヲ要スルニ私ノ香港テ得タ和平問題及蔣下野問題ニ關スル支那側ノ言分ハ結局次ノ二點ニ歸スル。

一我軍ノ軍事行動カ繼續セラルル限り支那側ノ内部結束ハ依然堅持セラレ抗日意識ハ愈々熾烈トナリ和平問題ナト何人モ之ヲ口ニシ得サル狀態カ續クテアロウ。蔣ノ下野等モ日本側カラ迫ラレテハ絕對ニ問題ニナラナイ。

二然シ何等カノ形式テ日支間ニ戰鬪カ休止セラレ和平交渉ニ入り得レハ支那側自發的ニ蔣ヲ下野サセルコトハ必スシモ困難テナイ。

最後ニ最近我方和平解決論者ノ中ニハ蔣介石ヲ相手トシテ何故悪イカト云フ甘イ議論ヲ爲スモノモアルカ、今次事變ノ動機ニ付テ香港ニ於テ次ノ様ナ内輪話ヲ聞イタ私トシテハ今更蔣介石ヲ相手ニスル氣ニハナレナイ。參考迄ニ聞込ノ儘右内輪話ナルモノヲ左ニ掲記セウ。

私ノ親友ニシテ博識ノ某君ハ語ル。

蔣介石抗戰ノ動議ハ完全ニ其ノ政權維持ノ爲メテアル。蓋シ西安事變後彼ハ偶像的ナ英雄崇拜ノ的トナツタカ、實際ニハ彼ノ權威ハ下リ阪タツタ。

ソコテ全國ノ共產黨始メ各黨各派ノ連中ハ蔣ヲ窮地ニ追込ム爲メニ抗日戰ヲ手段トシテ蔣ニ逼ツタノテアル。蔣ハ最早絕對絶命其ノ政權維持ノ爲ニハ抗日戰指導ノ任務ヲ負フテ蹶起セサルヲ得ス他ノ如何ナル手段ヲ以テシテモ此ノ窮地ヲ切抜ケルコトハ出來ヌ破目ニ陥ツテ居タノテアル。折シモ蘆溝橋事件カ突發シタカ、日本側ハ對内對露關係カラ不擴大方針ヲ持シ上海方面ニハ極メテ消極的態度ニ出タ。

固ヨリ蔣ノ對日認識ノ不足ニ基クモノテハアルカ、彼ハ遂ニ此ノ機會ヲ捉ヘ計畫的ニ虹橋路事件ヲ發動シ日本ノ援軍來ラサル以前ニ於テ上海ニ於ケル日本海軍陸戰隊ノ實力ヲ殲滅シ其ノ時機ニ於テ英米等ノ調停ニ依テ戰争ヲ結束シ此ノ邊テ國內ニ於ケル自己ノ倒潰ヲ目指ス敵本主義ノ抗日各派ノ口實ヲ封シ以テ其ノ政權ノ強化ヲ謀ラウトシタノテアル。然シ此種蔣ノ計畫ハ成功セス戰争ハ益々擴大シ、收拾スヘカラサル事態トナツタノテアルカ、要スルニ蔣ハ自己ノ取權維持ノ爲メニ對日戰争ヲ賭ケタモノテアル云々。」

果シテ然ラハ蔣ノ立場ニ種々同情スヘキ困難アリトスルモ
彼カ自己政權擁護ノ具ニ對日戰爭ヲ賭クルニ至ツテハ最早
寸毫モ假藉スルコトハ許サレス彼ノ存在ハ徹底徹尾否認サ
レテ然ルヘシト思ハレル。(以下省略)

220 昭和13年7月

事變対策に関する石射東亜局長意見書

今後ノ事變対策ニ付テノ考案

(此ノ一文ハ省内ノ一僚員ヨリ本大臣ニ提出セ
ルモノナリ内容行文共ニ整理ヲ要スト認ムルモ
其所説概ネ本大臣ノ所見ニ合致ス 宇垣)

(壹)事變対策ノ回顧

今後ノ対策ヲ案スル爲メニハ今迄ノ成行ヲ反芻咀嚼スルコ
ト強チ徒爾ナラサルヘシト考フルヲ以テ局ニ當レル者ニハ
分り切ツタルコトナレトモ本年年初以來ノ對事變處置振ヲ
茲ニアラマシ回顧スルコトトセリ

一、本年一月十一日御前會議ノ當時ハ獨逸政府カ日支兩國政
府間ニ和平橋渡シノ役ヲ買ツテ出テ、豫テ日本側ヨリ

「デイルクセン」獨大使ニ内話シタル講和交渉條件ニ對
シ支那側ヨリ何等カ返答アルヘキ筋合トナリ居タル際ト
テ右御前會議ニ於テ決定ヲ見タル「支那事變處理根本方
針」ハ和戰兩建ノ腹ヲ以テ起案セラレタリ是即チ右根本
方針中ニ「支那現中央政府ニシテ此際反省齷意シ以テ和
ヲ求ムルニ於テハ……事變ノ解決ヲ計ルモノトス」ノ一
項アルニ對應シテ「支那現中央政府ガ和ヲ求メ來ラサル
場合ニ於テハ帝國ハ爾後之ヲ相手トスル事變解決ニ期待
ヲ掛ケス」トノ一項アル所以ナリ。然ル所其後支那側ヨ
リ來ル筈ナル回答ハ急速ニ來ルヘクモアラス、我政府ハ
最早支那側ヨリ誠意アル回答ハ來ラサルモノト見切ヲ付
ケ右ノ「和ヲ求メ來ラサル場合」ノ項ヲ發動シ急轉的ニ
一月十六日ノ聲明ヲ發出シ「爾後國民政府ヲ相手トセ
ス」ト打遣リヲ喰ハスニ至レリ(當時我國内ノ表面的輿
論ハ政府ノ此ノ聲明ヲ以テ英斷ナリトシテ共鳴セリ)
二、「相手ニセズ」トハ文字通り國民政府トハ和平話シハセ
ヌト云フコトニシテ其意義ハ最初カラニ義アル筈ハ無カ
リシ次第ナルモ其用語ノ持ツ所ノ俗語味ノ爲メニ多少ノ
融通性ヲ感セシメ、後日ニ至ツテ或ハ國民政府ト和ヲ談

スルコトモアルヘキヤトノ一抹ノ含蓄カ潛メル如キ印象ヲ當時内外ニ與ヘタル様子ナリキ、然レトモ其後議會其他ノ場所ニ於テ近衛首相、廣田外相其他政府當局者カ交々説明シテ「相手ニセス」トハ國民政府否認以上ナリト強調シ或ハ彼ヨリ和議ヲ申込ミ來ルトモ何處迄モ之トハ和ヲ談セサル趣旨ナリト註釋シテ以來「相手ニセス」ノ絶對性ハ世間ノ常識トナレリ、尙又國民政府カ蔣介石ノ領導スル所ナルノ故ヲ以テ、我人共ニ「國民政府ヲ相手ニセス」トハ當然「蔣介石ヲ相手ニセサルコト」ナリト解シテ怪マサルニ至レリ(首相外相ノ如上ノ説明ハ是又表面的輿論ノ禮讚ヲ買ヘリ)

三、「相手ニセス」ノ聲明以來帝國政府ノ國民政府ニ對スル方針ハ前記根本方針ニ云フ所ノ「支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ見ルカ或ハ新興中央政權ノ傘下ニ收容セラルル迄長期持久ノ策ヲトル」ノ一途ヲ辿ルノミトナリ此ノ目的ヲ達スル爲メニ所謂政戰兩略ノ運用ヲ期スル事トナレリ、而シテ戰略ニ於テハ敵ノ諸據點ニ對シ繰返シ空襲ヲ續クルノ外、山西南部ノ攻略、厦門ノ占領、徐州會戰、廣東ノ大空爆、鄭州包圍ヘト順ヲ逐フテ進展

シ更ニ近ク國民政府ノ本丸ト頼ム漢口ヲヒタ押シニセントスルノ陣形ヲ整ヘツツアリテ之ニ堪エ兼ヌル國民政府ハ早クモ雲貴落チノ用意ニ着手セリト報セラル、戰略ノ奏效誠ニ目覺シキモノアリト云フヘシ、然ラハ此間政略ニ於テ如何ナル働キヲ見セタルカ

四、政略ヲ如何ニ運用スルモ國民政府ヲ一舉根刮キニ崩シ去ル如キハ望ンテモ達セラレサル所ナルハ當初ヨリ明ナリシカ、切メテ彼等ノ戰意ヲ稀薄ナラシムヘキ情勢ヲジリジリ支那國內ニ於テ將又國際關係ニ於テ醞釀セシムル爲メノ諸々ノ工作ハ當然考ヘラレタリ今此等工作ノ經過ト其將來性トヲ織交セテ檢討ヲ加フヘシ

(一) 昨年十二月十四日國民黨排擊、日支親善ヲ高調シテ北京ニ出現シタル臨時政府及其弟分トシテ今年三月二十八日南京ニ旗擧ケシタル維新政府カ國民政府ニ取リ不愉快ナル存在トナレルハ事實ニシテ殊ニ維新政府カ臨時政府ニ隸屬セスニ別個ニ成立スルニ至レルハ中支ニ於テモ唐紹儀ノ如キ支那元老ヲ擁立シテ一大新政府ヲ建テ之ニヨツテ國民政府ニ脅威ヲ與ヘントスル思惑カ元々存シタルコトニモ由來スルモノナルカ臨時政府ニ

セヨ維新政府ニセヨ其成立カ支那側人士ノ政治的熱意ニ基カス其構成分子モ同床異夢ニテ兩政府ニ權威モ付カス氣魄モナキ爲、國民政府ノ脅威トナラサルノミカ却テ我方内部ノ悶着ノ種トナレリ、此ノ兩政府カ眞ニ支那國民ノ間ニ根ヲ下シ根ヲ張ツテ搖ガヌ存在振ヲ示スニアラザレバ兩者ヲ合流スルモ大シタ脅威力ヲ發揮シ得サルベシ

(二)汪精衛、何應欽、張群、孔祥熙等先方部内ノ所謂知日派ニシテ密カニ和平ニ心ヲ寄セ居ルモノト傳ヘラルル有力分子ヲ引ツコ拔キ國民政府ニ大穴ヲ開ケントスルノ構案、或ハ事變前蔣介石ニ對シテ一敵國ノ觀ヲ呈シ居タル廣西派ノ李、白ヲシテ再ヒ反蔣ノ旗ヲ擧ケシメ又ハ自己地盤ノ中央化ヲ迷惑ニ感シ居タル地方將領ヲ我方ニ誘致シ以テ抗日戰線ニ大異狀ヲ惹起セシメントスルノ工作ハ何人モ思付ケル所ナルカ支那側ノ現役眞打ヤ將領ハ彼等ノ大義名分或ハ蔣介石トノ從來ノ關係又ハ自己從來ノ抗日主張ニ縛ラレテ我方ニ款ヲ通スルニ由ナキ立場ニアルヲ如何トモ爲シ得ス(例ヘハ汪精衛カ我方ニ投シ來ルニハ自己ノ政治的生命ノ源泉タル

國民黨ト袖ヲ分タサルヘカラス、何應欽、張群カ國民政府ヲ見捨ツルカ爲メニハ蔣ヨリノ多年ノ信任ヲ裏切ラサルヘカラス、李、白カ此際反蔣ノ旗ヲ擧クルニハ自己多年ノ主張タル抗日ノ看板ヲ外シテ國民ヲ賣ラサルヘカラス、如斯コトカ自分等ニ何ヲ齎スカヲ見損フニハ彼等ハ餘リニ聰明ナリ)殊ニ彼等ヲ我方ニ靡カス爲ニハ其前提條件トシテ我方ノ腹ヲハツキリ極メ之ヲ彼等ニ示ササルヘカラス其譯如何ト云フニ臨時維新兩政府カ日本ノ虜トシテ成立シ更ニ週ツテ滿洲國カ今日何人ノ滿洲國ナルカヲ熟知スル漢口要人連トシテハ前車ノ覆轍ヲ踏ンテ國民識者ノ笑物トナルヲ深ク恐れ居ルハ必然ニシテ彼等カ日本側ノ誘致ニ應スルカ、或ハ自發的ニ國民政府ト別レテ一旗擧ケンコトヲ劃策スル場合先ツ日本側ヨリ取付ケ度キ約束ハ「君等ヲ決シテ口ボツトニセス」トノ確約及其確守ナルヘキ處日本側ノ腹カ二ツモ三ツモアリ而モ動搖常ナク之ヲ彼等ニ示スニ由ナキ間ハ如何ニ工作スルモ無駄ナリトノ見透ノ下ニ外務當局ハ此方面ノ政略ニ頭ヲ突込ムコトヲ以テ寧口有害無益ノ業ナリト考ヘ來レリ張群ノ子分袁良ハ

過般上海ニ於テ我方某人ニ告ケテ曰ク『日本ノ遣口ハ支那人カラ見レハ本末顛倒ナリ日本側ハ兎モ角モ政權ヲ造ルト云フコトニノミ性急ニシテ其政權ヲシテ何ヲヤラセルカノ問題ヲ先決トセス先ツ政權ヲ造ラセ之ヲ「ロボット」トスルノテハ心アル今日ノ支那人士ハ集マラス』ト、此言ヲ覆ヘスニ手アリトハ思ハレス

陸軍側ニテハ戰略ノ一端トシテ政略(及謀略)ヲ用フルコトニオサオサ拔カリナキ様子ニテ先般太原特務機關ニ於テ閩錫山取込ミニ成功シタリト報セラレタルニ其後杳トシテ續報ナキハ中間ニ沈維敬アリタル爲メニアラサルカ。又本年二月初約三十萬圓ヲ投シタリト稱セラルル廣東擾亂ニハ一場ノ花火ノ如ク而モ支那側ノ用心ヲ強ムルノ逆效果ヲ奏シタル如シ。去ル五月中唐繼堯ノ子ヲ密使トシテ雲南ノ龍雲ヨリ王克敏ニ款ヲ通シ來レリト聞ク處漢口陥落ノ場合ノ落延ヒ先ノ一トシテ蔣介石カ手配ヲ怠ラヌ雲南ニ於テ反蔣ノ烽火ヲ揚クル隙アルヘシトハ考ヘラレス、右ハ龍雲カ蔣沒落ノ場合ヲ豫想シテ先物ヲ買ヒ置キ丸損ヲ免レントスル保身ノ魂膽ト見ルヲ至當ト云フヘク北支ニ呼應シテ蔣ノ土臺

ヲグラ付カセル如キ藝當ヲ演スル程ノ度胸ニハアラサルヘシ

(三)法幣ヲ切崩スコトニヨリ國民政府ノ財政經濟ヲ行詰ラセルコトハ政略ノ一手段トシテ妙ナリト考フル向アリタリ外務當局ハ最初ヨリ法幣切崩シノ無益ニシテ却テ我方ニ有害ナルコトヲ主張シ來レリ。國民政府ハ一九三五年ノ幣制改革ニヨリ銀國有、紙幣ノ兌換停止ヲ斷行シテ以來國有銀ヲ絶エス英米ニ現送シテ在外資金トシ政府自身ノ買物及民間買物ノ具ニ供シ來レリ、斯ル在外資金ノ現在高ハ的確ニハ知り得サルモ五億元内外ナルヘシトハ何處カラトモ無ク傳ハリ來リ當ラストモ遠カラヌ數字ト見ラル、(事變以來國民政府カ香港經由銀現送ヲ絶ヤササルハ最近ノ香港總領事來電ニヨリ明カナリ)此在外資金ハ其大部又ハ一部カ法幣準備ヲナスト同時ニ實ニ國民政府ノ生命ノ綱ナレハ若シ法幣カ攻撃ヲ受ケ其爲メニ此在外資金危シト云フコトニナレハ國民政府ハ外貨賣ヲ窮屈ニシテ攻撃ヲ防キ(今日ノ上海ニ於ケル爲替統制ノ如シ)或ハ場合ニヨツテハ地方的ニ外貨ト法幣トノ縁ヲ切り去ルコト迄モ斷行ス

ヘシ之カ爲メニ法幣ハ値下リシ或ハ無價値トナリ民衆塗炭ノ苦ミヲ出現スヘシト雖モ、茲ニ支那人ノ諦メ性カ働キ別段八釜シキ社會問題トハナラヌコト過去幾多ノ前例ニ漏レサルヘク、倒産スルモノハ倒産ノシ損、乞食トナルモノハ乞食トナリ損トナリ、政府ハ現銀カ無クナル迄存在ヲ續ケ得ル處ニ支那ナルモノノ下等動物の不死身性カ存スルコトヲ忘ルヘカラス、而シテ斯ル場合法幣崩壞ノ爲メニ支那人ノ購買力ハ減殺サレテ我對支輸出ナルモノハ愈々減退シ支那ニ於ケル圓「ブロツク」ノ擴大ニツレ蝟配の貿易ニ墮シアベコベニ對支輸出ヲ取締ラネハナラヌ様ナ醜体トナルコト恰モ今日ノ對北支輸出ノ如キモノトナリ所謂蛇蝎取ラスニ了ルヘシ

(四) 次ニ一般の對外工作ニ付キ先ツ考ヘラレタルコトハ我國ノ眞意ヲ諸外國ニ説キ彼等ノ認識ヲ正シ以テ事變始ツテ以來ノ諸外國ニ於ケル對日惡感情ヲ拂拭セサル迄モ之ヲ緩和シテ我國ノ立場ヲ改善シ引イテ彼等ノ對支同情ヤ援助ヲ稀薄ナラシムルコトナリキ此使命ヲ以テ昨冬以來自薦他薦ノ説客ヲ手別ケシテ各國遊説ニ送り

出シタル迄ハヨケレドモ其結果ハ今更云フモ愚、之ハ説客其人ヲ得サリシカ爲メニアラスシテ日本自身カ自己辯解以外ニ先方ヲ納得セシムルニ足ル對時局哲學ヲ持合セヌコトカ病原ナルヲ以テ説客カ如何ニ布婁那ノ辯ヲ揮フトモ歐米ヲシテ謹聽セシメ得サリシハ當初ヨリ定マリ居タル約束事ニテ是非モナキ次第ナリキ

(五) 昨年十一月以來所謂防共樞軸ニヨリ我國ト親類附合トナレル獨伊中、當初誠意ヲ疑ハレタル伊ガ次キ次ギト我方ニ實意振ヲ示シ吳レ支那ニ對シテ愛想盡シヲサヘ公言スルハ我ノ多トスル所ナルカ我ヘノ好意振カ何トナク實感ヲ伴ハヌ響アルハ國民政府ニ對シテモ可然御機嫌ヲ取結ビ二股ヲカケ居ルカ爲ナルヘシ、獨ニ至ツテハ當初ヨリ知ラヌ顔シテ事實上支那ニ抗戦力ヲ注射シ來リ、見ルニ見兼テ我方ヨリ度々責付ケタル舉句最近ニ至ツテ漸ク武器ノ對支賣込ヲ取止メ在支軍事顧問ヲ引上ケントスル迄ニ至レリ、夫レモ濫々ノコトニ見ユ而モ武器賣込取止メノ爲メニ對支貿易ニ於テ失フ所ノ一億數千萬馬克ノ勘定書ヲ日本ニ廻サントスル如キ申出ハ我方ヨリ見レハ不愉快ト云フヘキ處獨逸トシテ

ハ武器其他製品ノ買手タリ「タンングステン」ノ供給者タル支那ヲ日本故ニ袖ニスルハ引合ハヌ勘定ト云フベシ最近正金ノ倫敦情報ニヨレバ元獨逸經濟相「シヤハト」(現獨逸國立銀行總裁)ハ正金加納支店長ニ對シテ『日本ハ速ニ支那ト「ビスマーク」の平和ヲ講スベキナリ日獨兩國ハ政治的ニ好友ナルモ經濟關係歩調ヲ一ニスルニアラザレバ持續スルモノニアラズ、支那モ等シク獨逸ノ友邦ナリ故ニ日支抗爭中ハ日獨經濟關係タケヲ改善發展セシムルコト困難ナリ』ト私語ケルハ蓋シ獨逸側ノ本音ナルヘシ、サレバ獨逸ハ政治的ニハ防共樞軸ヲ振翳シテ英佛蘇ヲ牽制シ自己身邊ニ對スル政策ノ具トナシ居レトモ事支那ニ關シテハ日本ヘノ味方振ニ氣合ヒガ乘リ居ラサルヲ見ル、獨伊共ニ算盤ノ合フ様ニシテヤラナケレバ支那テハ全面的ニ日本ト抱キ合ハサルヘシ。

彼ノ防共協定強化ノ問題ノ如キモ尙幾多ノ檢討ヲ要スヘク結局ハ支那事業ヘノ割込ト關聯シテ考ヘネバナラヌカトモ思惟セラル

(六)支那方頼ミトスル所ノ英米佛蘇ヲシテ國民政府ニ疎遠

ナラシメ彼ヲ孤城落日ノ悲運ニ突落スコトノ時局收拾ノ上策ナルハ云フ迄モナシ。英カ果シテ如何ナル支援ヲ國民政府ニ與ヘ居ルヤハ判然セヌ事ノ一ナルカ事變以後國民政府カラ金錢の援助ヲ求メラレタルモ體ヨク逃ケヲ張り通シ來レルハ事實ト認メラル、武器供給モ「クレギー」大使ノ言ニヨレバ香港經由量ノ三%最近ハ一%ニ過ギズト云フ、此點モ素直ニ信用シテ大過ナカルヘシト思ハルルニ國民政府カ英ヲ頼ミト思フノハ英カ別ニ提供シツツアル「サービス」ノ爲ナルベシ而シテ其ノ「サービス」ノ大ナルモノハ香港ノ地利上ノ作用ト精神的對支支援ナルヘシ。若シ英カ粵漢鐵道ニ對シテ香港ヲ閉ツルナラハ國民政府カ直ニ呼吸困難ヲ來スハ明カナルヲ以テ會テ前外務大臣ヨリ武器ニ關スル限り香港ノ閉鎖方英側ニ誘ヲ掛ケテ見タルモ我占領地區内ノ英ノ條約上ノ權利及公私ノ權益ニ對シ我方ニ於テ尊重ノ實ヲ示サヌ限り先方ニテ斯ル話ニ乘ラントハセサリシコトモ亦是非ナキコトナリ只此間海關收入ノ處理及稅率改訂ニテ日英協調カ出來タルコトハ切メテモノ國民政府ヘノ一痛手ナリ、次ニ英ノ精神的對支

支援如何ト云フニ之ハ公私ノ在支英國機關カ直接間接ニ國民政府ニ向ツテ與フル同情ト入智惠カ主タルモノナルヘシ、前英大使「ヒューゲンセン」現英大使「カー」等ノ親支的態度ハ蔽フヘクモアラズ就中「リースロス」ノ名代トシテ支那ニ殘留スル「ホールパツチ」ガ「日本ノ財政經濟ノ行詰リ近キニアリ」トノ觀察ヲ支那側ニ聞カセルコトガ國民政府ヲシテ最後ノ勝利ヲ夢見マシムル有力原因トナリ居ルハ匿レモナキ事實ナリ、過般「ホールパツチ」來朝ノ節外務大藏兩當局、財界有力者數名相集リ我方ノ財政難ニアラサル所以ヲ彼ニ吹込ムコトニ申合セ居タルニ彼ハ二三我方要人ト會見後北京ニ至リ此度日本ニ至リ益々其財政難ニ迫ラレ居ルヲ感得シタリト云ヘル由情報アリ手ニ負ヘヌ男ト云フベシ、尙英ガ大切ニ思フノハ自己ノ手鹽ニカケタル法幣ニシテ法幣崩壞セハ英人ノ在支投資ノ受クル打撃ハ實ニ巨大ナルヘシ、サレバコソ法幣維持ノ爲ニモ英ハ國民政府ノ面倒ヲ見テヤルノヲヤメ得サルナリ、支那ノ依存スル他力ノ本尊タル英ヲ我方ニ引付ケ國民政府ヨリ引離スニハ小細工ニテハ乘リ來ラズ我方ニテ

支那ニ於ケル日英協調ノ腹ヲ極メ先ツ手初メニ英ノ權益尊重ノ實ヲ示サヌ限り彼ヲ誘フニ手ナシ。米政府ハ事變以來所謂中立精神ニ立籠リ居レトモ輿論ハ壓倒ノニ支那ニ味方シ居リ稍々モスレバ米政府ヲシテ反日本のナル言動ヲナスノ餘儀ナキニ至ラシメントス。前ニハ「パネー」號事件、南京ノ軍紀事件近クハ廣東大爆發等ハ米國ノ輿論ニ拂拭シ得サル惡影響ヲ與ヘ最近國務長官ノ飛行機ノ對日輸出抑制勸告ノ表明トサヘナレリ。尙米政府ハ支那ニ於ケル門戶開放、機會均等、九國條約、不戰條約ノ番人トシテ自負シ居ルモノナレハ此等ノ點ニツキ毫モ彼ヲ満足セシメ得サル今日彼ヲ根本的ニ我方ニ引付クルニ由ナシ佛ハ佛印ヨリノ對支武器輸入ヲ嚴ニ差止メタリト稱シ乍ラ依然其跡ヲ絶タサルノミナラス最近支那ニ對シテ龍州鐵道建設契約ヲ與ヘタル如キハ我方ニ對シ甚々面白カラヌ仕打ナリ但シ佛ニ對シテハ佛印故ニ持ツ弱身ニツケテ或程度ノ強談ハ效キ目アルヘシ諸外國中蘇聯ハ日支ノ消耗戰ヲ最モ自家ノ利益トスルモノナルガ支那トノ關係ニ餘リ深入リセサルヲ賢明ト

考へ自制ノ方針ヲ持シ居タルモノノ如キ處近頃次第ニ鋒銳ヲ顯ハシ武器供給、飛行士、軍事専門家等ノ對支供給大分活潑トナレル様子ナリ、之ハ最近支那側ノ泣付キ(孫科ノ再度ノ莫斯科訪問)カ效ヲ奏シタルニヨルモノカト思ハルルノミナラズ蘇支間ニ密接ナル軍事約定成立シタリトノ報サヘアリ。過日ノ我方ヨリノ抗議ハ蘇聯ニヨリ輕ク扱ハレ此上抗議ヲ繰返スモ些モ效キ目アルベシトハ思ハレズ、去リトテ實力ヲ以テ脅カサハ日蘇間ノ大事ヲ惹起スヘシ

五、之ヲ要スルニ國民政府側ニ對スル政略ヤ謀略ハ抗日ヘノ結束ヲ亂スニ足ル妙手ナク第三國ヲ國民政府ヨリ引離ス爲メニハ我方占領地區内ニ於テ第三國ノ權益ヲ尊重シ國民政府治下ニ於ケル時ヨリモ増シナリトノ實感ヲ第三國側ニ與フルコトガ先決條件ナリ

(貳)今後ノ見通シト對策

一、國外諸般ノ條件カ吾ニ取り有利ニ展開セサル約束ニアアルコト前述ノ如キ情勢ノ下ニ於テ軍略ノ方面ハ跛行的ニ目覺シキ運用ヲ見セ我軍ノ漢口攻略モ遠カララスト期待セララルルニ至レリ然ラハ國民政府カ漢口ヲ失フノ曉抗日ノ兜

ヲ脱クヤ否ヤ此ノ質問ニ對シ我カ國民識者ノ多クハ否ト答ヘルモノナルヘシ、固々我カ當局モ國民モ支那ノ抗日意識ト力量トヲ餘リニ低ク評價シ事變ノ當初ニ於テハ北支ニ進出セル中央軍ニ一撃ヲ與フレハ支那ハ戰意ヲ拋棄スルモノトサヘ輕ク考ヘタル程ニテ此ノ誤算ニ出發シタルカ故ニ東洋未曾有ノ深刻且大規模ナル戰役ヲ今日二見ルニ至リ遂ニ我方ニ於テモ長期持久ノ看板ヲ掲ケル破目トナリタル次第ナルカ國民政府抗戰ノ執拗振りニ驚キ誤算ヨリ目覺メタル國民識者ノ今日ニ於ケル答案ハ前記ノ如ク「國民政府ハ漢口失守後モ兜ヲ脱カス」トナラサルヲ得サルヘシ

吾人ヲ以テ見ルニ我國朝野カ支那ノ抗日意識ト力量トニ付誤算ヲナシタルハ茲數年來ノ支那國內情勢、國民ノ民族的自覺、國力ノ増進等ヲ深く究メヌ又一九三五年秋ノ國民黨五全大會ニ於ケル蔣介石ノ外交演說及昨年七月十九日同シク蔣介石ノ蘆山^(漢口)ニ於テ發表シタル聲明等ヲ周到ニ解剖研究セサリシコトニ基クモノナリ、支那國內情勢、民族の自覺、國力ノ伸展等ニ付テハ暫ク措キ蔣介石ノ右聲明ニ付テ見ルニ五全大會ニ於ケル外交演說ニ於テ彼ハ

「平和ノ維持力完全ニ絶望ナラサル限り吾々ハ決シテ平和ヲ捨テナイ吾々カ自制隱忍ノ極點ニ達シナイ限り輕々シク犠牲ヲ談シナイ今ハ最期ノ關頭ヲ未タ云々スヘキ時ニ非ス」トノ趣旨ヲ述ヘ居レリ之ハ當時支那國內各方面ニ鬱積シ居タル抗日氣運ノ爆發ヲ抑ヘタルモノナルカ我國方面ニ於テハ右演說中ニイザト云フ場合ニ於ケル國民政府ノ強キ決心カ閃カサレ居ルコトニ深ク注意ヲ拂フコトヲセサリキ而シテ昨年ノ蘆山蘆山聲明ニ於テ、蔣ハ「我々ノ爲スヘキコトハ唯一ツ即チ我カ全國民精力ノ最後ノ一滴迄モ傾倒シ國家存立ノ爲抗争スヘキノミ而シテ一度右抗争カ開始サルレハ時間ノ上カラモ情勢ノ上カラモ中途ニシテ止ミ平和ヲ求メルコトハ許サレナイ一旦紛争ノ始マツタ後平和ヲ求ムレハ我カ國家ノ屈從、我カ民族ノ全滅ヲ意味スル條件ヲ甘受シナケレハナラナイ願クハ全國民ハ隱忍ノ限度竝ニ右限度ヲ超ヘタ後惹起サルル犠牲ノ範圍ヲ十分認識セラレ度イ一度段階ニ到達スレハ吾々ハ常ニ究極ノ勝利ヲ期待シツツ如何ナル犠牲ヲ拂フトモ最後迄鬪ヒ抜カナケレハナラン去リ乍ラ吾々カ躊躇シ徒ニ一時ノ儉安ヲ貪ルナラハ吾々ハ破壊ニ滅亡シ去ル外ハナ

イ」ト述ヘ居リ日本トノ開戦ニ至ル場合其ノ喫スヘキ戰敗、犠牲等ハ當初ヨリ覺悟シツツ遂ニ支那側ノ所謂最期ノ關頭ハ今ゾ到來セリト切ツテ落シタルモノナルカ此聲明ハ當時事變勃發早々昂奮シ居タル我朝野ノ耳ニハ引カレ者ノ小唄トノミ響キ其ノ持ツ所ノ重大意義ニ氣ヲ留ムルモノ稀ナリキ此ノ決意ト覺悟トヲ以テ始マレル支那ノ抗日戰意ハ北支ニ於ケル敗戦、上海南京徐州ノ陷落ニヨリテメゲザルノミナラズ近ク漢口守ヲ失フトモ軍用金ノ續ク限り尙執拗ニ持續セラルベシ

蓋シ彼等ハ此覺悟ニ加フルニ「ホールパツチ」其他外國側ヨリノ情報ニヨリ日本ノ財政逼迫ヲ信シ長期抗戦ニヨリ日本ヲ消耗セシムレハ最後ノ勝利ハ自分等ニ歸ストト見透シ一城一地方ノ敗戦ハ問題ニアラストナシ居ルモノニシテ之ヲ以テ彼等ノ大向フヘノ宣傳トノミ見ルハ諸般ノ情報ニ照シ誤ナリ只彼等ノ生命ノ綱タル在外資金ノ盡クルトキカ眞ニ彼等ノ弓折レ矢盡ル一期ナルカ之トテ目下ノ處尙相當ノ餘力ヲ持チ居ルノミナラズ頻リニ銀現送ヲ續ケテ補充ニ努メ居ルコト祕密情報ニ依リ察知シ得ヘシサレハ彼等ハ貴陽カ昆明カ知ラネトモ壇ノ浦迄退キテ迄

モ尙長期抗戦ヲ持續スルモノト計算セサルヘカラス
 故ニ「國民政府ヲ相手ニセス」一本槍ニテ進ム以上軍略
 ニ於テハ我軍尙長驅シテ雲南、貴州迄モ深入リスルヲ餘
 儀ナクセラルヘシ、我國ハ果シテ之ニ堪フヘキヤ否ヤ此
 ノ問題ニ答フルニハ先ヅ我カ國內諸般ノ實情ヲ考察セサ
 ルヘカラサル處吾人ノ最モ危懼スル處ノ問題ハ我國ノ財
 政問題ナリ外務當局ハ財政ノ局外者トシテ精確ナル數字
 ヲ知ルコト困難ナルモ其ノ知ル限りニ於テハ我國ノ現在
 ノ財政狀態及將來ノ財政見透シハ大體別紙東亞一課（別紙）ノ提
 出セル「今後ノ對支政策處理ニ關シ考量スヘキ事項」ニ
 記述スル如キモノナルヘシト憂ヘ居レリ從テ過日一外字
 新聞カ「日本ハ其ノ資源大部分既ニ涸渴セルニ拘ラス尙
 支那征服ヲ行ハサルヲ得ス勝利ハ軍事行動上ノ問題ニ非
 スシテ經濟上ノ耐久力ノ問題トナリツツアリ支那ノ防禦
 力ノ如何ニ非スシテ日本カ戰費支出ヲ何時迄持續シ得ル
 ヤニアリ」ト論セル所ハ痛ク吾人ノ胸ヲ打ツ。

今ヤ我國識者ハ我カ財政ノ危機ヲ言ハス語リニ感知シ一
 刻モ早ク今事變ヲ終熄セシムルコトヲ欲シツツアルカ如
 ク巷間ニ於テハ我政府ハ「太閤様ノ居ナイ朝鮮征伐」ヲ

ナシツツアリト皮肉交リニ心配スル者スラ有リ、恐ラク
 ハ今ニシテ此ノ事變ニ結末ヲ付クルニ非サレハ我國力ノ
 消耗ニ北叟笑ム英蘇其他ノ乘スル所トナリ我國ノ將來ハ
 遂ニ取返シ得サル破綻ト屈辱ニ直面シ其時ニ至ツテ姿勢
 ノ立直シヲナサントスルモ狂瀾ヲ既倒ニ返ヘスニ由ナカ
 ラン、吾人ハ我政府カ此際早キニ及シテ正々ノ案ヲ備ヘ
 斷然時局收拾ニ邁進スヘキモノナルコトヲ切言セサルヲ
 得ス

二、然ラハ最短期間内ニ今次事變ヲ終局セシムル方策如何、
 之二關スル諸說ヲ檢討スルニ概ネ左ノ如シ

(一)消極論

此ノ說ハ漢口攻略後ハ我軍ノ配置ヲ縮少シ(イ)中支那ニ
 於テハ上海、南京、杭州ヲ結フ三角地帯(ロ)長江河筋一
 帶及漢口附近(ハ)北支ニ於テハ隴海線以北及津浦線南段
 以東ノ地帯ノ各前線ノ要地ニ防禦陣地ヲ構築シ之ニ最
 少限度必要ノ兵力ヲ配シツツ各地帯内ノ治安工作及經
 濟開發ニ精進スヘシトノ說ナルカ無用ノ長追ヲヤメテ
 守勢ニ轉シ爾後ノ抗戦ヲ經濟的ニ上ケ從來ノ戰果ヲ全
 ウセントノ趣旨ナルニ於テ一應得策ト聞ユルモ國民政

府ヨリ見レハ或ル程度ノ失地回復トナリ其ノ支那民衆ニ對スル聲望ヲ増シ從テ占領地帯内ノ支那民衆ノ人心定マラス防禦陣地地帯ハ勿論背後ノ治安維持益々困難トナルコト必定ニシテ加フルニ是ニ乘シテ國民政府ハ其ノ得意トスル「ゲリラ」戰術ヲ愈々逞シウスル外、

此ノ機ニ乘シテ軍備ヲ增強シ我方ニ對シ積極的ニ消耗戰ヲ挑ムノ作戰ニ出ツベク隨テ我方トシテモ會戰ニ依ツテ之ヲ擊破セサルヲ得サルニ立至リ相當大規模ノ戰鬪再演ヲ免レサルヘシ假ニ然ラストスルモ漢口迄六百哩ノ長江及占領地區内ノ數千哩ノ鐵道ニヨル交通線ヲ確保シツツ廣大ナル占領地區内ノ治安工作ヲナスニ必要ナル兵力ノ維持ダケデサヘ莫大ナ犠牲ヲ要スヘク又之ニテハ毫モ事變ノ解決ニハナラズシテ支那トノ抗戰ニ膠着シ依然時局ハ他ニ必要ナル方面ノ國防ニ取り大脅威トシテ存續スヘシ、故ニ此說ハ萬已ムヲ得サル場合ノ下策トシテノミ價值ヲ有ス

(二) 新中央政府權樹立承認論

之ハ臨時維持^(新カ)兩政府及今後漢口ニ出現スルコトアルヘキ政府ヲ合流シ其ノ上ニ中央政府ヲ樹立シ唐紹儀、吳

佩孚等ヲ出馬セシメテ中央政府ノ樞軸トシ(唐、吳ノ間ニハ既ニ或程度ノ了解アリト稱セラル)我方之ヲ承認ノ上日支國交ノ調整ヲ協定シ事變ニ梟ヲ付ケントスルノ論ナリ

之二從ハ本年一月十一日御前會議決定ノ事變處理根本方針中ノ「新興支那政權ノ成立ヲ助長シコレト兩國國交ノ調整ヲ協定シ」ニ適合スル次第ニモアリ又唐紹儀ノ關スル限リ國民黨ノ一部及南支方面ニ對スル其聲望ノ故ヲ以テ、又吳佩孚ノ關スル限リ北支及四川ニ對スル其舊縁ノ故ヲ以テ新中央政府ノ威望ハ自然ニ備ハリ占領地域内外ノ支那民衆、地方將領等風ヲ望ンテ傘下ニ歸セントスヘク國民政府ハ見捨テラルルニ至ルヘシトハ此說ノ狙フ所ナルカ右ハ唐、吳ノ政治的遺骸ヲ餘リニ高價ニ見積ルモノナルト同時ニ民族意識、國家意識而シテ之ト表裏ヲナス所ノ抗日意識ノ味ヲ引込メル支那今日ノ有識大衆ノ頭腦ノ働キ、又之ヲ把握シ居ル國民黨ノ吸心力、殊ニ愛國ノ權化ト崇メラレ居ル蔣介石ノ威望等ニツキ又シテモ誤算ヲ重ヌルノ說ナリト云フヘシ、唐、吳ハ支那ニ於テハ既ニ業ニ過去ノ遺物

ニシテ近來ノ支那政治ニ發言權ヲ持チタルコトナク遠ク人心ヨリ忘れ去ラレ居リ彼等ノ再起ハ年寄ノ冷水トシテ失笑セラルベシ、唐氏ハ先年隱居役トシテ郷里廣東省中山縣々長ヲ勤メ乍ラ其施政ヲ誤リタル爲郷黨カラ暴動ノ二排斥ヲ喰ヒ香港ニ落チ次テ上海ニ隱棲シタル程威望ノ平價切下ケヲナシタルモノ、彼ノ出馬ハ晩節ヲ汚スモノト惜シマルル位カ關ノ山ナルベシ。吳氏ニ至ツテハ「乃公出レバ」ノ野心大イニ動キ居ル由ナルカ之ハ一時華ヤカナリシ自己ノ過去ノ宿醉未タ醒メザルノ容態ト打診セザルヲ得ズ、吳氏立タバ彼ノ遺産タル四川將領先ツ反蔣スヘシトノ期待アル如キモ之ハ時期ノ點ニ於テ見込違ヒヲ來スヘシ四川ノ楊森劉存厚等諸將カ吳氏ト古キ因縁アリ又彼等カ四川ノ中央化ヲ喜ハサルハ事實ナレトモ彼等諸將領間ニ互ニ嫉妬排擠アリテ一致容易ナラサルコト、國民政府ノ對四川監視カ鋭キコト、抗日戰線ヨリノ脱退カ四川トシテ非常ナル冒險ナルコト等ノ諸事由ヨリ見テ四川將領ハ吳氏出馬スルモ直ニ之ニ呼應スルコトナク恐ラク愈々國民政府ノ命數盡キタリト見据ガツク迄日和見ノ態度ヲ持シ

テ動かカサルヘシ唐吳兩氏カ「范增齡七十尙會風雲濟時難」ノ意氣ハ大イニ可ナルモ彼等ニヨツテ眞ニ時難ヲ濟ヒ得ルモノト考フルハ彼我共ニ時代錯誤ト云ハザルベカラズ、又我方カ唐吳ノ中央政府ト國交ヲ調整スルトスルモ彼等政府ノ弱體性ハ現在ノ臨時維新兩政府ト大差ナカルベク對國民政府關係ニ於テハ依然戰爭ノ相手ヲ日本ガ勤メザルベカラザル狀態ニハ變化ナク結局何等事變解決ニ資スル所ナカルベシ、尤モ時局收拾ノ途到底ツカザル場合臨時維新兩政府及漢口ニ出現スルコトアルベキ新政府ヲ合流シテ兎モ角モ格好ヲツケル爲ニハ先以テ此案位ヨリ外ナカルベキモ之已ムヲ得ザル場合ノ下策ト云フベシ

(三)三政權大合流論

之ハ臨時維新兩政府ヲシテ國民政府ニ工作セシメ三政權ヲ合流シ此所ニ新ナル中央政權ヲ實現セシメ之ト和ヲ講セントスルモノ(或ハ之ヲ和平條件トスルモノ)ナルカ三民主義排擊國民黨否認ヲ看板トスル臨時維新兩政府ト國民政府トハ本質ノ二相容レザル所ナルノミナラズ國民政府ヨリ見レバ偽政府ト嗤ヒ居ル處ノ兩政權

ト合流スルガ如キハ本質の相違ハ別問題トスルモ體面的ニ降參ニ等シキモノナルヲ以テ如何ニ妥協作用ニ巧ミナル支那人ノ常トハ云ヘ到底問題トナラズ況ンヤ此說ハ蔣介石ノ下野ヲ前提條件トスルコトニ於テ愈々實現性ナシト云フヘシ、兩政權ヲシテ國民政府ニ對シ工作セシムルモ徒ニ我方ノ内兜ヲ見透カサルルノミナルベシ

(四) 國民政府相手論

本說ニ付テハ項ヲ改メテ述ブベシ

參 國民政府對手論

一、「國民政府ヲ相手ニセス」トノ聲明ハ國民政府ニ對シテハ打遣リヲ喰ハセ我カ國民ニ對シテハ其嗜好ニ投スル政策ノ約手ヲ發行シタルモノナル故「相手ニセス」一本槍ニテ進ムコトハ之ニ對シテハ公然何人モ喰ツテ掛ル者ナキ所カラシテ、政府トシテ當面甚々樂ナ行キ方ナルカ實ハ押シノ一手以外、情勢ノ變化ニ應スルノ手ヲ自ラ封シタルモノニテ土俵ノ上ニテ斯ル見榮ヲ切ルハ田舎ノ宮相撲ノ觀アリ、吾人ハ戰雲ヲ收メテ時局ヲ收拾シ進シテ眞ニ日支國交ヲ調整シ昨年九月ノ臨時議會ニ賜リタル勅語

ノ御趣旨ニモ副ヒ奉リ續テ來ルヘキ慮アル或者ニ專念對抗セントスルニハ國民政府ヲ相手ニ東亞ノ大事ヲ談スルヨリ外途ナシト觀スルモノナリ

國民政府カ國民黨ヲ母體トシ以黨治國、三民主義ノ黨是ヲ具現セントスル中央政府ナルコトハ今更絮說ヲ要セス以黨治國ニ對シテハ支那國內隨所ニ反對分子アリ又國民黨内ニ於テモ例ヘハ西南派、孫科派、汪精衛派等ノ明闘暗闘アルモ反黨分子ハ次第ニ解決セラレ黨内ノ相剋モ蔣介石ノ駕御ニヨリ激化スルニ至ラス黨其モノハ近年ニ於テハ寧口結束ヲ固メ蔣ヲ中心トシテ大同ニ就クノ情勢ヲ呈セリ日本側ニテ國民黨攻撃ノ種トシ居ル國共合作ナルモノヲ吟味スルニ實情ハ共產黨カ國民黨ノ抗日戰線ニ參加スルヲ許容サレタルモノニテ、今日ノ國民黨ハ過去ニ於テ共產黨ニ手ヲ燒キタル苦體驗ヨリシテ共產黨カ此機會ヲ利用シテ盛返ヘシヲ策シ居ル下心ヲ讀ミ共產黨トシテノ活動ハ罷リ成ラヌトノ方針ニテ用心オサオサ怠リナシ、最近周恩來ヤ毛澤東等ノ共產黨幹部ノ國民黨籍取得カ傳ヘラルルノモ共產黨カ國民黨ヲ蠶食スルモノテハナク斯クノ如キ形ヲ取ラネハナラヌ程共產黨カ雌伏ヲ強

ヒラレ居ルモノト解スヘキナリ

國民政府ハ其ノ初期ニ於テハ國民黨ノ所謂革命外交ニ依リ非合法的ニ諸外國ノ在支權益ヲ回收センコトヲ目論見タルモ滿洲事變ニ依リテ其ノ銳鋒ヲ挫カレテヨリ以來態度ヲ緩和シ合法の主權恢復ニ轉シ來リ日本ヲ除ク諸外國トノ國際關係モ次第ニ改善セラレ就中英トノ間ニ親交ヲ呈スルニ至レリ、内政ニ於テモ國民政府ノ最近數年ノ施政目覺シキモノアリ即チ政治ノ方面ニ於テハ國內統一ヲ目指シ西南派トノ合流、福建獨立政府ノ解決、共產軍ノ江西省ヨリノ清掃等ニ成功シ斯克テ公約ノ如ク訓政期ヲ終リ立憲政治ニ迄進マントスルノ慨ヲ示セリ軍事のニハ軍備ノ充實、經濟のニハ資源ノ開發、諸般ノ建設事業、財政のニハ幣制ノ改革、文教ニ付テハ教育ノ鼓吹、新生活運動ノ實施、社會的ニハ諸慈善事業ノ獎勵、窮民ノ救濟等ニ著々歩ヲ進メ支那トシテハ珍ラシキ革新的行政振ヲ見セ近代國家建設ノ曙光ヲ放チタルカ爲國民政府ノ權威ト實力ハ着々トシテ支那ノ大地ニ根ヲ張り國民ヲ把握シツツアリタリ而シテ此ノ近年ノ國民政府ヲ領導セルハ蔣介石ニシテ國民政府ヲ扇ニ例フレハ蔣介石ハ將ニ其ノ

要ノ地位ニ在ルコトハ否ミ難キ所、而シテ蔣介石ハ將ニ民族意識ニ目覺メタル支那知識大衆ノ強キ「イデオロギー」トナレル國家生存民族復興ノ「チャンピオン」トシテ信賴サレ其一身ハ國民黨及政府部内ノ何人ヨリモ燦然ト光リ(最近ノ國民黨六次大會ハ特ニ黨總裁ナル地位ヲ設ケ之ニ蔣ヲ推戴セリ蓋シ黨祖孫文ニ次クノ地位ナリ)大衆的ニハ民族的英雄トシテ渴仰セラルルニ至レリ此吸心力ノ増大セル國民政府、此國民ノ「アイドル」タル蔣介石ヲ打倒セントスルハ張學良ノ滿洲ヤ其他ノ地方軍閥ヲ討ツトハ事變リ現ニ我方ノ國力問題サヘ云々セラルル程ノ大事業タラサルヲ得サルノミナラス日支提携東亞安定ノ理想ヨリ見テ全ク狙ヒ所ヲ誤リ居ルモノト云フヘシ國民政府ヲ打チ滅シ蔣介石ヲ打チ倒シタル曉其ノ後ニ來ルベキ政權ハ何人ヲ以テシテモ半身不隨ノ弱體政權タルヲ免レサルヘク國內ノ統制ヲ把握シ得サル結果支那全體ガ政治的ニ經濟的ニ破産状態ニ陥リ國內ニ惹起セラルル混亂無秩序ハ其極ニ達シ、其間最モ攪亂ニ成功スルモノハ組織ト「イデオロギー」ヲ持ツ所ノ共產黨ナルヤ必セリ此ノ場合ニ於テハ我國ハ破産管財人ノ役ヲ引受ケ

殘兵ノ討伐、地方ノ靖綏、宣撫、建設、民生ノ立テ直シ迄ヤラネバナラヌ外、當面ノ敵トシテ支那共產黨ヲ討ツヲ余儀ナクセラレ而シテ共產黨ノ背後ニ蘇聯アルヲ思フトキ之カ平定ニハ長年月ト莫大ナル犠牲ヲ拂ハセラレ日支提携ニ依ル東亞ノ安定ハ愚口カ、經濟開發等モ實現困難ニ陥ルヘシ、故ニ日支兩國ノ間ニ存スル此時難ヲ救ツテ大局ヲ定ムルニハ從來ノ行懸リニ捉ハレス國內統制力ヲ尙保持スル國民政府ヲ利用シテ共ニ大事ヲ談スル外打ツヘキ妙手ナシトノ結論ニ達ス而シテ此手ヲ打ツヘキ時期ハ漢口攻略ニ先立ツヲ要ス、何トナレバ漢口攻略後ハ情勢ニ引摺ラレテ再ビ長期抗戰ノ新ナル段階ニ踏込ム恐大ナレバナリ

二、我方ニ於テハ蔣介石ヲ以テ濟度シ難キ排日ノ權化トシ排日ヲ以テ國內統一ノ具トナシ來リタルモノト憎惡シ居レルモ蔣其人ハ果シテ斯ノ如キ人物ナリシカ、一九三五年末蔣力行行政院長トナルヤ閣員ニ蔣作賓、張公權、張群、吳鼎昌等ノ知日派ヲ配シタルハ之等トノ協力ニ依リ日支國交ヲ調整セントノ彼ノ用意ニ外ナラス又一九三六年一月當時ノ我大使館附武官磯谷中將ニ對シテモ彼蔣ハ「口

中ツタキ様ナルモ自分カ行政院長ノ職ニ在ルコトハ日支關係改善ニ對シテハ千載一遇ノ好機ト云フヘク此ノ機會ヲ逸センカ五十年百年モ其ノ機會ヲ失フヘシ」トテ日支國交ノ調整ニ對スル熱意ヲ語ル所アリ又確聞スル所ニ依レバ現外相カ朝鮮總督在任中蔣ハ一再ナラス竊ニ使者ヲ京城ニ派シ總督ニ對シテ日支國交調整ヲ切望シタルコトアリト云フ、以テ彼ノ衷情ヲ知ルヘシ此ノ蔣ノ衷情ハ他ノ必要ナル機會ニ於ケル彼ノ發言ニモ盛ラレ居ル所ニシテ就中昨年七月十九日例ノ廬山聲明ニ就テ見ルニ彼ハ「國民政府ハ其ノ日本ニ對スル政策テ一切ノ懸案ヲ調整シ且一般ニ承認セラレタル外交交渉ノ方法ニ懇ヘテ公正ナル解決ノ達成ヲ常ニ期待シ」タリト言ヒ、又曰ク「過去數年間重大ナ諸問題ニ當面堪ヘ難キ苦痛ヲ忍ビ乍ラモ吾々ハ隱忍自重面目ヲ傾注シテ和平ノ確保ニ努力シ仍テ以テ民族ノ復興ヲ實現スルコトヲ期シタ」ト、之ヲ以テ蔣ノ世迷言トセルハ獨リ我國「ジャーナリズム」ノ罪ニハアラサルヘシ、此ノ蔣介石ヲシテ遂ニ匙ヲ投ケテ「最後ノ關頭到レリ」ト叫ハシメタルハ返ス返スモ殘念ナリト言ハサルヘカラス、然レトモ今日ト雖モ我方カ大乘の

態度ヲ以テ國民政府ト蔣トニ臨ムニ於テハ彼及彼等ヲ再
ヒ日支國交調整ノ立前ニ引戻スコト敢テ難事ニアラサル
ヘシ

三、國民政府ヲ相手トシ之ト和ヲ談スル場合ニ障碍トナルハ
「國民政府ヲ對手トセス」トノ聲明ナルカ今ヤ我國情ハ
斯ノ如キ聲明ヲ乗切リテモ事變ノ終結ヲ圖リ以テ狂瀾ヲ
既倒ニ回スノ必要ニ迫ラレツツアルモノト認ムル處之ヲ
乗切ルヤ否ヤハ一ニ我政府當局ノ勇氣ノ問題ナリト言ハ
サルヘカラス、勇氣トハ政策ノ大轉回ノ爲ニ國內ニ生ス
ルコトアルヘキ反動的波紋ニ直面シテ政府當局カ一身ヲ
危クスルモ尙之ヲ敢行スル政治的勇猛心ノコトナリ。我
政府ハ日支事變ノ收拾ニ第三國ノ干與ヲ許サヌ建前ヲ堅
持シ來リタルモ日支双方見榮ヲ切ツテ果シ合ヒヲ始メ夫
レカ今日ノ如キ深刻ナル摺ミ合ヒノ喧嘩トナリテハ日支
何レカラモ和平話ヲ公然持出スコトハ体面上出來ヌ又儀
ニテ實ハ形式的ニテモ第三國カ水ヲ入レ呉レルコトカ最
モ都合宜敷、此役目ヲ勤メ呉レル第三國ノ誰ナルカニヨ
リ或ル程度穩カニ「對手ニセズ」ノ聲明ヲ乗切ルコトモ
ナシ得ベシ、ソレハ日獨伊三國防共樞軸ヲ利用シ密ニ獨

伊ニ工作ノ上兩國ノ發案トシテ日支双方ニ和平勸告ノ勞
ヲ取ラセ我方ハ他ナラヌ獨伊ノ勸告ナルヲ以テ之ヲ無礙
ニ拒絶シ難シトノ態度ヲ執ルナラハ我國民ノ獨伊ニ對ス
ル傾倒振ヨリ見テ先々大ナル冒險トハナラサルヘシト考
ヘラル、獨伊兩國カ日支ノ間ニ立チテ一役勤メ度キ存念
ナルコトハ昨年末ノ獨ノ橋渡シ最近ノ伊ノ動ニ鑑ミ明カ
ニシテ我方ヨリ旨ヲ授クレハ得タリ賢シトナスヤ必定ナ
リ只支那ノ問題トナルト獨伊ハ互ニ排擠スル癖アルハ昨
年末獨逸ノ日支橋渡ノ際伊ノ參加ヲ獨カ拒絶シタル事例
ノ通りナルガ此ノ點ハ我方ノ出方ニヨリ調和スルヲ得ベ
シ
尙考量スヘキ點ハ彼等ハ只働キスル筈ナク我ニ對シ如何
ナル「サービス」料ヲ要求スルカニアル處之トテ支那ニ
於ケル經濟活動ノ分前ニ過キサルヘク之ニ對シテハ我方
ハ相當ノ雅量ヲ示シテ可ナリ。國民政府ニ對シテ重キヲ
爲ス所ノ英米ヲ仲裁者トシテ働カシムルコト殊ニ英ハ日
支間ニ話ヲ纏ムルニハ持ツテ來イノ役目ナルモ我國内ノ
反英感情ニ鑑ミ國內ヨリ打壞ハサルル恐アリ米ヲ利用ス
ルトキハ門戸開放機會均等、九國條約等ノ蒸シ反シヲ前

提條件トシテ持出サルルヤモ知レサルヲ以テ兩國ニハ頼マサルカ安全ナリ

獨伊兩國ヲシテ右ノ役目ヲ勤メシムルニハ事前ニ日支間ニ極祕ノ「チャンネル」ヲ通シテ豫メ和平條件ヲ定メ地均シヲ爲シ置カサルヘカヲサルハ勿論ナルカ國民政府ニ和議ノ動キカアルヤト云フニ其然ルコト最近諸情報ノ示ス通りナリ、蓋シ彼等ハ最後ノ勝利ヲ云々シ抗日ニ凝リ固マリ居ルモ其苦境ハ慘憺タルモノアリテ和平ニ渴シ居ルハ事實ナルヲ以テナリ、但彼等ノ和平モ條件次第ニテ條件若シ苛酷又ハ屈辱のナラハ飽迄抗戰ヲ續クル丈ケノ見識アルコトヲ我方ニ於テ看過スベカラス

四、昨年十月一日總理、陸、海、外四大臣ノ間ニ於テ決定セラレタル支那事變對處要綱附屬具體の方策ハ極メテ大乗的觀點ヨリ事變後ノ日支國交調節條件ヲ定メタルモノナル處軍事行動ノ進展ニ伴ヒ次第第二階ヲ得テ蜀ヲ望ミ本年一月十一日御前會議ニ於テ決定セル支那事變處理根本方針中ニ豫定セラレタル日支媾和交渉條件ハ頗ル加重セラレタルモノニシテ到底支那側ノ受諾セサルヘキ底ノモノナリキ、國民政府ハ今日連戰連敗シツツアリト雖モ尙ホ

最後ノ勝利ヲ夢見ツツ終極的敗戰ヲ認メ居ラサルコト、竝ニ國民政府從來ノ聲明ニ徴シ我方カ之ニ屈辱的條件ヲ強ヒント欲スルモ到底應シテラサルヘキヲ以テ之ニ對スル和平條件ヲ定ムル上ニ於テハ概ネ左記ノ前提條件ヲ心得トセサルヘカラス、項ヲ別ニシテ之ヲ述フ

(肆) 和平基礎條件

一、昨年九月四日帝國議會ニ賜ヘル勅語ニ於テ「帝國ト中華民國トノ提携協力ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ舉クルハ是朕カ夙夜軫念措サル處ナリ」ト宣ヒ又「今ヤ朕カ軍人ハ百難ヲ排シテ其ノ忠勇ヲ致シツツアリ是一ニ中華民國ノ反省ヲ促シ速ニ東亞ノ平和ヲ確立セントスルニ外ナラス」ト宣ヘリ聖旨ノ存スル所炳乎トシテ明ナリ此ノ聖旨ニ出發シテ本年一月十一日ノ御前會議決定ノ支那事變處理根本方針ニ於テ政府ハ「帝國不動ノ國是ハ滿洲國及ヒ支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ……右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乗の基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及ヒ領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ舉クルヲ窮極ノ目途トス」トナセリ誠ニ俯仰天地ニ恥

チザル國是ナル哉、而シテ此根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導スルコトモ亦御前會議ノ決定スル所ナルニ拘ハラズ當局ハ嘗ツテ國民ニ對シテ之カ徹底ニ努ムル所ナキノミナラズ自ラ此國是ニ背致スルノ言動ヲ慎マザレバ我官民其ノ後ノ言フ處、爲ス處ヲ見ルニ或ハ「大陸政策ハ此ノ時」ト意氣込ミ或ハ「支那ハ外國ナリトハ言ヘ植民地視シテ可ナリ」トノ説カ横行シ「敵産ハ斯々處分スヘシ」ト主張シ「斯ノ如キ大犧牲ヲ拂ヒタル以上セメテ北支、中支位ハ我方ノ自由ニセネバ國民カ承知スマイ」ト決メ込ム等、支那ニ對シテ領土の野心ナシトハ表面ダケノコトニテ實ハ征服戰ヲ行ヒ居ル氣持トナリ居ルコトヲ我人共ニ反省セス此ノ氣持カ末梢のニ働イテ「物取り主義」、「先取主義」、「分前主義」トナツテ現レ又第三國ニ對シテハ同ジク御前會議決定ニ「第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優位ヲ獲得ス」トアル所ヲ全ク忘却シ去レリ、斯ノ如キ言行ハ恐レ多クモ遠ク聖旨ヲ逸脱シ御前會議決定ノ根本方針ヨリ脱線スルコト甚タシキモノニシテ此支離滅裂振ヲ以テシテ日支提携東亞ノ平和カ得ラルベキヤ

今回ノ事變ハ東洋ニ歴史アツテ以來未曾有ノ大殺陣劇ナルカ思フニ此ノ大詰ニハ爲政家ノ腕次第ニテ全ク相反シタル二様ノ場面ノ何レカ一ヲ上場シ得ヘシ、若シ征服意識カラ出發シテ國民政府ニ城下ノ誓約苛酷ノ條件ヲ強フル時ハ彼等ハ之ヲ蹴ツテ再ヒ抗日續行ニ立戻ル處アルノミナラス假リニ彼等カ已ムナク苛酷ナル條件ヲ受諾シタリトスルモ爾後支那民族ハ面從腹背常ニ日本ヘノ復讐ヲ狙ヒ日本ハ支那ノ反噬ヲ抑壓スルニ汲々シ日支兩國民ハ永遠ニ「血ニ報ユルニ血」ノ慘劇ヲ繰返ヘササルヘカラス、是レ今回ノ事變ノ持チ得ル悲劇の大詰ナリ之ニ反シ若シ從來ノ行懸リニ捉レサル大乘の決意ヲ以テ彼等ニ臨ムニ於テハ今回ノ事變ハ之ヲ轉シテ日支國交調整ノ爲ノ千載一遇ノ機會トシテ活用シ得ベク、聖旨ノ存スル所前記根本方針ノ以テ不動ノ國是トナス所ノ兩國ノ渾然タル融和ヘノ序幕カ茲ニ初メテ開幕セラルヘシ這ハ爲政家ノ腕次第決心次第ニシテ我政府タルモノ一大勇猛心ヲ以テ此ノ事變ニ日支提携東洋平和ノ精神ノ籠ツタ結末ヲ付クヘキナリ此ノ目的ヲ以テ日支間ニ和平ヲ實現スルニハ先ツ和平條件ヲ決定スル上ニ於テ是非心得置クヘキ數ヶ條

アリ左ノ如シ

(一) 寛厚ノ度量ヲ持シ成ルヘク支那側ノ面目ヲ立テヤルコト

國民政府ヲ目シテ罪ヲ我方ニ乞フモノトナシ之二對シ秋霜烈日ナル條件ヲ強ヒントスル時ハ彼等カ和平交渉ニ乘リ出シ來ラサルヘク假リニ彼等カ之ヲ容レタリトスルモ日支間二百年ノ讐ヲ結フニ至ルヘキハ前言ノ通ナリ、強者タル日本カ弱者タル彼等ニ臨ムニ寛厚ノ態度ヲ以テスルコトハ誰カ見テモ日本ノ估券カ下リタリト思ハサルノミナラス世界ハ日本ノ武士道の態度ニ傾倒シ諸外國從來ノ對日惡感情ハ一舉ニ拂拭セラルヘク、又支那ヲシテ從來日本ニ對シテ抱キタル怨恨ヲ消散セシメ日本信賴ノ念ヲ彼等ニ植付ケ得ヘシ、我方ハ國民政府相手ノ和平ヲ論スル以上獨逸國立銀行總裁「シヤハト」カ倫敦正金ノ加納ニ言ヘケル如ク「ビスマーク」的媾和ヲ爲シ彼等ノ面目ヲ立テテヤリツツ大キク支那ヲ擱ムノ心掛ケヲ要ス

(二) 支那主權ニ制限ヲ加ヘサルコト

主權ノ維持ハ孫文ノ遺訓ノ下ニ支那國民黨及ヒ國民政

府カ生命トセル鐵則ニシテ之カ實現ヲ目指シテ努力スルカ爲ニ國民黨及ヒ國民政府ハ兎ニモ角ニモ青年支那民心ヲ自己ニ繫キ居ルモノニシテ若シ主權ヲ永久ニ制限スルカ如キ媾和條件ヲ強フルナラハ是亦大乘の國交調整ノ機ヲ逸スヘシ

(三) 蔣介石ノ下野ヲ絕對ノ要求トハセサルコト

假リニ蔣介石ノ下野ヲ要求スル場合ニ、下野ニ實質的下野ト形式的の下野トアリ得ヘシ一ハ蔣ヲシテ實質のニ形式的のニモ政權ヨリ離レシムルコト、二ハ單ニ形式的のニ蔣ヲ下野セシメ實質のニ彼カ國民政府及國民黨ノ柱石タルノ地位ヲ維持スルモ大目ニ見テヤルコトナリ、蔣カ民族英雄トシテ支那國民大多數ノ渴仰ノ中心テアリ國民政府ニ取り屬ノ要ナルコトハ曩ニ述ヘタリ此ノ蔣ヲ實質のニ下野セシムルコトハ即チ國民政府其ノモノヲ崩壞セシムルニ等シ形式的の下野ノ要求ハ支那國民渴仰ノ中心人物ニ詰腹ヲ切ラセル譯ニテ只處刑カ幾分輕シト云フノミニテ先方ノ持ツ屈辱感ニハ變リナシ何レニシテモ蔣ノ下野ヲ要求スルコトハ蔣介石ヲ取巻ク處ノ強硬分子ヲ驅ツテ愈長期抗日ニ追込ム恐アルヲ悟

覺セサルヘカラス、寧口蔣ヲ助ケテヤリ之ヲ利用スルノ雅量ヲ示スヘキナリ

(四) 支那ノ内政ニ干與セサルコト

今回ノ事變ハ冀察政權ナルモノヲ我カ藥籠中ノ物トシテ特殊ノ存在タラシメントスル遠心力ト支那國家主義ノ吸心力トノ相剋カ其原因ノ一トナリタルコトニ鑑ミ其ノ覆轍ヲ再ヒ履マサル心掛ケカ必要ナリ

(五) 國民黨ノ解消ヲ要求セサルコト

三民主義ノ旗幟下ニ結成セル國民黨ハ善カレ惡シカレ革新支那ノ骨格ヲ成ス、是ヲ解消セシムルコトハ支那ノ政治ヲシテ無力ト云フヨリ寧口支離滅裂ナラシムルモノニシテ群雄割據而モ其ノ間ニ共產黨ノ跋扈ノ端ヲ開クコトトナリ始末ニ困ル事態ヲ惹起スルコト必定ナルヲ以テ之カ解消ノ如キハ考慮外ニ置クコトヲ要ス又之ヲ和平條件トスルモ先方ニテハ到底問題トセサルヘシ

(六) 經濟提携ニ重點ヲ置クコト

日本カ政治的ニ支那ニ乗り出サントスル處ニ日支間紛爭ノ根本原因カ存在スルニ鑑ミ今後ノ日支關係ハ經濟

提携ニ重點ヲ置キ眞ニ有無相通シ共存共榮ノ實ヲ擧クルコトノ線ニ沿ツテ發展セシムルヲ要ス

二、以上ノ如キ心得ノ下ニ和平基礎條件ノ大綱ハ概ネ左ノ如ク定ムヘキナリ

(一) 政治方面

(イ) 滿洲國ノ正式承認

國民政府ニ滿洲國承認ノ意嚮アルコトハ先ニ伊國側ヲ通シテ略明カトナリタル所ナリ之ヲ支那側ニ要求スルモ今日ノ國民政府ハ失地回復等ハ諦メテ受諾スヘシ

(ロ) 防共政策ノ確立及遂行

支那ヲシテ今直チニ日獨伊防共協定ニ參加セシムル如キハ困難ナルモ昨年二月ノ國民黨三中全會ニ於テ採擇セラレタル赤根絶決議(赤根絶)ニ於テ「赤化ノ根絶ハ支那ノ國家民族擁護ノ不易ノ大道ナリ」ト宣言シ居ル所ニ鑑ミ日支間ニ或程度ノ防共協定ヲ締結スルコトハ支那側トシテナシ得ヘキ處ナリト思考ス但シ昨年締結ノ蘇支不侵略條約ニ觸レサルコトヲ要ス、支那共產黨ノ清算ヲ併セテ要求スルコトハ寧口國民黨及

國民政府ノ歡迎スル所ナルヘシ

(ハ)支那ハ全國ニ亘リ反滿抗日ヲ嚴ニ取締リ日本トノ國
交敦睦ヲ徹底セシムルコト

既ニ我方カ大乘的ニ時局ヲ拾收セントスル以上支那
側ニ於テモ從來ノ行懸リヲ捨テ日本トノ親善ヲ國民
ニ要望スルコトハ敢テ難シトスル處ニ非ルヘシ

(ニ)臨時及維新兩政府ハ合體ノ上中央政府ノ下ニ地方特
殊政權トシテ之ヲ存續セシム但若干年後ニハ之カ改
組ヲ中央政府ノ任意トスルコト

和平談ヲ進ムル上ニ於テ最モ障害トナルモノハ臨時
及維新兩政府ノ存在ナリ實ヲ云ヘハ此ノ兩政府ヲ解
消セシムルコトカ日支國交調整ノ爲ニ最モ望マシキ
コトナルカ之カ成立ノ由來ニ鑑ミ暫ラク之ヲ存續セ
シムルコトハ已ムヲ得サルヘシ

但シ永ク之ヲ存續セシムルコトハ再ヒ冀察政權ニ對
スル如キ關係ヲ生シ紛爭ノ種トナルニ付之カ存續ニ
一定ノ期限ヲ附シ其ノ期限後ハ之カ改組ハ中央政府
ノ任意トスルコトトスヘシ

(ホ)内蒙ハ支那主權ノ下ニ自治的現狀ヲ維持セシムルコ

ト

國民政府ニ此ノ條件受諾ノ意アルコトハ先ニ獨逸側
カ和平橋渡シノ節明カトナレル所ナリ

(二)軍事の方面

(イ)長城南方一帯ノ地、上海周邊一定ノ地域ヲ非武裝地
帶トスルコト

本項モ大体支那側ヲシテ受諾セシメ得ヘシ但シ支那
側ノ面目ヲ重ンシヤリ期限付トシ地帯ノ範圍ハ絶對
必要ノ限度ニ止ムルヲ可トス

(ロ)北支内蒙及中支ノ一定地域ニ日本ノ駐兵ヲ認ムルコ
ト

但シ駐兵ハ後始末及保證ノ意味ニ於テスヘク一年ヲ
出テサル期間位ノ暫行トシ駐兵地點モ兵力モ最少限
度ニ止ムルヲ可トス

(三)經濟方面

(イ)北中支ニ於ケル資源開發ニ日支經濟合作

北中支ノ國策會社及之カ子會社ヲ日支合作ノ下ニ遺
憾ナク活用ス第三國ノ經濟活動ヲ妨ケサルコトヲ要
ス

(ロ)日滿支三國間ニ交通、航空、交易ニ關シ適當ナル協定ヲナスコト

(四)賠償

支那側ニ於テ保障方引受ケタル我方財産竝權益ニ與ヘタル直接損害及支那側カ我方財産又ハ權益ヲ不法ニ使用又ハ處分シタルコトニ依リ生シタル直接損害ヲ要求ス「支那民衆ヲ敵トセス」トノ方針ニ鑑ミ今後數十年ニ亘リ支那國民ノ重荷トナルヘキ戰費賠償ハ之ヲ要求セヌコトトスヘキナリ

三、和平ハ概ネ前記各條件ノ「ライン」ニ即シテ談ヲ進ムヘク之ニ基ク細目ノ極メ方モ亦重箱楊子ニ流レサルヲ要スル處、一方之カ爲ニハ政府ノ大乗の方針ヲ國民ニ徹底セシムル様諸般ノ工作ヲ施ササルヘカラス殊ニ言論機關ニ對スル統制取締、各種政治的團體經濟團體ノ啓發操縱等ニ周到ナル工夫ヲ要スヘシ

(伍)結言

吾人ノ考フル所ヲ以テスレハ今ヤ帝國ハ其ノ對支政策ニ於テ右スヘキカ左スヘキカ重大ナル岐路ニ立チツツアリ右スルハ飽迄強壓ヲ以テ支那ニ踏込ミ之ヲ植民地のニ料理シ去

ラントスル途、左スルハ歩ヲ起スニ當リ荊棘アルモ後ニハ日支融和ノ境地ニ達スルノ途ナリ事變始ツテ以來帝國政府ハ一再ナラス事變處理ノ根本方針ヲ決定セリ即チ昨年十月一日總理、陸、海、外四大臣間ニ決定ノ支那事變對處要綱、同シク十二月二十四日閣議決定ノ事變對處要綱(甲)及本年一月十一日御前會議決定ノ支那事變處理根本方針之ナリ之等ヲ通觀スルニ或ハ「明徴且恆久的ナル國交ヲ日支間ニ樹立シ」ト前提シ或ハ「支那民衆ノ安寧福利ノ増進ヲ以テ政策ノ主眼トシ」トナシ或ハ「支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ云々」ヲ帝國不動ノ國是トナス等其ノ盛ラレタル精神ハ由々シクモ大乗のナルモノナルモノ之等ノ根本方針ハ一度決定セラルルヤ爾後枝葉末節ノミノ實行ヲ取急キ其ノ根本精神ハ毫モ顧ミラレサルノ形ナリ、政府ハ此ノ際改メテ根本方針ヲ再檢討シ右ナラ右、左ナラ左ト取ルヘキ針路ヲ判然見定メ其ノ何レカニ決定シタル以上之カ實踐ニ向テ全能力ヲ動員スヘキナリ今回ノ事變ハ口ニ有難キ經文ヲ唱ヘツツ中腰ニナツテ打開シ得ヘキ底ノ難局ニハ非ルヘシ、唯吾人ハ昨年九月議會ニ賜リタル 御勅語ノ聖旨ヲ只管ニ國是ノ金科玉條ト奉信シ之ヲ實踐窮行スルコトカ眞ニ皇道

ヲ興起シ國威ヲ世界ニ向テ伸張スル所以ナルコトヲ確信スルカ故ニ此ノ際巨腕ヲ振ツテ日支融和ノ境地ニ到達スルノ途ニ向テ針路ヲ確取シ肅々ト國民ヲ率ユヘキコトヲ以テ政府ノ大責務ト見、大乗的和平ヲ切言スルモノナリ、然レトモ吾人ハ日支國交ヲ整フルルニハ單ニ此事變ノ大乗的結末ヲ以テ足レリトセス更ニ進テ日支國交調整何年計畫ト云フカ如キ建設的國交目標ヲ協定シ日支共同シテ之カ實現ニ努ムヘキコトヲ唱導スルモノナリ右計畫ニ付テハ案ヲ具シテ追テ述フル所アルヘシ

(欄外記入)

證言第一八號

本意見書は予が外務大臣在職中(一九三八年六月―九月)東亞局長石射猪太郎が一九三八年七月予に提出シタルモノノ複製ニ相違ナシ右證明ス

昭和廿四年五月廿三日 宇垣一成(印)

221

昭和13年7月3日

陸軍省作成の「時局外交ニ關スル陸軍ノ希望」

時局外交ニ關スル陸軍ノ希望

昭和三、七、三 陸軍省

外交一般方針

一、方針

一、防共樞軸ノ強化ヲ圖ルト共ニ強力明快ナル事變處理ニ依リ列國ヲシテ我對支政策ヲ事實上了得シ帝國ノ方針ニ基ク新支那建設ニ協力セシメ彼等ヲシテ自ラ帝國ノ態度ヲ支持スルニ至ラシメ以テ事變ノ解決ヲ迅速且容易ナラシムルト共ニ事變解決後ニ於ケル帝國ノ對外政策ノ遂行ニ資ス

二、外交及經濟上ノ工作ハ總テ國策第一主義ニ統合指導ス

二、要領

一、外交上ノ努力ヲ左ノ重點ニ集中ス

1. 防共樞軸ヲ強化スルコト

2. 「ソ」聯邦ニ對シテハ積極的ニ今次事變ニ參加セシメ

サル如ク努ムルコト

(「ソ」聯邦ノ東亞ニ對スル侵寇の企圖ヲ挫折セシム

ヘキ根本方針ハ依然トシテ變化ナシ)

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

3. 英國ヲシテ親蔣援支政策ヲ拋棄セシムルコト
4. 米國ヲシテ少クモ中立的態度ヲ維持セシメ爲シ得レハ之ヲ親目的ニ誘致シ特ニ經濟的友好關係ヲ強化セシムルコト
- 二、武力行使ノ外、外交折衝ニ依リ對支武器輸入ヲ斷絶セシム
- 三、列國ノ在支權益ハ左ノ原則ニ牴觸セサル限り之ヲ尊重スルト共ニ帝國ニ好意的態度ヲ有スル第三國ニ對シテハ新支那經濟開發ニ參加セシムルコトヲ歡迎ス
 1. 新支那ノ幣制、關稅率、稅關等全般ノ財政經濟政策確立ニ就テハ帝國ニ於テ之ヲ援助シ第三國ヲシテ之ニ追隨セシム
 2. 北支及蒙疆ニ於ケル國防資源ノ開發ハ帝國之ヲ實質的ニ支配ス
 3. 中支ニ於ケル産業開發事業ニ就テハ帝國ハ概ネ列國ト併存的ニ之ヲ實施ス
 4. 前二項以外ノ地域ニ於ケル産業開發事業ニ就テハ概ネ現狀ヲ承認ス
5. 對支通商ニ就テハ原則トシテ自由競爭主義ニ依ル

6. 事變發生後蔣政權ト協定シテ設定セラレタル在支權益ハ之ヲ認メス

四、第三國ノ好意的橋渡シハ事變解決ニ關スル既定方針ニ反セサル限り之ヲ受理スルコトヲ妨ケス

五、第三國ノ干渉ニ對シテハ斷乎トシテ之ヲ排除ス

六、第三國ニ對シ帝國ノ眞意ヲ諒解シ速ニ親蔣援支ノ態度ヲ改メ世界の反共氣運ヲ醸成スル爲政府ハ有力ナル對外宣傳機構ヲ整備ス、爲之特ニ在野ノ適任者ヲ起用スルコトニ着意ス

防共樞軸ノ強化工作

一、方針

一、日獨伊間ニ於ケル政治的關係ヲ強化ス

二、日滿對獨伊間ニ於ケル經濟的提携ヲ鞏固ナラシム

三、必要ナル諸國ヲ防共協定ニ加盟セシムル如ク工作ス

特ニ滿洲國ノ加盟ハ速ニ之ヲ實現ヲ期ス

二、要領

一、日獨伊間ニ於ケル政治的關係ノ強化方策左ノ如シ

獨逸ニ對シテハ防共協定ノ精神ヲ擴充シテ之ヲ對「ソ」

軍事同盟ニ導キ伊太利ニ對シテハ主トシテ對英牽制ニ利用シ得ル如ク各個ニ祕密協定ヲ締結ス

二、日滿對獨伊間ニ於ケル經濟提携ヲ鞏固ナラシムル爲ニハ概ネ左ノ如キ着眼ニ依ル

1. 日滿對獨伊貿易協定乃至一般經濟提携ノ促進

2. 産業擴充就中工作機械ニ關スル要求ニ即應スヘキ適應ノ處置

3. 滿洲、支那ニ於ケル經濟開發ニ協力要スレハ支那ニ於ケル對獨伊經濟利權ノ附與

4. 日獨國交特ニ經濟提携強化ノ爲南洋植民地返還問題ノ促進

三、波蘭及羅馬尼等ノ諸國ヲ成ルヘク速ニ防共協定ニ加盟セシムル如ク工作ス

四、世界的反共氣運ノ醸成昂揚

對「ソ」工作要領

一、方針

「ソ」聯邦ニ對シテハ今次事變ニ積極的ニ參加セシメサス如ク諸般ノ工作ヲ實施ス

二、要領

一、國力就中滿洲ノ經濟建設及在滿兵備ヲ充實シ以テ對「ソ」彈撥力ヲ保持増進ス

二、「ソ」聯邦ノ真相及不信行爲ヲ海外就中英、米、佛ニ對シテ宣傳シ其國際的地位ヲ低下孤立セシム

三、直接對「ソ」外交ハ公正且毅然タル態度ヲ以テ處理シ特ニ既存條約ハ之カ完全ナル履行ヲ迫ル

四、「ソ」聯邦ノ對支策謀ト對日滿不法行爲トヲ宣傳シ國內ノ輿論ヲ喚起ス

五、日「ソ」不可侵條約ハ締結セス

對英工作要領

一、方針

英國ニ對シテハ帝國ノ公正且毅然タル態度ヲ諒解セシムルト共ニ在支日英經濟狀態ヲ調整シ以テナルヘク速ニ其親蔣援支政策ヲ拋棄セシム

二、要領

一、事變ノ遷延ハ英國ノ極東政策上不利ナルコトヲ自覺セシムルト共ニ英國ニシテ帝國ノ事變解決方針ニ順應スルニ

於テハ之ニ應シ逐次其中南支ニ於ケル權益ニ關シ好意的
考慮ヲ拂フ

之カ爲特ニ在支英諸勢力ヲ利用ス

二、英國ノ在支權益ニ對スル措置ニ就テハ特ニ慎重ヲ期シ無
用ノ摩擦ヲ避ク

三、大英「ブロック」ニ於ケル我外交、經濟及宣傳機關ヲ統
制刷新スルト共ニ帝國内朝野ノ對英言動ヲ規整シ以テ英
國ヲシテ我對支政策貫徹ニ關スル信念ト實力トヲ認識セ
シム

對米工作要領

一、方針

米國ヲシテ少クモ本事變間中立的態度ヲ維持セシメ爲シ得
レハ之ヲ親日的ニ誘致シ特ニ經濟的友好關係ヲ強化セシム

二、要領

- 一、適切ナル宣傳特ニ現實ノ事態ヲ事實ニヨリテ宣傳シ對日
觀ノ是正ニ努ム
- 二、在支米權益ノ保全ニツキ爲シ得ル限りノ努力ヲ拂フ
- 三、經濟的友好關係ヲ強化スル爲前二項ノ外各般ノ手段ヲ盡

シ通商振興、米資導入ヲ計ル

例(1)總動員上資源取得ノ爲對米貿易ノ強化

(2)産業擴充就中工作機械ニ關スル要求ニ即應スヘキ

對米「クレヂット」ノ設定

(3)滿洲、支那ニ於ケル經濟開發ニ協力要スレハ支那

ニ於ケル對米經濟利權ノ附與

四、本方針達成ノ爲適時外交の折衝ニヨリ日米關係ノ調整ニ
就キ工作ス

對佛工作要領

佛國ニ對シテハ親蔣援支政策ノ拋棄特ニ對支武器供給ヲ中
止セシム

222 昭和13年7月6日

容共抗日政策を維持する国民政府との和平は
あり得ないとこの近衛総理記者談話

◎國府トノ和平ハアリ得ナイ

近衛首相、記者團ト一問一答

(東京七日發同盟)聖戰早クモ一周年ヲ迎ヘテ政府、國民相トモニ堅忍持久、時艱克服ニ邁進セントノ決意ヲ新タニシツ、アルトキ近衛首相ハ六日午后三時首相官邸テ記者團ト會見、マツ事變勃發以來今日ニ至ルマデ大陸ニ勇戰奮闘、

護國ノ鬼ト化シタ幾多忠勇ナル將士竝ニ戰傷勇士ニ對シテ敬愛ナル感謝ノ言葉ヲ述ベタノ事變ヲ中心トスル左ノ如キ時局談ヲ認^マミ、漢口攻略ヲ控ヘタ帝國政府ノ決意竝ニ蔣政權ヲ繞ル列國最近ノ動靜トコレニ對スル政府ノ決然タル方針ヲ明ラカニシ更メテ事變ノ重大性ニ對スル國民ノ決意ヲ喚起シ今後ニ處スベキ覺悟ニツキソノ奮起ヲ要請シタ

〔問〕最近列國ガ和平ヲ策シテキルト傳ヘラレキルガ政府ノコレニ對スル方針ハ如何

〔答〕第三國ノ動イテキルコトハ承知シテキルガコノ問題ノ解決ハ屢々聲明シテキル通り原則トシテハ日支直交渉ニヨツテ覺ヲツケル方針ニ何ラ變化ハナイ

〔問〕蔣介石ヲ相手ニセズトノ聲明ハチエスチユアデアアルトカ、マタ蔣介石ガ考ヘ直シテモナゼ相手ニシナイノカトイフモノモアルガ蔣政權ヲドウ見テキルカ

〔答〕コノ點モ政府ノ方針ニ變化ハナイ

一月ノ聲明ハ單ニ蔣介石ヲ相手ニシナイトイフノデナクシテ「國民政府ヲ相手ニシナイ」トイフタノデアツテ、日本ガ蔣介石ヲ相手ニ云々スルトイフコトデハナイ、國民政府ノ組織トカ政策ガ變ツテ現存トツテキル容共抗日政策ヲ放棄シテクレバソレハ最早本質のニ從來ノ國民政府デハナクナツテクル、然シ蔣ハ日本ニモ少ナカラズ因縁ヲ持ツテキルガ蔣ノ過去ノ經歷カラ見レバクーデターヲ起シテ共產黨ヲ驅逐シテヨリ又今次事變ガ始マレハ再ビ共產黨ノ援助ヲ仰グトイフヤウニ變轉常ナイノデ實際問題トシテ蔣ヲ相手トシテ安ンジテ和平ナド出來ルモノデハナイ、蔣ガ下野スルナラシテ眞ニ日本ト手ヲ握ル誠意アル政治家ガ國府ノ中心ニ立ツタトシテモ直チニコレヲ中央政府トシテ認メルワケニハ往カナイ然シ臨時、維新兩政權ガ出來テキルノデコノ兩政權ガ合流シタルノチニソノ政權ガ改組シタ國民政府ト交渉ヲ持ツコトハ何ラ差支ナイ

〔問〕然ラバ第三國ノ仲裁ニヨル國民政府トノ和平ハナスヤ

〔答〕 左様ナコトハアリ得ナイ

〔問〕 漢口攻略ニヨリ蔣政權獨自ノ國防力ハ大タイ消耗サ
レルトミルガナホ頑強ニ抗日戰ヲ續ケルトナレバ第
三國ノ對蔣援助ガ絶対條件ニナルト考ヘラレル政府
ハ第三國ニ對スル方策ヲドウ考ヘテキルカ

〔答〕 第三國ノ對蔣援助ヲ放棄セシメルコトニツイテハ外
交上ニモ經濟上ニモ充分考慮シテキル、マタ第三國
ノ支那ニオケル權益ハ充分尊重スル現在ハ戰鬪行為
ノ行ハレテキル際デアルカラ適當ノ時期サヘクレバ
從來通りノ仕事ガ出來ル英國ハ日本ノ眞意ヲ疑ツテ
キルヤウダガコレヲ機會ニ英國ノ全勢力ヲ驅逐スル
ヤウナコトハ全クナイ

〔問〕 占領地ノ治安ヲ脅ヤカス策源地カ上海ナドノ佛租界
アタリニアルヤウダガ適切ナ處置ヲ講ズル意志ナキ
ヤ

〔答〕 事變ニ對スル日本ノ眞意モ今後諒解サレルデアラウ
シ、マタ戰爭進展ニ伴レテ英、米、佛等ノ對日態度
モ漸次變ツテクルモノト思フカラ今後戰況ノ進展ニ
伴レテ第三國人ノ考ヘ方ノ變ルヤウニ政策ヲ導イテ

ユク考デアル

〔問〕 戰時經濟強化ニ對スル意見如何

〔答〕 戰時經濟^(移行)ヘノ意向ハ絶対必要デアル、單ナルゼスチ
ユアデモナケレバ將來ニ豫メ備ヘルタメノミデハナ
イ、支那事變ノ今後ニ對處スルタメデアル

〔問〕 對支中央機關問題ハ

〔答〕 五相會議デ決定スルコト、ナツテキルガ話ガマダ決
ラナイ目標ハ決ツテキルノダカラ事務的ナ一元化ガ
目的デアル

223 昭和13年7月7日

事變一周年に際しての宇垣外相声明

顧レハ、支那事變ハ早クモ茲ニ一周年ヲ迎フルニ致ツタノ
テアルカ、蘆溝橋ニ端ヲ發シタル日支事變ハ、我カ方カ極
力事態ノ不擴大ニ努メタルニモ拘ラス、暴戾ナル支那側ノ
挑發ニヨツテ、遂ニ、今日ノ如キ、發展ヲ見ルニ至ツタノ
テアル。即チ、戦局ハ北支ヨリ中南支ニ擴大シ、皇軍ハ南
北全支沿岸ノ航行ヲ遮斷シ、首都南京ヲ初メ各地ノ重要都

市ヲ攻略シ、今ヤ蔣介石カ最後ノ據點ト頼ム漢口ニ向ツテ殺到シツツアリ、又廣東ヲ初メ各地ノ重要軍事據點ニ對シテ徹底的ナル爆撃ヲ加ヘ、コレカ壞滅ヲ期シテ居ルノテアル。

然ルニ、首都ヲ拋棄シ、各地ニ敗退轉々トシテ輿地ニ遁入シ、一個ノ地方軍閥ニ顛落シツツアル國民政府ハ、敗戦ヲ糊塗シ内外ヲ欺瞞スルタメニ虚構ノ宣傳ヲ事トシ、赤化勢力ニ苟合シ、尙モ第三國ノ支援ヲ頼ンテ長期抗日ヲ呼號シツツアリ、而モ、黄河ノ決潰氾濫ヲ企ツル等、暴虐到ラサルナク、愈々支那民衆ノ慘禍ハ増大セラレツツアル實情テアル。

帝國政府ハ、既ニ去ル一月十六日ノ聲明ヲ以テ蔣介石政權ヲ相手トセス、親日防共ヲ目標トシテ誕生セル新政權ヲ支持シ、明朗支那ノ建設ニ邁進シツツアル次第ニシテ、既ニ臨時、維新兩政權竝ニ蒙疆政權ノ強化發展ニヨリ、戰禍ハ一掃セラレ、治安ハ回復セラレ、着々トシテ復興カ進メラレツツアルコトハ周知ノ如クテアル。

事變一ケ年ノ外交問題ヲ顧レハ、國際聯盟會議、九國條約會議ヲ初メトシテ、列強各國トノ間ニ、幾多ノ折衝カアリ、

誠ニ波瀾曲折ヲ極メタノテアツタカ、此ノ複雑微妙ナル國際關係ヲ處理シテ、事變ノ眞意義ヲ世界ニ徹底セシメ、歐亞ヲ貫ク防共陣ヲ完成シ、陰險執拗ナル反日外交ヲ克服シ得テ、大過ナキヲ得タルハ、一二全國民ヲ擧ケテノ強力ナル支持ニヨルモノニ他ナラヌノテアル。徐州陥落ヲ以テ事變ハ最後ノ段階ニ進ミ、最モ重大ナル時期ニ入ツタノテアル。從ツテ帝國政府モ、陣容ヲ強化シ長期戰ノ體制ヲ整備シ、最後ノ勝利ヲ期シテ居ルノテアル。茲ニ事變ノ一周年ヲ迎フルニ當リ、此ノ間ニ於テ現地ノ戰線ヲ初メ各方面ニ於テ貴キ犠牲トナラレタル將士其他諸氏ノ英靈ニ對シテ、衷心ヨリノ敬意ヲ表スルト共ニ、愈々我々ノ責任ノ重大ナルヲ痛感スルノテアル。今日ニ於ケル事變ノ成果ハ、我國民カ一致協力能ク幾多ノ困難ヲ克服シ得タルトコロニヨルモノテアルカ、東洋平和ノ確立ヲ大目的トスル事變ノ前途ニハ、尙、非常ナル試鍊カ加ハリ來ルコトハ、素ヨリ覺悟ノ事テアル。コレカタメ全國民カ、一致結束、益々堅忍持久ノ大精神ヲ發揮センコトヲ切望スル次第テアル。

編 注 本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第三號)から抜粋。

224

昭和13年7月8日 五相會議決定

〔支那現中央政府屈伏ノ場合ノ對策〕

支那現中央政府屈伏ノ場合ノ對策

昭和十三年七月八日

五相會議決定

第一、方針

支那現中央政府ニシテ屈伏シ來リタル場合ニ於テハ帝國ハ之ヲ一政權トシ「新興支那中央政權ノ傘下ニ合流セシム」トノ 御前會議決定方針ニ基キ處理ス

第二、要領

- 一、帝國ハ事變解決ニ關スル既定方針ヲ堅持シ支那現中央政府ヲ相手トシテ日支全面的關係ノ調整ヲ行フコトナシ
- 二、支那現中央政府ニシテ屈伏シ且後述第三ノ條件ヲ受諾シタルトキハ之ヲ友好一政權トシテ認メ既成新興支那中央政權ノ傘下ニ合流セシムルカ又ハ既存ノ親日諸政權ト協力シテ新ニ中央政權ヲ樹立セシム

既成新中央政府トノ合流、新中央政府ノ樹立等ハ主トシテ支那側ヲシテ行ハシムルモ帝國之ヲ内面的斡旋ス

第三、支那現中央政府屈伏ノ認定條件

- 一、合流若クハ新中央政府樹立ニ參加スルコト
- 二、右ニ伴フ舊國民政府ノ改稱及改組
- 三、抗日容共政策ノ放棄及親日滿防共政策ノ採用
- 四、蔣介石ノ下野

第四、停戰

一、支那現中央政府ノ屈伏ノ事實ヲ認定シ得ルニアラサレハ停戰等ハ議セス

但シ停戰ヲ議スル場合ニ於テハ其條件ハ別ニ考究ス

225

昭和13年7月8日 五相會議決定

〔支那現中央政府ニシテ屈伏セサル場合ノ對策〕

支那現中央政府ニシテ屈伏セサル場合ノ對策

昭和十三年七月八日

五相會議決定

第一、方針

帝國ハ愈々國力ヲ統合シ作戰、內政、外交、經濟、謀略、宣傳等國家一切ノ努力ヲ擧ケテ支那現中央政府ノ潰滅若クハ屈伏ニ集中スルト共ニ長期戰ニ應スル現下必須ノ諸政策ヲ強化シ以テ形而上下ヲ通シ眞ニ戰時態勢ヲ實現セシム

第二、要領

一、要衝占據迄ノ對策

1. 支那ノ大勢ヲ制スルニ足ル要衝ノ占據ヲ目標トシ努メテ間隙ナカラシムル如ク積極作戰ヲ指向シ連續セル敗戰感殊ニ其中原喪失ニ依リ支那現中央政府ノ自壞作用ト繼戰意志ノ放棄トヲ誘導ス

2. 作戰ノ進展ニ伴ヒ政治、經濟、外交、思想等ノ各般ニ互リ益々謀略ヲ強化シテ親日反共諸勢力ノ助成ニ努ムルト共ニ抗日勢力内部ノ切り崩シト和平氣分ノ醸成及財政經濟基礎ノ破綻ヲ策シ以テ成ルヘク速カニ支那現中央政府ノ分裂崩壞少クモ其局地政權ヘノ轉落ヲ期ス右施策ハ帝國自ラ行フ外特ニ裏面的ニ親日支那諸政權其他ヲ指導シテ之ヲ行ハシム

3. 親日諸政權ヲ擴大強化スルト共ニ成ルヘク速カニ是等政權ヲ聚大成シテ一政權ニ統合セシメ眞ニ支那中央政府

府タルノ實ヲ擧ゲシメ以テ内外ヲシテ現實ニ支那現中央政府ニ代ル新政權トシテ認メサルヲ得サルニ至ラシム

帝國ノ新中央政權承認ハ一ニ當時ノ情勢ニ依ルモ該政權カ中央政府ノ實ヲ備フルニ至ラハナルヘク速カニ行フ

4. 列國ノ權益ハ努メテ之ヲ尊重シ好シテ彼等ト事ヲ構フルカ如キ態度ハ避クルモ強力明快ナル事變處理ノ斷行ニ依リ列國ヲシテ我對支政策ヲ事實上了得セシメ彼等ノ既得權益ノ保持増進上自ラ我態度ヲ支持スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメ以テ支那現中央政府ノ孤立化ヲ策ス

三、要衝占據後ノ對策

要衝ヲ占據スルモ支那現中央政府ニシテ尙屈伏セサルトキハ帝國ハ爾後直接武力ニヨル早急ナル事變解決ニ焦慮スルコトナク益々新中央政權ノ擴大強化ヲ促進スルト共ニ政治、外交、經濟、思想的ニ支那現中央政府ヲ愈々壓縮スル等主トシテ政略、謀略ノ運營ニヨリ支那現中央政府ノ潰滅ヲ計ル

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

三、實行ノ方法ニ就テハ別ニ策定ス

226 昭和13年7月12日 五相會議決定

「時局二件フ對支謀略」

付記 昭和十三年七月二十二日、五相會議決定

「時局二件フ對支謀略」等の訂正事項

時局二件フ對支謀略

昭和十三年七月十二日

五相會議決定

方針

敵ノ抗戰能力ヲ崩壞セシムルト共ニ支那現中央政府ヲ倒壞シ又ハ蔣介石ヲ失脚セシムル爲現ニ實行シアル計畫ヲ更ニ強化ス

其ノ要綱左ノ如シ

要領

一、支那一流人物ヲ起用シテ支那現中央政府竝支那民衆ノ抗戰意識ヲ弱化セシムルト共ニ鞏固ナル新興政權成立ノ氣運ヲ醸成ス

二、雜軍ノ懷柔歸服工作ヲ促進シテ敵戰力ノ分裂弱化作圖ル
三、反蔣系實力派ヲ利用操縱シテ敵中ニ反蔣、反共、反戰政府ヲ樹立セシム

四、回教工作ヲ推進シ西北地方ニ回教徒ニ依ル防共地帯ヲ設定ス

五、法幣ノ崩落ヲ圖リ支那ノ在外資金ヲ取得スルコト等ニ依リ支那現中央政府ヲ財政的ニ自滅セシム

六、右諸工作ノ遂行ヲ容易ナラシムル爲所要ノ謀略宣傳ヲ行フ

備考

要領第五項ニ對シテハ尙ホ研究ヲ繼續ス

(付記)

訂正事項

昭和十三年七月廿二日

五相會議決定

一、時局二件フ對支謀略中第五項ノ「法幣ノ崩落ヲ圖リ」ヲ削除ス

三、支那新中央政府樹立指導方策ノ別紙支那政權内面指導大

綱中第三、經濟、交通及救濟ノ第五項ヲ削除シ第六項ヲ第五項トス

227 昭和13年7月12日 五相會議決定

「英獨大使ノ和平斡旋申込ニ對スル態度」

英獨大使ノ和平斡旋申込ニ對スル態度

昭和十三年七月十二日

五相會議決定

英大使

一應婉曲ニ斷ハル然シ手ハ切ラヌ

「誠意カ認メラレヌ故暫ク靜觀スル」

獨大使

一應話ヲ聞キ取ル

時局ニ伴フ對支謀略ノ要領第五項ニ對シテハ尙研究ヲ繼續

ス

228 昭和13年7月14日 在上海日高總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

和平条件をめぐる汪兆銘言動につき伊國參事
官からの情報報告

上海 7月14日發
本省 着

第二一九八號

伊國參事官「アレキサンドリニ」漢口ヨリ來滬セルニ付
(十四日發歸漢ス)十三日森島參事官ト共ニ會見セル處
「ア」ハ日支和平問題ニ關スル從前ノ經過ニ言及シ三月竝
ニ六月ノ二回ニ亘リ汪精衛ノ使者ヨリ同參事官ニ對シ往電
第九六四號ノ諸條件ヲ示シ日本側ノ態度ヲ承知シ度キ旨申
越アリ右ニ對シ同參事官ハ日本側ノ態度ハ極メテ明白ニシ
テ漢口攻略ハ既定ノ事實ナリ又日本ハ蔣ヲ相手トセスト稱
シ居ルヲ以テ自分ヨリ調停又ハ斡旋ヲ爲スヲ得スト回答シ
タルモ自分トシテハ右ノ如キ支那側ノ讓歩ヲ日本側ニ通知
シ置クコト機宜ニ適スト認メタルニ付必要ノ方面ニ電報シ
置キタル次第ナリト述ヘタルニ付森島ヨリ汪ノ立場ハ自己
ノ責任ニ於テ右ノ如キ諸條件ヲ提示シ得ル程鞏固ナルモノ
ニアラスト思考セラルル處(一)貴下ハ汪ノ立場ハ漢口政府部
内ノ意見ヲ取纏メ得ル程鞏固ナリト認メララルヤ又(二)右汪

ノ提案ハ蔣トノ完全ナル了解ノ下ニ爲サレタルモノト思考セラルルヤト問ヒタルニ「ア」ハ（一）汪ハ現在ノ所蔣二代ハリ得ルカ如キ力ナク（二）蔣トノ了解ニ付テハ半分半分ナルヘシト答ヘタル上日本トシテハ此ノ際漢口ヲ成ルヘク速ニ攻略セラルルコト絶對ニ必要ニシテ漢口攻略後ニ至レハ蔣モ其ノ威信ヲ著シク失墜シ汪一派ノ擡頭ヲ見ルコトトナルヘク其ノ際汪一派ト和ヲ講セラルルコト日本トシテ得策ナルヘキ旨ヲ述ヘタリ

右ノ經過ヨリ見ルニ所謂汪ノ提案ナルモノハ單ニ日本側ノ意嚮ヲ探ラントノ魂膽ニ出ツルモノニシテ漢口側トシテ爾ク明確ナル方針ヲ定メ居ルモノトハ受取り難ク又伊獨^{獨カ}大使ハ參事官ヨリノ報告ヲ早合點シタル傾アルト共ニ歸國前ニ何トカ手柄ヲ擧ケ度シトノ氣持モ手傳ヒ居タルニアラスヤト察セラル尙「ア」ハ本國政府ヨリ調停斡旋等ノ措置差控方電訓ニ接シ居ル旨附言セリ

229

昭和13年7月15日 五相會議決定

「支那新中央政府樹立指導方策」

支那新中央政府樹立指導方策

昭和十三年七月十五日

五相會議決定

第一、方針

一、支那新中央政府ハ單ニ今次事變處理ニ關スル支那側當事者タルニ止マラシムルコトナク日支ノ國交ヲ過去一切ノ相剋ヨリ脱却シテ大乘の見地ニ於テ善隣タルノ基礎ヲ確立セシムル爲メ支那國政府ヲラシム

二、支那新中央政府ノ樹立ハ主トシテ支那側ヲシテ行ハシムルモ帝國之ヲ内面的斡旋シ其ノ政治形態ハ分治合作主義ヲ採用ス

第二、樹立要領

一、成ルヘク速カニ先ツ臨時及維新兩政府協力シテ聯合委員會ヲ樹立シ次テ蒙疆聯合委員會ヲ之ニ聯合セシム
爾後右諸政權ハ逐次諸勢力ヲ吸收又ハ此等ト協力シテ眞ノ中央政府ヲ聚大成セシム

二、漢口陥落シ蔣政權カ一地方政權ニ轉落スルカ若クハ蔣下野、現中央政府改組ノ事態生起スル迄新中央政府ヲ樹立セス

三、漢口陷落後蔣政權二分裂改組等ヲ見サル場合既成政權ヲ以テ新中央政府ヲ樹立ス

四、蔣政權二分裂、改組等ヲ見親日政權出現シタル場合之ヲ中央政府組織ノ一分子トナシ中央政府樹立ニ進ム

五、新中央政府承認ノ時機ハ第四項ノ改組(分裂)政權ニシテ停戰ノ擔當者タリ得タル場合若クハ第三項統一政權カ中央政府タルノ實ヲ備フルニ至リタル場合ト豫定ス

六、支那新中央政府樹立工作ニ伴フ日支關係ノ調整ハ左記ニ準據ス

其具體的事項ハ別ニ定ム

1. 新日支關係設定ノ爲調整、締約セラルヘキ基礎事項概

ネ左ノ如シ

(イ) 北支資源ノ利用開發

(ロ) 北支及揚子江下流地域ニ於ケル日支強度結合地帶ノ

設定

蒙疆地方ノ對「ソ」特殊地位ノ設定

南支沿岸諸島ニ於ケル特殊地位ノ設定

(ハ) 互恵ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、防

共共同防衛、經濟提携原則ノ設定

以上ノ目的ヲ達成スル爲所要ノ期間帝國ノ内面指導ヲ行フ

2. 内面指導ノ爲ノ基準、別紙第一「支那政權内面指導大綱」^(編註)ノ如シ

第三、聯合委員會ノ機構及組織

一、臨時、維新兩政府及蒙疆聯合委員會ヨリ成ル聯合委員會(以下聯合委員會ト稱ス)ノ機構概ネ左ノ如シ

1. 聯合委員會ハ臨時、維新兩政府及蒙疆聯合委員會ノ代表者ヲ以テ組織スル簡素ナル委員制トシ差當リ北京ニ

置ク

2. 各地方政權ノ境界ハ差當リ概ネ現在ノ儘トス

3. 北支、中支、蒙疆等ノ各地方政權ニハ各其特殊性ニ即

應スル廣汎ナル自治ヲ行ハシム

4. 聯合委員會及地方政權ノ權限ハ前項ノ趣旨ニ基キ別ニ

研究スルモ交通、通信、郵務、金融、海關、統稅、鹽

稅、文教及思想對策等ノ共通事項ニ關シテハ聯合委員

會ノ所要ノ統制下ニ地方政權ヲシテ行ハシムルモノト

ス

5. 治安維持ニ關シテハ聯合委員會統制ノ下ニ地方政權之

二當ル

6. 外交ニ關シテハ當分ノ間共通外交事項ハ聯合委員會ノ
權限トシ局地的關係事項ハ各地方政權ヲシテ處理セシ
ム

編注 本書第230文書として採録。

230

昭和13年7月19日 五相會議決定

「支那政權内面指導大綱」

支那政權内面指導大綱

昭和十三年七月十九日

五相會議決定

方針

帝國ノ支那政權内面指導ノ目標ハ現事變ノ解決ニ裨益スル
ト共ニ日支兩民族ノ提携ヲ促進シ日滿兩國ノ不可分の善隣
關係ノ確立ト相俟チ我國防國策ニ投合スルニアリ
之カ爲抗日思想瀰漫セル現狀ニ對シテハ威力ヲ背景トシテ
局面ヲ打開スルトトモニ國民經濟ヲ向上シテ人心ヲ收攬シ

東洋文化ヲ復活シテ指導精神ヲ確立シ恩威併ニ用ヒテ一般
漢民族ノ自發的協力ヲ促スモノトス

要領

第一、軍事

一、支那軍ヲ投降ヲ促進シテ之ヲ懷柔歸順セシムルト共ニ其
反蔣反共意識ヲ暢達シテ新政權ヲ支持シ成ルヘク多數ノ
支那軍ヲ以テ抗日容共軍潰滅ノ爲日本軍ニ協力セシムル
如ク努メ以テ民族の相剋ヲ主義的對立ニ誘導ス

二、我占領地ノ海港及鐵道水路等交通ノ要衝並主要資源ノ所
在地等必要ノ地點ニ所要ノ日本軍ヲ駐屯シ僻陬地方ニハ
支那武裝團體ヲ組織シテ治安ノ確保ニ當ラシム

其兵力量ハ各地ノ實情ニ適合セシムル如ク決定スルモノ
トス

三、防共軍事同盟ヲ締結シテ日本軍ノ指導下ニ漸次軍隊ヲ改
編シ情勢之ヲ許スニ至レハ國防上必要ナル最少限度ニ裁
兵ス

第二、政治及外交

一、聯合委員會若クハ新中央政府ノ下ニ北支、中支、蒙疆等
各地域毎ニ其特殊性ニ即應スル地方政權ヲ組織シ廣汎ナ

ル自治權ヲ與ヘテ分治合作ヲ行ハシム

二、諸政權ノ首腦者以下官吏ハ支那人トスルモ樞要ノ位置ニ

ハ所要ニ應シ少數ノ日本人顧問ヲ配置シ或ハ日本人官吏
ヲ招聘セシメ以テ内面指導ヲ容易ナラシム

三、諸政權ヲシテ抗日容共政權ノ打倒崩壞ニ努力シ特ニ反蔣
反共分子ヲ招撫シテ彼等ノ内訌ヲ激發セシムル如ク工作
セシム

四、外交ハ概ネ帝國ノ外交方針ニ追隨シ防共協定ヲ締結セシ
ム

第三、經濟、交通及救濟

一、經濟及交通ノ開發ハ日滿支三國國防ノ確立ニ資スルト共
ニ三國經濟ノ發展竝ニ民衆ノ厚生ニ遺憾ナカラシム、特
ニ所要ノ交通ハ帝國之ヲ實質的ニ把握シ就中北支ニ於テ
ハ國防上ノ要求ヲ第一義トシ中、南支ニ於テハ一般民衆
ノ利害ヲ特ニ考慮スルモノトス

二、經濟ハ日滿支有無相通ノ原則ニ從テ開發シ三國經濟圈ノ
完成ニ邁進ス但シ第三國ノ既得ノ權益ヲ尊重シ或ハ經濟
開發ニ參加セシムルコトヲ妨ケサルモノトス

三、鐵道、水運、航空、通信ハ實質的ニ帝國ノ勢力下ニ把握

シ軍事行動遂行ニ遺憾ナカラシムルト共ニ民衆ノ厚生ニ
寄與セシム

四、在來ノ資本閥ヲ利導シ諸政權ノ政策ニ協力セシム
五、北、中支、蒙疆等ノ地方政權ハ各其政府銀行ヲ存續若ク

ハ新設スルト共ニ此等ヲ統制スル爲中央銀行ヲ設立スル
モノトス

此等銀行ハ何レモ當分金圓「リンク」ノ紙幣ヲ發行スル
モ特ニ新支那中央政府財政ノ充實ニ伴ヒ中央銀行ヲシテ
國家銀行タルノ機能ヲ發揮セシムル如ク育成指導シテ將
來之ヲ唯一ノ發券銀行タラシムルモノトス

六、農事ヲ振興シ治水、土木ヲ興シテ一般民衆ノ生活ヲ向上
シ特ニ事變中ハ差當リ食糧ノ配分ヲ圓滑ナラシムルコト
ヲ以テ急務トナシ次テ復興ヲ主眼トスル所要ノ救濟事業
ヲ行フ

第四、文化、宗教及教育

一、漢民族固有ノ文化就中日支共通ノ文化ヲ尊重シテ東洋精
神文明ヲ復活シ抗日的言論ヲ徹底禁壓シ日支提携ヲ促進
ス

二、諸政權ノ政策遂行ノ爲日支提携實現ノ基調タルヘキ主義

ヲ確立シ又本主義ノ温床タラシメンカ爲民衆團體ノ組織ヲ強化促進ス

三、共產黨ハ絕對之ヲ排撃シ國民黨ハ三民主義ヲ修正シテ漸次新政權ノ政策ニ順應スルモノタラシム

四、宗教ハ日滿提携ノ促進ヲ阻碍セサル限り信仰ノ自由ヲ許容ス

五、學者ヲ招撫シテ之ヲ保護シ且儒教ヲ振興ス

六、實用科學ヲ振興シテ産業開發ヲ容易ナラシム

編注 昭和十三年七月二十二日の五相會議決定によつて要領

第三の第五項は削除され、第六項を第五項と修正した。

231 昭和13年7月21日

胡霖との会談に関する神尾茂の石射東亞局長宛報告

在香港大朝顧問神尾茂ヨリ東亞局長宛親展信

拜啓

東京出發ノ際ハ種々御厚情ヲ蒙リ難有奉感謝候

七月一日無事到着致候ニ付早速御紹介狀ヲ携へテ中村總領事ヲ訪問爾來公私共御世話様ニ相成申候

茲ニ改メテ厚ク御禮申上候

然ルニ香港ハ聞キシニマサル日支乖離ノ状態ニテ一通リノ紹介狀等ニテハ到底接近デキズ何等ノ手ガカリモナク自ら測ラズ斯クノ如キ處ニ飛ビ込ミ來タレル無暴サニアキレル有様ニ御座候到着以來スデニ三週間ニ候處碌々何ノナストコロモナク誠ニ汗顔ノ至ニ存候

カネテ御承知ノ大公報ノ胡霖、張熾章ノ所在ヲツキトメ聯絡ヲ取ラント七月八日漢口ニアテセンサーヲ恐レツツ手紙差出候處十日ホドシテ反響有之胡君ハ香港大公報發刊準備ノタメホンコンニ在リ張君ヨリ胡君ニアテ長距離電話ヲ以テ小生ヨリ來狀ノ件ニツイテ申越アリタル由ヲ以テ胡君昨夜遅クホテルニ訪問シ來リ二時間バカリ會談致候其ノ詳細ニツイテ本日中村總領事ヲ訪問シテ報告ニ參リ候處情勢トシテハ其ノ話ノ通りト信ズルカラ私ヨリ東亞局長マデー一書認メ差出シテ置イテハ吳レマイカトノ注意有之候ニ付了度御無沙汰御詫ニモナルカト存ジ茲ニ概略ヲ記述致候間御參照被下候ハバ幸甚ノ至ニ御座候右取急ギ御一報迄

七月二十一日

匆々拜具

胡霖君トノ談話ノ要領(七月二十日夜)

先ツ話ノ切出トシテ「御互ニ新聞人トシテ兩國ノ關係カ日増シニ險惡ニナツテ行クノハ座視スルニ忍ヒナイ、幸ニモ漢口ニハ張君カ居リ蔣介石ノ信任ヲ得テキルシ、香港ニハ君カ居ルカラ、我々新聞人トシテ自由ニ討論シソレニ基イテ兩國當局者ニ建議シ時局終結ノタメニ一臂ノ力ヲ致スモ本懷テハナイカ」ト説キ二時間ニ亘リ自由ニ談論シテ得タルモノカ此筆記ナリ、胡君ハ本日張君ヘ書面ニシテ詳細申送ル筈ニテ今後モ電話ニテ打合ノ上會談スル事ヲ約セリ抑モ今度ノ國民參政會議ハ眞ニ各階級ヲ網羅シタモノテ全國民代表ト見ルコトカ出來ル、ヨクカカル際ニ年少氣鋭ノ徒ノミカ出勝チテアルノニ、今回ハ老熟シタモノハカリテ平均年齢ハ五十才、中ニハ前清時代ノ大官張一麀ノ如キ七十六才ノ老齡ヲ以テ蘇州カラハルバル參加シテキル、又天津テ日本軍ノ爆撃ヲ受ケタ南開大學ノ校長張伯苓ノ如キモ六十五才テアル、一人息子ノ飛行將校カ日本空軍ノタメニ

擊墜サレテ戰死シテキルカナカナノ元氣テアル、今度ノ戰爭テ支那ハ連戰連敗、ドウシタツテ戰爭ニハ勝味ハナイ、唯精神ノ昂揚今日ノ如キハ四千年來曾ツテナカツタトコロ、今日ノ如ク人心ノ統一シタコトモナイ、從ツテ國民政府ノ精神的基礎ハ史上比類ナキ鞏固サテアル、到ル處戰爭ニハ敗ケルカ農村ノ子弟ハ日本ニ對スル敵愾心ニ燃ヘテキル、是レ皆日本軍ノ暴行ノ結果テナイモノハナイ、山西、山東方面農村ノ住民ハアラユル暴行ヲ受ケ怨ミ骨髓ニ達シテキル、今日迄國民政府ノ惡政ヲ攻撃シテキタモノモ今ハ昔ヲ忘レテ皆日本ヲ怨ムヤウニナツタ、今テモ日本ハ國民黨ノ宣傳ニ歸シテキルカ真相ヲ知ラナイコト甚タシイ、從ツテ日本テハ今ニモ反蔣運動カアチコチニ起ルヤウニ期待シテキルラシイカ日本ノ壓力カ加ハレハ加ハルホド反蔣運動ハ消ヘテ行ク、故ニ時局ノ大轉換戰爭終結ニハ少クトモ次ノ點ニツイテ日本ノ認識ヲ新タニシテ貫ハネハナラヌ

第二、蔣介石相手ニセスカラ改メナケレハ和議ノ餘地ハナイ、蔣介石ハ西安事變ノ打撃カラ全ク癒ヘテ今ハ大元氣テアル、彼レハ西洋型ノ人物テハナク東洋的テアル、若シ彼レカ西洋型ノ將軍ダツタラ戰爭ハ極力サケタラウ、彼レ

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

ハ東洋的信念ニ活キテキルカラコソ今戦ツテキルノダ、ソノ東洋的テアルトコロニ今迄ノ反蔣派ノ連中モ感心サセラレテ今テハ滿腔ノ支持ヲ與ヘテキル、日本ハコノ點ヲ認識セネハナラス、王克敏アタリヲ代リニ立テテ支那ヲ纏メサセヤウトスルノテハ双方ノ距離ハ餘リニ大キイ第三、獨立國家トシテノ領土、主權ノ問題ニツイテ日本ハ果シテ支那ヲ満足セシメ得ルヤ否ヤ、日本ハ戰敗國ニ對スルカ如キ態度ヲ捨テ得ルヤ否ヤ

第三、支那モ日本モ國內ニ對スル考慮ヲ拂ハネハナラヌ點ニ於テ同シテアルカ日本ノ困難ノ方カ支那ヨリモ甚シクハナイカ、換言スレハ日本ハ支那ニ對スル條件カ寛大ニ失ストノ批難ヲ押ヘ切ルカ否カ

第四、最大ノ難題ハ賠償問題ナラン、トラウトマン調停ノ時日本ハ後ニ至リ追加シタノテ、支那ハ尻込^(尻込)ミシタ、アノ時軍事委員會テハアレサヘナカツラ、講和ニ絶對反對ヲ主張シタモノハ一人モナカツタ由實ニ惜シイコトテアル第五、南京陥落前ト陥落後トテ成立ノ難易如何トイフ時期ノ

問題ハ、今度漢口ニツイテモ言ヘルト思フ、漢口カ奪取サレテカラテハ晚イ、却テ困難カ加ハルタラウ

第六、日本テハ口シヤニ備ヘルタメニ支那ヲ征伐スルト言フカ、支那ヲ味方ニツケルタメナラ何故ニ支那ヲカクマテイヂメルカ、コレテハ支那ヲ無理押シニ口シヤノ側ニ追ヒヤルモノテハナイカ

第七、和戰ノ決ハ固ヨリ合議的ニ定マルケレトモ蔣ノ決心一ツテ時局ノ轉換ハ今テモ出來ルト信スル、反對ニ蔣カ若シロシヤト結ンテ一カ八カヤラウトスレハソ聯トノ關係モ更ニ惡化スルタラウ

第八、時局轉換ノ發言ハ日本カイニシアチヴヲ取ラネハナラス、デナケレハ支那ハ城下ノ盟ヲスル事ニナリ益々遅レル

第六、日支直接交渉カ、列國調停カハ一ツノ問題タカ、ワシントン會議ノ山東問題ノ解決ノ如キ形式ハ參考ニナル

(以上)

編注 宇垣外相、堀内次官等の閱了サインあり。

232

昭和13年7月23日

日中和平に関する在香港中村總領事と喬輔三との交渉経緯

香港ニ於ケル中村總領事ト孔祥熙代表喬輔三間ノ

日支和平交渉ニ關スル會談

(昭和二三、七、二三 亞一)

一、六月二十三日中村、喬會談

孔祥熙祕書ニシテ香港ニ於ケル其ノ代表者タル喬輔三ハ從來日本人トノ關係ヲ避ケ已ムナキ筋ニ對シテモ和平問題ニ付テハ漢口方面ニハ未タ斯ル意嚮ナシト突撥ネ來リタル處偶々宇垣大臣ノ外人記者ニ對スル談話中ニ支那側ニ根本的變化アルニ於テハ和平ヲ考フルコトアラントノ趣旨ノ聲明アリシニ刺戟セラレ最近孔祥熙ヨリ在香港中村總領事ニ會見ノ上日本側ノ所謂根本的變化トハ如何ナル意味ナリヤ又日本側ニ和平ヲ談セラルル意嚮アリヤヲ查報スヘキ旨密令アリタル趣ヲ以テ同總領事ニ會見ヲ申越シタリ

依テ中村總領事ハ六月二十三日夜喬ト會見シ先方ノ希望ヲ聽取シタル上先ツ同總領事ヨリ孔院長ヨリ斯ル申出ヲ爲スニ至リタル経緯ニ付尋ネタルニ喬ハ本年四月佐藤少將來訪ノ當時ハ全ク講和ノ見込ナシト答ヘ置キタル程ナルカ其ノ

後一般ニ時日ノ經過ニ伴レテ何日迄何ノ目的ノ爲ニスル戰爭ヲ續クヘキヤト反省シ來リ又現ニ責任ノ地位ニ在ル者モ其ノ感ヲ深クスルニ至レリ今日ニテハ一部急進論者ノ反對ハアルモ之モ蔣介石ノ考如何ニ依リ抑ヘ得ヘキ情勢ニ立至リタリト答ヘ又同總領事ヨリ孔院長初メ責任者カ希望スルモ支那側ノ内外關係ヨリ講和ニ支障ヲ齎スモノナキヤト質問セルニ對シ喬ハ蘇聯其ノ他ノ現下ノ關係ヲ見ルモ講和ヲ談スルニ何等障礙トナルコトナシト述ヘ更ニ又内政上李、白及共產黨トノ關係ニ付突込ミタルニ本件ハ漢口ニ一應確メタル上ナラテハ明瞭ニ答ヘ得サルモ李、白ノ中央ニ於ケル地位ハ左シテ重大ナラサルヲ以テ別段問題ナカルヘキモ唯共產黨ハ平和成立セハ當然分立スヘク問題ハ將來ニ貽サルルニ至ルヘシト答ヘ又

次テ喬ハ孔祥熙ハ汪精衛、何應欽等共良ク各黨派ヨリ親マレ居リ今日迄變ラサル平和主義者ナリ蔣介石自身モ内心ハ平和ヲ希望シ居ルコト勿論ナルモ立場上口外シ得サルノミナリ其ノ下野問題ハ蔣自身トシテハ何等介セサルカ如クナルモ唯周圍ノ者ニテ輕々ニ下野ヲ言出スコトモナラス今日迄結論ヲ得サル次第ナリ宋子文ニ至ツテハ講和ニ反對ナル

モ之亦蔣ノ考ニテ抑ヘ得ヘク又戦局ノ永引クコトハ結局日支兩國共ニ極東ニ關係アル各國ノ爲ニ踊ラサレ居ル次第ナレハ講和交渉ハ第三國ヲ交ヘス極祕裡ニ兩國間ニ於テ進行スルコト最モ望マシト述ヘ重ネテ冒頭孔祥熙ノ訓令ノ趣旨ヲ繰返シ飽迄蔣介石ノ下野ヲ必要トスルヤ否ヤ等最低限範圍ヲ問合ハサレ度シト懇願セリ

三、前記支那側申出ニ對スル應酬方針回訓

右六月二十三日齋ノ申出ニ對シ中村總領事ヨリ蔣介石ノ辭職ハ如何ナル話合ヲ始ムルニモ絶對必要ナルコトヲ申聞ケタル上其ノ他ノ條件ニ關シテハ支那側ヨリ責任アル代表ヲ差出スヲ俟ツテ提示スヘキ旨申聞ケ先方ノ出方ヲ待ツコト然ルヘシト思考スル處何分ノ回訓ヲ得度キ旨電稟ノ次第アリ

仍テ本省ヨリ本件支那側申出ニ對シテハ話ヲ繋キ置ク含ミヲ以テ和平條件ノ大綱ニ付テハ客年末獨逸側ヲ通シ提示セ^(取寄ラズ)ル所ニ依テ承知シ居ル筈ナルニ(我方條件別紙第三號参照)國民政府ハ今ヤ如何ナル條件ヲ以テ和平セントスルモノナリヤ和平論ヲ切出スナラハ先ツ國民政府側ヨリ眞ニ反省シテ誠意ヲ披瀝シ來ルヘキ筋合ト思考ス懸引ナトハ此ノ際無

用ナリ須ク肚ヲ打明ケ東亞ノ大局維持ノ爲進ムヘキナリトノ趣旨ニテ應酬スヘキ旨竝ニ蔣ノ下野問題ニ付テハ東亞局長ヨリノ内報トシテ蔣ノ下野ヲ和平開談ノ前提條件トスルヤ否ヤニ付テハ東亞局長ノ知ル限り如何ニ變化スルヤ何共言ハサルモ政府部内ノ某部分ニハ之ヲ絶對條件トスヘシトノ強硬ナル意見モアリ民間ノ空氣モ同様ナリトノ趣旨ニテ應酬スヘキ旨訓令セリ

三、六月二十八日中村齋會談

六月二十八日齋祕書ハ重ネテ孔祥熙ヨリノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ中村總領事ヲ來訪シ成ルヘク速ニ我方ノ回答ニ接シ度キ旨又同總領事トノ折衝ニ付テハ勿論蔣介石トモ協議ノ上爲サレ居ルモノナルコトヲ内話シ又孔院長カ相當ナル條件ニテ和平ヲ熱望シ居ル誠意ハ充分宇垣大臣ニ御傳達ヲ願度キ旨ヲ繰返シタリ

四、七月一日中村、齋會談

七月一日齋祕書ハ孔祥熙ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ中村總領事ヲ來訪シ孔等ハ衷心ヨリ和平殊ニ戰鬪行爲ノ即時中止ヲ熱望シ居リ又和平交渉ハ從來第三國ヲ介シテ行ヒ來リタルモ結局日支双方ノ直接交渉ニ依リ解決スルコトカ最モ望マシ

キ次第ヲ確信シ居リ幸ヒ直接折衝ノ途モ開ケタルニ付速ニ日本政府ヨリ回答アル様斡旋方願出テ來リタリ

五、七月十三日中村、蕎會談

七月十三日夜蕎祕書中村總領事ヲ來訪シ過般來會談ノ次第ハ逐一孔祥熙宛必親展書ニテ報告シ置キ昨夜深更電話シタル處孔ヨリハ漢口側ニテハ誠意ヲ以テ和平ヲ希望スルコトハ繰返ス要ナキモ日本政府ニ於テモ果シテ講和ノ意嚮アリト認メラルルヤト問ハレタルニ對シ蕎ヨリハ同總領事トノ會談ニ依リ確信スルモ詳細ハ面談ヲ可トスヘシト答ヘタル處孔ヨリ親シク訓令スヘキニ付至急來漢スヘキ旨依頼アリ十五日飛行機ニテ赴漢スヘキ豫定ナリト述ヘタリ

尙右會談ノ際中村總領事ヨリ夫レトナク支那側ニ於テハ既ニ伊國參事官ヲ通シ汪精衛ヨリ約七項ノ條件ヲ日本側ニ提出シ居リ(見別紙)別紙第一號及第二號參照ニ從テ孔カ日本側ニ提案スル場合ニ於テモ是等ノ經緯ヲ考ヘ駈引ト思ハルル惧アル態度ニ出ツルコトナク誠意ヲ披瀝スルコトヲ說キタルニ蕎ハ其ノ話ハアリタルモ漢口政府ニ於テ是等條件ヲ承諾シタルカ如キコトナシト答ヘタリ

六、

(イ)七月十八日中村、蕎會談

七月十八日蕎祕書ハ孔祥熙ノ意嚮ヲ齎シ漢口ヨリ飛來シ同夜中村總領事ト會談セルカ其ノ孔ノ意向トシテ語レル所左ノ通ナリ

一、先ツ孔祥熙ハ日支ノ現状ヲ頗ル遺憾トシ日本ハ支那ヲ武力の壓迫ノミニ依リ料理セントシツツアルモ支那軍隊モ容易ニ屈セサルヘク又民衆ノ怨恨モ益々深刻トナリ斯テハ日支兩國ハ相俱ニ疲弊困憊ヲ重ヌルノミトナルヘシ其ノ間英米佛露ノ諸國ハ益々軍備ヲ擴張シ日本ハ支那ヲ倒潰スルモ疲弊ノ結果ハ日支兩國共潰滅スルニ至ルヘキヲ惧ルルニ付一日モ速ニ日支共存共榮ノ路線ニ轉換スル必要アリ

二、臨時維新兩政府ヲ擁護シ進マントスルモ兩政府ハ眞ノ民衆ノ支持ナク日本ニ援助セラレテ占領地帶一部ノ治安ヲ維持シ居ルニ過キス兩政府ノ實力如何ハ日本ノ最モ能ク知ラルル所ニテ將來日本カ外國ト事ヲ構フル羽目ニ立至ラハ右ハ却テ日本ノ足手纏トナルヘシ

三、今日迄二種々ノ緣故ヲ辿リテ國民政府ニ接近シ來ル日本人アルモ話ハ常ニ連續セス龍頭蛇尾ニ終リ來リ今回

初メテ日本政府ノ責任者タル中村總領事ト會談シ又其ノ慫慂ニ從ヒ時局解決ノ條件ヲ直接申上ケルコトナリタルヲ喜フモノナリ然レトモ今日迄ノ日本側首相外相陸相等ノ各聲明ヲ仔細ニ研究スルニ假令外務當局トハ遠大ナル立場ヨリ十分了解ヲ付ケ得タリトスルモ又復軍部ノ爲ニ破壊セラレ折角ノ企モ水泡ニ終レル歴史ヲ繰返スニアラスヤト憂慮シ居レリ

四、支那ハ折角ノ慫慂ニ依リ解決案ヲ提出スルニ付テハ漢口陥落前ニ至急成立ヲ希望ス漢口陥落セハ講和ヲ議スルコト再ヒ困難ナリ

五、休戦ハ最モ希望スル所ニシテ兩軍共協定成立ノ時ニ於ケル地位ニ於テ停止致度シ(尙中村總領事ヨリノ質問ニ對シ蕎ハ觀測トシテ休戦期間中ニハ支那ハ戦闘力ヲ增加セサルコト例ヘハ軍需品ノ輸送新ナル買入等ハ停止シ又占領地域内ニ於ケル「ゲリラ」隊ノ如キモ政府ノ關係アルモノハ停止スルコト等ハ考慮シ得ヘシト述フ)

六、蔣介石ハ西安事變以後事實上國家ノ元首トシテ全國ノ衆望ヲ集メ來リアルヲ以テ日本ノ要求ニ依リ之カ辭職

ヲ承認スルコトハ困難ナリ然レ共日本政府ノ方針モアリ時局茲ニ至レルハ素ヨリ行政院長タル孔ノ責任ナルヲ以テ孔ハ全責任ヲ負ヒ辭職シ度シ

右ニ對シ中村總領事ハ日支共存共榮論ニ付テハ同感ナリ今日ノ改造内閣ハ軍部外務等ノ區別ナク全然舉國一致ノ實ヲ擧ケ居ルモノナルヲ以テ斯ル憂慮ハ杞憂ニ過キス此ノ點ハ安心アリテ可ナリ今日迄多クノ日本人ニ接觸セラレタリト言フモ是等ニ倚賴セラレタルハ貴方ノ誤ナリ兎ニ角孔ノ具體的申出ハ政府ニ取次クヘキモ蔣介石カ辭職セスシテハ話ハ六ヶ敷シカルヘシ日本ノ満足スルカ如キ條件ニテ和ヲ結フトセハ蔣氏ハ支那國民ニ對スル責任上日本ノ要求ヲ待ツ迄モナク辭職スルヲ當然トス此ノ點日本ノ責任感ヲ以テスレハ了解ニ苦ム所ナリト述ヘタルニ蕎ハ御尤モナリト當惑ノ色アリタリ

(ロ)孔祥熙ノ腹案トシテ蕎輔三ノ提示セル和平條件

右孔ノ意向ヲ傳ヘタル後蕎ハ孔ノ腹案トシテ左記和平條件ヲ提示シ中村總領事ノ觀測ヲ求メタリ

(一)中國政府ハ對日好感ノ實現ニ努メ總テノ反日行爲ヲ停止ス日本モ亦東洋永遠ノ平和ノ爲ニ極力日支關係ヲ良

好ナラシムル爲全力ヲ盡サレ度シ

(二) 滿洲國ハ日滿支三國條約締結ニ依リテ間接ニ承認ス尙
滿洲國カ自發的二滿洲自由國トスルニ於テハ中國民衆
ニ好感ヲ與フヘキニ付之ヲ切望ス

(三) 内蒙ノ自治ヲ容認ス

(四) 華北ノ特殊地域決定ハ甚タ困難ナリ尤モ中國ニ於ケル
互惠平等ノ經濟開發ハ之ヲ認ム

(五) 非武装地帯ノ問題ハ日本ノ具體的要求ヲ俟ツテ解決ス
支那軍隊ハ駐在セス保安隊ヲシテ治安維持ニ當ラシメ
度シ

(六) 未タ充分論議ヲ交シ居ラサルモ共產黨トノ關係ハ清算
スヘシ防共協定ニ加入スルヤ特別協定ヲ結フヤ等ハ更
メテ研究セサルヘカラス

(七) 中國ハ現在頗ル荒廢且困窮シ居ルヲ以テ中國政府トシ
テハ賠償ヲ議スルモ支拂ノ能力無シ

(八) 右和平條件ニ關スル中村・薺應酬

右ニ對シ中村總領事ハ蔣ノ辭職問題ハ重要ナル先決問題
ナル外日本トシテハ勿論其ノ他ノ要求モアルヘキ處孔ノ
案ヲ批判セハ先ツ第二項滿洲國ハ我國ハ素ヨリ各國之ヲ

承認シ居リ嚴然タル既存事實ナレハ今更國名ノ變更ハ考
ヘ得ラレス

第四項ニ關シ薺ハ屢唱ヘラレタル河北ノ特殊地域設定ハ
支那側ヨリスレハ領土分離ノ第一歩ト誤解サレ易ク困難
ナルモ單ニ北支ニ限ラス支那全体ニ亘リ協力シテ經濟的
開發ヲ行ヒ度シト述ヘタリ依テ中村總領事ハ單ニ支那全
體ニ亘ル平等互惠ト言ヘハ日本ノ地位ハ列國ト同一ニ看
做サレ到底満足ナラス過去ニ於テ華北ハ既ニ特殊地位ヲ
形成シ居リ且日本ハ純粹ナル經濟提携ヲ以テ臨ミタルニ
對シ國民政府ハ瑣事ニ至ル迄容喙シタルコト今次日支事
變ノ原因ヲ爲セリ從ツテ將來スルコトノナキ様日本カ何
等ノ要求ヲ爲スハ當然豫想セサルヘカラスト應酬シ更ニ
今日ニ於テハ中支方面ニモ既ニ我方ノ經濟會社設立サレ
居ルニモ鑑ミ日本側ヨリ特定事項ヲ列舉シ來ラハ全國ニ
亘リテ之ヲ認ムル趣旨ナリヤト追究シタルニ薺ハ此ノ點
ハ孔ヨリ充分詳細ニ話ヲ聞キタル譯ニアラスト答ヘタリ
第五項ニ關シ薺ハ日本側ノ欲スル地帯ノ大小竝ニ設定ノ
地方モ總テ不明ナレハ直ニ承認ヲ云爲シ得ス尤モ曩ニハ
上海地方ノ實例モアリ困難トハ思ハレサルカスル地帯ノ

設定アル場合日本側モ駐兵セサル様希望スト述フ第六項ニ付テハ中村總領事ヨリ防共ハ日本側ノ最モ重大視スル所ナリト述ヘタルニ齋ハ元來國共兩黨ハ分離スヘキ宿命ニアルヲ以テ國民黨側ヨリ手ヲ下ササルモ共產黨側ニテ自ラ離レ行クモノト觀ラルト答フ第七項賠償問題ハ齋ヨリ支那側ノ支拂能力ナキヲ繰返シタルニ付中村總領事ハ支那今日ノ狀況ニテハ直ニ現金賠償ヲ爲スコト困難ナルヘキモ我方トシテハ支那側カ保管シ居レル邦人財産等ヲ爆破又ハ沈没セシメタル一事ヨリスルモ賠償ヲ要求スルコト當然ノ筋道ナレハ支拂期日條件等ハ別トシ原則的ニハ承認セサルヘカラスト述ヘタル處齋ハ應接ニ窮シ居リタリ

七、七月十九日中村・齋會談

七月十九日中村總領事ハ更ニ齋秘書ト會談ヲ繼續シ蔣ノ辭職問題ニ付同總領事ヨリ例ヘハ總テノ條件ニ對スル雙

方ノ了解成リ剩スハ蔣ノ辭職問題ノミトナリ和平交渉ノ破裂ヲ來スカ如キ場合ニ立至ルモ蔣ハ尙現地位ニ執着シ居ルヤト突込ミタルニ齋ハ情況斯クナル上ハ蔣トシテモ居辛クナリテ下野スルニ至ルヘシト答ヘ更ニ臨時、維新兩政府ト國民黨政府ヲ合シテ新政府ヲ組織スル問題ニ付テハ同總領事ノ質問ニ對シ齋ハ兩政府共ニ現ニ地方治安ノ維持ニ當リ居ル上元々同シク中國人ナルヲ以テ是等ノ合體ハ案外容易ニ成立スルモノト考ヘラルルモ以上ノ二問題ハ何レモ孔祥熙ノ責任アル表示ヲ爲シ得サルモ自分ハ右ノ如ク觀察スト述ヘタリ

233 昭和13年7月25日

時局解決策に関する在香港中村總領事の意見書

昭和十三年七月二十五日稿

時局解決ニ關スル一考察

在香港總領事 中村 豊一

緒言

支那ニ於ケル對日人心ノ傾向ハ北支中支南支ニ依リテ著シ

ク異ナルモノアリ蓋シ北支ニ於ケル支那人ハ日本ノ實力ニ
壓倒セラレ又其ノ偉大サヲ感得シ居ル爲ニ大體ニ於テ妥協
のナリ中支ニ於テハ諸外國ノ關係復雜ニシテ其ノ影響ヲ受
ケ歐米崇拜ニ流ルルモ一面亦外交のニモナリ露骨ニ其ノ眞
意ヲ吐露スルヲ避ク南支ニ至リテハ多クハ日本ノ實力ヲ知
ラス又其ノ長所モ知ラス人心モ僞慢ニ流レ容易ニ屈セサル
ノ概アリ今日支那力對日抗戰ニ當リテハ全國一致蔣介石ヲ
擁護スルモ其ノ精神の中心ヲ爲スモノハ南支ノ思想ナリト
斷言シテ過言ニアラス、故ニ將來支那側ノ抵抗力ヲ判斷ス
ルニ當リテモ此ノ點ヲ考慮シテ北支ノ人心ヲ以テ標準トシ
北支ニ於テ成功セル方針カ全支ニ及ヒ得ヘシト考フルハ頗
ル危険ナリト思考ス

第一 抗日支那ノ體勢

蔣政權ハ滿洲上海兩事件ヲ經テ「先安内後攘外」ノ方針ヲ
立テ國內軍備ノ充實經濟建設剿匪ノ完成等ヲ當面ノ急務ト
シ國民ノ眼光ヲ國家統一問題ニ仕向ケ其間對日態度ハ隱忍
ヲ事トシ民氣ヲ養成シ他日日本ニ報復スヘキ時期ニ備ヘン
トスルノ態度ヲ執レリ

而シテ華北問題ノ發生北支ノ増兵西南ノ抗日宣言ハ何レモ

支那民衆ノ抗日心ヲ激化シ殊ニ西南ノ統一ハ國民ノ國家的
觀念ヲ強化シ續テ起レル西安事變ニ依リテ共產黨ヲモ抗日
戰線ニ拉レ來リ全支ヲ舉ケテ抗日ノ實行ニ移リ遂ニ今日ノ
事變ニ導クニ至リタリ

然レトモ現蔣政權ノ傘下ニ集レル各種ノ勢力ハ必スシモ蔣
ト其ノ立場ヲ同一ニシ來レルモノニアラス共產黨、廣西、
四川軍及北方軍閥ノ殘存部隊等ハ何レモ各自ノ立場アリ蔣
ノ領導ノ下ニアリテハ步調ノ整ハサルモノアルヘシトノ豫
想モ無理ナラス又此ノ關係ヲ利用シテ蔣介石牽制ヲ策スル
モノモアリタリ然ルニ對日抗戰發動スルヤ蔣ハ表面ハ「抗
日ハ何モノヨリモ高シ」トノ標語ヲ掲ケ反蔣各派ニ隙ヲ與
ヘス裏面ニアリテハ藍衣社及CC團ノ分子又黃埔系軍人ヲ
各地方ノ要處ニ配置シテ監視ヲ怠ラス戰爭ノ實行ニ當リテ
モ雜軍ノ整理ヲ考慮ニ入レ之ヲ第一戰線ニ立テ中央直系軍
ハ日本軍トノ直接戰鬪ヲ成ルヘク回避シ地方軍ノ反亂ヲ監
視セリ其ノ間言論界ヲ動員シテ銃後ノ人心ヲ抗日ニ集中セ
シメタリ又各地方ヨリ北上軍ヲ抽出ニ當リテハ既訓兵ヲ順
次戰線ニ立テ殘留部隊ノ實力ヲ著シク低下セシムルノ方策
ヲ執ル等用意周到巧妙狡猾ナル手段ニ訴ヘテ叛亂ヲ防キタ

リ抗戰發動一年今日程ノ軍事的打撃ヲ受ケ居ルニ拘ラス未
タ何處ニ於テモ我軍ニ内應シテ反旗ヲ翻スモノナキコトハ
民衆ニ抗日心ノ徹底セルト前記ノ如キ政策ノ成功セル結果
ニ基クモノナリ

之ヲ軍事以外ノ政治ヲ見ルニ國民黨ハ四月初臨時代表大會
ニ於テ三民主義ニ基ク政治經濟上ノ建設ニ依リ中國ノ自由
平等ヲ獲得スヘシトノ方針ヲ明ニシ大會開催前一時共產黨
ノ著シキ擡頭ヲ豫想セラレタルモ國民黨ハ右派ニヨリテ斷
然陣様ヲ新ニ蔣ヲ總裁トシテ國民黨ノ基礎ヲ確立セルノ
感アリ而シテ七月初旬ノ參政會ニ於テハ共產黨ヲモ含ム各
派代表ヲ召集シ國民ノ中堅層ヲ總動員シ蔣倒ルレハ共產黨
ノ天下トナリ國民黨ハ自滅シ中華民國モ亦存在スルコトナ
シトノ思想ヲ植付ケ此レヲ前提ニ立チテ蔣ノ推戴擁護ノ氣
勢ヲ揚ケシメ和戰何レニシテモ蔣ヲ中心トシテ決セントス
ル大勢ニ導キタリ然モ支那ノ必死抗戰ト傀儡政權否認トニ
大綱目ヲ掲ケ日支兩國國民ノ和陸ヲ希望スル旨宣言セリ西安
事變以來高まり來リタル國內ニ於ケル蔣ノ地位ハ戰敗ヲ重
ヌルニ拘ラス益々牢固タラシメタルモノアリ

今日支那ノ青年層カ舉ツテ抗日ニ燃エ居ルハ明ナルモ平均

年齢五十才以上ノ參政會員(二百名ノ内百五六十名出席)カ
強硬一致蔣介石擁護ヲ決議セルコトハ中老年人層ニ於テモ亦
蔣ノ領導ノ下ニ抗日以外ニ生キル途ナシトノ結論ニ達シタ
ルニ據ルコトハ注目ニ値ス

茲ニ注意スヘキハ國民黨ト共產黨トノ關係ナリ一言スレハ
兩者ノ關係未タ完全ニ融和シ居ラス、共產黨ハ國民黨臨時
代表大會ニ對シテハ各黨ノ同盟組織ヲ建立シ共同抗日綱領
ノ作成ヲ提議シ又八十三年時代ノ國共合作ノ恢復ヲ提議セ
ルモ國民黨ハ其ノ領導ノ地位ヲ維持セントシテ各黨對等ノ
地位ニ依ル同盟組織ヲ欲セス、國共合作ニ關シテハ十三年
時代ノ夫レト相似タル跨黨ヲ容許スヘキ旨ヲ表示セルモ共
産黨ノ國民黨内ニ於ケル活動ノ自由ヲ制限スルモノニテ未
タ共產黨ノ満足スヘキ程度ノモノニアラス

共產黨ノ勢力ノ擴大セサルハ蘇聯ノ援助カ彼等ノ揚言スル
カ如キ有力ナルモノナラサリシコト一大原因ナルモ國民黨
ニ於テモ共產黨ニ異常ナル警戒ヲ加ヘ居ルコトモ亦原因ナ
リ今日ノ共產黨ハ國民黨ノ壓迫ニ逢フモ忍從シ此レニ隸屬
シ漸次國共聯合ノ蔭ニ隱クレ全國ニ勢力ヲ擴充セシコトヲ
期シ居ル爲ニシテ一度國共聯合決裂スルトキハ共產黨ハ西

北ノ天地ニ追ヒ遣ラレ孤立スルニ至ルヘシ、彼等ノ狙ヒ所ハ抗日ノ成敗ヲ問ハス抗日ヲ利用シテ全國青年層及衆民層ノ獲得ニアリ、國民黨モ亦之ヲ知ルカ故ニ三民主義青年團ヲ組織シ蔣介石ヲ總裁トシテ對抗シ之ノ將來ニ多大ノ期待ヲ繫キツツアリ、共產黨モ之ニ對シテ表面ヨリ反對セス警戒監視ノ態度ヲ執リツツアリ

第二 對日抗戰ト外國ノ援助

以上ノ如ク蔣政權ハ抗日ノ體勢ヲ完成シタルカ、更ニ諸外國ノ同情力擧ケテ支那側ニ在リト宣傳シ之ニ依リテ一ハ國內ノ民心ヲ繫クト共ニ他ニ日本ト各國トノ關係ヲ紛糾セシメント企テタリ又外國トノ關係ニ於テハ中央宣傳部ハ全國ノ言論機關ヲ統制シ國民ニ正確ナル認識ヲ與フル途ヲ塞キノ例ハハ獨伊ノ滿洲國承認獨逸顧問ノ引揚英國ノ借款拒絕等ノ如キ支那ニ不利益ナル事實ニモ成ルヘク默殺ノ態度ヲ指シ蘇佛ノ對支援助モ亦其ノ内容等秘密ヲ嚴守シ寧口其ノ内容ノ貧弱サヲ被ヒツツ如何ニモ諸外國ノ同情ヲ誇稱シツツアルモ諸外國ノ對支援助ハ差シテ實際の大ナルモノニアラザルベシト思考ス

要之支那カ對日抗戰ヲ發動スルニ當リテ其ノ内部的ニ充分

準備セルニ比シテ對外關係ニ於テハ國際情勢ノ然ラシムルトコロナリトハ云ヘ寧口孤立無援ノ環境ニ在リタルモノト云フヘシ

各國ノ援助ノ内容ヲ檢スレハ英米獨伊ノ諸國モ現金取引ニ依ル武器彈藥ノ賣買ノ範圍ヲ出テス米ハ銀價ヲ維持セントスル自國ノ白銀政策ト一致スル範圍ニ於テ支那銀ヲ買入レツツアル程度ナリ、蘇聯、佛トノ關係ハ一步ヲ進メタルモノアルモ之レトテモ多少ノ飛行機及飛行士ヲ現金又ハ信用ニ依リ供給シツツアルモノナリ尤モ蘇聯カ強大ナル軍隊ヲ蘇滿國境ニ集中シ之ニ對シテ日本モ亦大ナル精銳ヲ準備セサルヘカラサルハ支那ニトリテハ絶大ノ援助ナルモ此レ寧口我方ノ外交方針カ二元的ナルニ依リテ生スル結果ニシテ此ノ間ノ調整ヲ爲シ得サルハ我方外交ノ失敗ナリ

支那モ亦蘇聯ニ深入センカ英米ノ同情ヲ失スルノ破目トナルヲ慮レ政策ヲ徹底ヲ缺キ今日迄ノ處兎角蘇聯トノ關係ニ於テハ躊躇勝ナリ蔣介石ト共產黨ノ關係カ世間ニ於テ傳ヘラルル如ク密接ナラス又蘇聯ニ於テモ思想的ニ相容レサル蔣介石ヲ信用シ居ラサルニアラスヤト思考セララ

要之蔣ニ對スル各國ノ援助ナルモノハ抗戰ニ精神のニ寄與

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

セル處ハ多大ナルモノアルモ未タ實質的ニハ著シク抗戰ヲ高ムルカ如キ程度ニアラス抗戰其ノモノハ主トシテ自國民ノ手ニ依リテ實行セラレ居ルモノナリ

諸外國ノ援助ノ今後ノ成行ヲ觀測スルニ日本ノ壓迫力増大スルモ英米ハ差當リハ日本ノ占領地域内ニ於ケル自國ノ權益保持ニ主力ヲ注キ我方ノ遣リ方カ成功ノ可能性アリト見レハ蔣介石政權ノ没落ヲ坐視スルノ態度ヲ執ルナランモ我方カ疲弊スルニ於テハ寧口蔣政權救済ノ立場ヨリ彼レニ好意的斡旋ニ出ツヘシ

蔣ハ日本軍ノ進出止マス又英米モ積極的ニ蔣ヲ支持セサルコト確定的トナラハ寧口不利益ナル條件ニテ蘇聯ニ深入リスルニ至ルヘシ佛國ハ日本ノ實力ノ容易ニ及ハサル南支方面ニ於テ利權ヲ漁リ事變後ニ處スル爲ニ蔣政權トノ間ニ既成事實ヲ作クルヘシ

要之今日迄ハ日本ハ外交上極メテ好都合アル環境アリタルモ英伊協定、英獨協定ノ進行狀態ヨリ見レハ或ハ英カ極東ニ餘力ヲ傾注シ來ル可能性モアリ今後ノ動キハ最モ警戒ヲ要スルモノト認ム

第三 和平ハ必要ナリヤ

兵ヲ出サントスル場合ニハ先ツ引揚クヘキ時期ヲ考慮シ置カサルヘカラス徒ラニ鬪争ノ範圍ヲ擴大スルコトハ遂ニ帝國ヲシテ第二ノ獨逸タラシメ軍事的效果ヲ犠牲トセサルヲ得サルニ立至ラシムル危險アリ
今ヤ日支ノ抗爭ハ益々範圍ヲ擴大シ停止スル所ヲ知ラサル處此ノ時局ヲ如何ニシテ收拾スヘキカヲ考察スルニ二途アルヘシ

第一ハ條約又ハ取極ヲ以テ我方ノ希望スルトコロヲ獲得セントスルモノニシテ此レカ爲ニハ相當ナル相手方ヲ殘シ置クカ又ハ斯ル相手方ヲ作ラサルヘカラス、次ニ充分ナル實力ヲ現地ニ保持シ其ノ實力ノ下ニ諸般ノ事項ヲ強行スル所謂實力居据リノ決意ナカルヘカラス之レカ利害得失ニ關シ考察スルニ左ノ如シ

(一) 實力居据り論

1、實力居据リノ實行ニハ廣大ナル地域ニ亘リテ長期駐兵ノ要アリ此レヲ滿洲ニ於ケル治安維持ノ實績ニ徵スルモ右期間ハ遙カニ長期ニ亘ルモノト信ス且ツ不斷ニ遊撃隊ヲ討伐セサルヘカラサルコト滿洲匪賊ノ比ニアラサルヘシ、假リニ占領地域ヲ狹メ重要沿岸都會ノミ

ヲ占領シ蔣政權ノ自滅ヲ待ツコトトセンカ兵力及軍ノ供給線ヲ節約シ得ル所ナランモ培養地タル内地ト引離レタル都會ノ保持ハ經濟的ニハ殆ソント無價值ニシテ我方ノ負擔著シク内地ニ於テハ蔣政權ハ反ツテ其ノ世帯ヲ縮少シテ自給自足ノ抵抗ヲ續クヘシ恰モ廣東ト離レタル香港大陸ト離レタル厦門カ經濟上立行カサルニ等シ

實力行使ノ期間ノ長短ハ我財政ト至大ノ關係アリ

戰線ヲ漢口迄擴大シ又廣東ヲモ攻略セサルヘカラサルカ如キ大舞臺トナラハ我國ノ經費ハ益々多額ヲ要スヘキモ蔣政權ガ數ヶ月ニシテ崩壞スヘシトノ前提ノ下ニ居据リヲ策スレハ大ナル誤謬ニ陷入ルヘシ

2、占領地域内ニ於テ親日政權ヲ作り之ヲシテ政治ヲ行ヒ我國ハ成ルヘク中國ノ政治ニ不干渉ノ態度ヲ執ル場合ニ於テモ如何ナル程度ニ支那民衆ノ支持ヲ得ルコト可能ナリヤヲ考察スルニ今日ノ親日政權ヲ構成スルモノハ若干人ヲ除ケハ何レモ過去ノ人物ニシテ今日支那ノ中堅層トハ頗ル掛ケ離レタル存在ナリ支那側ヨリ見タル大義名分ニ於テ蔣政權ニ劣ルトコロ遠ク又多年ノ

宣傳ト教育ニヨリテ刻ミ付ケラレタル激烈ナル抗日意識ト長年日本ノ大陸侵略ヲ想定シテ培養サレ來リタル反抗心理ハ牢固トシテ拔クヘカラサルモノアリ今日ノ日支關係ヲ此ノ儘何等整調スルトコロナク軍事占領ヲ繼續スル場合ニハ民衆ノ支持ヲ得ルコト頗ル困難ナリ國民黨ノ壓政ニ對スル怨嗟ノ聲盛ニシテ又知日派モ亦若干殘存スルハ事實ナリ彼等ハ日本軍ノ進出ニ依リテ國民黨ノ暴政軍隊ノ橫暴ヨリ免レ得ヘシト期待シ居リタルモノモアルヘシ

然ルニ今次ノ日本軍隊ノ進出ニ當リテ意外ニモ其ノ暴行振りハ支那民衆ノ憤懣ヲ買ヒ、彼等ノ日本軍ニ對スル信賴ノ大ナリシタケニ其ノ失望モ亦頗ル大ナルモノアリ

此等ハ内地及現地ニ於テハ事實蔭蔽セラレ居ルモ外國通信員及南支ニ於ケル出版物ニ於テハ忌憚ナク發表セラレ居リ内地ニ於テハ想像モ及ハサルトコロナリ此ノ儘ニテハ將來日支兩國民提携ニ多大ノ障害トナルヘシ加之上海方面ニ於ケル特務機關ニ依ル阿片ノ密輸入問題、日本軍ヲ笠ニ着タル不良商人、不良支那人、日系

ノテロ事件等何レモ巨細ニ報道セラレテ民心ヲ刺戟シ居リ日本軍ノ信用ヲ害スルコト甚タシ此等ノ非難ハ一大決心ヲ以テ肅清スルニアラサレハ皇軍ノ名聲ヲ墜スコト大ナルヲ憂慮ス

3、南支ニ於ケル空爆モ亦多數ノ市民ヲ殺傷シ支那ハ之ヲ宣傳ニ利用シ諸外國ノ同情ヲ買ヒ軍事行動ヲ牽制セント企テ日本ニ對スル怨嗟ヲ深カラシメツツアリ

4、我軍事行動ニ依リテ蔣政權ヲ崩壞セシメタリトスレハ其後二來ルモノヲ考フルニ親日政權ノ出現ヲ期待スルハ今日ノ人心ノ傾向ニ徴シ困難ナルノミナラス之カ實現ヲ計ランニハ多大ノ實力ト經費ヲ要シ成功ヲ危マルルノミナラス我兵力ノ及ハサル廣大ナル地域ニ亘リテハ共產支那ノ實現ヲ見ルヘシクテハ支那ハ我經濟的地盤トシテハ無價値ナルノミナラス蘇聯ノ勢力ヲ強大化スル結果トナルヘシ

抑々親日政權ヲ育成シ此レト善隣關係ヲ樹立セントスルハ我方ノ既定方針ナルモ臨時維新兩政府ノ實力ナルモノハ茲ニ説明ヲ省略スルモ指導者ノ最モヨク知レルトコロナルヘシ同一ノ組織ヲ支那各地ニ擴大スルカ如

キハ兩政府成立ノ經驗ニ徴スルモ多大ノ時日ト經費トヲ必要トシテ我財政ノ到底支持シ得サルトコロナルヘシ又斯ル親日政權カ支那民衆ノ信賴ヲ得居ルト見ルハ事實ニ反シ現狀ニテハ彼等ノ存在ハ我方ノ武力援助ト同一期間ナリ結局親日政權ノ樹立ハ我軍ニ依ル支那統治ニ外ナラス本案ニ依レハ我軍ノ撤退經費ノ輕減ハ何時ノ日カ期待スルヲ得ス

5、次ニ蔣政權ノ崩壞ハ如斯容易ナリヤヲ見ルニ蓋シ我軍ノ漢口攻略ニ當リテハ彼等ハ必スヤ早キニ臨ンテ中央軍ヲ後退シ日本軍トノ正面衝突ヲ避ケ實力ノ保有ヲ計リ我軍ヲシテ更ニ多大ノ軍隊ヲ湖北湖南方面ニ駐屯セサルヘカラサルニ至ラシムヘシ

要之蔣政權ヲ軍事的ニ崩壞セシムルニハ相當長期間ヲ必要トシ又崩壞後ニ於テモ支那民衆ノ信望ヲ獲得スルコト現狀ニテハ甚タ困難ナリ全支ニ亘リテ居据ルコトハ甚タ困難ナルヲ憶ハシム

果シテ然ラハ日本軍ハ廣大ナル地域ノ治安ヲ維持スル消極的方面ニ既ニ多大ノ經費ヲ要シ荒廢地ヲ生産のタラシムルノ復興更ニ新經濟建設ニ邁進スルカ如キ經費

ハ何處ヨリ之ヲ捻出セントスルヤ若シ夫レ「圓プロツク」ノ擴充ヲ計ラントスルカ如キハ全帝國ノ經濟ヲ崩壞セシムルノ結果トナルヘシ

要之居据リ政策ハ中國ヲ疲弊セシメ日本ヲ疲弊セシメ英米蘇聯佛ノ諸國ハ居ナカラニシテ相對的實力ヲ増大シ帝國ノ國際的地位ノ低下ヲ招致スヘシ

本案ハ全然支那民衆ノ人心ヲ無視シ武力ノミニ依リテ外國人カ支那ヲ統治セントスルモノニシテ其ノ民衆トノ摩擦タルヤ極メテ大ニシテ結果ニ於テモ實績ヲ舉クルヲ得サルヘシ

(二) 妥協ニ依ル和平論

次ニ日本カ蔣政權ヲ徹底的ニ崩壞セシメス餘力ヲ殘シテ和平ヲ計ル場合ヲ考察スルニ

1、國民政府カ殘存セル實力ヲ保有スル場合ニハ他日之ヲ以テ反日的勢力ヲ再ヒ盛り返シ國權ノ回復ヲ企圖スル危險性アリ殊ニ此ノ際ニハ雜軍ヲ整理シタル後ナレハ反ツテ精銳ヲ取り纏メテ國民的意識ヲ一層濃厚ニシ日本ヲ脅威スルヤモ計レス此レ吾人ノ最モ關心ヲ有スル點ナリ

戰後ニ於テ國權回復ヲ企圖スルコトハ或程度迄ハ已ムヲ得サルトコロニシテ我國モ亦實力ヲ養成シ一面諸外國ニ備フルト共ニ支那ニ對シテモ亦備ヘサルヘカラス然レトモ支那ノ反撥力ニモ自カラ限度アルヘシ蓋シ今日ニ於テコソ蔣介石ハ抗日ノ潮流ニ楫シテ國民信望中心ヲ爲スト雖モ一旦和平招來シ國民ノ關心對外問題ヨリ離レ來ルトキハ國民黨ノ批政戰敗ニ對スル責任論等モ湧然出現シ來リ蔣介石反對ノ勢力モ亦擡頭シ來ルヘシ一般國民モ日本ニ對スル怨嗟ノ情アルモ反對ニ脅怖心モ伴ヒ來リ將來ノ對日態度ニハ從來ノ如キ盲目的ナル態度ヲ反省シ來ルヘシ此ノ際我方ニ於テ恩威竝ヒ行ハルルノ政策ニ出スルコトハ日支ノ親善ニ資スル所以ニシテ又斯ク進マサルヘカラサルトコロナリ此レヲ歐洲ノ歴史ニ見ルニ「ピスマルク」ハ強敵佛國ヲ控ヘテ先ツ埃國ト戰ヒ比較的寬大ナル條件ニテ和平ヲ締結シ他日佛國ト戰フ時期ニ於テ埃國ヲシテ好意的中立ヲ維持セシメタリ我國ハ將來海ニ於テ將又陸ニ於テ更ニ強大ナル外國ト相對峙セサルヘカラサル場合アリトセハ其ノ際支那ヲシテ埃國ノ故智ニ倣ハシムルコト滿洲國

ノ安全ヲ保持シ又支那ニ於ケル帝國ノ資源ヲ確保スルノ途ナリト云フヘシ今次事變ノ結末ハ更ニ遠大ナル見地ニ立チテ此レカ解決ヲ計ラサルヘカラス

2、蔣介石軍ノ實力ヲ見ルニ常識論ヲ以テスルモ相當實力ヲ消耗シ居ルコトナレハ此レニ配スルニ非武装地帯ノ設置相當期間ノ駐兵軍事顧問ノ派遣等ヲ以テスルトキハ相當ナル程度ニ於テ反日勢力ノ勃興ヲ防止スルコトヲ得ヘシ

此レヲ軍需資材ノ方面ヨリ見ルモ今回ノ戰爭ニ於テ支那側ハ大多數ノ軍需品ヲ外國ノ供給ニ仰キ國內ノ産業ハ戰爭ニ依リテ破壊セラレタル爲ニ我國軍需工業其ノ他ノ工業カ非常ナル進歩發展セルニ反比例シテ支那ノ消耗ハ著シク茲ニ霄壤ノ差ヲ生シ而モ中國全土カ破壊セル爲ニ此レカ復興ニスラ相當長期ヲ要シ殊ニ多數ノ白銀ノ流出ハ經濟界ヲ逼迫セシメ軍需工業ノ勃興ニハ餘力ヲ剩ササルヘシ、斯ル氣息奄々タル支那ヲ控フルトキハ國民政府ヲ殘存スルモ相當長期ニ亘リテ憂慮スルノ要ナカルヘシト思考ス殊ニ前述ノ如ク將來ヲ考慮シテ和平條件ヲ決定スルトキハ反ツテ將來ノ親善關係

ヲ確立スルノ基礎トナルヤモ計レス

3、現今ノ國際環境ハ我國ニトリテ最好都合ナリ、即チ獨伊ノ聯盟アリ英米ノ態度モ中立的ニシテ僅カニ蘇佛カ好意ヲ表示セサルモ、斯ル國際情勢カ永續スルモノトスルハ樂觀ニ過クヘシ蓋シ英伊、英獨ノ接近モ頗ル可能性アリ我國カ長期抗戰ノ結果疲弊スルトキハ米ハ兎ニ角英ニ於テ好意的斡旋ヲ名トシテ我國ノ牽制ヲ計ルヤモ保シ難ク若シ夫レ萬一日蘇ノ間ニ干戈ヲ交ルニ至ラハ到底居据リノ占領狀態ヲ保持シ得ス或ヒハ急遽撤兵ヲ行フノ要アルヘク斯クテハ今日迄ノ軍事的效果ヲ獲得シ得サルノミナラス極メテ不利益ナル條件ノ下ニ蘇支聯合軍ト戰ハサルヘカラサルニ到ルヘシ

國內狀勢ヲ顧ミルモ我國モ聖戰一年漸ク各方面ニ影響深刻トナリツツアルニ付此ノ邊ニテ一應整理シテ今日迄ニ舉ケタル效果ヲ新基礎トシテ更ニ飛躍ヲ遂クルノ準備ヲ爲スコト帝國ニトリテ健全ナル發展ノ順序ナリト云ハサルヘカラス

4、又共產黨トノ關係ニ於テハ既ニ述ヘタルカ如ク現在ノ處蔣介石ハ共產黨及蘇聯ニ對シテ相當慎重ナル態度

ヲ保持シ居ルモ漢口陥落後ニ至リテ英米ノ支援ナク我
軍事的壓迫増大スルニ於テハ勢ヒ蘇聯ニ依頼スル態度
濃厚トナリ遂ニ蔣軍崩壊セハ其ノ後ニ出現スルモノハ
第八路軍ナリトノ危険アリ現ニ蘇聯ハ對支援助ヲ爲ス
ニ當リテモ武器ノ分配ニハ第八路軍ヲ優遇セシメ又八
路軍モ日本軍トノ衝突ヲ避ケ實力保持ヲ計リツツアリ
中共ハ武漢ノ防禦ニハ保衛ヲ強調スルモ積極的ニ支持
ヲ爲サス蔣軍疲弊ヲ待チツツアルハ注目スヘキ現象ナ
リ

斯ク論シ來ラハ今日成ルヘク速ニ和平ヲ爲スコトニ依リテ
媾和ニ依リテ得ヘキ利權ヲ獲得シ支那ノ共產化ヲ防止シ我
軍費ヲ節約シ其ノ餘力ヲ以テ經濟建設ニ向ハシメ又我公正
ナル態度ヲ示スコトニ依リテ日支關係ノ根本的融和ヲ試ム
ル機會ヲ與フルモノ然モ後述ノ如ク日支直接交渉ニ依リテ
解決シ支那ヲシテ歐米依存ノ迷夢ヲ打破セシムルカ如キハ
最モ好都合ナル環境ニアリト云フヘシ

第四 和平ニ至ルヘキ經路

今次事變ハ支那ノ抗日毎日ト表裏スル歐米依存主義ノ產物
ナリ、然ルニ今日支那國民カ内心渴望シ居ル和平カ歐米ノ

斡旋ニ依リテ然モ日本ヲ多少ニテモ壓迫スルコトニ依リテ
成立センカ支那民衆ハ歐米ヲ救世主ノ如ク思惟シ益々依存
心ヲ増大セシメ我國カ拂ヒタル多大ノ犠牲ヲ無益ナラシメ
我國ハ戰勝ニ依リテ得タル精神の成果ヲ減却スヘシ依ツテ
交渉ハ斷然第三國ノ斡旋ヲ排シテ日支直接交渉ニ依リテ行
ハサルヘカラス

今日迄獨伊ヲシテ仲立セシメタルコトスラ既ニ根本的錯誤
ナリ

而シテ日支直接交渉ニ依ルトスレハ如何ナル方面ト交渉ス
ヘキカ此レ蔣介石ノ辭職ヲ要望シ居ル我國ノ内政上ノ立場
ト相關聯シ重大ナル問題ナリ蔣介石ノ現在ノ地位ハ第一抗
日ノ體勢ニ於テ詳述セル如ク軍黨政ノ各層ヲ通シテ親蔣タ
ルト反蔣タルトヲ問ハス等シク傘下ニ網羅シ蔣ヲ繼クヘキ
モノ果シテ何人タルハ見當モ着カサル程ニ聲望ヲ獨占セリ
人或ヒハ陳誠ヲ以テ彼レノ後繼者ニ擬スルモノアルモ到底
近キ將來ニ實現ノ可能性ナカルヘシ、蔣介石ヲシテ斯ル聲
望ヲ擅ニセシメタルハ日本カ蔣介石ヲ餘リニ目ノ敵トシタ
ル結果ナルコトハ反蔣派諸要人ノ一致セル見解ニシテ又英
獨伊ノ諸大使モ何レモ同様ノ觀察ヲ爲ス

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

然ルニ日本ニ於テハ其ノ理由ノ如何ヲ問ハス蔣ノ下野ヲ絶對要件トスルニアラサレハ媾和ヲ談セサルヘシト爲ストコロニ多大ノ困難ヲ生シツツアリ以上ノ如ク妥協ニ依リテ媾和スヘキ途ヲ選フニ於テハ其ノ何人タルカヲ問ハス取極ヲ實行シ得ヘキ能力ヲ有スルコトヲ前提要件トス然ラハ國民政府又ハ此レヲ含ミタル新政府ニ非サレハ媾和條件ノ履行ヲ期待スルヲ得ス、現在ノ如キ武力ヲ有セサル親日政權ニハ媾和條件ヲ確實ニ實行スル能力ナシト斷セサルヘカラス況ンヤ和平後ニ必然的ニ來ル現存抗爭部隊ノ整理、共產黨問題ノ解決等ノ武力ノ背景ヲ必要トスル事業ヲ擔任シ得ル組織ヲ支那ニ求ムルナラハ國民政府以外ニ發見スルヲ得ス蔣政權ヲシテ多少餘力ヲ保有セシメテ漢口ヨリ退出セシメタル後(此ノ可能性頗ル多シ)中支北支ヲ併セタル新政權カ誕生スルトスルモ此ノ政權カ蔣政權ニ對抗シ又ハ治安維持ニ當ルヘキ實力ヲ保有スルコトヲ期待スルヲ得ス從ツテ蔣政權ノ漢口退出後ニ於テモ政局ノ安定ハ固ヨリ期待スルヲ得ス故ニ國民政府ヲ相手トスルコトハ實際上我方カ何物カヲ獲得シ之ヲ保有シ又速ニ戰爭ヲ休止スル要件ナリト云ハサルヘカラス

果シテ然ラハ相當ナル條件ニテ國民政府カ和ヲ求メ來リタル場合ニハ之ト交渉スルコト我方ニ有利ニシテ好ムト好マサルニ拘ラス又已ムヲ得サル解決方法ナリト云ハサルヘカラス且ツ國民政府カ自カラ承諾シタル事項ナレハ之ヲ實行スルノ責任ヲモ有スル筋合ナル上第三國ニ對スル取極ノ效果モ亦彼等ノ承認シタル國民政府ノ受諾シタル處ナルヲ以テ一層效果のナリト云ハサルヘカラス國民政府ヲ全然無視シテ新政權ト取極ヲ結フモ殘存セル國民政府ハ之カ不承認ヲ宣言スルコト明ニシテ國民政府ハ此ノ新協定否認ヲ目標トシテ必ス反抗運動ヲ續クルニ至ルヘキコト二十一個條ノ如キ實例アルヲ注意スルヲ要シ斯ル國民的目標ヲ作ラシメサルコトハ今後ノ日支平和ノ爲ニ絶對必要ナリ日本政府ニ於テ蔣介石ヲ否認シ國民政府ヲ否認セル方針ト前記ノ實際上ノ必要トノ調和ヲ如何ニスヘキカノ問題ハ一ツニ内政問題ニシテ内情ニ通セサル本官等出先官憲ニ於テ權威アル立論ヲ爲スヲ得サルモ一言以テ此レヲ評スレハ政府ハ支那ノ實情ニ通セサル方針ヲ確立セルモノナリト云ハサルヘカラス

帝國外交ノ目標ハ帝國ノ權益ノ増進ニアリ固ヨリ日本民族

發展ノ必要ニ依リテ定マルヘキモノナルモ外交方針ノ實行ニ當リテハ此レカ適用ヲ受クヘキ當該國ノ國情ニ依リテ緩急ナカルヘカラス此ノ點ニ於テハ本國政治家ハ支那ノ狀勢ニツキ正確ナル判斷ヲ爲シ此レニ適應スル様外交方針ノ適用ヲ加減セサルヘカラス場合ニ依リテハ日本ノ責任政治家ハ此レカ爲ニ異常ノ決心ヲ爲ササルヤモ計リ難シ

蔣介石辭職問題ト我内政ノ方針トノ調和ニツキテハ次章ニ於テ考慮スヘシ假リニ媾和ノ爲ニ改造セラレタル國民政府カ出現シ北京、維新兩政府カ此レト聯合シテ新政府ヲ組成スルコトアランカ我方ノ希望ニ一步ヲ進ムルモノナルモ此ノ際ニ於テモ國民政府系カ他ノ政權ニ比シテ人材ヲ集中シ居ル事實ヲ思ハハ實質的ニ新政府ニ重要ナル地位ヲ占ムヘキコト又已ムヲ得サルトコロナルヘシ

或ヒハ和平ニ至ル手續トシテハ先ツ根本條件ヲ國民政府ニ受諾セシメ休戦ヲ實行シ各政府モ亦同一ノ條件ヲ受諾シ茲ニ聯合セル新政府カ當該和平條件ニ贊同シ支那全國ヲ擧ケテ和平條件ヲ受諾セル形態ヲ作ルコト一策ナリト思考ス

第五 蔣介石ノ辭職問題

和平ヲ談スルニ當リテ蔣介石ヲ相手トセサルコト我政府ノ

屢々聲明セルトコロナリ今ヤ媾和問題ノ主要條件ト爲ルニ至リタリ世界大戰ノ休戦ニ際シテ聯合國カ獨逸ノ「カイザー」ヲ否認シタルニ類似ス然レ共聯合國ハ「カイザー」ヲ否認シ社會民主黨ト媾和ヲ締結シタルモ條約ノ履行ニ於テハ満足ヲ得タルコトナシ或ヒハ反ツテ「カイザー」ヲシテ責任ヲ執ラシメタル方賢明ナリシヤモ知レス我國民ハ實質的利益ノ獲得ヲ目標トセサルヘカラス

日本カ蔣ヲ忌避スル理由ハ蔣ノ抗日の傾向ニアリ又彼カ最手強キ相手ナルニモアルヘシ、蔣ヲ知ルモノハ云フ蔣ハ時ノ流レニ乘ルモノナリ、彼レカ抗日のナルハ寧ロ國民の傾向カ抗日のナルニ基クモノナリ蔣ハ何人ヨリモ日本ヲ知ル彼レヲシテ親日ニ轉換セシムルコトハ困難ナルニシテモ排日ヲ止メシムルコトハ不可能ニアラサルヘシト、彼カ最モ手強キ相手方タルハ事實ナランモ彼ヲシテ今日アラシメタルハ日本ノ過去ニ於ケル政策ノ結果ナルコトモ否認スルヲ得ス然レ共我國ニ於テ蔣ノ辭職ヲ絕對必要トスル結果ハ益々彼ノ地位ヲ高メシメ之ヲ英雄化シ支那國民ヲシテ彼ノ失敗ヲ忘却セシムルコトナルヘシ現ニ反對派要人ノ一致セル意見ニ依レハ今日蔣ヲシテ媾和セシメ媾和ノ責任ヲ蔣

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

二負ハシメ再起不能ノ状態ニ置クコト最モ望マシト爲ス然レトモ辭職問題ハ我方ノ方針ト支那ノ内情トノ間ニ正面衝突ヲ來スニ付暫ク此レヲ回避スル爲ニ先ツ媾和條件ヲ討議シ此等條件ニシテ受諾センカ蔣介石ハ必然辭職セサルヘカラサル環境ニ追ヒ込ムコト得策ナリ尤モ之ヲ策シテ必ス目的ヲ達シ得ヘキヤ否ヤ現下ノ情勢ヨリ見テ確信ナキモ兎ニ角盡クスヘキ手段ナリト云フヘシ蔣ヲ相手トセサルコトヲ標榜スルコトハ戰爭ヲ遂行スル爲ニ我民心ヲ統一スル見地ヨリ固ヨリ緊要ナランモ我方カ實質的ニ有利ナル媾和條件ヲ獲得シタル上ハ一蔣ノ辭職ニ懸リテ戦局ヲ永引カスコトハ絶対ニ避クヘキモノナリト確信ス

兎ニ角媾和條件ヲ非公式ニ討議スルコトヲ差當リノ措置トス蔣ノ辭職ニ懸リテ時日ヲ遷延スルコトハ不得策ナリ然モ和平ヲ談スヘキ時期ハ漢口陥落以前ナラサルヘカラス本官ノ接觸又ハ査報セル範圍ノ要人ハ何レモ漢口陥落セハ蔣ハ此レ以上失フヘキ何物モナク又日本モ之以上追撃スルコトハ益々困難トナリ長期ニラミ合ヒノ形勢トナリテ遂ニ和平ニ依ル時局解決ノ機會ヲ失フヘシ今日支那側カ和平ヲ

熱望スルハ軍事上抵抗不能ニ至リタルニ基クモ面子ヲ保持セントシ又成ルヘク犠牲ヲ少クシ且ツ一部ニハ自暴自棄ニ陥リ共產黨蘇聯トノ關係ノ深入リセサル以前ニ時局ヲ終局セントスルニアルヘシ

234 昭和13年7月26日 五相會議決定

「對支特別委員會」

對支特別委員會

昭和十三年七月二十六日

五 相 會 議 決 定

一、對支特別委員會ハ五相會議ニ屬シ其決定ニ基キ專ラ重要ナル對支謀略並新支那中央政府樹立ニ關スル實行ノ機關トス

二、前項業務ニ關係アル現地各機關ハ該業務ニ關シテハ對支特別委員會ノ區處ヲ受クルモノトス

三、對支特別委員會ト大本營トノ連絡ハ陸海軍大臣之二任ス

昭和13年7月29日 五相會議決定

「對支特別委員會ニ關スル解釋ノ件」

對支特別委員會ニ關スル解釋ノ件

昭和十三年七月二十九日

五相會議決定

一、第一項ノ對支特別委員會ノ構成

土肥原、野村、坂西ヲ中心トシタル機關ト解ス

一、第一項ノ重要ナル對支謀略トハ

政治及經濟ニ關スル謀略ニシテ直接作戰ニ關係アルモノ

ヲ含マサル義ト解ス

一、第二項ニ關スル見解

現地機關ニハ統帥機關ヲ含マサル義ト解ス

但統帥機關ノ擔任スル謀略業務中本委員會ノ謀略業務ト

ノ間ニ調整ヲ要スルモノアルトキハ第三項ニ依リ各其隸

屬系統ヲ經テ調整ヲ行フ義ト解ス



昭和13年8月6日

香港へ帰任する中村總領事に宇垣外相が示し

た日中和平交渉に關する方針概要

日支和平交渉ニ關スル件

(昭和一三、八、六 亞一)

八月五日中村總領事香港歸任ニ當リ宇垣大臣ヨリ左記趣旨
ノ御話アリタリ

一、自分ノ今言ハントスル所ハ孔祥熙ヨリノ和平話ニ對スル
直接ノ返事ニハアラス唯日本ノ和平問題ニ對スル考へ方
ヲ述フル次第ニ付其ノ積リニテ聞カレ度シ

孔祥熙ニ付テハ大シタ者ニアラス之ト眞正面ヨリ和平問
題ヲ交渉スルハ如何トノ議論モアル次第ナルカ孔トノ話
合カ日支和平交渉ノ第一歩トナルコトモ考慮スル要アリ
此ノ意味ニ於テ孔トノ話モ繋キ置クコト然ルヘシト考フ
二、和平交渉ニ關スル自分ノ考ハ大要左記ノ通り(詳細別紙

參照)

(イ)日支提携カ根本ナリ

日本ハ支那ニ對シ領土の野心ナシ衷心日支ノ提携ニ依
ル東亞ノ安定實現ヲ希望シ居ル次第ニテ右ハ畏クモ
大御心ノ存スル所ナルニ依リ臣下トシテ右大御心ニ副

フ様最善ノ努力ヲ爲シ居ル次第ナリ

斯カル大戦争ノ後日支間ノ親善ハ不可能ナリトノ説アルモ自分等ハ可能ト信ス普墺戦争ノ例ニ見ルモ固ヨリ獨逸民族ナリトノ點ハアルモ普魯西ノ寛大ナル媾和條件ニ依リ墺太利ヲシテ其後普佛戦争ニ於テモ更ニ又世界大戦ニ於テモ壇ノ浦迄普魯西ニ就カシメタル例モアリ戦争後兩國ノ親善不可能トハ斷定スルヲ得ス

(ロ) 蔣介石ノ下野問題

近來本件ニ付テハ相當柔カキ意見モアレト大勢ハ未タ蔣ヲ相手ニテハ話出來ストノ議論強シ

蔣ノ下野ヲ前提トスル理由ハ感情ヤ我利ニアラス結局蔣ノ下野カ東亞ノ大局維持及日支親善ノ爲有利ナリ殊ニ支那ノ爲有利ナリトノ考ヨリ出ツ

即チ蔣ハ日支戦争ノ責任者ニテ日本ノ仇敵ナリ而モ我ハ勝者ナリトノ考我國民ノ間ニアリ從ツテ蔣居ラハ和平ノ條件ハ嚴重トナラサルヲ得ス然ルニ蔣下野セハ日本ノ感情モ緩和シ同情モ起リ條件寛大トナリ斯クテ媾和ニアラス將來ノ日支親善ヲ目標トスル和平交渉成立シ得ル譯ナリ斯クノ如クシテ日支ノ關係ハ往年ノ普墺

ト同様ニナリ兩國關係ハ明朗化シ支那ノ復興モ容易トナルモノニシテ此ノ關係ハ蔣ノ賢明ヲ以テセハ容易ニ理解シ得ヘク其ノ下野ハ天下ノ大道ニシテ男子ノ本懐ナリト考ヘラル

下野ハ自發的ト他動的トアルモ自發的ヲ可トシ其ノ時機ハ和平成立前ヲ可トス(成立後ニテモ宜シトハ目下ノ所言ヒ切レス)

(ハ) 北支特殊地域ノ問題

我方トシテハ北支ヲ防共障壁トシテ固メタキ意向ノミ蒙疆タケニテハ地域モ狭ク十分ナラス此ノ點ハ外國側モ相當認識シ居ル次第ニ付出來得ル限り強調シ貫ヒタシ

自分ハ防共ノ第一線ハ朝鮮ノ咸鏡北道ヨリ北滿熱河ニ至ル線、第二線ハ朝鮮ノ南部、南滿、北支、蒙疆ト考ヘ居レリ

北支特殊地帯ノ細目ハ要スルニ産業ノ開發、交通ノ整備確保、治安及軍隊ノ整備ニ付日本カ相當ノ力ヲ加ヘ得ル状態トシ置クコトニシテ支那主權ノ侵害ノ如キハ毫モ考ヘ居ラス

(二)第三國ノ仲介

和平交渉ノ橋渡シ程度ナラハ敢テ之ヲ排除セス

尤モ直接交渉ヲ最善トス

橋度シ以上ニ第三國力深入リセハ事態ヲ紛糾セシメ將來ニ於ケル干涉誘致ノ禍根トナルヘク絶對ニ排除スルヲ要ス

滿洲事變ノ際モ事變勃發後數ヶ月ノ間ニ直接交渉行ハレタリトセハ恐ラク滿洲ニ於ケル日本權益ノ嚴格ナル尊重——少シ進ミテモ自治位ノ所ニテ結末ヲ付ケタル可ク滿洲事變ノ當初ニ於テハ日本トシテハ滿洲國ノ獨立等全然考ヘ居ラス支那カ直接交渉ニ依ラス聯盟ニ提訴シタル爲遂ニ滿洲國獨立ニ迄至リタル次第ニテ支那側トシテハ今回ノ和平交渉ニ當リテモ此ノ經緯ハ十分ニ考慮シ善處ノ要アリ

(三)賠償

賠償ヲ課スルハ氣ノ毒ナルカ日本國民ハ日本ハ勝者ナリ從ツテ賠償ハ當然ナリト考ヘ居リ無賠償ハ今ノ所國民ヲ納得セシメ得ス金ナクハ物ニテ濟シ崩シニ拂フモ差支ナシ此ノ點モ蔣カ交渉ノ相手ナリヤ否ヤニ依リ輕

重アルヘシ要之我方ヨリ保管ヲ委託セル財産ニ對スル賠償ハ如何ニ考フルモ當然ナルヘシ

三、和平交渉ニ關スル話合ニ付テハ懸引等ハ一切止メ誠心意ノ取引ヲ必要トシ日支關係明朗化ノ第一階段トシタキ考ヘナリ右考ヘニテ時機至ラハ談判ヲ進メタシ

香港ヨリ歸來セル萱野ノ話ニ依ルモ居正ノ細君ハ萱野ニ對シ愈々和平交渉開始ノ際ハ孔祥熙、居正、張群等打チ連レ出デ來ル用意アル旨述ヘ居レリ

談判ノ場所ハ雜音ノ入ラン所ヲ可トシ南方ニ出來タル政權トノ交渉ナレハ臺灣邊リ、中支、北支政權相手ナレハ雲仙邊リヲ適當トスヘク上海ハ煩サクテ不可ナリト思フ(中村總領事ヨリ澳門ヲ適當トスヘシトノ意見出デタリ)

四、香港ニ於テ外國側トノ接觸ニ當リテハ日本ハ最近生産力擴充ノ設備愈々完成ニ近ツキツアリ且支那ニ於ケル占據地域ハ勿論滿洲方面ニ於ケル鐵鑛、石炭等ノ開發モ進歩シ石油ニ付テモ低溫乾溜、石炭液化等ノ技術進ミ居リ且愈々長期抗戰トモナラハ戰線ヲ整理シ兵力ヲ半減シテ經費ノ節約ヲ圖ルコトモ考ヘ居リ我方カ財政的ニ行詰ルヘシトノ意見ハ全然事實ニ反スル所以ヲ強調セラレタシ

五、尙五相會議ニ於テ對支特別委員會設定セラレ對支謀略ヲ進ムルコトトナリタルカ政權樹立方面ニ於テハ差當リ唐紹儀、吳佩孚、曹汝霖等ヲ連結シ委員會様ノモノニテモ作り時機ヲ見テ之等ノ委員中ヨリ大總統ヲ押スカ如キ方向ニ進ムル考ヘナリ

(別紙)

一、日本ハ日支仲好ク提携協力シテ東洋平和ノ確立ト東亞繁榮ノ建設ニ邁往センコトヲ望ムモノテアル、絶對ニ支那ヲ侵略スルトカイヂメルトカ獨立ヲ奪フトカ或ハソノ衰亡ヲ望ムモノテハナイ、否寧ロ日支共存共榮ノ基礎ノ上ニ立チ進ンデ支那ノ民族國家トシテノ興隆強化ヲ衷心ヨリ祈望スルモノデ、夫レカ爲ノ協力支持ハ決シテ惜マヌモノテアル、

二、日支間ニ悲惨ナル鬭爭ヲ重ネタル後ニ日支ノ親善握手ナドハ決シテ出來ルモノデナイト唱フルモノカ多イ、ケレトモ余ハ斷シテ親善ヲ不可能事也トハ思ハヌ。多分ノ困難ハ伴フニシテモ是非實施セネハナラヌト考ヘテ居ル、日支ノ親善提携ハ夙夕軫念且希望遊ハサレテ居ル畏キ大

御心デアル。吾々臣子ノ分トシテハ萬難ヲ排シテモ夫レヲ實現シテ聖慮ニ副ヒ奉ラネハナラヌ、又夫レヲ實現スルコトガ東洋ノ大局ヲ維持シ眞正ナル東亞ノ平和ト繁榮ヲ招來スル唯一無二ノ道ナリト確信スル、又普塊間ノ歴史ハ夫レノ可能ナルコトヲ暗示シテ居ル、

三、蔣介石ノ下野ニ關スル吾國民主張ノ道程ニハ彼カ憎イトカ彼ハ怪シカラストカ彼ノ存在ハ日本ノ爲ニナラヌトカ色々ト感情ヤ我利ニ出發シテ居ルモノモナクナイ、余カ彼ノ下野ヲ至當ナリト考ヘ來リシ根底ハ左様ナル感情論テモナケレハ日本丈ケノ利害ヤ体面論テモナイ、唯彼ノ下野カ東亞大局維持ノ上換言スレハ日支間ニ眞ノ親善和協ヲ招來シ提携握手シテ行ク爲、日支相互間ニ、否日本ヨリモ支那ノ方ニ、ヨリ有利テアルト考ヘテ居ルカラテアル、日本國民ノ悠容タル廣量モ此處ヨリ湧出シ來ルト思フタカラテアル、假リニ和平ノ交渉ニ際シテ蔣氏ヲ相手トシテ日本カ話ヲ進ムル場合ニハ日本國民ノ胸中ニハ彼ハ今日マテノ敵手テアリ、親愛スル同胞ノ鮮血ヲ奪ヒ及其他多大ノ犠牲ヲ拂ハシメタル仇敵テアリ、我ハ勝者トシテ、彼ハ敗者トシテノ觀念ノ上ニ自然ト交渉カ進メ

ラルルコトニナルカラ其際ニ於ケル日本國民ノ要求スル條件ナルモノハ相當ニ嚴厲テアリ莊重ナモノテナケレハ日本國民ハ斷シテ承知シナイ、然ルニ茲ニ蔣氏カ下野シテ他ニ親日排共主義者カ新政權ヲ握リテ和平交渉ノ局ニ當ルコトニナル場合ヲ想到スルニ元々日本ハ支那國民ヲ相手トシテ鬪争シテ來タノテハナク、只排日容共ノ主義ヲ奉スル蔣氏ト其一味ヲ膺懲セント努メ來リシ丈ケノコトテアルカラ前述ノ如キ新政權ハ勿論仇敵テハナク寧ロ期待スル所ノ親友テアル、從テ之レヲ相手トシテノ戰後始末ノ談判ハ講和テハナクテ協同提携ヲ約束スル取極テアリ又夫ニ對スル日本ノ國民的要望モ蔣氏一派ニ對スルモノトハ異ナリテ頗ル寛大テアリ和協テアルヘク豫期セラルル恰モサドワ會戰後ノ獨塊間ノ關係ノ如クニ床シキ状態ヲ實現シテ爲ニ支那ハ明朗ナル立場ヲ得テ其戰後復興モ容易迅速トナリ又茲ニ真正ナル日支間ノ親善協和モ期待シ得ルト信スル、蔣氏ノ明ヲ以テシテ夙ニ茲ニ想到シアルコトト信スル、夫レカ又責任ト名分ヲ正シク世道人心ノ上ニ綱常ヲ維持シ行ク大道ニシテ丈夫ノ本領ナリト思惟スル、

彼氏引退ノ動機ニハ自發ト他動トアリ又其時機ニ就テハ和平交渉前ト和平成立後ニモ在リト考フルカ其選擇ハ四圍ノ情勢ト蔣氏ノ信念ニヨリテ斷セラルヘキモノナリ

四、日本カ北支ヲ特種地域トシテ取扱ハント希望スル意味ハ何等ノ他意モナク只防共ノ障壁地帯トシテ堅メタイノテアル、蒙疆自治地域タケテハ地方カ餘リニ貧弱テアリ、人烟ハ稀薄テアリ、所謂防共事業ノ足場トシテハ堅確ナリトハ云ヘヌ、此地域ハ畢竟スルニ背後地域ト相待ツテ價值ヲ生スル次第ナレハ防共ノ第二線タルノ意味ニ於テ日本トシテハ若干北支ニ特種的ノ色彩ヲ中南支等ト異ナリテ濃クシテ置キタイト云フ希望ニ過キナイ、換言スレハ産業ノ開發、交通ノ整備、治安ノ維持、軍事ノ施設等ニ關シテ日本トシテハ若干ノ特種關係ヲ持チタシト云フ

二過キスシテ支那主權ノ侵害ナトハ毛頭考ヘテ居ラヌ

五、和平交渉ヲ開始スル橋渡シ程度ノ第三國ノ介入ハ敢テ妨ケナキモ之レトテ御互ヨリ好シテ求ムヘキモノテハナイ、況ンヤ夫レ以上ニ居中調停ナトト云フコトヲ招來スルニ至リテハ單ニ紛糾ヲ増スノミニ過キヌト考ヘル、假リニ公正ナル双方ノ満足スル調停カ出來タリトシテモ將來永

ク第三國ノ容喙ヲ蒙ルノ端緒ヲ作ルコトニナリテ折角民族國家トシテ支那ヲ強化シタイ處ノ吾々ノ希望ヲ裏切りテ今後モ支那ヲウダツノ上ラヌ破目ニ陥ルルノ恐カアルカラ絶對ニ避ケ度日支間ノ直接交渉カ一番宜シイ、滿洲事變勃發ノ當初ニ於テ支那カ日本ノ直接交渉ニ快ク應シテ居ナケレハ滿洲ノ地圖ノ色合ヒハ今日ノモノトハ異ナツテ居ルト思惟スル

六、賠償ナトヲ今日ノ支那ニ課スルナトハ氣毒ナ感シモスルガ勝者タリ敗者タルノ因縁ニ於テ之レニ對スル日本國民ノ要望ハ頗ル高イ而カモ金カナケレハ物ヲ以テ代ヘテモ宜シイ、之レモ蔣氏カ交渉ノ相手トナルト否トニヨリテ必スヤ國民的ノ要望ニ輕重、大小ヲ生スヘキコトカ豫想シ得ラレル、保管ノ依託ヲ引受ケナカラ之ヲ破滅セシメタルモノニ對シテハ必然的ニ賠償スヘキテアルト信スル、談判ノ場所トシテハ閑靜テアリ餘リ異邦人ノ寄り附ケナイ、色々ノ雜音ノ入ラサル所カ宜シイ、此意味カラスレハ香港モ上海モ適當テナイ、臺灣邊ハ如何カトモ思フカ交通モ氣候モ餘リ宜シクナイカラ、結局ハ長崎(雲仙)邊カ好クハナイカト差當リノ思付テアル

八、今後ニ於ケル日支相互間ノ話合ハ懸引ヤ術策ヲ弄セス所謂誠意ト誠心ノ取引ニシタイ、明朗ナル東亞建設ノ第一階段トシテ此ノ談判ニ於テハ斷シテ陰暗ナル策略ナトヲ用フルコトヲ許サヌ、支那ノ使臣ノ人選如何ニヨリテハ日本ハ首相ヤ外相モ乘リ出シ來ルノ意氣テアル

九、日本ハ財政、經濟の二行詰リ近ク破綻シ最後ノ勝利ハ支那ニ歸スルトノ觀察ハ支那人ヲ始メトシテ歐米人間ニモ眞面目ニ持チ居ル様テアル、夫レハ著シク日本ヲ理解セサル認識不足ノ見方テアル、前年來努力シ來リシ生産力ノ擴充ハ本年末頃カラ來年ニカケテ愈々效果ヲ發揮シ來ルコトナリ、數モ問題視サレテ居ルノハ鐵ト石油テアル、北支滿鮮ノ鐵鑛モ開發ノ計畫カ大ニ進ミ今年末カラ來年ニカケ大ニ生産能力ヲ高メ、長江筋ノ鐵鑛モ大ニ利用出來ルシ石油ノ如キモ低溫乾溜、石灰化事業モ大ニ進捗シテ工業化スルニ至ルヘシ、之ニ加フルニ戰線ノ大整理ヲ行ヒ來ルトキハ兵力モ現時ノ半分以下延ヒテ經費モ約半部以下ニ止ムルコトハ困難ナラズ、殊ニ年度ヲ重ヌルニ從ツテ糧ニ敵ニヨル式ノ妙用モ加ハリテ裕ニ五年テモ十年テモ戰爭繼續ハ敢テ困難ナラサルヘシ矣、

昭和13年8月9・10日

張熾章との会談に関する神尾茂の報告

香港神尾ヨリ朝日緒方宛書面

棉花羊毛ノ如キモ鮮滿北支ヲ通シテ追々ト増産ノ傾向ニ
アリ又利用ノ道モ整備シツツアルカラ明年位カラハ大ニ
余裕ヲ生スルニ至ルヘシ、

六、兩軍相搏チ共ニ疲レツツアルノヲ金儲ケヲ爲シナカラホ
ホ笑ヲ漏シツツアル國カ其邊ニハ多イ、斯様ナ慘事ヲ御
互ニ永ク繼續スルコトハ東亞ノ破滅ヲ意味スルカラ一日
モ早ク戰爭ハ止メネハナラヌト考ヘテ居ル、左リナカラ
日支間ノ眞ノ親善提携ノ出來ヌ様ナ姑息ノ平和ハ矢張り
禍ヲ後日ニ貽シテ東洋ノ破滅、第三者ノ利得ニ落付クニ
過キヌカラ日本ハ獨力テモ東亞民族ノ繁榮ト東亞ノ平和
ヲ建設スヘク而カモ支那カ反省シテ衷心ヨリ誠意ヲ以テ
參加シ來ランコトヲ祈リツツ今次ノ事變ニ對應シツツア
ル所テアル、之レカ今次出兵ノ目的テアル、慘事ヲ續ケ
ルコトハ本意テナイ、寧ロ痛恨事トシテ居ル

朝日神尾―張熾章會談

一、小生カラ改造サレタ近衛内閣ハ戰爭遂行上ニモ基礎鞏固
ヲ加ヘタカ、コレニブレキヲカケ得ル力モ持つコトニ
ナツタ、和戰何レトモ時機ノ宜ニ應シ得ル準備カアルト
言ツテヨイ、其ノ何レニ進ムカハ支那ノ出方態度如何テ
アル、必スシモ戰爭一點張テナイコトニ着眼シテ支那モ
速カニ順應スヘキテアルコトヲ説イタニ對シテ、張君ハ、
支那ノ態度ハ一ツシカナイ、主權ヲ護リ領土ヲ保持スル
以外ニ何ノ野心モナイ、タダソレダケダ、簡單明瞭、支
那ノ方針ハ一貫シテキル、ソノ文獻ハ昨年七月蔣介石廬
山ノ演説、臨時全國代表大會ノ宣言書(汪兆銘執筆)ニツ
キテキル、簡單ナルカ故ニ國人悉ク一致シテ之ヲ支持シ、
最後マテ抵抗スルトイヘハ誰レニテモワカルノタ、實際
抵抗以外ニ何ノ考ヘモナイ、云々トソノ堅決想像以上テ
アルコトカ看得サレル

二、ソノ基ク基礎的見解ハカウテアル、即チ今こそ日本ハ支
那ト交戦シテキル、一年ニシテ約五十億ノ巨資ヲ費シ國
力ノ消耗甚タシイ、コレニロシヤカ加ラナイト誰カ保障
シ得ルカ、昨年六月カンチヤンツ事件ノ際ト今回ノ張鼓

峯事件ト比較スルト、ロシヤニ何カシカノ決心ノアルコトハ明カタ、客觀的二見テカンチヤツノ時ハ日支間ニハ戰爭ハナカツタ、今日ハ已二一年間ノ戰爭ヲヤツテノ後テアル、恐ラク第二、第三ノ張鼓峯事件カ起ルモノト見ラレルカ、ソノ都度ロシヤノ態度ハ硬化スル、日本ハ今コソ穩^確カモスルカ恐ラクハ勢ノ趨クトコロ大決心ヲセネハナラヌ時カ來ヤウ、日露ノ大戰ハ一年カカルカ半年カカルカ何レカ勝ツカ敗ケルカ豫想テキナイケレトモ、幸ニモ日本カ勝ツタトシテ、國力ノ消耗ハ如何、恐ラクヘトヘトトラウ、ソノ時アングロサクソンノ擴張サレタ海軍カ物ヲ言フノテアル、英米ノコトタカラ強力テムキ出シニ押シツケテ來ルコトハナイニシテモソノ願使ニ甘シナケレハナラナイノハ明白タ、日本ハ戰勝ノ結果ヲ失ヒ彼等ノ欲スルトコロニヨツテ訂正ヲ餘儀ナクサレ、日本ハ一等國トシテノ位地ヲ失フタラウ、……コレカ張君ノ基本的國際形勢觀テアルカ、翌朝ノ新聞ニ汪兆銘カ重慶ノ紀念週テヤツタ演説ト觀察ニオイテ符節ヲ合シタヤウニ一致シテキルニ驚イタ、張君二次ノ日質シタトコロ、コレハ漢口方面ノ常識テ別段打合シタワケテハナイト言

ツテキル、……張君モ汪兆銘モ日本ヲシテ現在英米ニ對シ一敵國ノ觀アラシメルノハ其強大ナル海軍カアルタメタ、然ルニ三年後ニハ日本ハ國力消耗ノ結果海軍擴張ノ競爭ニ於テ資力ノ缺乏カラドウシテモ落伍セサルヲ得マ、トノ觀察ヲ下シテキル、……ソコテ今コソ戰爭ヲ中斷シテ日本ノ國力ヲ蓄ヘルナラハ、日本ハ押モ押サレモセヌ一等國トシテ將來ノ繁榮ヲ約束サレルノテハナイカト言フノカ張君ノ斷案テス

二、餘リニ日本ノコトバカリ言ヒオタメゴカシニ墮シタノデ翌日ノ會見ニ於テ私ハ、日支兩國ノ運命ヲ共同的ニ開拓維持スル立場ニ返ラナケレバ如何ナル立言モ役ニタタヌ、三年ノ後日本ハヘトヘトニナルト君ハ云フガ、支那ハ如何ト反問シタ張君ハ支那固ヨリ疲弊困憊、日本以上デアラウ假リ二三年ノ長期戰ヲ續ケタラ、支那奧地ノ破壊ハ想像以上デアラウ、今ナレバコソ漢口マデテ濟マサレルガ奧地悉ク破壊爆發ニ會フダラウ、ダカラ「日支共倒レ」ト言ヘバワカル、今度ノ戰爭ハ日支ノ結合ヲ喜バヌモノノ蔭ニヒソメル戰ヒデアル、日支ヲ永遠ニ離間シ日本ヲ葬ツテ然ル後ニ支那ヲ自由ニシヤウトスルモノノ戰

ヒデアル、故ニ我等ハソウ知リツツ日本ノ近視的壓迫政策ニ追ヒ詰メラレテロシヤノ懷ニモ縋リ唯ダ抗日、抵抗アル而已トイフコトニナツテキル、今ニシテ若シ日本が大乗の立場カラ斷然從來ノ對支政策ヲ一新シテ根本的革新ヲ遂ゲルナラバ、和議ハ立ロニ成ルモノト確信スル、我等モ及バズナガラ協力シテ御援助シタイノデアル。

三、ソレニハ先ツ第一ニ日本ノ支那觀ヲ根本カラ改メナケレバナラヌト張君ハ主張スル、曰ク、支那ハ未完成國家デアアル、自ラ獨立ヲ保持シ得ナイ積弱ノ國家デアルトイフノガ、コレマデノ日本ノ見方デアツタ、今度一年間ノ戰爭デ、難有イコトニ日本カラ叩キツケテ貰ツタオ蔭デ、支那國民ハ自國ノ領土ヲ守リ主權ヲ保持シヤウトスル魂ヲ入レテ貰ツタ、今日マデ一年間斷然戰ヒヌイタ旺盛ナル獨立擁護ノ精神ハ大シタモノダ、立派ニ獨立國タル根本條件ヲ備ヘルニ至ツタノダ、マツ之ヲ日本カラ認メテ貰ハネバナラヌ、支那國民ハ今コソ二年デモ三年デモ如何ナル犠牲ヲモ拂フベク決心シテキル、官吏ガ減俸ニ會ヒ百姓ガ追立テラレテモ仕方ナイト觀念シテキル、コノ獨立擁護ノ精神ヲ認メテ、支那ハ弱國デモ獨立國家トシテ

ノ新タナ認識ヲ與ヘテ貰ヒタイ、恰カモヨーロッパニ於テオランダ、ベルギーナドハ小國デアルケレドモ英佛等ノ大國ノ間ニ伍シテ平等ノ待遇ト尊敬ヲ與ヘラレルト同様デアリタイ

四、大局ノタメニ從來ノ經緯ヲ捨テ乾坤一擲ノ大轉換ヲヤルナラバ、ソノ日本ノ行動ハ全世界ノ暗雲ヲ一掃シ日本ノ立場ヲ明朗ニスルモノダ、スベテノキーハ日本ノ對支那政策ニアル。對支政策ノ大轉換ニ在ル

五、英米ノ對日方針ガ一變スルダラウ、ロシヤノ日本ニ對スル相對的勢力ハ急ニ低下シ對日壓力ハ減殺サレルダラウ六、ソコデ張君ハ私ト十二分ノ討議ヲ遂ゲタ後斯ウ言ヒ出シマシタ、……事ハ急デアル、果斷ト迅速ヲ以テ而シテ極秘裡ニ收拾ヲ圖ラナケレバナラヌ、漢口ガ落チテ仕舞ツタノデハ遲イ、トラウトマンノ斡旋モ南京陷落前ダカラコソアソコマデ行ケタノダ、ソシテ結局ハ南京ガ落チタノデ失敗シタノダ今度又漢口ガ落チタラ國民政府ハ又シテモ敗戰ヲ吃シ体面上カラシテモ強イコトヲ放送シナケレバナラヌ、ソレデハ半年以上遅クレル、或ハ當分ソノ機會ガナイカモ知レナイ

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

七、先づ第一ハ事實上ノ停戦ダ、日本ハ自ラ決心シテ自然ト進兵ヲ停止スル

八、ソノ間ニ然ルベキ代表者ヲ派遣シテ内交渉ヲ開始スル、

代表ハ軍人デモヨイ、或ハ支那カラ汪兆銘ヲ出シ副使ト

シテ何應欽ヲツケテモヨイ、汪ガ出レバ日本カラ宇垣外

相自ラ出馬シテ貫ヒタイ、ソシテ疾風迅雷ノ決定ヲナシ

日支自ラ善後ノ處置ヲツケテ歐米ヲアツト言ハシテヤル、

コノ間ノコツハ西安事變ノ際共產黨トノ妥協ヲ完成シテ

奇蹟的解決ヲ告ゲタヤウナ遣方デナケレバアチラカラ故

障ガ起リコチラカラ反應ガ起ツテ頓挫ヲ免レナイダラウ

九、最後ノ仕上ゲハ支那ノ國內消費ノタメニ斯ク出來上ツタ

内交渉ノ結果ヲ形式的ニ第三國ノ調停ニカケテ仕上ゲヲ

スル、ツマリ實質的ニハ日支直接交渉、形式的ニハ第三

國ノ調停トイフコトニシテハ如何

十、以上ハ張君ノイハユル「ステーツマンライク、スペクタ

キュラー、アクト」ニヨル日本ノ「イニシヤティーズ」

ヲ求メタ結論デアアル、ソシテ曰ク、初メカラ條件ニツイ

テ逐條審議的ニ押ツケテ行カウトシタノデハ見込ガナイ、

ト

十一、ソレデモ根本精神ハ以上ノ如キモノトシテ實質的ニ如何ニ考ヘテキルカラ叩イテ見タ

1、下野問題、形式的ニ肩スカシヤレバ却ツテ從來ノ

行掛ヲ一掃シ日本ノ要求條件モ緩和シ得ルデハナイカ

ト説イテ見タノニ對シテ曰ク蔣ハ北伐以來十數年ノ犠

牲カラ生レタ國民的ヒーローデアアル、今若シ長期戰爭

ヲシヤウトスル場合ナラバ、蔣ノ下野ガアツテモ抗日

ノ波ニ乗ルカラ他ノ代リノ人が出テ來ルカモ知レヌ、

併シ和議ヲ遂ゲル場合ハ蔣ヲ措イテ外二人ガナイ、國

人ノ信賴ヲ集メテ責任ヲ負フモノガナイ、コレハ實際

ノ情勢ダ、但シ下野ノ形式デ一時去ルコトニヨリ支那

ヲ救ヒ支那ヲヨイ方ニ導キ得ル確實ナ途ガアルナラバ

蔣氏ハ自己ノ進退ヲ問題ニハシナイダラウシカシ周圍

ガ聽クマイ

2、北支政權ヲ如何ニスルカノ箇條ニツイテ、小生カラ、

「國民政府ハステニ共產黨ト妥協シ「中國蘇埃維政府」

ノ解消ヲ條件トシテ之ヲ特別行政区トシ毛澤東ヲ首班

トスル特別地域ヲ認メタト同様ニ、王克敏ヲ首班トス

ル特別行政区トシテ、形式上國民政府ノ傘下ニ入ルル

コトハ如何トノ提言ニ對シテ、張君ハ容易ニ承認ヲ肯
ゼズ陝西ノ邊境地方ト北京天津地方ノ相違ヲ論ジテ但
シコレニハ妥協ノ餘地ガアルト思フノハ、蔣介石ハ北
支ニツイテハ何時モ政治的問題ニ重キヲ置キ經濟的問
題ニハ注意ヲ拂ハナイ風ガアル、日支經濟提携トイフ
實質的問題ニツイテ日本ノ必要ヲ充タスナラバ妥協ノ
餘地ハアリソウダト結論シタ、……張君ノ話ニヨレバ
陝西特別區ハ正式ニハ未ダ國民政府ノ承認ハナイ、タ
ダ抗日戰爭ノタメニ實際上大目ニ見ラレテキル程度ダ
ト主張スル

3、防共問題、共產黨ト國民政府トノ關係ニツイテハ日
本ニ根本的誤解ガアル、カク接近サセタノハ日本ノ壓
迫ニ因ル、且ツ共產黨ハ昔日ノ共產黨デハナク三民主
義ヲ奉ズル國民政府ノ司令ノ下ニ立ツテキル、階級闘
争、マルキシズム、土地沒收等ノ政策ハ引込メテキル、
張君ハカク説明シテカラ支那モ日本ニ對シテフアツシ
ヨ化ハ不可ダト言フ様ナ考方ヲヤメ、相互ニ内政不干
渉主義ヲ尊重シテ、互ニ相手國ノ國內政治ニハ容喙シ
ナイト言フ態度ニ出タイモノデアルト主張スル

4、撤兵(駐兵)問題ニツイテハ軍事ニ巨ルカラワザト
提言スルコトヲ避ケタガ、張君ノ獨立國待遇論カラ餘
程強イ主張ノアルモノト推定スル

三、以上八九日、十日ノ兩夜、前後七時間ニ亘ル意見交換
ノ結果得タル張君ノ話テアル……張君ハ外界ニ漏レルコ
トヲ氣遣ヒ、惡ルイ反應ト、惡意ノ宣傳材料ニ供サレル
コトヲ恐レテキル、當局者ノ參考資料トシテハ極メテ生
新ラシイモノト信スルカ、東京ノ内部ハ極メテ複雑テア
ルカラ之ヲ如何ニ御使用ニナルカニツイテハ全ク尊兄ノ
慎重ナルデイスクレツシヨンニ御任せシタイノデアリマ
ス

三、時局重大、形勢逼迫ノ際テスカラ、何卒國家百年ノ大
計ヲ立テ、後世子孫ノタメニ針路ヲ誤マラナイヤウニ致
シタイモノデアリマス廟堂諸公ノ支那ニ關スル認識如何
ハ關係スル所極メテデリケート且ツ重大テアル、願クハ
尊兄ニ於テ然ルヘク御裁量ノ上御提示アランコトヲ祈リ
マス

四、私ハコノチャンネルノ開拓ト維持ノタメニ及ハスナカ
ラ努力スヘク、必要ナラハ何時テモ東京ヘ急行シテ説明

ノ任ニ當リタイト思ヒマス

238

昭和13年9月2日

宇垣外務大臣
板垣(征四郎)陸軍大臣
— 会談

廣東出兵に関する宇垣・板垣会談

付記 昭和十三年九月五日、外務省作成

〔廣東出兵ニ關スル外務當局ノ意見〕

廣東攻略ニ關シ宇垣大臣、板垣陸軍大臣會談ノ件

(昭和一三、九、三、亞一)

九月二日朝板垣陸相宇垣大臣ヲ來訪、陸軍トシテハ茲一箇月位ノ中ニ廣東攻略ヲ實行スル計畫アル處右ニ對スル外務大臣ノ御意見ヲ承リ度旨述ヘタリ

右ニ對シ宇垣大臣ハ廣東攻略ハ國際關係上影響スル所大ナルニ付自分トシテハ慎重研究ノ要アリ、即チ支那事變發生以來廣東ノ問題ニ關シ外務大臣ト各國大使トノ間ニ如何ナル應答アリタルヤ其ノ他現在ノ國際關係上ヨリ見タル廣東攻略實行ノ可否、廣東攻略ヲ行フトスルモ漢口攻略ノ上支那ニ於ケル事態ノ推移ヲ見定メタル上行フヲ可トスルヤ將又漢口攻略前行フヲ可トスルヤ等研究スヘキ點尠カラス、

更ニ大切ナルコトハ支那事變ニ對スル見透シ如何ノ問題ナリ、陸軍トシテハ如何ナル見透シヲナシ居ルヤ等ノ應酬アリタルカ結局大臣列擧ノ諸點ニ付更ニ研究ヲ進ムルコトトシテ一應會談ヲ打切りタリ。

編注 本文書および本文書付記は、「極東國際軍事裁判關係

文書」より採録。

(付記)

廣東出兵ニ關スル外務當局ノ意見(十三年九月五日)

去ル二日陸相來訪、廣東方面ヘノ出兵ニ關シテ一應ノ説明ヲ與ヘラレ即答ヲ求メラレタルカ、即答ヲ爲スニハ事餘リニ重大ナリト考ヘ數日間ノ猶豫ヲ求メテ考慮シ且研究スルコトトセリ。考究ノ結果トシテハ

政、戰兩略上及兩廣地方民心ノ傾向等ニ照シ該方面ニ出兵シテ皇威ヲ示シ又蔣軍補給ノ根據ヲ剽滅スルコトハ必要ナリト常々ヨリ考慮シ居ル所ナルモ、其ノ出兵ノ時機ニ就テハ今日ニ於テハ、大乘的ニ戰局ノ收拾、戰後ノ經營等ニモ想到シテ、南支ニ深キ利害ヲ有スル列國ニモ餘リ深刻ナル

刺戟衝動ヲ與フルコトハ、出來ル丈ケ避ケル様努ムルコト
賢明ナリ、之カ爲ニハ事前及事中ヲ通シテ、相當ノ工作ヲ
行フコト肝要ナリ。

然ルニ事前ノ準備工作トモ看做シ得ヘキ對列國關係ノ懸案
ノ如キハ、其ノ解決遲々トシテ進捗セス、將又廣東地方ノ
軍事的價值ハ、蔣介石軍ノ四川、雲貴方面退避、漢口死守、
粵漢鐵道杜絕等ノ噂ニヨリ、從來ヨリモ漸次減少シ來ルヤ
ノ感アル今日、突如トシテ廣東出兵ヲ行フニ至リテハ、政
略出兵ナリトノ疑惑ヲ生セシメ、只サヘ國際感情ノ緩和シ
居ラサル所ニ、更ニ大ナル刺戟衝動ヲ與ヘ、頗ル面白カラ
サル關係ヲ生スルノ虞アリ。

就テハ別紙「廣東攻略ニ伴ヒ考慮ヲ要スヘキ諸點」ニ示セ
ル如ク、該出兵ハ漢口攻略後ニ實施スルヲ適當ナリト認め
ラル。

將又陸相累次ノ御話ニヨルト、漢口、廣東ノ始末カ付ケハ、
陸上ニ於ケル積極的ノ軍事行動ハ一段落ナリトノコトナリ。
然ラハ所謂漢口、廣東ノ作戰ハ、對蔣軍事行動ノ最後ヲ飾
ルヘキ華ニシテ、又此處ニ政略カ、軍略ニ代リ時局ノ前線
ニ進出活動スヘキ轉換ノ要機ニテモアリ、軍事的成果ノ偉

大ト完全ヲ期スルト共ニ、爾後ノ政略運用ニ有利ナル素地
ヲ作ルヘキ餘裕ヲ與フル意味合ヨリ、同時ニ二兎ヲ追ハス、
又餘リ事ヲ急カサル方得策ナリト思惟ス。

然レトモ用兵上是非トモ急ヲ要スルトノ事ナレハ、漢口攻
略前ノ出兵モ已ムヲ得サルヘキモ、其ノ際ニ於テモ左ノ
件々二十分ニ注意ヲ拂ハルルコトヲ要望ス。

一、用兵上支障ヲ生セサル範圍ニ於テハ、勉メテ出兵ヲ豫想
漢口陥落ノ時期ニ近ツケ、國際關係調節ノ爲メ餘裕ヲ與
フヘキコト。

二、今日迄列國トノ協和ヲ害スル重要原因タリシ各種懸案ヲ
急速ニ解決スヘク協力スルコト。

三、出兵ニ際シテハ別紙所載ノ諸點ニ就キ十分ニ注意スルコ
ト。

(別紙)

廣東攻略ニ伴ヒ考慮ヲ要スヘキ諸點

(昭和二三、九、三 亞一)

一、外交上ノ經緯

(イ)本年一月六日廣田大臣「クレイギー」英大使會談ノ際

英大使ヨリ若シ日本側ニ於テ香港近クヲ攻撃セラルルコトトナラハ英國側ヲ刺戟スルコト甚大ナルヘシト述ヘタルニ對シ廣田大臣ハ日本側ニ於テ今ノ所斯ノ如キ計畫ナキモ廣東ニ對スル點ハ蔣介石ノ出様如何ニ依ル譯ナリト應酬セリ

(ロ)本年二月九日廣田大臣「クレイギー」ト海南島問題ニ關シ會談ノ際「ク」ヨリ日本側ニ於テ香港附近ノ島嶼ヲ占領セハ問題ヲ惹起スル惧アリト述ヘタルニ對シ廣田大臣ヨリ我方ハ目下ノ所香港附近ノ島嶼ヲ占領スル考ナキモ右占領カ必要トナリタル場合ニ於テモ香港トノ機微ナル關係ヲ十分考慮スヘシト述ヘタリ

(ハ)本年六月二十八日宇垣大臣「クレイギー」ト會談ノ際大臣ヨリ帝國政府トシテハ海南島占領ノ意思ヲ有セサルコトハ屢々聲明ノ通ナルカ將來軍事行動ノ廣東方面ニ及フカ如キ事態ニ立到ラハ或ハ海南島ヲ攻撃スルコトアリ得ヘキモ右ハ固ヨリ領土の野心ニ基クモノニ非サル旨答ヘタル處「ク」ハ海南島ノ占領ハ英國ニ於テモ種々偏見ヲ以テ見ルヘキニ付十分御含ミ置キアリ度シト述ヘタリ

即チ帝國政府ハ英國竝ニ其他ノ國ニ對シ廣東方面ヲ攻略セストノ約束ヲ與ヘタルコトナシ唯上記ノ通り若シ香港附近ノ島嶼ヲ占領スルコト必要トナリタル場合ニハ香港トノ機微ナル關係ヲ十分考慮スヘキ旨ヲ英國側ニ了解セシメ居ルノミナリ

二、廣東附近ニ於ケル英國側主要權益

(イ)香港方面ニ付テ言ヘハ英國ノ領土タル香港島(一八四二年南京條約)九龍租借地及其ノ附近一帶ノ租借水面(一八九八年ノ香港地域擴張ニ關スル條約)アリ

(ロ)廣東ニ付テ言ヘハ一八六一年ノ協定ニ基ク英國租界アリ沙面ノ約五分ノ四ヲ占ム

(ハ)其ノ他廣九鐵道、粵漢鐵道、廣梅鐵道ニ關スル英國ノ借款上ノ權益アリ又各種ノ通商航海條約ニ基ク通商航海上ノ權利ハ略々英國カ上海及揚子江ニ付有スルモノト性質ヲ同シクスルモノト心得間違ナカルヘシ

三、要スルニ香港ハ政治經濟ノ兩方面ヨリ見テ英國ノ對支活動ニ關スル最初ニシテ又最後ノ據點ナリト云フヘク隨テ之ニ近接セル廣東地方ヲ攻略スルコトハ如何ナル場合ニモ英國側ニ對シ大ナル衝撃ヲ與フルコトトナルヘキニ付

英國側ノ既得權益ノミナラス其ノ國民的感情ニ付テモ最モ細心ナル注意ヲ拂フヲ要ス從テ

(イ)我軍事行動ノ結果ニ伴フ英國側權益ノ侵害ニ付テハ極力之ヲ避クルコトヲ要シ殊ニ突發の椿事ヲ惹起スルカ如キコトハ絶對慎マサルヘカラス

(ロ)之カ爲ニハ成ル可ク英國領土、租借地域及水面ヲ敬遠スルコト問題發生ヲ避クル實際の方法ナルヘク、又支那側力第三國殊ニ英國ヲ捲込マントスル謀略ニハ絶對引掛ケラレサル様注意スルハ勿論英國側自身カ此ノ種謀略ヲ用フルコトモ充分警戒スルコト肝要ナルヘシ

(ハ)軍事行動開始ニ當リテハ適當ノ時機ヲ見計ラヒ英國側ニ對シ我方ノ目的ヲ明ニシ香港ヲ中心トスル英國側權益ハ十分尊重セラレヘキコトヲ了解セシメ以テ無用ノ猜疑心竝ニ感情ノ昂奮ヲ惹起セシメサル様手ヲ打チ置ク必要アルヘシ

四、廣東攻略ニ關連シ主トシテ海軍側ヨリ海南島攻略ノ議論起ルヘキコト豫想セラレ

然ルニ海南島ヲ我方ニ於テ占領ノ意圖ナキ次第ハ前記英國大使トノ會談ノ際宇垣大臣ヨリ言明シタル通りナルノ

ミナラス、海南島ノ攻略ハ單ニ佛國ニ對スルニ止マラス香港ヲ有スル英國ニ對シテモ同様大ナル衝擊ヲ與フル次第ニテ現ニ英國大使ハ我方ニ對シ機會アル毎ニ廣東攻略ノ意圖ト共ニ海南島攻略ノ意向ニ付テモ質問スルヲ怠ラサリシ次第ナリ隨テ廣東攻略ト同時ニ海南島攻略ヲ行フカ如キコトアラハ英國ヲ極度ニ刺戟シ事態ヲ重大化スルノミナラス英佛ノ聯繫ヲ愈々堅クシ我方ニ對スル國際關係ヲ極度ニ惡化セシムヘシ仍テ廣東攻略ヲ決行スルニ當リテハ嚴ニ海南島攻略問題ヲ切離スノ方針ヲ確立シ置クコト肝要ナリ

五、廣東攻略ノ時機ニ付考慮スルニ

(イ)日本軍漢口攻略ノ上ハ次ニ來ルヘキモノハ廣東攻略ナリトノ考方漸次常識化スヘキヲ以テ英國側ニハ或ル程度諦メノ念モ生スヘク漢口攻略前突如廣東攻略ノ舉ニ出ツルヨリモ英國側ノ人心ヲ刺戟スルコト尠カルヘシ

(ロ)漢口陥落ノ後、廣東攻略ヲ行フ場合ニハ廣東側モ既ニ士氣沮喪シ居リ漢口陥落前ノ攻略ニ比較シ攻略容易トナルヘシ

廣東攻略ノ際敵軍ノ戰鬥意識強烈ニシテ激戰トモナラ

ハ勢ヒ香港附近及其ノ他ノ英國權益ニ不慮ノ災害ヲ與ヘ英國トノ間ニ思ハサル事端ヲ醸ス惧モアリ、對外關係ヲ考慮セハ廣東攻略戦ハ出來ル丈ケ激戦ナクシテ終了セシメ得ルカ如キ状態ノ下ニ行フ方適當ナリ
以上ヲ考慮スルニ廣東攻略ハ漢口攻略後トスルコト適當ナリト思考セラル

編注 別紙に基づき本文の部分は宇垣外相自身が起草したとのメモあり。



239 昭和13年9月4日

事変収拾方針に関する宇垣外相の石射東亜局長への内話要領

九月四日宇垣大臣ノ石射ヘノ内話(私邸ニ於テ)

一、漢口攻略ト廣東攻略ニ付テ

漢口攻略ハ陸軍大臣ハ九月一杯ニ出來ル様ナ話ヲシテ居ルカ我軍ハ廬山附近ニ於テ相當打撃ヲ受ケ居リ、又本格的二漢口攻略ヲスルニハ或地點テ一應我兵力ノ勢揃ヘヲ

仕直スコトニナリ居ルモ未タ其地點ニモ豫定ノ通り達シ居ラス旁々九月一杯ニハ六ヶ敷カラン。我漢口攻撃軍ノ兵力ハ東久邇宮様ノ率キラルル三ヶ師團(大別山脈ノ北カラ)ト長江筋ノ五箇師團ト合セテ八ヶ師團位ナルカ漢口守備軍ノ兵力ニ比シ餘リニ寡シト思フ、此點大丈夫夫ト陸相ニ念ヲ押シタルニ陸相ハ大丈夫ト云ツテ居タカ、過日凱旋ノ香月第一軍司令官ノ言ニヨレハ現在ノ日本軍ノ戦闘力ハ事變中半減シタル由、夫レハ兵數ニアラス兵ノ素質即チ未教育兵ヤ後備ヲ多ク動員シタルカ爲ナリ。故ニ自分ハ或ハ漢口攻略ハ現兵力ニテハシクシリハセヌカト心私カニ心配シ居ル次第ナリ。別紙^(編注)ノ書物中ニモ漢口廣東攻略ハ、此戦役ヲ飾ル最後ノ華ナルソト書キタルハ失敗シテハナラヌソトノ意ヲ持タセタル積ナリ。サレハ廣東攻略ハ後廻シニシテ廣東ヘノ爲メニ今上海テ待機セシメテ置クニ箇師團ヲ場合ニヨリテハ漢口ニ注キ込ムノ用意必要ナリ。此點カラ云フモ廣東攻略ハ漢口攻略後ノ情勢ニヨリテ取掛ルカヨロシト思フ尤モ多田參謀次長ノ言ニヨレハ廣東攻略ハ今直ク御裁^(可カ)ヲ得テモ準備ニ一ヶ月以上ヲ要スル故攻略ヲ實施スルノハ十月十日ヨリ廿

日ノ間トナルヘシ(陸相ハ九月末カ十月初二實施出來ル
ト云ヒ居リ此點兩者ノ話カ喰違フ)トノコト、ソウスレ
ハ結局廣東攻略ハ漢口攻略後ト云フコトニ事實上ナルテ
アロウ。

二、事變ノ收局ニ付テ

事變ノ收局ニ付テハ君ノ提案ノ如ク蔣介石相手ノ和平ヨ
リ外ナカルヘシト思フ。自分モ大臣就任ノトキ近衛首相
ニ對シ一月十六日ノ聲明ハ場合ニヨリ乘リ切ルコトトノ
了解ヲ得テ居ルノタ、只急ニ蔣相手ノ和平ヲ提案シテハ
騒カレルハカリタカラ潮時ヲ見テ居タノタカ最近ノ狀勢
カラ見テ最早其工作ニ取掛ツテ然ルヘキ時ト思フ、出來
ルナラハ漢口攻略前ニ蔣ト話ヲ付ケ度シト考フ。國內ノ
狀勢ヲ見ルニ、昨日來訪ノ多田次長ハ何トカシテ一日モ
早ク時局ヲ收拾シテ頂キ度イト切ニ言ツテ居ツタ、ソコ
テ蔣相手ノ和平ハ陸軍ハトウカイト尋ネタルニ最早今日
テハ一月十六日聲明ニコタワラヌカヨロシイト思ヒマス
トノ返事テアツタ。然ラハ陸軍ハソレテ纏メテ行ケルカ
ト反問シタルニ多田ハ陸軍全體トハ云ヒ兼ネルカ軍令系
統ノ方ハ纏メ得マスト云ヒ居タリ。聞ク所ニヨルト先日

閑院宮様カ參内セラレタトキ陛下ヨリ陸軍テハ蔣介石相
手ハマタイカンカトノ御下問アリ之ニ對シ宮様ハ即答申
上ケス翌日再ヒ參内シ蔣相手モ已ムヲ得マセヌトノ趣旨
ヲ御答申上ケタ由ナリ。問題ハ陸軍ノ一部ニアルテアロ
ウ所ノ強硬論者タカ、板垣モ此頃ハ大分蔣介石ヲ相手ト
セスト云フコトノ解釋ノ間口ヲ廣クシテ來タ様テアルカ
マタ煮エ切ラヌ點カアル、夫レト云フノハ板垣ハ坂西等
ノ謀略カウマク行ツテ相當ナ中央政權カ出來、夫レニ漢
口政府部内ノ一部ヲ參加セシメ得ルカモ知レナイト云フ
所ニ望ヲ繫イテ居ル様タ。何レ今月中旬坂西カ歸京スレ
ハ其邊ノコトカ少シ明カトナルテアロウ、此工作ハ君ノ
意見ニヨレハ下策ナリトアリ、自分モシカ思フモ今ノ所
蔣ヲ相手ニセスト云フコトカ前提トナツテ居ル故直ク打
切ル譯ニハ行カヌ。此外五相ノ中テハ池田藏相トハヨク
話合ツテ居リ、米内海相モ結局蔣相手ノ和平ニ異存ナキ
モセメテ和平成立後蔣カ下野スルコトニシテ貰ヒ度イト
ノ意見ジヤ。民間方面テハ朝日ノ緒方ヤ同盟ノ岩永ナト
ノ來テノ話ニヨルモ一般ニ一日モ早ク戰爭ヲヤメテ貰ヒ
タイトノ氣分故蔣ヲ相手ニセスナト云フコトハ問題ニセ

サルヘシトノ事ナリ。殘ル所ハ右翼ナルモ之モ何トカナルヘシ。

(石射ヨリ最近政黨ノ一部ニ蔣相手ノ即時和平論ヲ唱フル者アルコト、頭山翁(同)即近者ノ話ニヨレハ頭山翁カ蔣相手ノ和平ノ爲メニ時期ヲ見テ起ツ意向アルコト、其他石射ノ得居ル情報等ヲ御話セリ、大臣註釋シテ云フ政黨方面ノ連中ハ表面ニハ蔣相手論ハ出來ヌタロウ、今日テハ頭山ノ率キル右翼ハ右翼全體ヲ代表シテ居ラス)

三、香港總領事ニ對スル訓令ニ付テ

右ノ如キ次第故香港中村ニ對シ一步進シテ訓令案ヲ研究シテ貰イタイ、夫レハ日本國內ノ情勢ハ和平後蔣カ支那國民ニ對シ罪ヲ謝シ自發的ニ下野スルナラハ蔣ヲ相手ニ和平スルモ可ナリトノ空氣カ濃厚トナリツツアル旨ヲ齋ニ告ケ孔トノ話ヲ繋キ再ヒ先方ノ意向ヲ打診セヨトノ趣旨ヲ練ツテ訓令案ヲ起草シテ貰イ度イ。昨日モ萱野カ一兩日中ニ又香港ニ行クトテ來訪シタルカ萱野モ右ノ如キ下野ナラハ大丈夫出來ルト云ツテ居タ(之ニ對シ石射ヨリ蔣ノ下野カ一時的、自發的テアリ復職ニ日本側カ文句ヲ云ハス先方ノ自由ト云フコトニスレハ蔣モ事變後靜養

ヲ欲スヘキニヨリ下野ノ話ハツクナラント「コンメント」ス)

四、其他ノ和平條件ニ付テ

多田次長ハ和平條件ノ一トシテ北支ヲ日本色ノ濃イ特殊地域ニシ度イ、蔣介石ト和平シタカラテ臨時政府ヲ見捨テタノテハ日本カ餘リ信義ヲ無視スルコトトナリ後日ノ爲ニモ面白カラスト云ヒ居タリ之ニ對シ自分ハ特殊地域ト云ツテモ儲ケ主義テナク日本ノ國防資源ヲ之ニ求めル爲メノ經濟的特殊地域トシ、中村ハ手交セル訓令ニモ書イテ置イタ通り防共線トシテノ特殊地域ナラハヨロシイ、アトハ臨時政府カトウナラウト夫レハ支那人同志(主)話ニ任セテナル様ニナラセタラヨロシイト答ヘ置キタリ。(此點ニツキ石射ヨリ神尾ト張季鸞トノ話ニアリタル通り蔣ハ北支ノ政治的「インテグリテー」ニ重キヲ置クモ日本ニヨル經濟開發ニハ反對的關心ヲ持チ居ラスコト。政治的特殊地域ハ翼察政權ニ對スルト同様ノ失敗ヲ繰返スコトトナル故絕對ニ避クヘキコト、和平諸條件ハ思切ツテ寛大ニスル必要アルコトヲ述ヘ大臣ハ其通りナリト云フ)

五、蔣ヲ相手トセサル場合ニ付テ

多田次長ハ蔣ヲ相手トセサルトキハ漢口攻略後ハ積極的進撃ハヤメテ守戰ニ移リ京津地方、及滬寧地方ハ之ヲ平面的ニ治安ヲ維持シ、其他ハ線のニ治安ヲ維持スル積ナリト云ツテ居タ、其説明ニヨレハ平面的ト云フハ其地一帯相當ノ範圍内ノ治安、線のトハ鐵道線路ノ確保ト云フ意味テ其他ノ地方ト京漢線ノ鄭州以南ハ放棄スル由ナリ。夫レテ兵力ハ幾何節約出來ルカト質問シタラ現在ノ在支兵力ノ二割位ナルヘシトノ事ナリ。夫レテハ中央政府ヲ立テテヤツテモ結局日本カ手辨當テ何年モ大軍ヲ駐兵シ財政力持テルモノテ無イト云ツテ置イタ。

六、雜談

(第二委員會決定ノ上海都市建設基本要綱竝ニ上海恆産株式會社設立要綱ニ關スル石射ノ説明ヲキキタル後閣議ヘ提出スヘキ右ノ書類ニ花押シツツ)

ナゼコンナモノヲ急クノカナア、君ノ問題ニシタ土地買上値段ノ不合理ナ點ト土地代金トシテ賣主ニ渡スヘキ社債ノ不合理ナ點ハ閣議テモ注意シテ置カウ、上海カラ來電ノ梁鴻志ノ話ニヨルト反對側ノ西部ノ地價カ上ツテ行

クト云フ、皮肉ナコトテハナイカ、梁鴻志ヅラニアノ電報ノ様ナコトヲ云ハレルノハ心外タカ肯綮ニ當ツテ居ルノタカラ仕方カ無イナ

(石射ヨリ板垣陸相ハ支那ニ關係スルコト長キニ拘ハラ^坂ス阪西氏等ノ工作ニ望ミヲカケ實力アル中央政府カ出來ル様ニ考ヘテ居ルノハ全ク支那ニ關スル認識不足ト云ハサルヲ得ナイト述ヘタルニ對シ)

板垣ハ古クハ支那ニ居タカ數年來滿洲ニバカリ居タカラ最近ノ支那ヲ知ラナイノタヨ

(其他アリタレトモ略ス)

編注 別紙とは第238文書付記のことと思われる。

240

昭和13年9月9日

坂西・袁良會談要領

坂西中將ト袁良トノ會見談(要領)

(九月九日袁良ノ私宅ニ於テ)

坂西

自分等ノ育テタル子供等カ不手ギワナル遣方ヲ繰返ヘシ居ルヲ以テ老驅ヲ挺シテ渡支セル次第ナリ

實ハ自分ハ一昨年南京ニ於テ蒋介石氏ト會見シ日露戰爭前ニ於ケル日支ノ關係ヲ具ニ説明シ日露戰爭中ニ於ケル清國ノ採リタル政策ニ言及シ當時ノ日支間ノ關係カ眞ニ理想的ナリシ所以ヲ詳述シ最後ニ蔣氏ニ對シ日蘇ノ間萬一戰火ヲ見ルニ至ラハ閣下ハ如何ニセラルルヤ決心ヲ伺ヒ度シト質問セル所蒋介石氏ハ熟慮ヲ請ヒ數日後其ノ決心ヲ披瀝シ「日蘇ノ間ニ萬一戰端ヲ開クカ如キコトアラハ自分ハ中立ヲ嚴守スル爲ニ全力ヲ盡スヘシ何トナレハ支那カ蘇聯ト提携シテ對日戰爭ノ片棒ヲ擔クコトアル場合ヲ想像シ見ルニ日本カ勝利ヲ得レハ支那ハ蘇聯ト共ニ敗退セサルヘカラサルカ之ニ反シ蘇聯カ勝利ヲ得タル場合ニ於テモ支那ハ全國赤化ヲ免レサルヲ以テ支那ノ取ルヘキ途ハ中立以外ニナシトノ結論ニ到達セリ」ト述ヘタリ

自分ハ蒋介石氏ニ對シ「閣下ノ御決心ヲ聽キ欣快ニ堪ヘス此ノ重大ナル決心ヲ拜聽セルカラニハ歸國後日本當局ヲシテ國策ヲ誤ラシメサル様及ハス乍ラ側面的ニ努力致

スヘシ」ト挨拶シ勇躍歸國ノ途ニ就ケリ其ノ途次南關東軍司令官竝ニ宇垣朝鮮總督ニ對シ蒋介石氏ノ決心ヲ語り更ニ歸京後某閣僚ニ對シ右蒋介石ノ決心ヲ傳ヘテ善處方ヲ薦メタル處同閣僚ハ之ニ躊躇セルヲ以テ其ノ儘同問題ニ深入リスルコトナク太平洋會議ニ出席ノ爲赴米セリ自分ノ考ヘトシテハ米國ヨリ歸國後更ニ政府ニ進言スル積リナリシカ不幸十二月十二日ノ西安事變ノ爲ニ蒋介石氏ハ殆ト其ノ自由ヲ奪ハレタルヲ知り日支兩國ノ爲ニ痛心セル次第ナリ

袁良

蒋介石ハ當時右様ノ決心ナリシコトハ自分ニ於テモ之ヲ承知シ居レリ實ハ昨日毛松平氏ニ申上ケタル次第ナルカ坂西閣下カ蒋介石氏ト會見セル頃ニ於テ各省主席民政廳長竝ニ特別市長ノ行政會議ヲ開催セルコトアリタルカ其ノ閉會式ノ席上ニ於テ蒋介石氏ハ祕密ノ訓示ヲ與ヘタルコトアリ右訓示ニ於テ蔣氏ハ「最近國內ニ於テハ日支戰爭ヲ豫期シ居ル者アル處右ハ甚タ不心得ノ考方ナリ日支相戦ハハ何レモ疲勞困憊シ何等得ルコトナキハ想像シ得ラルル所ニシテ斯カル考方ハ今後絶對ニ排斥セサルヘカ

ラス又世間ニハ日蘇戰爭ヲ希望スル者モアル處日蘇ノ戰爭ハ支那ヲ戰場トスヘク且支那ニ赤化ノ機會ヲ與フル結果トナルモノニシテ支那トシテハ極力之ヲ阻止セサルヘカラサル次第ナルヲ以テ行政長官トシテハ右ノ方針ニテ善處セラレ度シ」トノ重要ナル一節アリタリ

尙自分ハ本年二月末及六月末兩回ニ互リ漢口ニ赴キ親シク漢口政權ノ要人ト懇談セルカ蔣介石ノ聲望ハ一日ト高マリ殆ト「オール・マイティ」ノ感アリ自分ハ蔣氏ノ努力ニハ感佩シ居ルモ其ノ政治的手腕ニハ感心セサルモノナル處蔣氏ノ獨裁ハ數年前ヨリ既ニ相當ノ域ニ達シ居リ自分ノ經驗ニ依ルモ二年前一夕蔣介石ノ宴會ニ招カレ何應欽、程潛、熊式輝、魏道明等ト共ニ蔣介石ノ卓子ニ着キタルカ席上軍事委員會ノ某職員ヨリ蔣介石ニ對シ一支那人カ木炭ノ自動車ノ優秀ナルモノヲ發明セルヲ以テ之ヲ軍事的ニ使用スル爲軍事委員會ニ於テ補助ヲ與ヘ更ニ研究セシメテハ如何ト進言セル處蔣介石ハ其ハ甚タ結構ナルヲ以テ至急右様取計フヘシト述ヘタルニ竝居ル面々何レモ唯々諾々トシテ之ニ應シタルヲ以テ自分ハ頗ル齒痒ク思ヒ蔣氏ニ對シ戰爭ハ急速ヲ尊フコトハ御承知

ノ通りニシテ自動車ノ如キ一分一秒ヲ爭フモノナルニ拘ラス木炭車ノ如キ速力カラ言ヘハ時代遅レノモノニ對シテ軍事委員會ヨリ補助ヲ與ヘテ研究セシムルカ如キハ當ナラサルヲ以テ右ノ進言ハ之ヲ退ケテハ如何ト言ヒタル處蔣氏ハ成程ト肯キタルモ他ノ面々ハ何レモ互ニ顔ヲ見合シ苦笑ヒシ居リタルコトアリタリ

右ノ一事ハ蔣介石カ如何ニ獨裁的ニシテ之ニ對シ直言スル者ナキカヲ示シ居ル事例ナルカ最近ニ於テハ右ノ傾向ハ益々助長セラレ何人ト雖モ蔣介石氏ニ楯突ク者ナキ有様ナリ例ヘハ過般佐藤安之助氏ヨリ得タル日支媾和條件ナルモノノ寫ヲ漢口ニ持參セル際ニ於テモ張群等ハ蔣介石下野ノ一項ハ之ヲ削除シテ蔣介石ノ閱覽ニ供セル程ニテ汪精衛、孔祥熙、張群何レモ眞正面ヨリ蔣介石ノ下野ヲ切出ス勇氣アルモノナク偶々政治的、財政的専門知識ヲ以テ蔣介石ノ啓發ニ努メタル吳鼎昌ノ如キモ眼ヲ蔽ウテ蔣介石ニ盲從セサルヲ得スト述懐シ居ル程ナリ

蔣氏ノ聲望ハ獨リ軍政財界ニ於ケルノミナラス殆ト一般民衆ニ迄及ヒ居リ小學生迄モ蔣委員長ノ名ヲ聞ケハ直チニ起立シテ尊敬ノ意ヲ表シ自分等カ偶々蔣介石ノ惡口等

ヲ口走ランカ子供等カ眼ヲ剝イテ其ノ親ヲ白眼視スルカ
如キ態度ヲ取ルカ如キ始末ナリ

蔣氏ヲシテ斯ク迄ニ偉大ナラシメタルモノハ數年來ニ於
ケル日本ノ遣口カ與ツテ力アルヘシト思考シ居レリ

坂西

日支兩國ノ間ハ不幸干戈ノ間ニ相見ユルニ至レルカ日本
ノ根本方針ハ昨年九月臨時議會開院式ニ於テ 陛下ノ降
シ賜ヘル勅語ナリ即チ「帝國ト中華民國トノ提携協力ニ
依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ擧グルハ是レ朕
カ夙夜軫念措カサル所ナリ」トノ大御心カ我國ノ對支根
本方針ナリ政府ハ右勅語ノ趣旨ヲ体シ(一)支那ノ主權ヲ侵
害セス(二)領土權ヲ侵害セス(三)在支第三國人ノ權益ヲ尊重
ストノ三原則ヲ樹立シテ此ノ戰爭ニ臨ミタリ
然レトモ日本ハ客年來實ハ支那ノ主權ヲ最大限ニ侵害シ
居ル戰爭ヲナシ居ル次第ニシテ右ハ三原則ト矛盾スル譯
合ナルカ日本トシテハ觀念的ニハ抗日分子ト戰爭シ非抗
日分子ト戰爭シ居ル次第ニ非ス若シ抗日分子ト非抗日分
子トヲ地理的ニ判然區別シ得ルニ於テハ抗日分子ノ地域
ノ主權ヲ侵ス戰爭ヲナスモ非抗日分子ノ地域ニ於テハ完

全ニ前記三原則ヲ實行シ得ル道理ナルカ抗日分子ト非抗
日分子トハ地域的ニ區別シ得サルヲ以テ三原則ヲ其ノ儘
尊重スルコトニ困難ヲ感スル次第ナリ

斯ノ如ク無差別ノ戰爭ヲ繼續スルコトハ日本ノ本意ニ非
サル處支那ニ於テモ思慮アル政治家ナキニ非サルヲ以テ
右様ノ戰爭ヲ繼續スルコトノ馬鹿ヲシサヲ悟ル者出テ來
ルヘキヲ期待シ居レリ

袁良

漢口政權部内ニ於テモ心アル政治家ハ何レモ戰爭ノ馬鹿
ヲシサヲ信シ居リ現ニ汪精衛ノ如キハ自分ニ對シ日支間
ニ「兩個大馬鹿」カ居リ頑迷ニ戰爭ヲ繼續シ居ルコトハ
正ニ東亞ノ悲劇ナリトテ頗ル痛心セルコトアリ他ノ面々
モ戰爭ノ無益有害ナルコトヲ悟リツツアルモ前述ノ通り
蔣介石ニ對シテ之ヲ直言スルモノナキノミナラス陳誠ノ
如キハ自分ノ間ニ對シ日支戰爭ノ目的ハ支那側トシテハ
日本ト共ニ斃ルルニ在リト自稱シ殆ト政治家ニ耳ヲ藉サ
サル狀態ナリ

自分ハ二月末赴漢ノ際蔣介石氏ニ對シ日支戰爭ノ眞ノ目
的ハ奈邊ニ在リヤト問ヒタル處蔣介石ハ斯ノ如キ莫大ナ

ル犠牲ヲ拂ヒテ日本ト戰爭スルカラニハオメオメト屈服スルニ於テハ國民ニ對シテ何等ノ面目モ立タサル次第ニシテ國民ヲシテ納得セシムル爲ニハ何等カノ成果ヲ獲得セサルヘカラス右成果トハ即チ日本ノ侵略主義者流ノ反省ヲ促シ日本ヲシテ爾今對支侵略政策ヲ取ラシメサルヤウスルコトニアリト確信シ居レルヲ以テ此ノ目的カ貫徹セサル限り中途ニ於テ挫折スルコトナシトノ決心ヲ披瀝セリ

然レトモ蔣介石トシテモ共產黨ノ恐ルヘキハ今尙十分承知シ居リ表面國共合作ヲ實現シツツモ成ヘク共產黨ノ勢力ノ國民政府部内ニ伸張スルヲ阻止シ蘇聯側ヨリノ武器彈藥モ直接第八路軍ニ與フルコトナク全部之ヲ一應蔣介石直系部隊ニ於テ受領シ居リ尙蘇聯人飛行士ノ行動ニ對シテモ努メテ支那側正規軍トノ共同作戰ヲ阻止シ居リ只管赤化ノ防止ニ汲々トシ居ルハ張群カ自分ニ對シ極秘ノ含ミトシテ内話セル所ニシテ右ヨリ察スルモ飽迄蘇聯ト合作シテ其ノ運命ヲ共ニスル氣ニハナリ居ラサルモノノ如シ

從テ心アル政治家ハ何等カ局面ノ展開ヲ圖ラントスル一

縷ノ望ヲ有シ現ニ宇垣外務大臣カ就任直後外國新聞記者ニ對シテナセル談話(蔣介石カ眞ニ覺醒シ來ルニ於テハ日本トシテモ必スシモ一月十六日ノ聲明ヲ固執スルモノニ非ストノ趣旨)ニ刺戟セラレ張群カ蔣介石ノ意ヲ酌ミテ自分ノ赴漢ヲ促シタル時ニ於テモ着漢後張群、汪精衛、孔祥熙等ト共ニ媾和ノ討議ヲ續ケ張群ノ如キハ曾テ見ラレサル程昂奮シ眞ニ日本カ和平ヲ希望スルニ於テハ自分(張群)カ全權大使トシテ媾和ノ衝ニ當ルモ差支ナシト迄切言セルカ七月六日ノ板垣陸相ノ談話竝ニ七月七日ノ近衛首相ノ談話カ傳ヘラルルヤ豫ネテ今迄穩健的要旨ヲ盛レル蘆溝橋事變一週年記念ノ蔣介石ノ聲明ニ突如修正ヲ加ヘ近衛首相ニ對スル對抗的ノ聲明ヲ發スルニ至リ媾和ノ話ハ全ク一頓挫ヲ來セル經緯アリタリ

坂西

實ハ陳誠ノ如ク徒ニ強カリヲ言フ者カ巾ヲ利カセ居ルハ眞ニ遺憾ノ極ナルカ日本ニ於テモ陳誠ノ如キ者ナキニ非ス隨テ今直ニ停戦トカ或ハ和平交渉トカヲ持出ス時期ニ非サルヤニ思考シ居ルモ自分ハ多年支那ニ在任シ多數ノ友人ヲ有シ居リ眞ニ日本ヲ愛シ、眞ニ支那ヲ愛シ、眞ニ

東亞ヲ愛スル者ナルカ故ニ何時迄モ此ノ状態ヲ坐視スルニ忍ヒサルヲ以テ御互ニ反省シ(坂西氏ハ「先ツ日本ヨリ反省スルヲ可ナラント思考シ居レリ」ト述ヘタリ)日支間ノ空氣ノ改善ニ努ムル爲及ハス乍ラ老軀ニ鞭打チテ努力致シ度キ考ニテ今般ハ多少ノ責任ヲモ有シ居ルニ付テハ充分視察ヲ遂ケ意思ノ聯絡ヲ圖リ歸朝後政府ニ報告シ度考ヘナリ就テハ貴殿ニ於テモ之ヲ諒トセラレ何分ノ援助ヲ與ヘラレ度シ

袁良

自分ハ閣下ノ御決心ヲ承リ頗ル力強ク感シ居レリ自分モ支那ヲ愛シ、日本ヲ愛シ、延テハ東亞ヲ愛スル者ナルカ故ニ雙手ヲ擧ケテ閣下ノ御趣旨ニ共鳴シ爾今及ハス乍ラ犬馬ノ勞ヲ取ルヘキニ付何ナリ共御申付ケ相成度微力乍ラ閣下ニ對シ御援助申上ケル積リナルニ付御示教ニ預リ度シ



241

昭和13年9月9日 五相會議決定

〔聯合委員會樹立要綱〕

聯合委員會樹立要綱

昭和十三年九月九日
五相會議決定

目次

- 第一、方針
- 第二、聯合委員會樹立要領
- 第三、聯合委員會ノ組織及權限
- 第四、聯合委員會指導要領

第一、方針

昭和十三年七月十五日五相會議決定支那新中央政府樹立指導方策ニ準據シ成ルヘク速ニ聯合委員會ヲ樹立ス

第二、聯合委員會樹立要領

一、聯合委員會ノ樹立ハ主トシテ支那側ヲシテ行ハシムルモ帝國之ヲ内面的ニ斡旋ス

聯合委員會樹立指導ニ關スル現地案決定セハ中央ノ認可ヲ受ケタル後支那側ヲ斡旋スルモノトス

二、聯合委員會樹立指導ニ關スル帝國ノ具体案決定セハ北支及中支政務指導機關斡旋ノ下ニ大連ニ準備委員會ヲ開催セシメ聯合委員會樹立ニ關スル諸般ノ準備ヲ行ハシム

三、準備委員會ノ準備ニ基キ北京ニ聯合委員會ヲ開催セシム

第三、聯合委員會ノ組織及權限

聯合委員會ノ樹立ニ關シ支那側斡旋ノ基準概ネ左ノ如シ

一、聯合委員會ハ臨時政府及維新政府ノ政務ニ關スル共通事項ヲ統制シ且新中央政府ノ成立ヲ容易ナラシム

二、聯合委員會ノ組織概ネ左ノ如シ

(一) 聯合委員會ハ差當リ北京ニ置ク

(二) 聯合委員會ニ委員六名ヲ置キ臨時及維新兩政府ヨリ各

三名ヲ出シ内各一名ヲ常任委員トシテ聯合委員會ニ常置ス

本會ニ蒙疆委員會參加ノ場合ハ同會派遣ノ委員二名ヲ

増加ス

(三) 委員中ヨリ主席委員ヲ選出ス

(四) 主席委員及常任委員ヲ以テ常任委員會トナス

(五) 聯合委員會ニ事務局ヲ設ケ事務總長(假稱)一名、局員

若干名ヲ置ク

(六) 主席委員ハ委員會ヲ統轄シ且會務ヲ處理ス

(七) 委員會ハ主席委員及各政府ノ必要ト認ムルトキ之ヲ提

議シ隨時開會ス

(八) 委員會閉會中ハ輕易ナル事項ニ關シ常任委員會ニ於テ

委員會ノ業務ヲ代行ス

(九) 委員會及常任委員會ノ議事ハ主席委員全員ノ贊成ヲ得

ルニアラサレハ議決スルコトヲ得ス

(十) 事務總長ハ主席委員ノ命ヲ受ケ事務局ノ職員ヲ統轄シ

テ聯合委員會ニ關スル事務ヲ處理ス

(十一) 聯合委員會ニ要スル經費ハ各政府ニ於テ之ヲ分擔ス

三、聯合委員會ノ權限左ノ如シ

(一) 委員會ハ臨時維新兩政府ノ交通、通信、郵務、金融、

海關、統稅、鹽務、文教及思想對策等ノ內統制ヲ要ス

ル事項ニ關シ協議ヲ行フモノトス

(二) 聯合委員會ニ於テ議決スル事項ハ其性質ニ應シ聯合委

員會若クハ各政府ニ於テ之ヲ執行スルモノトス各政府

ニ於テ執行セル事項ハ之ヲ聯合委員會ニ報告スルモノ

トス

第四、聯合委員會指導要領

一、北支及中支政務指導機關ハ對支特別委員會ト密接ニ連繫

シ聯合委員會ヲ指導ス

之カ爲右政務指導機關主任者ヲ以テ隨時連絡會議ヲ開催

ス

二、聯合委員會及同事務局ノ事務指導ノ幹事役ハ北支政務指導機關之ヲ擔任スルモノトス

三、聯合委員會及臨時維新兩政府ハ聯合委員會ノ開催、議案ノ提出及其議決ノ執行等ニ方リテハ豫メ其他政務指導機關ノ諒解ヲ得シムル如ク指導スルモノトス

四、聯合委員會及同事務局ノ指導ニ關スル重要事項ハ豫メ中央ノ認可ヲ受クルモノトス

242 昭和13年9月13日

対中工作の現状に関する坂西中将の谷公使に
対する内話要領

坂西中将ノ谷公使ニ對スル内話

(九月十三日佛租界大使館邸ニ於テ)

自分カ早くヨリ主張シ來レルコトカ五相會議ニヨリテ論議セラレ殆^(六カ)ント二ヶ月ヲ經テ七月廿五日一應ノ決定ヲ見、其ノ結果主トシテ蔣介石政權ノ弱体化ヲ圖ル爲ノ謀略ト新中央政府組織工作ヲナス用務ヲ帶ビテ渡支シ海軍側ノ津田中

將ト共ニ土肥原ヲ補佐スルコトナリタル次第ナリ

自分等ノ任務カ臨時、維新兩政府、蒙疆聯合委員會及漢口ニ新設セラルヘキ政權ヲ合シテ新政府ヲ樹立シ同時ニ蔣介石政權ヲ分離セシメテ福建、廣西、貴州、雲南、四川等ニ保障安民式ノ獨立乃至半獨立政權ヲ作り之ヲ新政權ニ合流セシムルニ在ル次第ナルハ御承知ノ通りナリ廣東ニ於テ獨立政權ヲ作ルヘキヤ否ヤ又ハ作り得ヘキヤ否ヤハ尙研究中ナルカ今次渡支ノ結果北中支ノ事態ハ過般(五月)視察ノ際ニ比シ豫想外ニ不良ナルヲ見聞シ驚キ且悲觀シ居ル次第ニテ本工作ニ着手セル時期ガ既ニ遅カリシニモ鑑ミ心ノミアセレドモ工作ハ中々思フ様ニ進マサルヲ惧レ居ル次第ナリ大体北方ニテハ第一流(元老級)第二流(大臣級)第三流(次長、局長級)第四流(課長事務官級)ニ人物ヲ區別シテ接シ來レルカ第一流第二流ノ人物ハナキニ非サルモ第三流第四流級ニシテ實際ニ仕事ノ衝ニ當ル人物拂底シ(指導工作ノ功拙ハ別トシテ)能率上ラサルヲ以テ此等ノ人物ハ將來如何ニシテモ國民政府部内ニ求め之ヲ拉シ來ラサルヘカラサルヲ痛感セリ

中支ニ於テモ勿論各級ノ人物拂底ナルヲ以テ一面指導宜シ

キヲ得ルト共ニ先ツ國民政府部内ノ三流所ノ人物ニ目星ヲ付ケ手ナツケ置クコト緊急ナリト認メ居レリ勿論是等ト雖モ直ニ來ルモノトモ思ハレサルモ多分ニ色氣ヲ有スルモノモアル模様ニテ(例ヘハ彭學沛、譚乃甘)金サヘ惜マサレハ働手ヲ連レ來ルコト決シテ不可能ニ非ス只此カ爲ニハ相當シツカリシタ支那人ヲ香港邊ニ派シ將來中北支ニ於ケル政權掌握ノ爲ノ政黨組織ノ目的ヲ以テ運動シ居ルカ如ク二見七掛ケシメ専ラ右支那人ヲ活動セシメテ日本人カ蔭ニテ之ヲ監督スルカ如キ仕組トスルコト功妙ニシテ此ノ工作ノ費用ハ概略月十萬弗ヲ要スル見込ナルカ工作ハ外務省ニテ當ルヲ至當ト認メ居ルヲ以テ(理由ヲ説明セス)土肥原、津田トモ相談ノ上歸京後大臣ニ進言シ出來得ヘクンハ費用ヲモ外務省ヨリ支辨シ早急右工作ヲ開始セシメタキ所存ナリ

第一流人物中唐紹儀ハ中々「ウルサ」型ニテ傀儡ニハナラスト稱シ居ル由ナルヲ以テ或ハ徐世昌カ高齡且健康ニテモアリ唐ヲ元老院長ノ如キモノニシテ満足セシメ其レデモマダ兎ヤ角言フ時ニハ嚴トシテ唐ノ我儘ヲ通サシメサル態度ヲ以テスルコト必要ナラスヤト考ヘ居レリ斬雲鵬ノ如キ解リモ好ク寛容ナルカ實行力乏シキ嫌アリ此ノ點ハ唐トハ

反對ナリ只元老中ニテ竝大名式ニシタル場合困ルノハ吳佩孚ナルカ彼ハ矢張武人トシテ働カシムル方ヨロシカルヘク此ハ自分限りノ考ナルカ討共軍總司令ノ如キモノニシタラハ萬事好都合ニ收マルニ非スヤト思考シ居レリ

尙將來改組國民政府カ新政府ニ入り來ル場合ニ於ケル實際ノ政治家ヲ求ムレハ宋子文ニ非スヤト思考シ居レリ自分ト宋トノ交友ハ數年來ノモノナルカ宋ノ氣性、考方ハ殆ント日本人ト似通ヒタル點アリ彼ノ如キカ眞ニ日本ヲ理解シテ出テ來ル様道ヲ開キ置ク必要アリト信シ徐新六ヲシテ之カ聯絡ニ當ラシメ置キタルカ最近徐ノ奇禍ノ爲有力ナル聯絡者ヲ失ヒ落膽シ居ル次第ナリ尙此ノ宋ノ件ニ關シテ絶体極祕ニシ居ル所ナルニ付其ノ含ミニ願ヒ度シ

243 昭和13年9月15日

對支特別委員會の上海における會議要領

對支特別委員會會議

(於上海、九、十五)

一、柴山大佐

(一)唐紹儀トノ聯絡劉華瑞(船津ヨリ森島參事官ニ紹介セル人物)ヨリ得タル情報ニ依レハ唐ハ人ヲ日本ニ派シ度シトノコトナリ唐出馬ノ意思ハアルラシキモ其ノ意判然セス

(二)反戰救國運動

(イ)都甲少佐ニ於テ主トシテ青年層ニ反戰ヲ起サシムル計劃ヲ樹テ實施シ居レリ

(ロ)四川ニ於テハ川康綏靖署參謀張藩來滬シ同人ヲシテ四川省主席王纘緒ト聯絡ヲ採ラシメ居ル處張ハ大膽ニ之カ計劃ヲ進メ居ル趣ナリ(高橋大佐主宰)

(ハ)長江ニテ當面ノ敵ノ中ニテ反戰聯絡者金安人ナルモノアリ部下五萬ヲ有シ居ル趣ニテ最近敵ノ第一戰ヨリ逃亡兵出テ團體の捕虜多キハ同人ノ劃策スル所ナリ

(ニ)浙江省臺州保安隊(兵力一萬)ノ陳群生張友軍(陸士三十七期生)ナルモノニ聯絡ヲ付ケ九月廿三日ニ旗舉スル約束ヲナシタル趣ナリ

(三)南支方面

(イ)余漢謀カ參謀李學ヲシテ藤井ヲ通シ香翰屏ト共ニ反

蔣ヲナス意アリト申出テ來レル由ナルカ右ノ中ニハ英人モ介在シ居ルヲ以テ眉唾モノナリ石野武官モ斯ク判斷シ居レリ

(ロ)余ノ部下中ニハ李振球カ余漢謀ニトツテ代ラントスル野心アルモノ何等施策シ居ラス

(ハ)和知大佐ハ李濟深引出ニ熱中シ居レリ同大佐ノ報告ニ依レハ湯恩伯、胡宗南、李濟深、李、白ヲ聯絡シ反蔣のナラシムル手配ヲナシ稍々緒ニ就キタル趣ナルモノ右ニハ五百萬圓ヲ要スル由ナリ、但シ右計畫ハ尙檢討ノ要アリ

(尙柴山大佐ハ大倉組林ノ中支金融ニ關スル意見ヲ報告シ委員會ニ於テ政府ニ對シ中支金融對策ヲ講スル様進言方ヲ慫慂セリ)

二、坂西委員

谷公使ニナシタルト同様ノ談話ヲ繰返セリ(但シ蔣政權ノ三四流人物引出工作ニ對シ土肥原中將ハ贊否ヲ明答セス態度消極のナリキ)保境安民工作ハ陳中孚ヲシテヤラシテハ如何ト提案シ何レモ之ニ贊成セリ(仍テ右ハ同日午後陳ヲ呼ヒ正式ニ依頼シ陳ハ心ヨク之ヲ引受ケタリ)

四川ノ反蔣運動ニ國家主義青年團ヲ用フルコトヲ慫慂シ
何レモ贊成ス

(右工作ハ大迫少將カ天津ノ劉招魂(假名)ト聯絡シ進行
中ナリ)

三、津田委員

廈門ノ人心收攬ニ注意スル必要アリ

杉坂カ之ヲ主宰スルコトトナリ廈門ニ赴ク豫定ニテ華僑
福州ニ呼ヒカクル工作ヲナスヘク福州方面ニ對シテハ海
軍ノ指導ニ依リ張鳴之ニ當リ居ルニ付御諒承アリタシ

四、土肥原委員

北支ニ於テハ反共興國軍ヲ組織スルコトニ決定セリ

右ニ對シテハ靳雲鵬モ力ヲ入レ居ル處主任者トシテハ殷
同之ニ當リ居レリ

漢口攻略後治安維持會ノ成立ヲ俟テ國民大會デモ開クコ
ト肝要ナルヲ以テ其ノ準備ニトリカカル必要アリ、殊ニ
同大會ニハ漢口政權側ヨリ成ルヘク委員ヲ出スヤウ工作
シ度シ

244 昭和13年9月16日

東亞局第一課作成の「新中央政府組織ニ關スル一考察」

新中央政府組織ニ關スル一考察

(昭和十三、九、十六、松平)

新中央政府ハ全支ヲ打ツテ一丸トスルカ如キ名實相備ハレ
ル政府タルヲ理想的トスルコト勿論ナル處現下ノ情勢ヲ以
テシテハ漢口陥落後蔣介石ノ下野乃至蔣政權ノ改組分裂ノ
如キ到底實現不可能ナルヘシ

即ち蔣介石ノ統制力ハ事變後益々鞏固ヲ加ヘ國民黨員ハ勿
論一般民衆ノ信仰的尊敬ヲ集メ其ノ獨裁能力ハ事變當初ノ
比ニ非サル模様ナリ本年七月袁良ノ齋セル平和條件(佐藤
安之助ヨリ私案トシテ提示ス)ニ關シテモ汪精衛、張群、
孔祥熙等ハ蔣下野ノ部分ハ之ヲ削除シ蔣介石ノ閱覽ニ供セ
ル位ニテ彼等モ正面ヨリ蔣ニ下野ヲ勸告スル勇氣ナク何應
欽、程潛、熊式輝等ノ穩健派モ蔣ノ前ニ於テハ恰モ猫ノ前
ニ出テタル鼠ノ如ク殆ント命令ヲ嚙吞ニシ居リ平時蔣介石
ニ對シテ多少トモ政治的財政的意見ヲ吐露シテ蔣ノ啓發ニ

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

努メタル吳鼎昌スラ今ヤ眼ヲ塞キテ蔣ニ盲從セサルヲ得スト述懐シ居ル程ナリ

今日國民政府ノ傘下ニハ種々ノ異分子混在シ居ルモ此等ハ何レモ蔣介石ヲ首領トシテ推戴シ其ノ統制ノ下ニ服シ居リ蔣ハ正ニ支那ニ於ケル軍事の政治的經濟的活動ノ源泉タルノ觀アリ彼ニシテ直ニ下野スルカ如キコトアランカ漢口政權ハ拾收付カサル狀態ニ陥ルコト必定ナレハ此ノ點ヨリスルモ蔣介石ノ下野ハ事實上不可能ナルヘシトノ觀測頗ル多シ

次ニ蔣政權ノ分裂改組ノ如キモ目下ノ蔣介石ノ統制力、民衆ノ抗日意識、列國殊ニ英米佛蘇ノ對支態度ノ存續スル限リ大分裂大改組ヲ助長セシムルコト亦不可能ニシテ蔣政權ヨリ單獨離反者ヲ出サシムルコト位カ關ノ山ナルヘシ尤モ南支方面ニ於テ謀略ノ請負ヲ希望スルモノナキニ非サルモ實力ヲ有スルモノ殆ントナク從テ成功ノ可能性ニ乏シキ次第ナリ

然レトモ新政府ノ樹立工作ニ當リ次ノ事項ニ注意シ堅忍努力シ樹立後モ其ノ努力ヲ傾倒セハ數年ノ後ニハ或ハ蔣政權ヲシテ事實上壞滅セシムルヲ得ルニ至ルヘシ

一、新政府組織ノ當初ヨリ南方系大物(例ハ唐紹儀許崇智等)ヲ起用ス

右ハ蔣政權ヲ弱体化ニ導ク最良法ナルカ對支特別委員中ニハ唐等ノ出馬方面倒トセハ不取敢北方ニ於ケル大物ノミヲ以テ政府ヲ組織セシメントスル意嚮ヲ有スルモノ(例ハ八土肥原中將)アルヲ惧ルル次第ニシテ假ニ北方系ノモノノミニ限ラルルカ如キコトアランカ右ノ政府ハ中支ニハ「アツピール」セス況ンヤ蔣政權ニ働キ掛クルコト全然不可能ニシテ我方ノ希望ニ反スルコト萬々タリ苟クモ中外ニ「アツピール」シ兼ネテ蔣政權ノ切崩ヲ策スル能力ヲ有セシムル爲ニハ南方系大物ヲ必要トシ之ヲ起用スル爲ニハ多少ノ犠牲ヲ拂フコトヲモ覺悟セサルヘカラス

二、黨派ノ別ヲ論セス人材ヲ登用ス

國民黨員タリシモノト雖モ其ノ「メリット」ニ應シテ登用スヘク寧ロ行政的經驗ヲ有シ且仕事ニ熱心ナルモノハ國民政府側ノ役人ニ多キヲ以テ此等ノモノヲ多ク起用スルコト功妙ナリ

三、政府樹立ノ方式ハ民主的ナルヘシ

外支人ヲ納得セシムル爲メ形式的ニモセヨ民主的方法
(救國善後會議又ハ各省會議等)ヲ採ルコト肝要ニシテ臨
時、維新兩政府ノ如ク闇ヨリ生シタル如キ感ヲ與フルハ
採ルヘカラス

尙其ノ樹立前ニ通電戰ヲナシ就中國民政府主席林森ノ參
加ヲ要求スル通電ヲ發シ樹立後ニハ施政方針ニ關スル宣
言ヲ發スルコト肝要ナリ

四、政府ノ權限

廣汎ナル權限ヲ與フルハ不可ナルモ與ヘタル權限ハ自主
的ニ之ヲ行ハシメ濫リニ干渉セス成ルヘク傀儡ヲラシメ
サルヲ要ス

是ハ新政府ヲシテ民心ヲ把握セシムル所以ニシテ蔣政權
ノ切崩ヲ容易ナラシメ列國ノ信用ヲ得シムルニ足ルヘケ
レハナリ

五、在支帝國軍民ノ對支態度ノ改善

新政府ヲシテ眞ニ親日防共ノ有力ナル政府タラシムル爲
メニハ在支帝國軍民ノ文化的水準ヲ高メ眞ニ支那人ヨリ
尊敬セラルルニ至ルヲ要ス之力爲メニハ早急ニ火事泥的
行爲ノ禁止不正業者ノ取締ヲナスハ勿論官民就中下級軍

人ノ支那人ニ對スル暴舉腕力沙汰ヲ嚴ニ取締ル必要アリ

245 昭和13年9月22日

中華民國政府聯合委員會の成立宣言

中華民國政府聯合委員會成立宣言

一三、九、二二

國民黨政權を専らにし輕々しく戰端を開きてより兵の敗退
潰滅枚擧に違なしこの時に當り臨時維新兩政府は時勢の要
求に應じ何れも戰禍を緩和し國交を恢復し中國垂死の難民
を救ひ以て東亞百年の大計を樹立せんとするの目的を以て
相前後して成立せり、爾來數ヶ月審かに事態の推移を見る
に兩政府の分離狀態を以て重要な政務遂行に積極的なる
能はざる憾みあり、然れども直ちに中樞機關を樹立せんと
すれば尙慎重考究を要するものあり、依つて幾度か検討を
加へ商議を重ね今日遂に中華民國政府聯合委員會を組織し
救國の精神に基き協力一致して以て反共の實を擧げんとす
るに決定せり、其の責任重大なりと云ふへし、本會を組
織せる兩政府は素より誓つてこの目的達成に努力すへしと

雖も望むらくに朝野の諸賢も深く民衆の難苦を明察し本會に參加協力して以て國脈の保全に力め一般民衆又國民黨政府の宣傳を誤信し之に盲従することなく速かに迷夢より覺め安危利害の別を明かにして以て其の福利を享受するの道に進むへし、今や共產黨は中國の危機に乘し統一の爲には「聯共」によらざるへからすと偽り、先づ國民黨政府内部の蠶食を試み將に中華全土を赤化せんとしつつある事、遍く世人の知るところとなれり然かるに蔣介石は頑迷にして悟らす容共を以て飲酖止渴の策となし、徒黨を率ひて無爲の宣傳に狂奔し敢へて立國の道を構せず、専ら外國人を煽惑し、國內有識者に對しては或は脅迫により或ひは食はずに利を以てし之を陷穽に導き、遂に山曲の險を恃して戰禍を延長せしめ以て今日の局面を醸成せり、我か兩政府同人及び聯合委員會は斯くの如き悲惨なる國家の犠牲と國民の無窮の悲痛とを坐視するに忍ひず敢へて抱負を掲げ今日實行に移さんとす若し夫れ中國にして反共の實を擧げんか國事必ず安定すへし、國事安定せば即ち東亞の平和立ちどころに實現し、東洋の平和實現せば即ち世界は擧げてその利福を享受するに至るへし、聯合委員會成立の意義實に茲に存す、

世界有識人士克くこの誠をくみ、その意を達し協力を惜しまされは即ち從來友好關係に在るものは素より皆兄弟朋友たり、之に反して蔭に蔣を援けて共產黨と相通し表に傍觀を裝ひて國內同胞の水深火熱の苦痛を助長し以て漁夫の利を收めんとするものあらんか吾人^(一)之と睦義を厚ふせんとするも能はざるなり、惟ふに我か誠意のあるところ必ず全福^(二)の支持を受くへしと信す、之實に中國全部の興亡禍福の岐れるところなり
謹んで茲に中外に向つて宣言す

中華民國二十七年九月二十二日

中華民國聯合委員會

246 昭和13年10月(1)日 在香港中村總領事より
近衛(文麿)外務大臣宛(電報)

宇垣外相辭任に関する報道振り報告

香港 發

本省 10月1日夜着

第一二二六號

本一日ノ當地大公報ハ宇垣外相ノ辭職ハ軍部、外務ノ對立

ノ犠牲トナリタルモノナルモ更ニ重大原因ハ外相ノ意圖スル列國トノ親善工作殊ニ必要アラハ本年一月十六日ノ聲明ヲ固執セサルカ如キ態度カ軍部ニ受人レラレス且「クレーギー」大使トノ親善工作カ「フアツシヨ」派ノ反對トナリ其ノ身邊サヘ氣遣ハルルニ至リ又近衛首相ノ軍部接近ハ遂ニ外相ノ外交擔任ノ勇氣ヲ喪失セシメタルニ依ルモノニシテ今後日本ハ板垣陸相ノ勢力益々加ハルト共ニ和平自由ノ思潮ハ政治上活動ノ餘地ナキニ至ルヘキカ外相ノ失脚ハ個人的ノモノニアラス之ヲ支持スル方面ノ没落ヲ意味シ吾人ノ重視スヘキモノナリト論セリ

次ニ華僑日報ハ外相ノ辭職ハ對英、對蘇聯親善工作カ崇リタルト軍部カ歐洲政局ノ混亂ニ乘シ支那侵略行爲ヲ強化セントスル企圖カ外相ノ穩和主義ヲ排シタル結果ナリト述ヘ又大衆日報ハ字垣「クレーギー」會談ノ失敗ハ日本ノ外交ノ前途ヲ悲觀的ナラシメタルト今後ノ外務省ハ空洞ノ運命ニ陥ルヘキヲ察シ外相ハ去リタルモノナリト論シ居レリ
北京、上海、臺灣外事課長ヘ轉電アリタシ

247

昭和13年10月5日

在北京堀内總領事より
近衛外務大臣宛

汪兆銘の密使と王克敏との会見内容に関する

情報報告

機密第三四二號

(10月18日接受)

昭和十三年十月五日

在北京

總領事 堀内 干城(印)

外務大臣 宇垣 一成殿

汪精衛密使來京說ニ關スル件

汪精衛ノ最モ信任篤キ祕書前中國經濟委員會委員黃洙榮ハ本月二十三日汪精衛ノ密旨ヲ齎シ祕ニ上海ヨリ天津經由來京王克敏ト會見シタル趣ナルカ其會談内容ニ關シ聞ク處ニ據レハ汪個人トシテ中日政治ノ誤解ニ對スル王克敏個人ノ意見ヲ打診シ且臨時維新兩政府ノ合流ヲ機會ニ何等カ政治的地歩ヲ得ントスルモノノ如ク又日支紛爭ヲ中心トスル個人トシテノ停戰和平ノ斡旋方ニ及ヒタリト云フ

又一說ニ據レハ黃ハ事前ニ王克敏梁鴻志等ノ招請ニヨリ新中國建設重要人物トシテ來京シタルモノナリトモ傳ヘラル

何レニスルモ黄ノ來京ハ停戦ニ動キツアルコトヲ物語ル
モノナリト一部ニ喧傳サル

右諜知ノ儘何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先

在滿大、張家口、天津、濟南、青島、上海、南京、厦門



248

昭和13年10月6日

在天津田代(重徳)総領事より
近衛外務大臣宛(電報)

唐紹儀暗殺後の新政権樹立工作および漢口陥
落の場合の和平見通しに関する陳中孚内話に

ついて

付記一

昭和十三年九月三十日發在上海後藤(繪尾)総
領事代理より近衛外務大臣宛電報第二九三七

号

唐紹儀遭難の第一報

二

昭和十三年九月三十日發在上海日高総領事よ
り近衛外務大臣宛電報第二九四三号

唐紹儀死亡について

三

昭和十三年十月五日發在上海日高総領事より

近衛外務大臣宛電報第二九七七号

唐紹儀襲撃事件の犯人に関する情報報告

天津 10月6日後發

本省 10月6日夜着

第九六四號(部外祕)

五日上海ヨリ歸來セル陳中孚ノ館員ニ爲セル談話概要御參

考迄

約二箇月前ニ赴滬シ唐紹儀ノ蹶起ヲ促シタル處吳佩孚出

馬セハ自分(唐)モ出馬スヘシ(吳モ又唐ノ下ナレハ働ク

ヘシト稱シ居タル由)トノコトニテ安堵シ居タル處偶々

今回ノ不祥事發生シ南北合作ニ一頓挫ヲ來セルハ返

ス々々モ遺憾ナリ、目下唐二代ルヘキ人物物色中ナルモ

適任者ナク困リ居レリ

三、南京政府重慶移轉ハ四川軍トノ關係上困難ニ付結局常德

經由一先貴陽ニ到着クコトナルヘク漢口拋棄後ト雖引

續キ抵抗スヘシ

三、廣東派ノ態度ハ時局收拾ニ影響スル所大ナルヘキ處李宗

仁、白崇禧ハ依然南京側ニ加擔スヘク陳濟棠ト余漢謀ハ

折合惡シキ爲結局李濟深以外ニ兩廣ヲ背負ヒ立ツヘキ人

物ナシ、李ハ漢口陥落後廣東ニ歸還スヘク目下鳴ヲ鎮メテ機ヲ窺ヒツツアリ

四、四川軍ハ漢口陥落後南京反對ノ旗幟ヲ鮮明ニスヘク既ニ或程度ノ聯絡付キ居レリ

五、時局拾收ハ相當困難ナルモ漢口陥落ヲ機會ニ日本側ヨリ何等カ支那民衆ヲ納得セシメ得ルカ如キ聲明ヲ發表セララルルニ於テハ平和運動勃然トシテ起リ比較的早く平穩トナルヘシ

六、蔣介石ハ戰爭ニ依ル救國ヲ叫ヒ居ルニ付自分等トシテハ平和運動ニ依ル救國ヲ叫フ積リニテ種々劃策中ナリ云々
尙陳ハ七日起京ノ豫定ナリ
北京、上海へ轉電セリ

(付記一)

上海 9月30日後発
本省 9月30日夜着

第二九三七號(大至急)

唐紹儀ハ本朝九時前後佛租界自宅ニ於テ支那刀ヲ所持スル三名ノ刺客ニ襲ハレ重傷ヲ負ヘリ不取敢

北京、天津、香港へ轉電セリ

(付記二)

上海 9月30日後発
本省 9月30日夜着

第二九四三號(至急)

往電第二九三七號ニ關シ

唐ハ本日午後四時半頃死亡セリ尙犯人ハ未タ逮捕ニ至ラス
北京、天津、香港へ轉電セリ

(付記三)

上海 10月5日後発
本省 10月5日夜着

第二九七七號(極秘)

往電第二九三七號ニ關シ

佛租界工部局警察ニテハ三千元ノ懸賞金ヲ附ケ暗殺犯人逮捕ニ躍起トナリタル結果容疑者十數名ノ逮捕ヲ見主犯者謝志培(字培トモ言フ)ノ氏名モ判明シタルカ謝ハ今日迄依然行方不明ノ様子ナリ尙本件ニ關シ五日X Yカ軍事委員會當

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

地機關ヨリノ確實ナル消息トシテ内報スル所ニ依レハ主犯謝ハ唐ノ親戚ニシテ軍事委員會ノ廻者トシテ相當以前ヨリ唐ノ言動ノ監視役ヲ勤メ居タル者ナル處最近唐カ土肥原中將ト會見同中將ニ反共反蔣ノ態度ヲ明確ニセル親筆ヲ與ヘタルコト(但シ右親筆中ニハ將來樹立セラルヘキ中央政權ニ對スル態度ニ付テハ何等言及セラレ居ラサリシ由)及李濟深ヲ上海ニ引出ス爲

侯某ヲ使者トシテ香港、湖南方面ニ密派セルコト等軍事委員會當地責任者方面ニ筒拔ケニ判リタル爲(如何ニシテ土肥原中將ニ與ヘタル親筆ノ内容カ漏レタルカニ付テハXYハ承知セサリシモ侯ヲ派遣シタルコトニ付テハ侯カ出發前軍事委員會關係者タル友人二個人的ニ其ノ使命ヲ打明ケ了解ヲ求メタルカ爲ナリト語レル由)遂ニ謝等ヲシテ暗殺セシムルニ至リタル由ナルカ軍事委員會關係者側ニテハ被逮捕者中ニハ同委員會特務工作機關ノ會計係ノ者一名捕ヘラレ居ル爲大恐慌ヲ起シ幹部級ハ何レモ居所ヲ晦マシ居レル趣ナリ

追テ本件犯人ニ付テハ三日船津ヨリモ加害者謝ハ往年唐カ廣東中山縣縣長當時生命ヲ助ケタル男ニテ同人カ藍衣社員

トシテ活躍シ居タルヲ知ラス平常ヨリ近付ケ居タルモノナル由内報アリタリ

北京、天津、南京へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ



249 昭和13年10月7日 五相會議決定

「土肥原中將ニ與フル指示」

土肥原中將ニ與フル指示

昭和十三年十月七日

五相會議決定

貴官ノ任務ハ從前ノ如シト雖特ニ先ツ「蔣」政權ノ切崩シ工作ニ重點ヲ指向スヘシ

「唐紹儀」ノ逝去ニ伴フ新中央政權樹立難ヲ補フ意味合ニ於テモ中堅タルヘキ壯青年層ノ把握ハ將來益々其意義ヲ増大スヘシ

貴機關ノ行フヘキ主ナル工作ニ關スル當會議ノ腹案左ノ如シ

一、新政權樹立準備工作

「吳佩孚」「靳雲鵬」「舊東北軍」ニ對スル工作

「唐紹儀」ノ遺營ヲ通スル工作

對廣東、廣西工作

一、「蔣」政權切崩シノ爲ノ工作

「蕭振瀛」ヲ通スル工作

「高宗武」ヲ通スル工作

「李宗仁」「白崇禧」ニ對スル工作



250 昭和13年10月8日

近衛外務大臣より
在香港中村總領事宛(電報)

岩井副領事の香港出張について

本省 10月8日発

第三九八號(極秘)

在上海總領事ヨリ曩ニ同館岩井副領事カ貴地居住支那人ト
連絡ノ爲派遣セル連絡者ヨリ準備出來タル旨ノ電報アリ仍
テ此ノ際武漢陷落前後ニ於ケル貴地方面ヨリ見タル輿地情
勢ノ査察、貴地居住有能支那人ノ出來ルタケ多數ノ抱込ミ
乃至ハ同地軍側駐在員其ノ他トノ連絡ヲ一層緊密ナラシム
ル等ノ諸要務ヲ以テ近ク岩井副領事ヲ貴地ニ出張セシメ度

キ趣ヲ以テ許可方稟請越シタルニ付右許可スルト共ニ貴地

ニ於ケル此ノ種工作ハ貴官統制ノ下ニ之ヲ行フコト有效且

必要ト認メラルルヲ以テ一應在上海總領事ノ意向ヲモ微シ

タル上岩井ヲ八日附貴館兼動トセリ

尤モ岩井ノ貴館兼動ハ同人今後ノ工作ノ性質上内部關係ニ

止メ外部ニハ一切發表セサルコトトセルニ付右御含ミ置キ

相成度シ

上海ニ轉電セリ



251 昭和13年10月20日

在上海日高總領事より
近衛外務大臣宛(電報)

新中央政權の実務を担う人材確保のため中国

知識階級懐柔工作への機密費支出方稟請

上海 10月20日後発

本省 10月21日前着

第三一一二號(極秘)

⁽¹⁾谷公使ヨリ

往電第二九四五號ニ關シ

漢口、廣東兩地攻略ト共ニ時局ハ收拾ノ方向ニ進展スヘキ

モ之ニ呼應シテ政治、經濟、文化各方面建設ノ基礎工作ニ努力スルニアラサレハ其ノ成果ヲ收メ得サルコト申ス迄モナキ儀ナル處現在臨時、維新兩政府カ猶充分ノ活動ヲ爲シ得ス中央政府ノ樹立工作亦容易ニ拂ラサルハ其ノ原因多アルヘキモ近年來軍閥ニ代リテ社會的勢力ノ中心トナレル支那中堅「インテリ」階級カ事變以來殆ト我方ニ離反シ今猶其ノ接觸ヲ回復シ得サル状態ニアルコト根本的原因ナリト存セラル若シ現状ノ儘ヲ以テ進マンカ新政權ノ強化、中央政府ノ樹立モ容易ナラサルヘキハ勿論開發、振興兩會社ヲ中心トスル經濟工作ノ如キモ

(2) 果シテ豫期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ甚タ覺束ナク思想、文
 化工作ノ如キニ至リテハ全然手ノ着ケ様モナキ次第ナリ
 右ノ實狀ハ最近現地ニ於テモ次第ニ認識シ來リ之カ對策ヲ
 講スルノ必要力説セラルルニ至レルカ是等知識分子ヲ我方
 ニ誘致スル工作ハ多年支那ニ於テ特殊ノ交友關係ヲ有スル
 外務側ニ於テ之ニ當ルコト最モ適當ニシテ特別委員會關係
 者モ此ノ方面ノ仕事ハ全ク當方ノ活動ニ期待シ居ル實狀ナ
 リ右ハ中央政府樹立工作ノ準備ノ必要上ノミナラス今後各
 般ノ建設ノ基礎ヲ築ク根本問題ナルヲ以テ當方ニ於テモ出

來得ル限り努力スル方針ニシテ既ニ之カ工作ニ着手シ居ル
 次第ナルカ其ノ方法トシテハ中堅知識階級ノ活動分子ニ意
 ヲ授ケ

(3) 最初ハ日本側ト直接關係ナキ體裁ニテ研究會カ又ハ俱樂部
 等ヲ組織セシメ各自夫々「グループ」ヲ作り既ニ錢承緒ヲ
 中心トスル中國經濟研究會、劉華瑞ヲ中心トスル中外經濟
 協社、博式説、趙正平ヲ中心トスル會名未定ノ三箇ノ團體
 組織ヲ開始シタルカ近ク周憲文ヲ中心トスル文化界尖端分
 子ノ糾合ヲ目論ミ居レリ(以上氏名、會名絶對極秘トセラ
 レ度シ)而シテ右工作ノ成否ハ當方ノ熱心ト努力トニ負フ
 所多キハ勿論ナルモ經費ノ關係ハ其ノ影響最モ多大ニシテ
 本使ノ手許ニ殘存ノ機密費ハ大部分右ニ消費シ盡シ居ル實
 情ナルニ付冒頭電申進ノ機密費支出方特ニ御詮議ヲ得度ク
 事情追報旁々重ねテ電稟ス

252

昭和13年10月21日

近衛外務大臣より
 在上海日高總領事宛(電報)

中国知識階級懷柔工作への機密費送金方回訓

本省 10月21日後8時40分發

第一七一七號(極祕)

貴電第二九四五號ニ關シ

谷公使へ

差當リノ工作費トシテ不取敢金三萬圓送金ス尙本件工作ノ成否ハ主トシテ漢口、廣東攻略後ノ情勢如何ニ依ルモノト思ハルルニ付將來ノ分ハ今後ノ情勢ニ應シ考慮スルコトト致シ度尙又申ス迄モナキ事乍ラ貴方ノ活動ハ對支特別委員會ノ工作ト二途ニ出ツルコトナキ様同委員會側ト緊密ナル連絡保持方御配慮相成り度ク之ガ經理方法ハ日高總領事宛往電第一六〇八號末段訓令ニ依ラレタシ

253 昭和13年10月25日 近衛外務大臣より
在上海(正之)公使宛

香港方面での特別工作のため岩井副領事に携
行させる近衛外相より谷公使宛書簡について

亞一機密第一五號

昭和拾參年拾月廿五日

外務大臣 近衛 文麿

在上海

特命全權公使 谷 正之殿

香港ニ於テ特別工作ニ従事スルコトトナレル岩井副

領事ニ近衛大臣發谷公使宛書翰ヲ持參セシムル件

今般香港ニ赴キ特別工作ニ従事スルコトトナリタル岩井副領事ノ活動ヲ容易ナラシムル爲別添本大臣發貴公使宛書翰ヲ作成送付スルニ付本信又ハ寫ヲ岩井ニ携行セシメラレ錢永銘、杜月笙等ノ抱込ミニ利用セシメラルル様致度本信寫送付先 在香港總領事

(別 添)

機密半公信

昭和拾參年拾月廿五日

外務大臣 近衛 文麿

在上海

特命全權公使 谷 正之殿

赴香特別工作ニ従事スヘキ岩井副領事ニ携行

セシムヘキ書翰

拜啓陳者今般貴館岩井副領事ヲシテ香港ニ赴キ特別工作ニ従事セシムルコトト相成候處同副領事赴香ノ上ハ同地中村

總領事ノ指導ノ下ニ特ニ左記ノ詣點ニ留意ノ上最善ノ努力ヲ致ス様御申聞ケ相成度此段申進候 敬具

記

一、錢永銘、杜月笙兩氏ノ如キハ新中國ノ柱石トナルヘキ人物ナルニ付我方トシテハ是非共其ノ出馬ヲ希望シ居レリ
二、兩氏ノ生命財産ノ安全保護ハ勿論行動ノ自由モ我方ニ於テ十分之ヲ保障スヘキコト

三、錢氏トハ將來日支提携ノ具体策ニ付又杜氏トハ大上海ノ繁榮策ニ付夫々關係責任最高當局ト懇談方取計ヲハシムル用意アリ
本信寫送付先 香港

254 昭和13年10月28日 五相會議決定

〔國家總動員強化ニ關スル件〕

國家總動員強化ニ關スル件

昭和十三年十月二十八日
五相會議決定

現下支那事變ノ遂行竝ニ長期ニ互ル建設ニ資スル爲今後

愈々精神作興、軍備充實、生産力擴充、貿易振興及國內調整ヲ圖ルコト最モ緊要ナルヲ以テ國家總動員法中必要ナル事項ヲ速ニ發動シ總動員態勢ヲ強化ス之カ爲關係勅令ハ遲クモ本年末迄ニ制定公布ス

(備考)

必要ナル事項トハ差當リ別紙ノ範圍トス

(別紙)

- 一 法第五條ニ依ル國民ノ協力ヲ求ムル件
- 一 法第六條ニ依ル職工爭奪防止ノ件
- 一 法第六條ニ依ル賃金規正ノ件
- 一 法第十條ニ依ル物資ノ使用收用ノ件
- 一 法第十一條ニ依ル資金運用異常ナル高率増配ノ抑制及留保益金ノ處分ニ關スル件(留保)
- 一 法第十三條ニ依ル施設ノ使用收用ノ件
- 一 法第十三條ニ依ル土地、工作物ノ管理使用收用ノ件
- 一 法第十六條ニ依ル事業設備ノ新設擴張改良ニ關スル件(資金調整法ニナキ部分ヲ補充スルヲ目的トス)
- 一 法第十九條ニ依ル價格統制ノ件

一 法第二十一條ニ依ル國民登錄ノ件

一 法第二十二條ニ依ル技能者養成ニ關スル件

說明

對支大作戰ハ廣東及武漢ノ陥落ニ依リ一段階ヲ劃スルカ如シト雖今後廣大ナル地域ノ治安確保、長期ニ互ル建設ノ大業ヲ成就スルハ勿論第三國ノ干涉壓迫ニ對處スル爲軍備充實、生産力擴充ヲ遂行スルコト最モ緊要ナリ右ト併行シ貿易振興及國內調整ヲ圖リ以テ軍備ト國力ノ均衡、國民負擔ノ公正化等ニ善處スルヲ要ス



255 昭和13年11月1日 近衛内閣總理大臣
在本邦クレイギー英國大使 會談

英國政府ヨリ日中和平調停提議について

近衛總理、「クレイギー」英國大使會談要旨(總理未閱)

一三、一一、一

於 總理官邸

(欄外記入)

「クレイギー」英國大使ハ午後二時官邸日本間ニ近衛總理ヲ來訪、會談ノ機ヲ得タルヲ謝シタル後、

大使 最早外相ニアラサル閣下ニ御會見ノ機ヲ御願スルハ

稍々當ヲ得サルモノトハ考フルモ、實ハ有田新外相任命前本國政府ヨリ總理ニ申入ルル様訓令ヲ受ケ居タルモノニシテ本日ハ本國政府ノ訓令ニ基キ非公式ニ英國政府ノ提案ヲ申入ルルナリ。

最近英國政府ハ信賴スヘキ筋ヨリ日本政府トシテ英國政府ノ調停ヲ歡迎スヘシ(Japanese Government would welcome)トノ趣旨ヲ耳ニシタル(It has reached the ears of the British Government that...)趣ヲ以テ、英國政府ハ此ノ際調停者ノ資格ニ於テ(in the intermediary capacity)其ノ「サーヴィス」ヲ爲スヘシトノ意ニ之ヲ解シ自分ニ對シテモ相談アリタル次第ナルカ、自分トシテハ日本政府側ニハ何等右ノ如キ徵候ヲ見出シ得スト(I could detect no sign on the part of the Japanese Government)回答シ居リタル處、本國政府トシテハ今次ノ悲慘ナル日支事變ヲ終結セシムルニハ假令望ミ稀薄ナリト雖モ(even least promising)英國政府トシテハ斡旋ノ努力ヲ爲スコトヲ忽セニスヘカラサルモノナリトノ意向ヲ有スル所ナリ。英國政府調停ノ條件ヲ本日簡略ニ明示シ日本政府ニ對シ非公式ノ英國側提案ヲ爲スモノナ

り。條件ハ即左ノ通りナリ、
一、日本ハ支那ニ於ケル其ノ軍隊ヲ徐々ニ併シナカラ完全
ニ (gradual but complete withdrawal) 撤退スルコト
二、列國ハ支那ニ於テ完全ナル平等權 (complete equality
among all powers in China) ヲ有スルコト
三、日支事變ニ關連スル一ノ協定 (a Sino-Japanese
agreement) ニ英國政府モ加入シ (British Government
will subscribe) 支那ニ於ケル凡ユル排日特ニ通商上ノ
排日ニ支那政府筋ノ活動スルコトヲ (cessession of
official Chinese activities in anti-Japanism especially in
trade) 停止セシメ之カ實行ニ關シテハ英國政府其ノ責
ニ任スルコト
右條件ヲ全ク非公式ニ且極秘「プライベート」ニ御開示
申上ケ英國ハ斡旋ノ勞ヲ惜シム者ニ非ストノ英國政府從
來ノ言明ヲ茲ニ重ネテ申述ヘ且日支兩國間聯絡ノ機關
(in the channel of communication) トシ或ハ其ノ他有益
且希望セラルル如何ナル他ノ方法ニ於テモ (any other
way which would be useful or desirous) 斡旋ヲ申入ルル
モノナリ。

本件ハ慎重考慮ヲ要スヘク今日閣下ヨリ何等確答ヲ戴ク
コトハ自分ノ必スシモ期待セサル所ナルカ出來得ヘケン
ハ閣下ヨリ何等カ本件ノ如キ英國側ノ努力カ其ノ時期ニ
非ス (inopportune) ト認メラルルヤ或ハ左ニ非サルヤニ
付今日茲ニ閣下ノ個人的御意見ナリトモ御伺スルヲ得ハ
幸甚ナリ。

今ヤ漢口モ陥落シ日支事變ヲ終結セシムルカ如キ努力ハ
何ナリトモ忽セニスル時機ニ非ス英國政府カ本申入ヲ爲
ス所以ナリ。

總理 英國ノ日支紛争終結ニ對スル希望、場合ニ依リテハ
調停ノ勞ヲ惜シマスストノ意向ハ茲ニ感謝スルモノナリ。

只今大使御申出ノ事項ハ重要且「デリケート」ナル問題
ナルニ付本日直ニ御答ヲ致シ兼ヌル次第ナリ。

漢口、廣東ノ攻略モ一段落ヲ告ケ日支事變カ今ヤ一轉換
期ニ到達セルコトハ自分モ齊シク認ムル所ナリ。今後日
本トシテ如何ニスヘキヤノ問題ニ付テハ實ハ今日閣議ノ
最中ニシテ自分ハ閣議中中座ヲシ貴大使ニ會見シ居ル實
狀ナリ、從ツテ貴大使御申入ノ件ニ付テハ篤ト國內ノ情
勢竝ニ支那ノ情勢ニ付考慮ヲ加ヘ近キ内ニ自分個人トシ

テノ意見或ハ回答ヲ申述ヘルコトトモナルヘク本日即座ニ御返答ハ致シ兼ヌ。

大使 御懇篤ナル御言葉ヲ感謝ス。現在ノ如キ非常時ニ (in the present emergency) 於テ英國トシテ何等カ御役ニ立チ度シトノ意向ヲ以テ本件「ブライヴェート」ノ申入ヲ爲スモノナルニ付此ノ點ハ十分御承知置ヲ戴キ度ク閣下カ閣議中中座セラレタルコトニ對シテハ御禮ヲ申上クル所ナリ。

此ノ機會ニ於テ本國政府ノ訓令ニ基ク譯ニハ非サルモ、最近ノ自分トシテ憂慮シ居ル事柄ニ付自分個人トシテノ意見ヲ申述ヘ度キ處、御承知ノ通り自分ハ日英國交調整竝ニ極東ノ將來ニ付種々努力ヲ重ネ來タルモノナルカ最近自分ノ仄聞スル所ニ依レハ (it came to my knowledge) 日本政府ハ防共協定ノ強化ニ眞面目ニ考慮 (serious consideration) ヲ加ヘ居ル由ナルカ、斯ノ如キ強化ニシテ實現センカ日英間諸問題ノ解決ハ益々困難ナルヘシト思考ス。

勿論防共協定其ノモノニ (Fact as such) 對シ英國トシテ何等異議アル者ニ非ス、唯所謂防共協定ハ一般ニハ廣汎

ナル政治的意味ヲ有スル (wide political significance) カ如ク解セラレ事實上ハ共產主義ニ備フルモノニ非スシテ却テ英國ニ向ケラレタルモノ (against Great Britain) ナリト解セラルル向モアルヤニ觀測セラル、英國政府トシテハ世界各國ノ協調ニ基ク世界平和ノ維持ヲ冀願シ居ルモノニシテ所謂「イデオロヂカル・キャンブ」ヲ結成スルカ如キハ英國政府ノ希望スル所ト相去ルコト甚タ遠キ所ナリ。日本カ獨逸竝ニ伊太利ト親善關係ヲ増進スルコトハ英國トシテモ歡迎スル所ナル事ハ明瞭ニ御諒解ヲ戴キ度シ、唯親善關係ハ他國ノ犠牲ニ於テ或ハ他國ニ向ケラレタルカ如キ方法ニ於テ之カ増進ヲ圖ルヘカラスト云フカ英國政府ノ意向ナリ、世界諸國ハ相共ニ携ヘテ協力スルカ如キ基礎ニ基カサルヘカラサルモノニシテ世界列國ヲ分割 (divide) スルカ如キ方法ヲ採ルハ誠ニ不幸ナル所ト考フル次第ナリ。

總理トノ會見ハ或ハ今日ノモノヲ以テ最後ナルヤモ測ラレサルト考ヘタルニ付日英國交調整ノ見地ヨリ茲ニ純然タル個人的意見ヲ申述ヘタル所ナルカ自分カ僭越ニモ日本ノ國內問題ニ批判ヲ加ヘタリトノ意味合ニ御考ナキ様

特ニ希望ス、唯茲ニ私見ト云フモ本國政府トシテモ恐ラク自分ノ考フル所ト同意見ナルヘシト考ヘタレハコソ敢テ開陳シタル次第ナリ。尤モ英國政府トシテモ共產黨反對ナルコトハ御諒解戴キ度ク、唯共產主義或ハ「コミンテルン」ヲ反撃スル方法ヲ異 (different way of fighting against communism or Comintern) ニスルノミナリ。

總理 防共協定ハ防共ヲ目的トスルモノニシテ我國國論ノ中ニ防共協定ハ或ハ國際共產主義若クハ「ソ」聯邦ヲ目的トスルモノニ非スシテ英米其ノ他ノ國ヲ對象ト爲スモノナリトノ如キ言論ヲ爲ス者アルヤモ知レサルカ政府トシテハ防共ハ飽迄防共ニシテ何等他ノ目的ヲ有スルモノニ非ス、此ノ點ハ大使ニ於テ誤解ナキ様御諒解アリ度シ。將來防共協定強化ノ如キコトアリトスルモ斯ノ如キ強化モ亦今申述ヘタル範圍内ニ於テ爲スモノナルハ我々政府當局者ノ意向ナリ。

大使 御言葉ヲ伺ヒテ安心スル次第ナルカ、防共協定強化ノ日英兩國ノ輿論ニ及ホス影響ニ付テハ充分御銘記ヲ戴キ度ク強化實現ノ曉ニハ日英兩國間ノ諸難事ヲ益々困難ナラシムルモノナルコトヲ併セテ御含ミ戴キ度シ。

ト述ヘ更ニ、歡談數分、約四十五分ニシテ會談ヲ終ル。

(欄外記入)

十一月七日接受

256 昭和13年11月3日

東亞新秩序建設に関する日本政府声明

帝國政府聲明

(昭和十三年十一月三日)

今ヤ、陛下ノ御稜威ニ依リ、帝國陸海軍ハ克ク廣東、武漢三鎮ヲ攻略シテ、支那ノ要域ヲ戡定シタリ。國民政府ハ既ニ地方ノ一政權ニ過キズ。然レドモ同政府ニシテ抗日容共政策ヲ固執スル限り、コレガ潰滅ヲ見ルマデ、帝國ハ斷ジテ矛ヲ收ムルコトナシ。

帝國ノ冀求スル所ハ、東亞永遠ノ安定ヲ確保スベキ新秩序ノ建設ニ在リ。今次征戰究極ノ目的亦此ニ存ス。

コノ新秩序ノ建設ハ日滿支三國相携ヘ、政治、經濟、文化等各般ニ互リ互助連環ノ關係ヲ樹立スルヲ以テ根幹トシ、

東亞ニ於ケル國際正義ノ確立、共同防共ノ達成、新文化ノ創造、經濟結合ノ實現ヲ期スルニアリ。是レ實ニ東亞ヲ安定シ、世界ノ進運ニ寄與スル所以ナリ。

帝國ガ支那ニ望ム所ハ、コノ東亞新秩序建設ノ任務ヲ分擔センコトニ在リ。帝國ハ支那國民ガ能ク我ガ眞意ヲ理解シ、以テ帝國ノ協力ニ應ヘムコトヲ期待ス。固ヨリ國民政府ト雖モ從來ノ指導政策ヲ一擲シ、ソノ人的構成ヲ代替シテ更生ノ實ヲ擧ゲ、新秩序ノ建設ニ來リ參スルニ於テハ敢テ之ヲ拒否スルモノニアラス。

帝國ハ列國モ亦帝國ノ意圖ヲ正確ニ認識シ、東亞ノ新情勢ニ適應スベキヲ信ジテ疑ハズ。就中、盟邦諸國從來ノ厚誼ニ對シテハ深クコレヲ多トスルモノナリ。

惟フニ東亞ニ於ル新秩序ノ建設ハ、我ガ肇國ノ精神ニ淵源シ、コレヲ完成スルハ、現代日本國民ニ課セラレタル光榮アル責務ナリ。帝國ハ必要ナル國內諸般ノ改新ヲ斷行シテ、愈々國家總力ノ擴充ヲ圖リ、萬難ヲ排シテ斯業ノ達成ニ邁進セザルベカラズ。

茲ニ政府ハ帝國不動ノ方針ト決意トヲ聲明ス。

257 昭和13年11月3日

東亞新秩序建設に邁進すべしとの近衛総理ヲ
ジオ演説

近衛總理大臣「ラヂオ」放送(十一月三日)

本日ココニ明治節ヲ迎ヘ、明治天皇ノ盛德ヲ偲ヒ奉ルニ際シ、天皇ノ御遺業タル東洋平和ノ確立ニ關シ、政府ノ所見ヲ開陳スルハ私ノ最モ光榮トスル所テアリマス。

今ヤ廣東陷落ニ引ツイテ支那内地ノ心臟漢口モ亦我有ニ歸シ、近代支那ノ全機能ヲ支配スル七大都市ノ全線ヲ包容スル龍大ナル地區、即チ所謂中原ハ全ク日本軍ノ掌中ニアルノテアリマス。中原ヲ制スルモノハ即チ天下ヲ制ス、蔣政權ハ事實ニ於テ一地方政黨ニ轉落シ終ツタノテアリマス。日本ハ一方ニ於テ、外部カラノ干涉ヲ排撃スルニ足ル十分ノ精銳ナル戰鬥力ヲ保留シツツ、餘裕綽々トシテコノ戰果ヲ獲得シタノテアリマス。コレ偏ヘニ陛下ノ御稜威ノ下、忠勇ナル將兵ノ奮闘ニ依ルモノテアリマシテ、日本國民ノ感激ハ比類ナキ迄ニ高潮シタノテアリマス。

コノ輝シキ戰果ヲ思フニツキマシテモ、國民ノ感謝ハ先ツ

何ヨリモ數萬ノ戰歿者ト負傷者トニ向ツテ捧ケラレネハナリマセヌ。吾々ハコノ尊キ犠牲ニ對シテ二ツノ義務ヲ感スルノテアリマス。第一ハ是等犠牲者ノ志ヲ嗣イテ戰ノ目的ヲアクマテモ貫キ通スコトテアリマス、第二ハ是等犠牲者ノ遺族家族ニ對シテコレニ報イルコトヲ忘レテハナラヌト云フコトテアリマス。

今ヤ支那ヲ如何様ニ處理スルトモ、ソノ鍵ハ全ク日本ノ手ニアルノテアリマス。然シ乍ラ、我カ日本ノ眞ニ希望スル所ノモノハ支那ノ滅亡ニアラスシテ支那ノ興隆ニ在ルノテアリマス。支那ノ征服ニアラスシテ支那トノ協力ニアルノテアリマス。日本ハ、東洋人トシテテノ自覺ニ目醒メタル支那國民ト相携ヘテ、眞ニ安定セル東亞ノ天地ヲ築カンコトヲ欲スルモノテアリマス。實ニ支那ノ民族の情勢ヲ認識シ、支那ノ獨立國家トシテノ完成ヲ必要トスルコトニ於テ、日本程切實ナルモノハナイノテアリマス。

等シク東亞ニ相隣スル日本ト滿洲ト支那トノ三大國カ各自ノ個性ヲ存分ニ生カシツツ、東亞保全ノ共同使命ノ下ニ固キ結合ヲナスヘキ關係ニアル事ハ正ニ歴史ノ必然テアリマス。然ルニ日支兩國ノ間ニ於ケル此理想ノ實現カ國民政府

ノ誤レル政策ノ爲ニ阻止セラレタル事ハ獨リ日本ノミナラス全東亞ノ爲ニ遺憾ノ極テアリマス。抑々國民政府ノ政策ノ基調ハ、歐洲大戰後ノ反動期ニ於ケル一時ノ風潮ニ便乘シタル淺薄ノモノテアリマシテ、此ハ斷シテ支那國民本來ノ良知良能ニ根差シタルモノテハナカツタノテアリマス。

殊ニ政權維持ノ爲ニハ手段ヲ選ハス、支那ノ共產化竝ニ植民地化ノ勢ヲ激成シテ顧ミナカツタ事ハ新支那建設ノ爲ニ身命ヲ賭シテ戰ヒタル幾多憂國ノ先輩ニ對スル反逆テアルト云ハナケレハナリマセン。コレ日本カ東亞ニ於ケル二大民族カ同文相搏ツノ悲劇ヲ演スルヲ欲セサルニ拘ラス、猶且蔣政權打倒ノ爲ニ戈ヲ執ツテ起ツニ至リマシタ所以テアリマス。

日本ハ今ヤ支那ノ覺醒ヲ望ンテ止マサルモノテアリマス。支那ニ於ケル先憂後樂ノ士ハ速ニ支那ヲシテ本來ノ道統ニ立歸ラシメ、更生支那ヲ率ヒテ東亞共通ノ使命遂行ノ爲ニ蹶起スヘキテアリマス。既ニ北京、南京ニハ更生ノ氣運脈々タルモノアリ、又蒙疆ニハ蒙古復興ノ氣カ漲ツテ居ルノテアリマス。五千年ノ長キ歴史ヲ通シ幾度カ世界文化史上ニ炬火ヲ點シタル支那民族ハ、其偉大性ヲ發揮シ新東亞

建設ノ大業ヲ分擔スル事ニヨリ、世界文化ニ新ナル光明ヲ齎シ、祖先ニ恥チサル歴史ヲ殘スヘキテアリマス。國民政府卜雖モ、此支那民族本來ノ精神ニ立歸リ、從來ノ政策卜人的構成トヲ改メ全ク生レ更リタル一政權トシテ支那再建ニ來リ投スルニ於テハ、日本ハ固ヨリ之ヲ拒ムモノテハナインテアリマス。

世界各國ハ又此東亞ニ於ケル新狀勢ノ展開ニ對シ、明確ナル認識ヲ持ツヘキテアリマス。從來支那ノ天地カ帝國主義の野心ニ本ツク列強角逐ノ犧牲トナリ、常ニソノ平和ト獨立トヲ脅威セラレツツアリシコトハ、歴史ニ徴シ明白テアリマス。日本ハ今日以後カクノ如キ事態ニ對シ根本的修正ノ必要ヲ認め、正義ニ基ク東亞ノ新平和體制ヲ確立セン事ヲ要望スルモノテアリマス。

固ヨリ日本ハ列國トノ協力ヲ排斥スルモノテハアリマセン。又第三國ノ正當ナル權益ヲ損傷セントスルモノテモアリマセン。モシ列國ニシテ帝國ノ眞意ヲ理解シ、此東亞ノ新狀勢ニ即シテ其政策ヲ講セントスルニ於テハ、帝國ハ東洋平和ノ爲ニ之ヲ協力スル事ヲ吝ムモノテハナイノテアリマス。日本カ夙ニ共產主義ト戰ヒ拔カントスル熱情ヲ有スルコト

ハ、世界周知ノ事實テアリマス。「コミンテルン」ノ企圖スル所ハ東洋ノ赤化テアリ、世界平和ノ攪亂テアリマス。日本ハ蔣政權ノ所謂「長期抵抗」ノ背後ニ妄動スル赤化ノ根源ニ向ツテ、斷乎之カ絶滅ヲ期スルモノテアリマス。幸ニシテ防共ノ盟邦獨逸及伊太利ハ、日本ノ東亞ニ於ケル意圖ニ共感シ、今次事變ニ際シ兩國ノ寄セタル精神の援助カ我カ國民ヲ鼓舞スル所大ナルモノアリシハ吾々ノ深ク多トスル所テアリマス。吾々ハ事變ヲ通シ、此盟約ヲ愈々緊密ニスル必要ヲ痛感スルノミナラス進ンテ共通ノ世界觀ノ下ニ、世界秩序ノ再建ニ協力セントスルモノテアリマス。

實ニ現下ノ世界ニ必要ナルハ、眞ニ公正ナル均衡ノ上ニ平和ヲ築クコトテアリマス。過去ノ諸原則カ事實上、不均衡ナル原狀ノ維持ヲ鐵則化シ固定化スル所ニアツタコハ否ムヘクモアリマセヌ。聯盟規約ノ如キ國際條約カソノ權威ヲ失墜シタ事ハ、實ニ此ノ不合理ニソノ根本原因カアルノテアリマス。國際正義ヲシテ一個ノ美文タルニ止マラシメス、通商、移民、資源、文化等ノ人間生活ノ各部門ニ亘リ之ヲ綜合シタル見地ニ立脚シ、現實ニ即應シツツ歴史ノ發展ニ併行スル新平和體制カ創造セラレネハナラヌノテアリ

マス。而シテ以上ノ諸條件ヲ完備スルコトカ、現下ノ一般の危機ヲ克服スル唯一ノ手段テアルコトヲ確信スルモノテアリマス。

戰場ノ勇士ヲ絶對ニ信賴シツツ黙々トシテ銃後生産ニ從事シ、長期戦ノ姿勢ヲ充實シツツアル全國民ノ姿ハ、正二日本人本來ノ面目ヲ現代ニ再現シタルモノテアリマス。日本ノ消長發展カ常ニ國體ニ對スル自覺ト相併行スルコトハ、日本歴史カ如實ニ證明スル處テアリマス。我皇室ノ御軫念アラセラルル處カ常ニ東洋永遠ノ平和確立ニ存スルコトヲ拜察シ奉ルトキ、吾等臣民タルモノハ道德的使命ノ重且大ナルニ恐懼感激セサルヲ得ナイノテアリマス。今ヤ日本國民ハ肅然襟ヲ正シテ自らニ課セ^レラレタル責任ヲ直視セネハナリマセヌ。東亞諸國ヲ聯ネテ、眞ニ道義的基礎ニ立ツ自主的連帶ノ新組織ヲ建設スル任務カ、如何ナル意義ヲ有シ、如何ナル犠牲ヲ求メ、如何ナル用意ヲ必要トスルカニ就テ、徹底セル理解ヲ持チ斷シテ認識ヲ誤ルコトカアツテハナラナイノテアリマス。モシ漢口廣東ノ攻略ヲ以テ一轉機トシテ泰平ノ時代カ直ニ到來スルカ如キ思想ヲ抱ク者アリトセハ、カクノ如キハ今次事變ノ重大意義ヲ理解セサル

モノニシテ、天下之以上ノ危險ハナイノテアリマス。新シキ東亞ノ築設ヲ擔當スヘキ日本ハ、其國民生活ノ全分野ニ於テ新シキ創造ノ時代ニ入ツタノテアリマス。コノ意味ニ於テ、眞ノ戦ハ今始マツタノテアリマス。眞ニ偉大ナル歴史の國民タランカ爲メニ、吾々ハ上下一致固キ信念ト決意トヲ以テ、内外整備建設ニ邁進シナケレハナラヌノテアリマス。

258

昭和13年11月17日

在北京堀内大使館參事官より
有田(八郎)外務大臣宛(電報)

土肥原機關による吳佩孚擁立工作の急速進展
と北支那方面軍などの反発について

別電

昭和十三年十一月十七日発在北京堀内大使館

參事官より有田外務大臣宛第一七〇八号

中央政府樹立問題に関する北京特務部の意見

付記一

昭和十三年十一月十一日、北支那方面軍司令

部作成

「和平救國工作指導要綱」

二

昭和十三年十一月十七日

北京 11月17日後發

本省 11月17日夜着

第一七〇七號(部外極秘)

(1) 新政府樹立工作ニ關シ最近土肥原機關ニ依リ吳佩孚ヲ首班トスル中央政府樹立ノ工作急激ニ具體化シ(聯合委員會側ニ於テ行ヘル反共救國運動ニモ刺戟セラレ)大體本月二十日頃ヨリ各方面ノ要人ニ對シ(蒋介石以外殆ント一切ノ要人ヲ含ム)反將、反共ノ通電ヲ發シ二十五日ヲ期シ中央政府ノ準備機關タル元老院ヲ組織シ之ヲシテ急速ニ吳ヲ大總統ニ推戴セシムル運トナルニ至レリ

二、然ルニ右工作ハ軍及臨時、維新政府側トノ聯絡ヲ缺キ居タル爲軍司令部及特務部ニ於テハ中央政府ハ漢口、廣東等ニ政權樹立セラレ蔣政權内ヨリ要人引拔ノ能否ニ關スル目途付キタル時期ニ於テ徐ニ樹立スルヲ可トスヘク吳佩孚ノ工作ニ引摺ラレ急速ニ中央政府樹立ニ着手スルハ臨時、維新政府ヲ動搖セシムルモノトシテ一時意見ノ對立ヲ生スルニ至レリ

三、右ニ關シ十六日喜多部長本官ヲ來訪シ右ノ如キ經緯ヲ述

ヘ結局兩者ニ於テ會談ノ結果元老院ノ樹立ノ工作ハ一先ツ之ヲ延期スルコトトシ

不取敢吳ヲ委員長トスル綏靖委員會ナルモノヲ徐州、開封邊ニ(北京ニ置クハ甚タ迷惑ナリトノ意見ノ爲)設置シ之ヲシテ通電其ノ他ニ依リ反蔣、反共ノ工作ヲ實施セシメ其ノ反響ヲ見タル上徐々ニ中央政府樹立ノ工作ニ移ルコトニ大體話合纏マリ土肥原及喜多兩氏共十八日上海中央ト協議ノ上決定ヲ仰クコトトナリタル趣説明アリタルニ依リ本官ハ對支特別委員會ハ五相會議ニ隸屬シ五相會議ノ決定方針ニ從ヒ工作スヘキモノナルヲ以テ中央政府ノ樹立ニ先チ先ツ反蔣、反共等ノ宣傳工作ニ依リ徐々ニ右樹立ノ機運釀成ヲ計ルニ努ムヘキコト又新中央政府ハ臨時、維新ノ新政權ノ基礎ノ上ニ樹立セシムヘキモノナルコトハ當然ノ施策ト了解シ居リ從テ今日諸般ノ目安モ付カス且新政權側トノ連繫モ遂ケスシテ早急ニ前述樹立工作ノミヲ進ムルコトハ却テ將來ノ人的工作ニ支障ヲ來スノミナラス臨時、維新新政府等既ニ其ノ基礎固マラントシツアルモノ迄モ失フ結果トナリ適當ナラス

(3) 寧口今後各地ニ於ケル新政權ノ樹立ヲ待チ是等各政權ヲ

基礎トシ且出來得レハ國民黨系ノ人物ヲモ網羅シテ今日ノ聯合委員會ヲ擴大強化スル如キ方向ニテ進ムコト最適ト思考シ居ルヲ以テ軍ノ意嚮ニ贊成ナル旨ヲ述ヘタリ

四、本件ニ對スル臨時政府側ノ空氣ニ關シテハ喜多部長ヨリ當地軍側ノ考ヲ説明シタル上王克敏ノ意嚮ヲ質シタル處王ハ元來自分カ臨時政府ノ設立ヲ引受ケタルハ主トシテ國民政府ノ切崩ニ依リ事變ノ速ナル解決ヲ誘致スルト共ニ占領地域内ニ於ケル善政ヲ布キテ人心ヲ收攬スル政治工作ヲ擔當セントスルニ存シタルモノナルカ不徳ノ致ス所今日迄右施策ニ成功スルニ至ラス今日トシテハ臨時、維新兩政府等ノ新政權ノ基礎ヲ着々固メ其ノ連繫ヲ益々緊密ナラシメ行クコト結局國民政府ノ切崩ト崩壞ヲ促進スルモノトノ考ニテ進ミ居ル次第ニテ若シ土肥原機關ノ工作カ自分等ノ行方ニ對スル不信ニ起因スルモノトセハ何時ニテモ其ノ職ヲ去ル考ナル旨ヲ述ヘタルヲ以テ

部長ハ本件ハ各方面ニ於テ相當機微ナル關係ヲ有スルモ前記軍側ノ意嚮ニモ鑑ミ慎重自分ト其ノ去就ヲ共ニセラレ度シト說示セル由ナルカ曩ニ述ヘタル綏靖委員會ハ上記困難打破ノ爲王揖唐ノ提出セル案ニシテ右程度ノモノ

ナラハ大體異存ナキ趣ニテ王揖唐、湯爾和等他ノ要人モ大體王委員長ト進退ヲ共ニセントシ居ル模様ナリ(齊燮元ハ治安部トノ關係上綏靖委員會ニモ相當反對シ居ル由)

尙土肥原機關ノ工作ニ對シテハ最初殷同邊リ相當緊密ナル連繫ヲ執リ居タル模様ナルカ其ノ後張燕卿、池宗墨、李景銘(前庸報社長)等相當札付カ關係スルニ至リタル爲殷モ右工作ニモ見極ヲ付ケ最近手ヲ引クニ至レル由ナリ尙坂西中將ハ本官トノ話合ニ依レハ餘リ急進主義ニ贊成シ居ラサルモノト存ス

五、本問題ニ關シテハ上記ノ如ク土肥原、喜多氏ノ外原田少將モ中央ニ參集スル筈ナルカ當地特務部ヨリ持參ノ意見書御參考迄ニ別電第一七〇八號ノ通り内報ス本電別電ト共ニ上海ヘ轉電セリ

(別電)

北京 11月17日後發
本省 11月17日夜着

第一七〇八號(部外極秘)

一、時期⁽¹⁾

漢口、廣東ニ政權樹立セラレ蔣政權内ヨリ要人引抜ノ能
否ニ關シ目途付キタル時期ニ於テ徐ニ樹立スルヲ可トス
吳佩孚ノ工作ニ引摺ラレ急速ニ中央政府ノ樹立ニ着手ス
ルハ最モ警戒スルヲ要ス

二、方法竝ニ機構

(一) 新中央政府ハ分治合作ノ方式ニ依リ各地方政權ヨリ所
要ノ閣僚ヲ入ルルト共ニ諸勢力ノ首腦者ヲ加入セシメ
テ組織シ首班ハ之ヲ虛位タラシムル如クス

(二) 地方政權ハ其ノ位置ニ依リ特質ヲ異ニスルモ相當廣範
圍ノ自治ヲ許シ(地方的外交處理竝ニ治安維持ノ爲所
要ノ地方軍ヲ有セシム)特ニ北支及蒙疆ハ帝國ノ國防
的見地ニ基キ特殊性ヲ強化ス

(三) 各地方政權ハ必スシモ同一ノ機構權限タルコトヲ要セ
ス各地ノ事情ト帝國ノ其ノ地方政權ニ求ムルモノニ依
リ確保スヘキ條件ヲ異ラシム

(四) 新中央政府ノ首府ハ之ヲ南京ニ置キ北支蒙疆地方ノ特
殊性強化ニ便ナラシム

(五) 新中央政府ハ帝國ノ國策ニ反セサル限り細部ノ拘束ヲ

加ヘス

三、名稱

新中央政府ノ名稱ハ分治合作ノ主義ニ基キ聯邦國家的の印
象ヲ施政者竝ニ一般民衆ニ與フル必要上「中華民國聯合
政府」等ノ合邦政府の名稱ヲ附與ス
又人心一轉ノ爲年號ヲ改ム

四、樹立要領

樹立要領ハ「支那新中央政府樹立指導方策」ニ準據シテ
實施セラルヘキモ中央部ニ於テハ新中央政府ト地方政權
ノ權限其ノ他ニ關シ充分ナル研究ヲ遂ケ樹立指導機關ニ
的確ナル準據ヲ與フヘク又此ノ樹立工作ハ現存政權ノ指
導ニ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ樹立指導機關ハ兩軍司
令部及特務部ト密接ナル聯絡ヲ保持シツツ之ニ任シ工作
シ齟齬ヲ來ササル如クスルヲ要ス

(付記一)

和平救國工作指導要綱

昭二三、二、一一

甲集團司令部

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

第一、方針

一、土肥原機關及北支、中支兩軍司令官ノ密接ナル連絡諒解ノ下ニ恰モ民意ニ依リ和平救國會ヲ組織セシメ蔣政權勢力ノ切崩及離散軍隊ノ收編工作ヲ實施セシメ其成果ヲ擧ケ大功ヲ樹立セシメ名實共ニ現時局收拾ノ實勢力ヲ培養セシム

二、本謀略工作中吳佩孚ヲ中心トスル工作ハ現存政權ノ範圍外ニ於テ行フモノトス

三、本工作成功ノ見透確實トナレハ現存政權ヲ合シ新中央政府ノ樹立ニ着手セシム

第二、指導要領

一、土肥原機關ト北中支兩軍特務部トノ完全ナル諒解協調ノ下ニ現存政權ノ指導及和平救國會工作ノ指導ニ相互齟齬ヲ來サシメサル如ク絶ヘス密接ナル連絡ヲ保持スルモノトス

二、上海、北京、天津ノ在野要人ヨリ和平救國時局收拾ノ通電ヲ發セシム

三、全國官民有力者ヲ以テ和平救國會(弭戰救國會)ヲ組織セシメ停戰和平救國救民ノ通電ヲ發セシム

四、各民衆團體(政府、省、特別市公署其他政府機關及新民會等ヲ除ク)若クハ個人ハ蹶起シテ左記對象ニ對シ左記要旨ノ通電ヲ發ス

原案ヲ若干修正スルコト

(イ)反共倒蔣、和平救國、東亞新秩序ノ建設ニ協力親日防共等々

(ロ)日本軍ヘハ不要「進行見合セハ」……ハ反日本軍トナル處アリ現在ハ尙敗殘軍ヲ追擊中ニシテ戰果ノ擴大ハ

之カラナリ

時期尙早

六、臨時政府維新政府ハ本工作ト平行シテ反共救國會ヲ豫定計畫ニ基キ實施シ全國代表大會開催ノ機運ヲ促進ス

七、十一月下旬「聯合委員會常任委員會ニ於テ審議スヘキ全國代表大會」ト「土肥原機關ノ指導スル國民代表大會」

トノ目的組織、開催要領日時場所等ヲ討議研究セシメ密接ニ連繫セシム

而シテ右代表大會ノ實施ハ臨時、維新兩政府管轄地域内ニ於テハ聯合委員會ノ指導ニ依リ兩政府之ヲ實施シ、其

他ノ地區ニ對シテハ土肥原機關ノ指導ニヨリテ外方ヨリ發起セシメ内外呼應シテ眞ノ全國代表大會ノ實ヲ備ヘシ

ム

右全國代表大會ハ十二月中旬ト豫定ス

ハ、此ノ間適當ノ地ニ於テ離散軍隊ノ收編ヲ行ハシム

九、以上ノ工作順調ニ進展セハ更ニ計畫ヲ樹立檢討ス

(付記二)

吳佩孚工作大要案

於東京

昭和十三年十一月十七日

第一期 和平救國工作

一、上海、北京、天津ノ在野要人ノ團體ハ速カニ停戰和平、

元老ノ時局收拾要望ノ通電ヲ發セシム

二、全國ノ各民衆團體若クハ個人ハ十一月二十日前後ニ一齊

ニ蹶起シテ左記對象ニ對シ和平停戰要望ノ通電ヲ發出ス

對象

(一)元老(出馬懇請)

(二)蔣以外ノ交戰軍事長官

(三)日本側ノ軍事長官、各主務大臣、樞密、貴衆各院議長、各大新聞通信社

三、吳佩孚ヲ中心トシ官民有力者ヲ以テ北京ニ停戰救國會

(弭戰救國會)ヲ組織シ「救國救民ノ爲即時停戰和平ヲ計

ラサルヘカラサル」旨ノ通電ヲ發ス

四、臨時政府及維新政府ハ本工作ト平行シテ反共救國運動ヲ

促進シ以テ停戰救國會ノ工作ニ呼應ス

五、停戰救國會ハ第三項通電發出後ナルヘク速カニ吳佩孚ノ

出馬ヲ懇請シ中華救國綏靖委員會ヲ組織シ吳佩孚ヲシテ

其委員長タラシメ和平救國贊同軍隊ノ集中收編ニ當ラシ

ム

中華救國綏靖委員會ハ不取敢其籌備處ヲ北京ニ開設スル

モナルヘク速カニ委員會ヲ京津以外ノ地區ニ設ク

六、前項工作ノ進展ニ伴ヒ停戰救國ハ國民大會開催ノ氣運ノ

醸成ニ努メ政府聯合委員會亦之ニ協力ス

右協定ノ爲派遣スヘキ要員等ノ選出ハ政府側ニ於テ之ヲ

決定スルモノトス

爾後第五項工作ノ成果發揚ヲ見ルニ至ラハ北京ニ國民代

表大會籌備委員會ヲ組織ス其指導及組織ハ別ニ定ム

七、國民代表大會ヲ北京ニ於テ開催シテ元老ノ選出及出馬ノ懇請ヲ爲ス其時機ハ追ツテ定ム

八、元老選出セハ元老府ヲ開設ス

第二期 建國工作

第一期ノ結果ニ基キ諸般ノ狀況ヲ考慮シ更ニ計畫ス



259 昭和13年11月17日 在上海日高総領事より
有田外務大臣宛(電報)

中央政權樹立工作をめぐる土肥原機関と現地

軍との意見対立につき報告

上海 11月17日後発
本省 11月17日夜着

第三四四〇號(極秘、部外秘)

⁽¹⁾ 谷公使へ森島參事官ヨリ

一、本月三日南京ニ於ケル三省會議ノ際(喜多、原田、野村各少將、菅大佐、本官竝ニ秋山書記官等出席)聯合委員會議決ニカカル反共救國全國代表大會開催ニ當リテハ特別委員會側ノ計畫ト步調ヲ合スコト必要ナルヲ以テ特ニ上海ヨリ土肥原機關附晴氣少佐ノ來寧ヲ求メ土肥原機關

側ノ計畫ニ關シ説明ヲ聽取セリ晴氣少佐ハ詳細ナル内容ニ關シ充分承知セサルモノノ如クナリシモ十一月二十五日ヲ期シ全國代表大會ヲ開催スヘキ旨ヲ披露シタルカ右代表中ニハ維新及臨時兩政府代表者ノ參加ヲ豫定シ居ラス又右全國代表大會ハ反共救國ノ趣旨ヲ宣揚スルニ止マルヤ又ハ右ニ依リ直ニ中央政權樹立ニ移行セントスルモノナリヤ明白ヲ缺キタルモ北支竝ニ中支三省係官トモ(イ)⁽²⁾十一月二十五日ハ何レノ途時期尙早ナルコト(ロ)維新、臨時兩政府ヲ差措キテハ將來摩擦ヲ生スルコト必然ナルヲ以テ特別委員會側ノ中央政權樹立工作進捗ニ當リテハ適宜兩政府ト密接ナル聯繫ヲ保持スルコト緊要ナリ(ハ)中央政權樹立ニ當リテハ聯合委員會ヲ唯一ノ足場トスルノ要ナキモ聯合委員會又ハ臨時、維新兩政府ニ關聯性ヲ有セシムルコト必要ナリトノ結論ニ到達セリ

二、右ノ趣旨ニ基キ喜多、原田兩部長カ北京ニ於テ土肥原中將ト懇談スルコトナリタル處原田少將北上ニ先チ喜多部長ヨリ大要土肥原中將ト懇談シタル處妥結ニ至ラサルヲ以テ原田部長ノ北上ハ暫ク延期スルコト然ルヘク問題ハ結局中央部ノ裁決ニ依ル外ナカルヘキ旨電報アリタル

趣ニシテ二十日頃東京ニ於テ土肥原、喜多、原田等會合中央部ト協議スルコトニ決定セル趣ナリ

三、⁽³⁾本官ニ於テ陸海關係者ト懇談ノ際得タル印象竝ニ諸般ノ情勢ヲ綜合スルニ第二回聯合委員會ニ於テハ何等中央政府樹立工作ニ關シ議決スル所ナカリシニ拘ラス本邦諸新聞竝ニ通信カ中央政府樹立ノ前提トシテ大袈裟ナル報道ヲ爲シタル爲土肥原機關ニ於テハ第二回聯合委員會ハ中央部決定ニ基ク所定任務以外ニ逸脱シ中央政府樹立ニ專念シツツアルヤノ誤解ヲ抱ケル傾アリ且唐紹儀ノ横死ハ中央政府樹立ニ一大支障ヲ與ヘタル關係上ヨリモ幾分焦リ氣味ノ傾向アルヤニ看取セラルル其ノ間時局收拾上ノ至難ナル實情ニ胚胎シ中南支ハ暫ク措キ事態ヲ北支ニ限局シ一應北支ヲ固メ以テ時局ニ一段落ヲ付クルヲ以テ當面ノ急務ト爲ス意嚮モ一部ニ擡頭シ居ルニアラスヤト推察セラルル節ナキニアラス

四、強力ナル中央政府ヲ成ルヘク速ニ樹立スルコトハ對外關係處理上ノミヨリスルモ必要缺クヘカラサル所ナルカ徒ニ弱体ナル政府ヲ取急キ作ルモ左シタル效果ナカルヘク又維新、臨時兩政府ト無關係ニ工作ヲ進ムルトキハ將來

兩政府トノ間ニ對立的情勢ヲ誘致スルコト維新政府成立當時ノ經緯ニ鑑ミルモ明カナルノミナラス他方情報ニ依レハ吳佩孚ハ唐ノ生前ニ於テハ同人ト提携シ出馬スルノ決意強固ナリシモ今日ニ於テハ南方系要人ニシテ蹶起スル者ナキ以上必スシモ單獨出馬ヲ決意シ居ルモノトモ思考セラレサルカ如ク又吳佩孚ト靳雲鵬トノ提携モ充分ノ確實性ナキ趣ニモアリ將來中央政府樹立工作進行ニ當リテハ維新、臨時兩政府共充分ノ打合ヲ遂クルコト絕對ニ必要ニシテ徒ニ時期ヲ急カス廣東竝ニ漢口方面地方政權ノ樹立ヲ見タル上右各地政府ノ聯合體ニ右以外ノ有力分子ヲ網羅スルコト機宜ニ適スヘク此ノ際ノ措置トシテハ全國ニ對シ反共救國ノ運動ヲ擴大スルニ努ムルノ外ナカルヘシ

本官閣下御歸朝後土肥原中將ト直接懇談ノ機ヲ得ス其ノ眞意ノ確ニ突止メ居ル次第ニアラス上記ノ觀察正鵠ヲ失シ居ルヤモ知レサルモ御滯京中關係者ト御面談ノ機會アルヘシトモ存シタルニ付右御參考ノ爲電報ス

北京へ轉電セリ

260 昭和13年11月18日 在上海日高総領事より
有田外務大臣宛(電報)

土肥原機関が中央政權樹立工作に当たつて臨時・
維新両政府の関与を排除した理由について

上海 11月18日後発
本省 11月18日夜着

第三四五一號(極秘、部外秘)
往電第三四四〇號二關シ

谷公使へ森島ヨリ

土肥原機關側ニ於テハ維新、臨時兩政府ノ成立ニ當リテハ
事前ニ何等民衆ニ對スル工作ヲ爲サス要人ノ引拔ノミニ依
リテ之力樹立ヲ計リタル爲一般民衆ハ依然兩政府ヲ日本ノ
傀儡ト認メ居ル事實ニ鑑ミ中央政權樹立ニ當リテハ右ノ如
キ遣方ヲ變へ出來得ル限り民衆ノ自發的推戴ノ實質ヲ擧ケ
以テ中央政權ト民衆トノ連繫ヲ密ナラシムルト共ニ中央政
權成立後ノ指導ニ當リテモ右兩政府ニ對スルカ如キ遣方ヲ
變更セントノ方針ヲ持シ居リ全國代表大會ニ兩政府代表ヲ
除外セントスルハ一二ハ右根本方針ニ出ツルモノト認メラ
ル右前電補足迄

北京へ轉電セリ

261 昭和13年11月20日

日華協議記錄、同諒解事項および日華秘密協
議記錄

付記 昭和十三年十一月二十一日、參謀本部今井(武
夫)中佐作成

〔渡邊工作ノ現況(第二)〕

日華協議記錄

昭和十三年十一月二十日、日本側影佐禎昭、今井武夫ノ兩
名ハ中國側高宗武、梅思平ノ兩名ト左記ノ如キ内容ヲ協議
成立セリ

左記

第一、日華兩國ハ共產主義ヲ排撃スルト共ニ侵略的諸勢力ヨ
リ東亞ヲ解放シ東亞新秩序建設ノ共同理想ヲ實現センカ
爲メ相互ニ公正ナル關係ニ於テ軍事、政治、經濟、文化、
教育等ノ諸關係ヲ律シ善隣友好、共同防共、經濟提携ノ
實ヲ擧ケ強固ニ結合ス之カ爲左記條件ヲ決定ス

第一條 日華防共協定ヲ締結ス

其内容ハ日獨伊防共協定ニ準シテ相互協力ヲ律シ且日本軍ノ防共駐屯ヲ認メ内蒙地方ヲ防共特殊地域トナス

第二條 中國ハ滿洲國ヲ承認ス

第三條 中國ハ日本人ニ中國内地ニ於ケル居住、營業ノ

自由ヲ承認シ日本ハ在華治外法權ノ撤廢ヲ許容ス

又日本ハ在華租界ノ返還ヲモ考慮ス

第四條 日華經濟提携ハ互惠平等ノ原則ニ立チ密ニ經濟

合作ノ實ヲ擧ケテ日本ノ優先權ヲ認メ特ニ華北資源ノ

開發利用ニ關シテハ日本ニ特別ノ便利ヲ供與ス

第五條 中國ハ事變ノ爲生シタル在華日本居留民ノ損害

ヲ補償スルヲ要スルモ日本ハ戰費ノ賠償ヲ要求セス

第六條 協約以外ノ日本軍ハ日華兩國ノ平和克復後即時

撤退ヲ開始ス

但シ中國内地ノ治安恢復ト共二二年以内ニ完全ニ撤兵

ヲ完了シ中國ハ本期間ニ治安ノ確立ヲ保證シ且駐兵地

點ハ相方合議ノ上之ヲ決定ス

第三、日本政府ニ於テ右時局解決條件ヲ發表セハ汪精衛氏等

中國側同志ハ直ニ蔣介石トノ絶縁ヲ闡明シ且東亞新秩序

建設ノ爲メ日華提携並反共政策ヲ聲明スルト共ニ機ヲ見
テ新政府ヲ樹立ス

昭和十三年十一月二十日

日本側 影 佐 禎 昭

今 井 武 夫

中國側 高 宗 武

梅 思 平

日華協議記録諒解事項

一、第一條ノ防共駐屯ハ内蒙及連絡線確保ノ爲平津地方ニ駐

兵スルモノトス

又其駐兵期間ハ日華防共協定有効期間トス

二、第四條ノ優先權トハ列國ト同一條件ノ場合ニ日本ニ優先

權ヲ供與スルノ意トス

三、日本ハ事變ノ爲メ生シタル難民ノ救済ニ協力ス

昭和十三年十一月二十日

日本側

中國側

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

日華祕密協議記録

日華兩國ハ東亞ノ新秩序ヲ建設シ善隣トシテ強固ニ結合セ
ンカ爲メ今後左記諸條件ノ實行ヲ約ス

第一條 日華兩國ハ東洋ノ新秩序建設ノ爲メ相互ニ親日親
華教育並政策ヲ實施ス

第二條 日華兩國ハ蘇聯邦ニ對シ共同ノ宣傳機關ヲ設置シ
且ツ軍事攻守同盟條約ヲ締結シ平時ニ在リテハ相互ニ情
報ヲ交換シ内蒙竝其連絡線確保ノ爲メ必要ナル地域ニハ

日本軍ヲ新疆ニハ中國軍ヲ駐屯シテ協力シ戰時ニアリテ
ハ共同作戰ヲ實行ス

第三條 日華兩國ハ共同シテ東洋ノ半殖民地的地位ヨリ漸
次解放シ日本ハ中國ヲ援助シテ一切ノ不平等條約ヲ撤廢
セシム之カ爲メ協力シテ所要ノ處置ヲ講スルモノトス

第四條 日華兩國ハ東洋ノ經濟復興ヲ目的トシテ經濟的ニ
合作シ其具體的辦法ハ別ニ研究ス

尙經濟合作ハ中國以外ノ南洋等ニ於テモ同一主義ヲ以テ
合作ス

第五條 右條項實施ノ爲メ日華兩國ハ必要ナル委員ヲ置ク
第六條 日華兩國ハ成ルヘク亞細亞ニ於ケル日華兩國以外

ノ諸國ヲ本協定ニ加盟スルニ努ム

昭和十三年十一月二十日

(付記)

昭和十三年十一月二十一日

渡邊工作ノ現況(第二)

其一、高宗武等トノ協議

今井中佐

豫テ日支相互間ニ約束セシ如ク影佐大佐及今井中佐ノ兩名
八十一月十九日夜以來二十日夕刻ニ至ル迄上海東陸戰隊路
土肥原公館ニテ支那側代表高宗武及梅思平ノ兩名ト周隆
祥ヲ通譯トシテ會見シ東亞新秩序建設ヲ理想トスル日支相
互ノ同志トシテ共產主義及侵略的帝國主義ヨリ解放シテ東
亞ヲ再建設シ且之カ爲メ今事件ヲ解決センカ爲メノ方法手段
ニ就テ協議セリ

右協議ノ結果日華協議記録及同諒解事項ニ記名シ又日華祕
密協議記録ニ就テハ完全ニ意見一致シ且別紙日本政府聲明
案ヲ參考ノ爲メ支那側代表ニ閲讀セシメタリ

右ノ中日華協議記録及同諒解事項並日華祕密協議記録ハ夫

レ夫レ東京及重慶ニ持歸リ日支相方ノ同志ニ異存ナキニ於テハ上海及香港ノ連絡者ヲ通シテ其旨回答シ茲ニ始メテ效力ヲ發生シ汪精衛等ハ直ニ工作ノ實行ニ着手スルモノトス

其二、日華協議記錄及同諒解事項竝日華秘密

協議記錄

日華協議記錄及同諒解事項竝日華秘密協議記錄左ノ如シ^(省略)

其三、協議ノ經緯

第一、日本側協議記錄案ニ對スル支那側意見左ノ如シ

一、第一條防共協定ノ締結ニハ異議ナキモ日本軍ノ防共駐屯ヲ内蒙ニ限定セラレ度シトノ意見ヲ强硬ニ主張シタレ共連絡線確保ノ名義ニテ平津地方ニ駐兵スルコトヲ容認セシメ之ヲ諒解事項トセリ

但駐兵期間ヲ年限ヲ以テ限定セラレ度トノ主張ニ對シテハ防共協定有効期間トシテ之ヲ納得セシム

尙蒙疆ノ辭句ハ蒙古及新疆ト誤解セラルル恐アリト稱シタルヲ以テ之ヲ内蒙地方ト改メタリ

三、第二條「支那ハ滿洲國ヲ承認ス」ヲ「滿支相互ニ承認ス」ト改メシメントセシカ支那側ハ本事實ハ當然ノコ

トト主張スルノミナラス本協議ハ日支ノ代表間ノ協議ニシテ滿洲國ノ意志ヲ代表スルモノナキヲ以テ本協議ノ通りトナセリ

又「日本ハ支那ノ領土及主權ヲ尊重ス」トノ意味ヲ日本側ニテ加ヘント提議セシモ彼等ハ東亞新秩序建設ノ理想ノ下ニハ當然ナリト稱シ強ヒテ之ヲ要求セサリシヲ以テ削除セリ

三、第三條後段ハ日本側ヨリ「日本ハ在支治外法權ノ撤廢竝租界ノ返還ヲ考慮ス」トノ案ヲ提議セシモ支那側ニテ考慮ノ二字ヲ廢止シ直ニ實行ヲ確約セラレ度シト主張シ日本側ハ諸種ノ準備上困難ナリト應酬シ結局「日本ハ在支治外法權ノ撤廢ヲ許容シ竝ニ租界ノ返還ヲモ考慮ス」ト改ム

四、第四條ノ日本ノ優先權ニ對シ支那側ヨリ優先權トハ國內的ニハ日本ノ侵略主義ト解セラレ對外的ニハ列國ヲ刺激スルヲ以テ廢セラレ度シト主張セシモ結局諒解事項トシテ「優先權トハ列國ト同一條件ノ場合ニ日本ニ優先權ヲ供與スルノ意トス」ノ辭句ヲ設ケタリ
尙特別ノ便益トハ支那側ニ反響不良トノ提議ニテ特別

ノ便利ト改メタリ

五、第五條ハ新ニ提議シ支那側ヲシテ之ヲ容認セシメタルモ支那側ノ希望ニテ「日本ハ事變ノ爲メ生シタル難民ノ救済ニ協力スル」旨諒解事項ニ加フ

六、日本軍ノ撤兵ニ關シテハ日本側ヨリ最初期限ヲ加ヘ難シト極力主張シ且治安ノ確保ニ對スル保證トシテ逐次ニ撤退ノ止ムナキヲ主張シ支那側ハ本件ニハ本協定ノ眼目ナリト應酬シ日本側ヨリ「治安恢復後一年以内ニ完全ニ撤兵ヲ完了ス」ト提議セシモ支那側ト意見合ハス結局本協定ノ如クナセリ

七、「日支兩國ハ善隣友好、共同防共、經濟提携ノ實ヲ舉クル」旨獨立セル一箇條トナサントセシカ實質的ノモノニアラサルヲ以テ前文ニ加フルコトトセリ尙日本側提案ノ前文ハ支那側モ亦極メテ贊意ヲ表シテ完全ニ意見一致セリ

八、汪精衛等支那側同志カ直ニ蔣介石ノ下野ヲ要求センカ汪ニ後任タレト宣言セラレ立場不利トナル恐アリトノ意見ニ依リ蔣介石トノ絶縁ヲ闡明スルニ改ム

第三、日本側提案ノ祕密協議記録ニ對スル支那側意見左ノ如

シ

第四條ニテ日支經濟共同委員會ヲ設置シ支那政府ノ經濟開發方針ハ凡テ本委員會ニ諮ル如ク提案セシモ支那側ハ内政干渉ト批難セラルル恐アリト稱シ相方合議ノ上本記録ノ如ク改メタリ

第三、日本側代表ヨリ日本政府聲明案ヲ閲讀セシメ日華協議記録ノ修正ニ伴ヒ若干ノ辭句ヲ修正セリ其本文別紙ノ如シ

其四、協議以外支那側意見

一、汪精衛等支那側舉事後日本軍ノ中央軍ニ對スル作戰の援助ノ希望ニ對シテハ日本軍ハ貴陽マテ速ニ進撃スルカ如キハ困難ナルモ努メテ中央軍ヲ牽制スルニ力メ且支那軍後方地帯ヲ爆撃スル如ク考慮スヘシト應酬シ置ケリ
尙支那側ヨリ中央軍ヲシテ四川、雲南ノ汪精衛側軍隊ヲ攻撃シ得サル如ク其背後ヲ遮斷スルコト竝汪精衛等昆明乘込後之ヲ爆撃セサル如ク注意サレタシト申出テタリ
二、支那側ヨリ新政府樹立後ハ臨時、維新兩政府ト同一資格ニテ中央政權ヲ樹立シ難シト再ヒ申出テタルヲ以テ前回會談ノ趣旨ヲ繰リ返シ置ケリ

三、汪精衛等舉事後最初暫ク過度ニ日本側ニテ汪等ヲ支援スルカ如キ宣傳ヲ注意セラレ度即チ汪精衛ノ立場ヲ漢奸のナラシメ不利ナルヲ以テナリト申出テタリ

其五、高宗武等ノ行動豫定

十一月二十二日 高宗武、梅思平兩名上海發

同 二十四日 高宗武、梅思平兩名香港着

同 二十五日 梅思平河内着

同 二十六日 梅思平昆明着

同 二十九日 梅思平重慶着

十二月三日頃 日本側ヨリハ上海周隆祥^(準)ニ諾否回答

香港高宗武ニ諾否回答

支那側ヨリハ上海伊藤芳男ニ可否回答

香港西義顯ニ可否回答

十二月五日以前 汪精衛重慶發昆明着

汪精衛昆明着ノ電報アレハ日本政府ヨリ

別紙聲明案ヲ發表シ日本ニテ聲明發表セ

ハ汪精衛蔣介石トノ絶縁ヲ聲明ス

次テ汪精衛ハ香港ニ到リ東亞新秩序建設

ノ爲メ日支提携並反共政策ヲ聲明ス

(別紙)

聲明案

尙萬一十二月五日頃マテニ發動困難ノ事情發生セハ十二月二十日過トナルヘシトノ支那側意見ニ對シ極力迅速ニ發動スルノ必要ヲ述ヘ彼等モ斯ク努力スル如ク誓ヒタリ

政府ハ曩ニ一月十六日抗日國民政府ヲ相手トセス帝國ト提携スルニ足ル新興政權ノ成立發展ニ期待シ之ト兩國國交ヲ調整シ以テ更生新支那ノ建設ニ協力スヘキヲ宣明シ又十一月三日國民政府ト雖モ從來ノ指導政策ヲ一擲シ其人的構成ヲ改替シテ更生ノ實ヲ擧ケ東亞新秩序ノ建設ニ來リ參スルニ於テハ敢テ拒否スルモノニアラサルコトヲ明示セリ然ルニ最近支那各地ニ於テハ同憂具眼ノ士簇出シ競テ更生新支那ヲ建設セントスルノ氣運澎湃トシテ勃興ス此氣運ハ全支那ヲ統轄スヘキ善隣新支那ノ成立ニ迄發展スルノ機會近キニ在ルヲ信ス茲ニ日支新關係調整ノ要目ヲ豫メ中外ニ闡明セントス

日滿支三國ハ東亞新秩序ノ建設ヲ以テ共同ノ目標トシテ結合シ相互ニ善隣友好、共同防共、經濟提携ノ實ヲ擧クヘク、更生新支那ハ日獨伊協定ノ精神ニ則リ日支防共協定ヲ締結シ日本軍ノ防共駐屯ヲ認メ且内蒙地方ヲ防共特別地域トナシ日支互惠平等ノ原則ニ立チテ帝國臣民ニ支那内地ニ於ケル居住營業ノ自由ヲ容認シ密ニ經濟合作ノ實ヲ擧クヘク特ニ北支資源ノ開發利用ニ關シ日本ニ特別ノ便益ヲ供與シ滿支兩國相互ニ承認シ事變ノ爲メ生シタル在支日本居留民ノ損害ヲ補償スルコト必要ナリ

更生新支那ニシテ右ノ要目ヲ具現スルニ於テハ帝國モ亦東亞新秩序建設ノ見地ニ立脚シ支那領土及主權ヲ尊重スルハ固ヨリ治外法權ノ撤廢ヲ許容シ竝ニ租界ノ返還ヲモ考慮スヘシ

敘上ノ如ク兩國ノ國交調整セラレ支那ノ治安確立シ且締約ノ實施ヲ保證シ得ルノ事態實現シ帝國軍力協定區域以外ノ地區ヨリ迅速且完全ニ撤退シ得ル時機ノ到來スルコトハ東亞新秩序建設ノ爲メ同慶措ク能ハサル所ナリ若シ夫レ迷夢未タ醒メスシテ抗日容共ヲ繼續スル國民政府竝其軍隊ニ對シテハ之カ潰滅ヲ見ル迄帝國ハ斷シテ予ヲ收メサルコト勿

論ナリ

編注 「渡邊」は「高宗武」を意味する符牒。

262 昭和13年11月20日

陸軍省起案の「支那新中央政府樹立工作ニ關スル打合事項」

付記 昭和十三年十一月二十一日

「土肥原中將ニ與フル指示」

支那新中央政府樹立工作ニ關スル打合事項

支那新中央政府樹立工作ニ關シ土肥原中將、喜多少將及原田少將トノ打合ハ概ネ左ノ件ニ關シテ懇談シ以テ中央案ヲ納得セシムルコトニ努ムルモノトス

一、土肥原中將ノ任務確定及現地軍ノ協力

(一) 主題

土肥原中將ハ現任務ノ外陸軍大臣ノ區處ヲ受ケ支那新中央政府ノ樹立ニ任スルモノトス

但之カ實施ハ當分ノ間新中央政府樹立準備工作ノ範圍

(付 箋)

ニ止ムルモノトス

北支那方面軍司令官及中支那派遣軍司令官ハ右土肥原中將ノ工作ニ對シ密ニ協力シ之ニ必要ノ援助ヲ與フルモノトス

(二) 土肥原中將ノ意見

概ネ異存ナシ

(三) 現地軍側ノ意見

1、土肥原中將ニ任務ヲ與ヘラルルコト異存ナシ

2、軍ノ協力援助差支ナキモ若シ土肥原中將ノ工作カ既存政府ヲ無視シ若クハ現地ノ安定及治安ニ累ヲ及ホスカ如キ結果ニ陥ル虞アルトキハ軍ハ軍ノ任務ニ基キ之ヲ拒否セサルヲ得ス

(四) 結論

1、土肥原中將ハ五相會議ノ決定ニ基キ對支特別委員トシテ新中央政府樹立ニ關スル實行ニ當ルトノ一般任務ヲ有ス右決定ハ變更シ得サル事情ニ在リ

2、軍ハ從來土肥原中將ニ對シ前項ノ任務ヲ局限シ謀略ノ範圍即新中央政府樹立ニ關スル氣運促進ノミノ任務ヲ與ヘラル

3、現情勢ハ土肥原中將ノ工作カ政務指導ノ範圍ニ入ルモノト認メラルルヲ以テ主題ノ如キ任務ヲ與ヘントスルモノナリ

但新中央政府樹立ニ關スル具体表面工作ハ暫ク之ヲ見合ハスヲ適當ト認メ土肥原中將ノ任務ヲ實行上ニ於テ暫ク制限ス

4、新中央政府樹立工作ハ現地軍本來ノ任務範圍ノ外ニ在リト解セラル從テ土肥原中將ノ任務附與ニ關シ異存ナキ筈ナリ

5、土肥原中將ノ工作ニ對シ現地軍ハ十分ナル理解ト同情トヲ以テ協力援助セラレ度

素ヨリ土肥原工作ハ既存政權ヲ無視シ該政權ノ存立ヲ危クシ其他現地ノ安定治安ノ確保ヲ妨クルカ如キハ當然之ヲ避クルコト勿論ニシテ現地軍トシテハ從來ノ未梢的事例ニ拘泥セス大局ノ見地ニ立チ兩者協力一致ノ實ヲ舉ケラレ度

二、新中央政府構成要素

(一) 主題

新中央政府ノ構成要素如何

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

(二) 土肥中將^(原文カ)ノ意見

既成政權ハ民心ノ上ニ立チアラス新中央政府構成ノ主体ヲ其ノ外ニ置キ吳其他ノ在野勢力ヲ中心トスルヲ要ス

(三) 現地軍側ノ意見

既成政權ヲ傀儡政府トスルハ當ラス

五相會議ノ決定方針ハ既成政權ヲ以テ新中央政府ヲ樹立スルコトヲ明示セラル故ニ既成政權ヲ無視シテ新中央政府ヲ樹立スルハ適當ナラサルノミナラス吳一派ノ政府組織ハ吳一派獨占ノ陰謀ニシテ民心ヲ繋キ得ス

(四) 結論

1、五相會議ノ決定ニ基キ既成政權ヲ無視シテ新中央政府ヲ樹立スルコト能ハス

2、現段階ニ於テハ改組重慶政府ヲモ包含セシムル豫定ノ下ニ工作スルヲ要シ現ニ右工作進捗中
3、故ニ現在ハ別紙^(別紙ヲス)甲型ヲ以テ新中央政府樹立ノ型態トスルヲ至當トス

(甲型説明)

4、之ヲ要スルニ新中央政府ト既成政權トノ關係ハ甲

型ノ通りニシテ既成政權ハ逐次諸勢力ヲ吸收又ハ之等ト協力シテ眞ノ中央政府ヲ聚大成セシムルトノ五相會議ノ決定方針ニ則ルヲ要ス

從テ既成政權ヲ輕視乃至無視シテ新中央政府ヲ樹立シ若クハ既成政權ヲ以テ其儘新中央政府ヲ組織スルカ如キハ何レモ右趣旨ニ合セス要ハ新中央政府樹立ニ方リテハ廣ク人材ヲ天下ニ求メ特ニ有力ナル中堅層ノ多數ヲ把握シ以テ名實共ニ充實シテ眞ニ内外ノ信賴ヲ繋持シ得ルコトニ努ムルヲ可トス

三、吳工作ニ關スル判斷

(一) 主題

- 1、吳佩孚蹶起ニ關スル吳自身ノ眞意如何
 - 2、吳佩孚ノ思想政策如何
 - 3、吳佩孚ノ周圍清淨ナリヤ
 - 4、吳ヲ元首(最高首腦)トスル意圖アリヤ
吳ノ利用限度如何
 - 5、吳工作ヲ急速ニ具體的の表面化スルノ利害如何
特
- ニ
- イ、吳工作ノミニテ人心ヲ把握シ得ルヤ

口、既成政權ヲ動搖乃至崩壞ニ導ク虞ナキヤ

ハ、吳工作ノ進展ハ重慶政府ノ屈伏ニ如何ニ作用スルヤ

二、吳工作ニ反省修正ノ餘地ナキヤ

(二)結論

右主題ニ關シ土肥原及喜多、原田兩少將ノ忌憚ナキ意見ヲ交換セシメ兩者ノ大局的協同一致ノ見地ヨリ概ネ左ノ結論ニ到達セシムルコトニ努ム

1、吳工作ノミニ依リテ新中央政府ヲ樹立スルハ適當ナラス

2、吳佩孚ヲ最高首班トシテ新中央政府ヲ樹立スルモノト今直ニ決定スルハ適當ナラス新中央政府首腦者ノ決定ニハ多分ニ餘地ヲ存スル必要アリ今ヨリ決定セサルヲ要ス

3、吳工作遂行ノ爲今後其内容ヲ修正スルノ餘地アリ
特ニ中堅層ノ把握、吳工作ニ參加スル日支不良分子ノ清掃等ヲ考慮スルヲ要ス

4、吳工作ノ結果既成政權ヲ崩壞の混亂ニ導クハ適當ナラス

5、吳工作ハ甲型採用並前述ノ諸事情ニ鑑ミ重慶政府

ヲ崩壞又ハ屈伏ニ導ク工作ノ成否ニ關スル見透シ付ク迄(概ネ來年一、二月ノ交ト豫定ス)新中央政府樹

立ニ關スル具體的の表面工作(建國工作)ヲ見合ハセ專ラ反戰空氣ノ醗釀、民衆ノ獲得等(和平救國工作)ニ全力ヲ傾注スルヲ要ス

四、土肥原機關ト現地軍トノ協調

(一)兩者ノ連繫

土肥原機關ノ工作ハ差當リ和平救國工作ノ範圍ニ止メ而モ之カ實施ニ方リテハ十分ニ現地軍側既成政權側ノ立場ヲ考慮スル以上土肥原機關ト現地軍トノ間ニ根本的の杆格ナキ筈ナルヲ以テ右兩者ハ密接ナル連繫ノ下ニ各方面一致ノ工作ヲ遂行セラレ度此際兩者各々ノ立場ヲ固持シ遂ニ事變解決ノ目的達成ニ齟齬ヲ來ササル様特ニ考慮セラレ度

(二)吳工作ヲ軍管轄區域外ニ驅逐ノ件

全國國民代表大會乃至新中央政府樹立工作ニ關シ土肥原機關ト現地軍側トノ間ニ地域の分野ヲ設ケ吳工作ヲ軍管轄區域外ニ驅逐スルコトハ適當ナラス前述ノ如キ

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

中央ノ意見ノ下ニ實施スル土肥原中將ノ工作ハ根本的ニ軍ノ立場ト背致スルモノニアラサルヲ以テ土肥原中將ノ工作ヲ理解シ之ヲ排斥スルノ結果ニ陥ラサルコトヲ希望ス

(三)停戰救國會ヲ中心トスル土肥原機關ト現地軍トノ協力現地軍ハ吳ヲ中心トスル停戰救國會ヲ北京ニ組織スルコトヲ認メ且臨時維新政府ヲシテ右工作平行シテ反共救國運動ヲ促進シ以テ停戰救國會ノ工作ニ呼應セラレ度

(四)綏靖委員會ニ關スル調整

1、支那軍隊雜軍ノ集中改編ハ治安維持ニ任スル軍ノ責任ナリ

2、故ニ前項目ノ達成ノ工作タル綏靖委員會ノ工作ハ本來軍ノ權限ニ屬スルモノト解スルヲ至當トスルヲ以テ綏靖委員會ノ工作ハ軍司令官ノ權限トシ之ヲ土肥原中將ニ委囑スルノ建前ノ下ニ土肥原中將之カ實施ニ當ルヲ可トセスヤ

從テ軍ニ於テハ綏靖委員會籌備處ヲ北京ニ開設スルモノナルヘク速ニ委員會ヲ京津以外ノ地區ニ設クルコ

トニ同意セラレ度

3、綏靖委員會ト軍トノ擔任區域ハ山東省南境及黃河ノ線トス

4、綏靖委員會ノ工作ニ關シ軍ハ之カ實施及經費ニ關シ協力援助セラレ度

(五)國民代表大會開催準備

1、國民代表大會ノ開催準備ヲ吳工作ト軍側トニ途ニ別レテ實施スルコトナク停戰救國會ヲシテ國民代表大會開催ノ氣運ノ醸成ニ努メシメ政府聯合委員會之ニ協力スルノ建前ヲ採ラレ度尙右協力ノ爲派遣スヘキ要員等ノ選出ハ政府側ニ於テ決定スルモノトス

2、停戰救國會ノ工作ノ進展ニ伴ヒ北京ニ國民代表大會籌備委員會ヲ組織スルモ其指導組織ハ別ニ定ム

(六)國民代表大會ノ開催

國民代表大會ノ開催時機方法等ハ別ニ定メ早急之ヲ實施セス

(付箋)

本案ハ明二十一日朝參謀本部ト打合セラ行フ予定ニテ未決定

(付記)

土肥原中將ニ與フル指示

一一、二一

一、貴官擔任ノ謀略中現在ノ急務ハ蔣政權内部ノ切崩シ又ハ之ヲ屈服ニ導クコトニ在リテ茲數ヶ月ハ之ニ向テ其主力ヲ傾倒シ^(マ)以テ成果ノ獲得ヲ期ス

二、吳佩孚工作モ前項ノ趣旨ニ則リ差當リ和平救國工作ノ外雜軍ノ懷柔歸服ニ重點ヲ置クヲ要ス

而シテ雜軍ノ懷柔歸服工作ハ軍ノ占領地域内ニ於テハ主トシテ軍ノ擔任トシ貴機關之ニ協力シ軍ノ占領地域外ニ於テハ主トシテ貴機關ノ擔任トス

故ニ軍ノ行フ工作ト密ニ連繫シ特ニ河南四川方面ニ本工作ヲ推進スルノ着意ヲ必要トス

三、湖北、湖南、江西ヲ範圍トスル政權竝ニ西南政權ノ樹立工作ニ關シテハ夫々「漢口方面政務處理要綱」及「南支作戰ニ伴フ政務處理要綱」ニ準據スルト共ニ新中央政權樹立ノ一般方針ニ適應セシムル如ク謀略ヲ指導スルヲ要ス

昭和13年11月24日 有田外務大臣
在本邦クレギー英國大使 會談

英國の和平調停提議に対するわが方拒絕回答

について

有田大臣「クレギー」英國大使會談要領

(昭和十三年十一月二十四日午後三時於外務省)

一、英大使ヨリ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ揚子江問題ニ付テノ口上書ヲ持參シ諸種ノ例ヲ擧ケ急速解決方ヲ申出テタルニ對シ大臣ヨリ御返事トシテハ差當リ此ノ前ノ帝國政府「ノート」ニ述ベタル處ヲ繰返ス以外ニハ何モノク尤モ此口上書ニ對シテハ更ニ下僚ヲシテ研究セシム可キ旨答ヘタリ

二、次デ英大使ヨリ前回會談ノ節門戸開放機會均等ノ問題ニ付忌憚ナキ意見ノ交換ヲナシタルカ其後本問題ニ付「サンソン」トモ協議ノ上別紙^(別書)ノ如キ「メモランダム」ヲ得タリ自分ノ方ノ意見ヲ述ヘタルモノナルニ付御覽アリタシトテ之ヲ手交シ更ニ自分(英大使)ノ「プライベート」ノ意見トシテ日滿支三國ノ經濟「ブロック」ナルモノハ種々ノ點ヨリ見テ日本ニトリ却ツテ損ナルモノナリ現ニ

「オタワ」協定ノ如キモ今日迄ノ處必スシモ成功ト云ヘス其ノ變更カ企テラレ居ル状態ナリ英トシテハ獨リ支那ノミナラス世界各地ニ於テ機會均等ヲ要求シ來レルモノニシテ(英大使ハ此點ニ關シ「オープンドア」ハ「クローズドドア」ニ對スルモノニシテ問題ハ結局「イクオルオポチュニティー」ト云フコトトナル可シト云ヘリ)支那ニ關スル經濟「ブロック」カ(大臣ヨリ經濟「ブロック」ナル言葉ハ色々誤解ヲ招ク處ナキニ非ズ必スシモ之ニ「ステイック」スルノ要ナク或ハ三國間經濟ノ「コーオペレーション」ト云フ方宜シキヤモ知レスト「リマーク」セリ)若シ貿易ノ關係ニ於テ「ブレフエレンシヤルタリフ」又ハ「エクスチエンヂコントロール」若ハ「バーターシステム」ノ如キモノヲ設定スルモノナレハ英トシテ之ニ反對セサルヲ得ス「ローマテリヤル」ノ問題ニ付テハ英ハ日本ノ勢力圏内ニ於テ之カ非常ニ少キコトハ認メヨリ從テ既ニ支那ニ於テ英カ着手シラル原料ニ關スル事柄ニ付テハ勿論之ヲ維持セサルヲ得サルモ將來ノ問題トシテ日本カ優先權(「ファーストオポチュニティー」)ヲ持ツコトニハ異議ナシ即チ貿易ニ付テハ完全平等ヲ主

張シ原料等ノ問題ニ付テハ將來ニ於ケル日本ノ優先權ヲ認メントスルモノナリト述ベタリ

三、次テ英大使ヨリ調停問題ノ「パブリシティー」ノ問題ニ言及セルヲ以テ大臣ヨリ本問題ニ付近衛首相ヨリ返事ノ傳言アリ首相ハ貴大使ニ對シ「此際時期ニ非ズ」ト才傳ヘセヨトコトナリト述ベタル處英大使ハソノ意味ハソノ條件ヲ不可ナリトセラルルヤ或ハ第三國カ介入スルコトヲ絶對不可ナリトセラルルモノナリヤト質問セリ大臣ヨリ首相ノ傳言ハ唯「此際時期ニ非ズ」ト云フノミナリ自分(大臣)ノ意見トシテハ英政府ノ條件ナルモノハ全く事態ニ合致セヌモノナリト思フ旨答ヘタル處英大使ハ右ハ英政府ノ條件ニ非ズ元來本問題ハサル信スヘキ日本人(名前ハ明サス)カカル條件ニテ日本政府ニ「アプローチ」ニテ見テハ如何ト「サヂエスト」シタルニ基クモノニシテ近衛首相ニハ斯ク々々ノ事ヲ某日本人カ云フタルカスカル事ヲ信シテ宜シキモノナリヤトノ趣旨ニテ質問セシニ過キス條件ノ提示又ハ協定ノ「オファー」ニハ非ズト陳辯セルヲ以テ大臣ヨリソノ點ニ付誤解アルモノノ如シ某日本人ノ「サゼスチョン」カ貴國政府竝ニ貴下ヲ

妙ナ地位ニ陥レタルコトハ甚タ残念ナリト述べ尙英大使ヨリ平和ノ爲ニ調停ヲ申出ルコトハ少シモ差支ナキモノト思フガ如何ト質問セルニ對シ大臣ヨリ日本トシテモ英カ考ヘテ適當ナリトスル處ヲ申出テラレルコトニ付別ニ反對スルモノニ非ズト答ヘタリ

四、更ニ大臣ヨリ英ハ何故ニ蔣介石支持ヲ繼續スルヤト問ヒタルニ對シ英大使ハ別ニ蔣ヲ支持シ居ラスト前回ヨリノ言辭ヲ繰返シ尤モ英國内ニ於テハ蔣ニ對スル同情信賴ノ念ハ大ナル旨ヲ述べ若シ支那ニ新中央政府出來レバ勿論承認ノ問題ヲ生スヘシト述べタルヲ以テ大臣ヨリ然ラハ日本カ新中央政府ヲ承認セハ英モ之ヲ承認スル用意アリヤト問ヒタル處英大使ハソレハ中央政府ヲ構成スル首班ノ人物ニヨリ又少クトモソレカ「パベツトガバーメン」トナラサルコトヲ必要トスト答ヘタリ依テ大臣ヨリ今日日本人一般ノ信念ヲ申上タレハ英カ蔣援助ヲ繼續シ居ルハ結局日本カ敗ケルト云フ考ヘニ基クモノナランモ右ハ誤謬ニシテ英カ蔣援助ヲ依然繼續スレハ結局英ハ總テヲ失フコトトナルヘシ英カ若シ蔣援助ヲ見限り新中央政府ヲ承認スレハ假令ソノ傀儡政府ナリヤ否ヤハ別トシ「サ

ムシング」ヲ得ルコトヲ得ヘシト云フニアリト述ヘタリ

264 昭和13年11月25日

東亞局第一課作成の中国および第三国に対する外交方針骨子

(昭和二三、一一、二五 亞一)

(欄外記入)

對支外交方針骨子

對支外交ハ日滿支三國ノ政治、經濟、文化ノ各般ニ互ル互助連環ニ依ル東亞ニ於ケル新秩序ノ建設ヲ目途トシ概ネ左ノ要領ニ依ル

(1) 蔣介石政權トノ和平ハ第三國ノ橋渡シニ依ルト蔣政權自體ノ申出ニ依ルトヲ問ハス之ヲ行ハス但シ蔣政權カ其ノ政策及内容ヲ改メ自カラ政權ヲ解消シテ新中央政府ノ傘下ニ合流シ來ルカ如キ場合ハ別個ノ考量ヲナシ得ヘシ

(2) 既存並ニ新ニ樹立セラルヘキ親日諸政權ヲ基礎トスル強固ナル新中央政府ノ成立ヲ助長シ其ノ確立ヲ俟チ右トノ間ニ左記各項ヲ實施ス

(イ) 日滿支一般提携就中善隣友好、防共共同防衛、經濟提携原則ノ設定

(ロ) 北支及蒙疆ニ於ケル國防上並經濟上(特ニ資源ノ開發利用)日支強度結合地帯ノ設定

蒙疆地方ハ前項ノ外特ニ防共ノ爲軍事上並政治上特殊地位ノ設定

(ハ) 揚子江下流地域ニ於ケル經濟上日支強度結合地帯ノ設定

(ニ) 南支方面ニ於テハ沿岸特定島嶼ニ特殊地位ノ設定ヲ圖ル外重要都市ヲ起點ニ日支協力提携ノ素地ヲ確保スルニ努ムルコト

(前記各項ノ詳細ナル内容ハ別紙^(編註)日支新關係調整要綱參照)

(3) 列國ノ在支權益ハ左ノ各項ニ牴觸セサル限り之ヲ尊重シ殊更ニ排除制限ヲ行ハサルト共ニ帝國ニ好意ノ態度ヲ示ス第三國ニ對シテハ進テ新支那經濟開發ニ參加セシム

(イ) 主トシテ北支及蒙疆ニ於ケル國防資源ノ開發ハ帝國之ヲ實質的ニ支配ス

(ロ) 新支那ノ幣制、關稅及海關制度ニ付テハ日滿支經濟「ブロック」確立ノ見地ヨリ之ヲ調整ス

二、第三國ニ對スル外交方針骨子

九國條約其ノ他集團の機構ニ依ル支那問題處理ノ觀念ヲ排除スルニ努ムルト共ニ防共樞軸ヲ強化シ事變ノ急速明快ナル處理ニヨリ列國ヲシテ各個ニ我カ對支政策ヲ事實上諒解シ進テ帝國ノ態度ヲ支持スルカ尠クトモ之ヲ傍觀スルノ態度ニ出ツルノ已ムナキニ至ラシムルヲ目途トシ概ネ左ノ要領ニ依リ施策ス

(1) 日獨伊間ニ於ケル政治的關係及日滿對獨伊間ニ於ケル經濟的提携ヲ強化ス

(2) 英米佛三國ニ對シテハ夫々強力明快ナル支那事變ノ處理ニ依リ我カ對支政策ヲ事實上了得セシメ右ニ伴ヒ各個ニ從來ノ援蔣方針並ニ集團機構ニ依ル東亞問題處理ノ觀念ヲ拋棄セシムルニ努メ之カ工作ノ材料トシテ前記三國就中英ニ付テハ日獨伊防共協定強化等外交大策以外ニ其ノ在支權益ノ保障問題ヲ利用ス但シ不必要ナル摩擦ヲ避クル爲具體的各個ノ懸案ニシテ東亞ニ於ケル帝國ノ優越地位ニ障害ヲ及ホササルカ如キ案件ハ逐

次之ヲ解決ス

(3) 蘇聯邦ニ對シテハ今次事變ニ積極的ニ參加セシメサルカ如ク諸般ノ工作ヲ實施ス

(欄外記入)

有田大臣ノ注文ニヨリ作成セル試案

編注 別紙は見当たらないが、本書第265文書「日支新關係調整

方針」の別紙「日支新關係調整要項」を指すと思われる。

265 昭和13年11月30日 御前會議決定

「日支新關係調整方針」

付記 昭和十三年十一月三十日

「日支新關係調整要綱ニ關スル御前會議次第」

日支新關係調整方針

昭和十三年十一月三十日

御前會議決定

日滿支三國ハ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシテ結合シ東洋平和ノ樞軸タルコトヲ共同ノ目標ト爲ス之カ爲基礎タルヘキ事項左ノ如シ

一、互恵ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、防共共同防衛、經濟提携原則ノ設定

二、北支及蒙疆ニ於ケル國防上並經濟上(特ニ資源ノ開發利用)日支強度結合地帶ノ設定

蒙疆地方ハ前項ノ外特ニ防共ノ爲軍事上並政治上特殊地位ノ設定

三、揚子江下流地域ニ於ケル經濟上日支強度結合地帶ノ設定

四、南支沿岸特定島嶼ニ於ケル特殊地位ノ設定

之カ具體的事項ニ關シテハ別紙要項ニ準據ス

別紙

日支新關係調整要項

第一 善隣友好ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ渾然相提携シテ東洋ノ平和ヲ確保シ善隣友好ノ實ヲ擧クル爲各般ニ互リ互助連環友好促進ノ手段ヲ講スルコト

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

- 一、支那ハ滿洲帝國ヲ承認シ日本及滿洲ハ支那ノ領土及主權ヲ尊重シ日滿支三國ハ新國交ヲ修復ス
- 二、日滿支三國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ互リ相互ニ好誼ヲ破壞スルカ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ互リ之ヲ禁絶ス
- 三、日滿支三國ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行ヒ之ニ反スルカ如キ一切ノ措置ヲ第三國トノ關係ニ於テ執ラサルモノトス
- 四、日滿支三國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力ス
- 五、新支那ノ政治形態ハ分治合作主義ニ則リ施策ス
蒙疆ハ高度ノ防共自治區域トス
上海、青島、厦門ハ各々既定方針ニ基ク特別行政區域トス
- 六、日本ハ新中央政府ニ少數ノ顧問ヲ派遣シ新建設ニ協力ス
特ニ強度結合地帯其他特定ノ地域ニ在リテハ所要ノ機關ニ顧問ヲ配置ス
- 七、日滿支善隣關係ノ具現ニ伴ヒ日本ハ漸次租界、治外法權等ノ返還ヲ考慮ス

第二 共同防衛ノ原則ニ關スル事項

- 日滿支三國ハ協同シテ防共ニ當ルト共ニ共通ノ治安安寧ノ維持ニ關シ協力スルコト
- 一、日滿支三國ハ各々其領域内ニ於ケル共產分子及組織ヲ排除スルト共ニ防共ニ關スル情報宣傳等ニ關シ提携協力ス
- 二、日支協同シテ防共ヲ實行ス
之カ爲日本ハ所要ノ軍隊ヲ北支及蒙疆ノ要地ニ駐屯ス
- 三、別ニ日支防共軍事同盟ヲ締結ス
- 四、第二項以外ノ日本軍隊ハ全般竝局地ノ情勢ニ即應シ成ルヘク早期ニ之ヲ撤收ス
但保障ノ爲北支及南京、上海、杭州三角地帯ニ於ケルモノハ治安ノ確立スル迄之ヲ駐屯セシム
- 共通ノ治安安寧維持ノタメ揚子江沿岸特定ノ地點及南支沿岸特定ノ島嶼及之ニ關聯スル地點ニ若干ノ艦船部隊ヲ駐屯ス尙揚子江及支那沿岸ニ於ケル艦船ノ航泊ハ自由トス
- 五、支那ハ前項治安協力ノタメノ日本ノ駐屯ニ對シ財政的協力ノ義務ヲ負フ
- 六、日本ハ概ネ駐兵地域ニ存在スル鐵道、航空、通信竝主要港灣水路ニ對シ軍事上ノ要求權及監督權ヲ保留ス

七、支那ハ警察隊及軍隊ヲ改善整理スルト共ニ之カ日本軍駐屯地域ノ配置竝軍事施設ハ當分治安及國防上必要ノ最少限トス

日本ハ支那ノ軍隊警察隊建設ニ關シ顧問ノ派遣、武器ノ供給等ニ依リ協力ス

第三 經濟提携ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ互助連環及共同防衛ノ實ヲ擧ケルタメ產業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ旨トスルコト

一、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信、氣象、測量等ニ關シ前記主旨竝以下各項ノ要旨ヲ具現スル如ク所要ノ協定ヲ締結ス

二、資源ノ開發利用ニ關シテハ北支蒙疆ニ於テ日滿ノ不足資源就中埋藏資源ヲ求ムルヲ以テ施策ノ重點トシ支那ハ共同防衛竝經濟的結合ノ見地ヨリ之ニ特別ノ便宜ヲ供與シ其他ノ地域ニ於テモ特定資源ノ開發ニ關シ經濟的結合ノ見地ヨリ必要ナル便宜ヲ供與ス

三、一般産業ニ就テハ努メテ支那側ノ事業ヲ尊重シ日本ハ之ニ必要ナル援助ヲ與フ

農業ニ關シテハ之カ改良ヲ援助シ支那民生ノ安定ニ資スルト共ニ日本ノ所要原料資源ノ培養ヲ圖ル

四、支那ノ財政經濟政策ノ確立ニ關シ日本ハ所要ノ援助ヲナス

五、交易ニ關シテハ妥當ナル關稅竝海關制度ヲ採用シ日滿支間ノ一般通商ヲ振興スルト共ニ日滿支就中北支間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシム

六、支那ニ於ケル交通、通信、氣象竝測量ノ發達ニ關シテハ日本ハ所要ノ援助乃至協力ヲ與フ

全支ニ於ケル航空ノ發達、北支ニ於ケル鐵道（隴海線ヲ含ム）、日支間及支那沿岸ニ於ケル主要海運、揚子江ニ於ケル水運竝北支及揚子江下流ニ於ケル通信ハ日支交通協力ノ重點トス

七、日支協力ニ依リ新上海ヲ建設ス

附

一、支那ハ事變勃發以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償ス

二、第三國ノ支那ニ於ケル經濟活動乃至權益カ日滿支經濟提携強化ノ爲自然ニ制限セラルルハ當然ナルモ右強化ハ主

トシテ國防及國家存立ノ必要ニ立脚セル範圍ノモノタル
ヘク右目的ノ範圍ヲ超エテ第三國ノ活動乃至權益ヲ不當
ニ排除制限セントスルモノニ非ス

(付記)

日支新關係調整要綱ニ關スル御前會議次第

昭和十三年十一月三十日宮中御學問所ニ於テ開會。

參列者。參謀總長宮殿下、軍令部總長、平沼樞密院議長、

總理、外務、大藏、陸軍、海軍、內務各大臣、參謀次長。

午前十時半總理大臣ハ陛下ノ御前ニ進出シテ陛下ノ命ニ依
リ本日ノ議事整理ニ當ル可キ旨ヲ言上シテ復席次テ議案ハ
外務大臣ヲシテ説明セシム可キ旨ヲ述ヘ外務大臣議案ヲ朗
讀總理大臣ハ議案ニ付テ參謀總長宮殿下竝ニ平沼樞密院議
長ノ意見ノ開示ヲ求ム右ノ求メニ依リ樞密院議長ヨリ別紙
ノ如キ意見ノ陳述アリ右ニ對シ統帥關係ニ付テハ參謀總長
代理トシテ參謀次長ヨリ一般政務ニ付テハ外務、大藏、內
務各大臣ヨリ夫々答辯シ最後ニ總理大臣ヨリ議案可決セラ
レタル旨ヲ奏上ス
陛下入御

十一時五十分頃閉會

樞密院議長陳述ノ意見ニ對シ外務大臣ヨリ答辯セル要領左
ノ通

一、蒙疆ニ付テハ防共ノ目的ヲ外ニスルモ強度ノ自治ヲ認ム
ル必要アリトノ點ニ付テハ議長ノ意見ノ如ク蒙疆ハソノ
區域内ニ居住スル民族ノ希望ヨリ云フモ亦滿洲國ト隣接
スル關係ヨリ云フモ強度ノ自治ヲ認ムル必要アリ防共
云々ト云ヒシハソノ中ノ最モ主ナル目的ヲ摘出シテ提示
セルニ過キス

二、治外法權租界ノ問題中治外法權ニ付テハ特ニ漸ヲ追フノ
必要アルコトハ勿論ナリ又租界返還ノコトモ日本單獨返
還ノ趣旨ニアラスシテ日本返還ノ場合ニハ歐洲諸國ヲシ
テモ之ニ追隨セシムル如ク仕向ケタル後ナル可キハ論ヲ
待タス

三、支那ニ於ケル經濟問題ノ取扱方ニ付テハ調整要綱ノ各條
殊ニ經濟問題ノ取扱方ニ付テノ議長ノ意見ニ對シテハ東
亞新秩序建設ノ見地ヨリシテ政府ニ於テ之ヲ遂行スル決
意ヲ有スルコトハ勿論ナルモ之ヨリ生スル甚タシキ國際
摩擦等ハ出來得ル限り之ヲ避クル方法ヲ執ル可キハ勿論

ニシテ調整要綱ニ掲クル處ノモノハ緩急難易ヲ考ヘテ之ヲ處理スル積リナリ殊ニ經濟關係ニ付テハ要綱末尾ニ掲ケアル如キ方針ニテ臨ム所存ナレハ經濟封鎖ノ他最惡ノ場合ヲ避ケ得ル積リナリ又避ケ得ル如クシテ行カネハナラスト信ス。

尙大藏大臣ヨリ歐米對策ニ付テハ結局生産擴充ニテ行クヨリ他ニ途ナシト考フルモ生産擴充モ自ラ時ノ問題ナレハソノ間ハ外務大臣ノ述ヘタル如ク英米等ニ依ル經濟制裁ハ出來得ル限り之ヲ避クル如ク措置セサル可カラスト考ヘ居ル旨答ヘ内務大臣ヨリハ將來更ニ取締ヲ嚴重ニシテ善處スル決心ナリト述ヘタリ

(別紙)

御前會議ニ於ケル意見陳述ノ内容 平沼樞密院議長
謹テ意見ヲ開陳ス

本案ハ對支關係ノ調整ニ付準據スヘキ事項ノ大綱ヲ示シタルモノニシテ東亞新體制ノ基礎ト爲ルヘキモノナリ、其ノ内容ハ大體ニ於テ機宜ニ適シタルモノト思考ス

本案ハ其ノ趣旨ニ於テ不可ナキモノヲ實行ニ移スニ當テハ

全ク障害ナキモノト考フルコトヲ得ス總テノ障害ヲ排除シテ所期ノ目的ヲ達成スルコトヲ努ムヘキハ言フ俟タス
本案ニ掲ケラレタル項目ヲ見ルニ多クハ將來支那ニ興ルヘキ新政權ト協定ヲ遂クルノ要アルモノナリ又第三國ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノ少ナシトセス故ニ大體ノ心構ハ定マルト雖モ新政權ノ意向ヲ斟酌シ又第三國トノ關係ヲ考慮シテ緩急ヲ計ルノ必要ヲ生スルモノト考ヘサルヘカラス

本案列記ノ事項ヲ實行ニ移スニ付深く考慮ヲ要スル前提アリト思考ス其ノ第一ハ支那ニ於ケル治安工作ナリ我占據區域内ニ於テモ今尙ホ共產軍ノ一部正規軍ノ一部又ハ土匪ノ活動スルモノアリ此等ノ者ヲ制壓シ又ハ歸順セシムルニ非サレハ我諸般ノ工作殊ニ經濟上ノ工作ヲ進ムルコト能ハサルヘシ故ニ先決問題トシテ治安回復ノ速ナルコトヲ切ニ希望セサルヲ得ス其ノ第二ハ支那ニ於ケル民心ノ把握ナリ民心ヲ把握セサルトキハ百ノ工作ハ一時其ノ功ヲ收ムルモ永ク之ヲ持續スルコトヲ得ス故ニ支那一般民衆ヲシテ我仁愛ノ精神ヲ會得セシムル途ヲ講スルヲ急務トス蓋我占據區域内ニ於テ安泰ニ生ヲ送り得ルコト明白ナルニ至ラハ一般民

衆ハ必ス歸服スヘク一般民衆ニシテ歸服セハ知識階級ノ排日宣傳ハ其ノ功ナキニ至ルヘシ第三ハ支那新政權ノ樹立ニ付深キ考慮ヲ拂フコトナリ案スルニ新政權ノ樹立ハ形式ニ於テハ支那人ノ自發工作ニ依ルモノトスルヲ可トスヘシ然レトモ事實ニ於テハ我政府ノ指導援助ニ俟タサルヘカラス我政府之ヲ指導援助スルニ當テハ恩威並ヒ行ハレ彼ヲシテ我誠意ヲ認識シテ感奮興起セシムルト共ニ我ニ背クコト能ハサルコトヲ自覺セシメサルヘカラス彼レ我ヲ疑ヒ又ハ侮ルコトアラハ事成ラス當局者ハ此點ニ於テ萬一ノ遺算ナキコトヲ期セサルヘカラス

以下各項目ニ付所見ヲ述フ

第一 基礎事項

基礎事項トシテ列記セラレタルモノハ皆當然ナリ

第二 善隣友好ノ原則ニ關スル事項

各項ニ付テハ大體ニ於テ異存ナシ唯二、三ノ事項ニ付當局者ノ注意ヲ喚起スルノ要アリ之ヲ左ニ掲ク

其ノ五ニ新支那ノ政治形態ハ分治合作ニ則リ施策ストアリ、思フニ支那ハ古ヨリ分治合作ヲ便トスル國ナリ今日ニ於テモ此ノ事ニ變化ナキモノト思考ス唯蒙疆區域ニ付テハ特ニ

考慮スヘキコトアリ案ニハ蒙疆ハ強度ノ防共自治區域トストアリ即自治區域ノ上ニ防共ノ二字アリ防共ノ爲ニ強度ノ自治ヲ認ムルコト必要ナランガ防共ノ目的ヲ外ニシテモ強度ノ自治ヲ認ムルコトヲ必要トスヘシ蒙疆ニ於テハ支那ノ宗主權ハ之ヲ認メテ可ナルモ其ノ内政ニ於テハ之ト獨立セシムルコトヲ要ス滿洲國トノ關係ヨリ考フルモ此ノ如ク定メサルヘカラス

其ノ六ニ日本ハ漸次租界、治外法權ノ返還ヲ考慮ストアリ、此事ニ付テハ異存ナキモ急速ニ之ヲ實行スルコトハ不可能ナリト思考ス、治外法權ニ付考フルニ滿洲ハ我國ト全ク不可分ノ關係ニ在リ且其ノ裁判制度ハ既ニ整備ノ域ニ達セリ故ニ既ニ之ヲ返還シ了レリ

支那ハ滿洲ト同一視スルヲ得ス、今直ニ治外法權ヲ返還スルヲ得サルハ明白ナリ又歐米諸國今尙ホ租界ヲ有シ治外法權ヲ存續ス我ニ於テ之ヲ返還スル以上ハ同時ニ歐米諸國ヲシテ追隨セシムルノ要アルハ勿論ナルヘシ

上海、青島、厦門ハ各既定方針ニ基ク行政區域トストアリ既定方針トハ如何ナルモノナリヤ當局者ノ説明ヲ求ム

第三 共同防衛ノ原則ニ關スル事項

此ノ一段ニ掲ケラレタル事項ニ付テモ異存ナシ唯防共ノ爲所要ノ軍隊ヲ北支及蒙疆ノ要地ニ駐屯セシメ又保障ノ爲治安ノ確立スルマテ北支及南京、上海、杭州三角地帯ニ軍隊ヲ駐屯セシムルコトハ緊要已ムヲ得サルコトナルカ此ノ如ク軍隊ヲ駐屯セシムル上ハ一定ノ地方ヲ占據區域ト爲スノ必要ヲ伴フモノナラン、果シテ然ラハ此等ノ地域ニハ必要ニ應ジテ我特別ナル指導ノ下ニ行政ヲ爲サシムルノ要アリト思考ス

第四 經濟提携ノ原則ニ關スル事項

此ノ題目ノ内ニ掲ケラレタル事項ハ皆至當ナリ而シ其ノ至當ナルト共ニ之ヲ實行スルニ付難關アリト思考ス、其ノ難關ノ最モ大ナリト思ハルルハ第三國ニ對スル關係ナリ日滿支提携トイフコトハ第三國ニ少ナカラサル刺戟ヲ與フルモノナリ日滿支カ結ンテ經濟プロツクヲ作ルコトハ經濟的ニ第三國ヲ支那ヨリ驅逐スルノ前提ナリト疑惑ヲ生スルノ恐アリ此疑惑ヲ解クコトノ必要ナルハ言ヲ俟タス然レトモ三國ノ經濟提携ハ第三國ノ權益ニ影響ヲ及ボササルモノニハ非ス、即本案最後ノ頁ニ示スカ如ク日滿支ノ經濟提携ニ因リ第三國ノ支那ニ於ケル經濟活動竝ニ權益カ自然ニ制

限ヲ受クルコトハ當然ナリ此ノ結果ハ新東亞建設ノ爲已ムヲ得サルモノニシテ如何ナル國ト雖モ我立場ヲ認ムル以上ハ當然忍ハサルヘカラサルコトナリ我國ハ事理ヲ詳ニシテ其ノ已ムヲ得サル所以ヲ力説シ第三國ヲシテ自省セシムルコトニ努力セサルヘカラス之ニ拘ハラス若シ第三國カ我誠意ヲ認ムルコトナクシテ不當ニ報復ノ手段ヲ講スルカ如キコトアラハ斷乎トシテ之ニ對應スルノ策ナカルヘカラス現在ノ世界情勢ヲ以テ考察スレハ第三國カ直ニ軍事行動ヲ以テ我ニ對抗スルコトナキハ明ナリ然レトモ情勢ノ變化ハ免ルルコト能ハス異日他ノ原因ト相俟テ事端ヲ發生スルノ憂ナシト斷スルコトヲ得ス今ニ於テ之カ對策ヲ講シテ之ニ備フルノ要アルヤ言ヲ俟タス若シ夫レ經濟上ノ報復ニ至リテハ直ニ來ルノ恐アリ之ヲ來ラシメサル様方策ヲ立ツルハ外交ノ要務ナリ之ト同時ニ其ノ來リタルトキ之ニ對シテ如何ニ應酬スヘキヤヲ講究ストノ緊要ナルコトヲ痛感セサルヲ得ス此ノ點ニ付當局者ノ周密ナル用意ヲ望ムヤ切ナリ

○

右述フル所ハ要綱ニ掲ケラレタル事項ニ對スル意見ノ大要ナリ此ノ外之ニ關聯スル内政ノ問題ニ付一言致シ度キコト

アリ、思フニ何人ト雖モ此ノ事變ニ於テ我國家ノ拂ヒタル犠牲ノ頗ル大ナルコトヲ痛感セサルハナシ支出シタル國費ハ巨額ニ達シ外征ノ將兵ハ身命ヲ抛テ君國ニ忠節ヲ致シ銃後ノ民克ク艱苦ニ耐ヘテ國家ニ奉仕セリ

我國民中犠牲ノ大ナルヲ思ヒ此ノ要綱以上ノ事ヲ期待シ不滿ノ餘常軌ヲ逸シテ不穩ノ舉ニ出テントスルモノナキヲ保セス一面ニ於テハ教化ヲ普及シテ人心ヲ中正ニ導キ他面ニ於テハ取締ヲ嚴ニシテ危險ノ行動ヲ制壓シ以テ不測ノ災ナカラシムルコトヲ努メサルヘカラス是レ實ニ内政ノ要務ナリ當局者深ク之ニ留意センコトヲ望ム

266

昭和13年12月1日

有田外務大臣より
在英国重光(葵)大使、在米國齋藤大使
他宛(電報)

「日支新關係調整方針」の決定につき通報

本省 12月1日後8時40分發

合第三四九七號(極秘、至急)
政府ニ於テハ今後ノ日支關係調整ノ爲準據スヘキ大綱ニシテ日支間ニ締約スヘキモノ、對支施策ノ根抵タルヘキモノ

竝ニ帝國ノ心構等ヲ取纏メ日支新關係調整方針竝要項トシテ五相會議、閣議ヲ經本三十日御前會議ニ於テ大要別電合第三四九八號(有田)ノ通り決定ヲ見タリ(本方針及要項全文ハ最近便ニテ托送ス)

尙申ス迄モナク本決定ハ我方ノ腹ニシテ其儘外部ニ出ツルニ於テハ機微ナル關係モ生ズベキニ付嚴ニ貴官限りノ御含ニ止メ置カレ度シ

別電ト共ニ英ヨリ在歐各大使へ、米ヨリ伯へ轉電アリ度シ本電宛先 英、米、北京、上海

267

昭和13年12月2日

在上海日高総領事より
有田外務大臣宛(電報)

錢永銘の重慶行きに関する情報報告

上海 12月2日後發

本省 12月2日夜着

第三六〇〇號(極秘)

二日周文彬ハ岩井ニ對シ錢永銘ハ十一月廿六日再度往復三週間ノ豫定ニテ重慶ニ赴キタルカ錢ハ出發後夫人家族ヲ上海ニ引揚ケシメ自分(周)ニ對シ(一)日本側トノ接觸ハ從前通

リ進行セラレタク(二)重慶行ノ使命成功セハ勿論上海ニ赴クヘク失敗ノ場合モ亦上海ニ歸ルヘキニ付安心アリタキ旨傳言セリ右錢今次重慶行ノ具體的的使命ニ付テハ何等通知ナキモ恐ラク和平問題ニ關係アルヘク右ニ失敗セハ家族ヲ上海ニ歸ラシメタル所ヨリ見ルモ愈蔣政權ニ見切ヲ付ケル決心ニテ出掛ケタルモノナルヤニ思ハル云々ト内話シ居タル趣ナリ

268 昭和13年12月6日 在上海日高総領事より
有田外務大臣宛(電報)

吳佩孚の擁立は相当困難の様様につき報告

上海 12月6日後発
本省 12月6日夜着

第三六二三號(極秘)

四日北京發路透電ハ日本側ノ聯邦政府組織計畫ハ吳佩孚ノ態度急變シ總統就任ヲ拒絶シタルト日本軍部内ノ意見不一致ノ爲一時停頓ノ已ムナキニ至リタル模様ナル旨報シ居ル處最近北支ヨリ歸滬セル山田純三郎カ四日森島ニ内話シタル所ニ依レハ往電第三四四〇號全國代表大會招集案等ニ關

シテモ陳中孚等ハ關與セス陳ハ吳カ臨時維新兩政府ノ勢力範圍外ニアリ且河南四川等ノ雜軍糾合ニ便利ナル鄭州等ニ出馬シ是等雜軍ノ歸趨ヲ見極メ其ノ地歩ヲ或程度固メタル上更ニ漢口方面ニテモ乗出スコトトナラハ同人ノ時局收拾ノ立場ハ極メテ有利ニ展開スヘシトノ意見ヲ吳ニ獻策シ居ルモ吳ハ北京カ王城ノ地ナルヲ以テ同地殘留ヲ希望シ他ニ動クコトヲ肯セサル趣ニモアリ同人カ時局收拾ノ當面ニ立ツコトハ相當困難視サレ居ル模様ナルカ右ニ對スル吳ノ態度ハ二、三日中ニハ判明スヘシトノコトナリ
北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

269 昭和13年12月13日 在上海後藤總領事代理より
有田外務大臣宛

岩井總領事の香港での政治工作に関する報告

書転送について

機密第三九八二號 (12月19日接受)

昭和十三年十二月十三日

在上海

總領事代理 後藤 銚尾(印)

外務大臣 有田 八郎殿

岩井副領事ノ提出セル香港ニ於ケル政治工作

第一回報告書進達ノ件

過般御許可ヲ得テ香港ニ出張各種政治工作ニ従事セル岩井副領事ヨリ別紙ノ如キ報告書提出アリタルニ付御査閲相成度シ

追テ本件報告ハ絶対外部ニ洩レサル様取扱ヒ尙特ニ御留意相成度ク申ス迄モナキ儀乍ラ爲念申添ユ

(別紙)

香港ニ於ケル政治工作第一回報告書

十月二十七日着港以來十一月十八日離港迄約三週間ニ亘ル工作情况概要左ノ通り

第一、工作ノ内容

一、陳彬蘇ニ對スル工作

略歴、陳ハ上海申報ノ總主筆トシテ其ノ銳利ナル筆法ハ夙ニ蔣介石ノ認ムルトコロトナリ居タルモ元來カ

蔣嫌ヒ國民黨嫌ヒノ彼遂ニ蔣ノ江西剿匪ヲ批評シ

「剿匪」カ「造匪」カト揶揄スルノ一文ヲ三日間

ニ亘リ申報社説ニ掲ケタルトコロヨリ蔣ノ忌憚ニ觸レ申報社ヲ去ルノ餘儀ナキニ立至レリ彼夙ニ日本研究ニ志シ其ノ日本ニ對スル造詣ノ深キ現代支

那ジャーナリスト中ノ耆宿ナリ又蘇聯研究ニモ熱心ニシテ自然宋慶齡等ト往來シ共產黨方面ニモ相

當連絡アリ又曩ニ「ウツドヘツド」ノ「チャイナ、イヤーブツク」驅逐ノ爲メ支那諸名家ト合同英文

中國年鑑ヲ主編自ラモ其ノ一部ノ執筆ヲ擔當セリ一昨年春廣西派ヨリ迎ヘラレ李宗仁ニ代ツテ北伐

宣言ヲ起草シタルコト亦世人ノ記憶ニ新ナルコトニシテ自然廣西派トノ關係深ク殊ニ現主席黃旭初

トハ親交深シ現ニ香港ニ居住シ港報珠江日報編輯長タリシモ昨今之ヲ辭シ専ラ英文月刊雜誌太平洋

ヲ主編ス

右様經歷ニ鑑ミ彼ヲ新中政權ニ迎ヘ新中國建設竝ニ打倒蔣

政權宣傳ノ中樞ニ當ラシムルニ於テハ蓋シ最適任者ト思惟セラレ又彼ノ引出ニハ陸海軍トモ異存ナキ次第ナルヲ以テ

去ル六月赴港ノ際ニ二年振リニ舊交ヲ温メ置キタル次第モアリ今次再度赴港ニ當リテハ卒直ニ我方ノ彼ニ對スル信賴ヲ

告グルト共ニ勇氣ヲ奮ツテ出馬新支那ノ建設ニ參加セシコトヲ懲慙セリ然シ乍ラ元來役人嫌ヒノ彼ハ(上海在任中ニモ南京政府ヨリ仕官ヲ勸メラレタルコト再三ナルモ受ケズ又今次國民參政會議ニモ委員トシテ推薦セラレタルヲ固辭シテ今日ニ及ベリ)容易ニ之ヲ肯ゼザリシモ結局我方ノ知遇ニ酬ユル爲メ表面ニハ顔ヲ出サザルモ我方ノ宣傳工作ニ全面的ニ協力センコトヲ約シ差當リ諸外國ノ蔣介石政權ニ對スル過信ヲ是正シ其ノ真相ヲ知ラシムルコトガ第三國ヲシテ援蔣政策ヲ放棄セシムル基礎的且必須的工作ナリトノ見地ヨリ(一)Inside China (二)戰爭時期ノ中國—第一年(三)蔣介石言論集ノ三種英文書籍ノ編纂出版方竝ニ蔣介石政權内部ニ内在スル各黨各派ノ對立摩擦ヲ利用シ各派挑撥ノ宣傳工作實行方ヲ提議スルトコロアリ右三書出版ニ關スル委細竝ニ豫算ハ別添甲號^(省略)ノ通りナルガ本書ノ編纂出版工作ガ果シテ所期ノ如キ效果ヲ收メ得ルヤ否ヤハ其ノ出來榮ヲモ見タル上ナラデハ遽カニ判斷シ難キモ同人ヲ究極ニ於テ全面的ニ引付ケ行ク爲メニハ我方亦其ノ彼ニ對シ信頼ノ意ヲ具體的ニ表現スル必要モアリ旁右計畫ニ贊成シ所要經費ノ支出ニ同意シ置キタル次第ナリ

尙各派挑撥離間ノ爲メノ宣傳工作ノ爲メニハ特ニ澳門ニモ秘密機關ヲ設置シ例ヘバ國共分裂ノ爲メニハ或ハ共產黨式ノ秘密文件ヲ偽造シ國民黨ヲ攻撃セシメ或ハ偽造國民黨則出版物ヲ以テ共產黨排撃ノ具ニ供シ現存スル兩者下級分子ノ摩擦ヲ一層激化セシメンコトヲ目的トスルモノナリ

追テ同人ハ右ノ外我方諜報工作ニ付テモ同人ガ從來關係深キ申報社其他西北、西南及南洋等各地ニ活動中ノ彼ガ多年養成セル學生ノ連絡網等ヲ提供シ我方ノ該方面ニ於ケル諜報網組織ニ全面的ニ協力センコトヲ申出ヅルト共ニ差詰メ現狀ニ於テ本官ノ上海滯在中ハ隨時人ヲ派シ各種情報ノ供給ヲ約セリ右情報網組織ニ付テハ同人トモ更ニ具體的ニ研究シ大体別紙乙號^(省略)ノ如キ形式ノ諜報網ヲ組織スルコトニ打合せタリ

三、錢新之及杜月笙ニ對スル工作

略歴、省略

萬事錢ノ上海代表周文彬ト協力スル建前トナリ居リ直接働キ掛クルハ不可ト思考セラルルヲ以テ香港ニ於テハ直接接觸ヲ試ミズ(又錢ハ重慶方面旅行中ナリシ次第モアリ)只管周ノ南下ヲ待チタルモ周ニ於テハ未ダ其ノ時機ニ非ラズト

テ大事ヲトリ居リ已ムヲ得ズ一先ヅ引揚ゲタリ二十五日周二會見セルニ同人ハ日本側ガ宋子文ノ引出ヲモ策シ居リトノ聞込アリト前置シ宋ガ出馬スル様ニテハ錢等ハ南洋落チデモスル外ナカルベシトノ悲觀論ヲ唱ヘ居タルニ依リ早速例ノ近衛大臣ヨリ谷公使宛ノ本官ノ同人等引出工作ニ對スル激勵ノ書翰ヲ内示セルニ周ハ日本政府ニ於テ既ニ錢等ニ對シ如斯キ方針決定セル以上自分モ安心セリトテ其ノ寫實ヒ受ケタキ旨申出デタルニ付寫一部手交スルト共ニ今後一層ノ努力方ヲ要望シ置ケリ

尙杜ニ付テハ本官香港ニ於テ前記陳彬穌(杜ノ傳記編纂ノ依頼ヲ受ケ時々杜ノ隱家ニ出入シ居レリ)ヨリ杜ハ蔣介石ヨリ三十五萬弗ノ支給ヲ受ケ在港ノ在野要人ニシテ我方ノ引出目標トナリ居ル種類ノ人物(例ヘバ李思浩(二千弗)章士釗(二千弗)吳光新(二千弗)曾毓雋(目下蘭貢二千弗)ニ對シ一人月額一、二千弗ノ生活費ヲ支給之ガ足止メ工作ヲ爲シ居レリトノ聞込アリタルニ付周二確メタルニ(周ハ從來錢ガ出馬セバ杜モ必ズ出ルト言ヒ居レル關係モアリ)右様事情ハ自分モ聞キ居レルモ錢トノ關係ハ深キニ付大丈夫ナリト答ヘ居タリ

追テ陸軍側ニテハ豫テヨリ杜ノ引出ニ腐心シ山下龜三郎カ會テ同人ト親交アリシ關係ヲ利用、山下ヲシテ同人引出奔走中ニテ山下ノ代表支配人渡瀨某香港ニテ活動シタル由ナルモ何等得ル所ナク歸國セル由尙軍側ニ於テハ本工作ニ既ニ金拾萬圓ヲ支出セリトハ影佐大佐ノ本官ヘノ内話ナリ以上ノ如キ情勢ニテ兩人引出工作ハ氣運未タ熟セサルモ谷公使ニ對スル近衛前大臣ノ書翰カ物ヲ言ヒ工作一步前進セラルヤニ觀測セラル

附記、其後周ト會見ノ際周ハ本官ヨリ手交セル近衛大臣

書翰寫ハ早速人ヲ派シ香港錢ノ許ニ届ケタキ旨並

ニ本官次回赴港ノ節ハ錢ト懇談ノ機ヲ造ルコト並

ニ其ノ内銀行用務ヲ表面ノ理由ニ來滬セシメタキ

旨語り居タルカ更ニ其ノ後周ハ錢ノ歸滬ハ愈々決

定的ナル旨内話シ居ルコト十二月上旬電報報告ノ

通りナリ

三、黃建中ノ利用

黃ハ差當リ専ラ宋子文始メ歐米依存派一派排撃ノ爲メニ利用セントスルモノナリ但シ工作ノ詳細ニ至ツテハ文書ニ認ムルヲ得サル點ハ御諒解ヲ得タシ尙同人ハ現ニ廈門

復興日報社長在職中ノモノヲ本官他用赴厦ノ際張鳴ニ依頼借リ受ケタルモノナルカ曾テ上海ニ於テ華僑聯合會總幹事タリシコトモアリ行クハ華僑工作ニ利用シ得ル優秀ナル人物ナリ

四、杜石山ノ利用

杜ハ李濟深トノ關係モアリ我方廣東攻略前ニモ吳鐵城、余漢謀ニ渡リヲ付ケ兩人ノ我方ヘノ寢返リヲ策シタルコトモアル人物ニテ昨今ハ萱野長知ト連絡シ蔣政權ノ少壯幹部鄭介民（藍衣社創始者ノ一人）ヲ通シ戴笠、康澤、胡宗南、陳誠等ト氣脈ヲ通シ（杜及萱野ハ之等分子トノ連絡ヲ極メテ確實視シ居リ日本側ノ出方一ツニテハ日支少壯軍人ノ提携可能ナリト信シ居ルモノノ如シ）居レリト稱シ居ル處杜及萱野ノ言フカ如クシカク確實ナルヤニ付テハ本官聊カ疑問ヲ有スルモ兎ニ角杜カ西南政界ニ於ケル策士トシテ相當ノ人物タルコトハ從來同人カ陸軍外務機關ニ貢獻シタル幾多ノ事實ニ徴シ明カナルヲ以テ萱野近ク離港ノ上ハ本官ニ於テ直接同人ヲ指導今後ノ工作ニ利用スルコトトセリ

五、蔣國珍

蔣ハ豫テヨリ前記陳彬猷ト本官ノ連絡ニ當リ居ル人物ニシテ先般維新政府香港駐在員（祕密）ニ任命セラレ立法院長溫宗堯內政部長陳群ト良好關係ニアリ曩ニ溫ノ關係ヲ利用シ陳廉伯ノ引出ニ奔走セシメタルコトアルモ未タ效果ナシ

但シ別ニ同人ハ陳ト共ニ宋子文等歐米派排撃ノ爲メ前記黃ノ工作ノ調査方面ヲ擔任セシメ居レリ尤モ本件工作ハ絕對祕密ヲ要スルヲ以テ同人等ト黃トノ横ノ連絡ハ一切爲サシメ居ラス

六、中村農夫

前南京同盟支局長ニシテ現ニ香港ニ於テ同盟ノ特別任務ニ服シ居レリ同人ハ十數年來第三黨ノ準黨員トモ言フヘキ地位ニアリ第三黨々首鄧演達トハ親交アリ又現ニ蔣介石ト妥協シ重要役割ヲ演シ居ル黃琪翔、嚴重等トモ熟知ノ間柄ナリ同人ノ右地位關係ヲ利用シ之等連中ノ轉向ニ付努力方豫テヨリ依頼シアリシモ同人ハ支那側ノ根強キ抗日ヲ過信シ工作ヲ無駄ト爲シ容易ニ動カサリシカ今回ノ赴港ヲ機ニ同人ノ積極活動ヲ慫慂シ漸ク其ノ承諾ヲ取付ケタルモノナリ同人ハ差當リ前記黃嚴兩人ノ外蔣政

權ニ加入セサル第三黨有力分子季方、張資平等引出ニ當ル筈ナルカ此ノ手合出馬セハ新中央政權ニ有力闘士ヲ加フルコトトナルヘシ以下省略

270 昭和13年12月19日

東亞新秩序建設の意義を經濟面から説いた有

田外相の外国人記者会見での談話

付記 右英訳文

外人記者會見ニ於ケル有田大臣談

(昭和十三年十二月十九日)

十一月三日ノ帝國政府聲明ニ依リ中外ニ之ヲ闡明シタル如ク日本ノ冀求スル所ハ東亞永遠ノ安定ヲ確保スヘキ新秩序ノ建設ニシテ此ノ新秩序ノ建設トハ日滿支三國相携ヘ政治經濟文化等各般ニ亘リ互助連環ノ關係ニ樹立スルコトナリ日滿支三國力緊密ナル連絡體ヲ作ルコトノ必然性ハ政治的ニハ赤化ノ魔手ニ對スル自己防衛竝ニ東洋文明ノ擁護ノ必要ニ依リ又經濟的ニハ世界一般ニ廣ク行ハルル關稅障壁ノ傾向竝ニ經濟的手段ヲ政治目的ニ使用セントスル傾向ニ對

シ自衛手段ヲ講スルノ必要ニ依リ説明セラルヘシ

支那ヲ半植民地的地位ヨリ完全ナル現代國家ニ迄引上ケ行クコトハ支那國民自體ノミナラス東亞全體ノ利益ナリ而テ新秩序ノ建設即日滿支三國互助連環ノ關係ハ日滿支三國カ各自ノ獨立ヲ維持シ各自ノ個性ヲ充分ニ生カシツツ東亞保全ノ共同使命ノ下ニ固キ結合ヲナスコトニ外ナラス

日本ハ此ノ新秩序ノ建設カ國際正義ニ適ヒ又東亞ノ平和ニ資スルモノナリトノ固キ信念ヲ有スルモノニシテ從テ之カ遂行ニ對シテハ確固タル決意ヲ有スルモノナリ

政治文化ノ方面ニ於ケル互助連環ノ關係ニ付テハ之ヲ後日ノ機會ニ譲リ此處ニハ經濟方面ニ於ケルソレニ付テ一言セントス

新體制ノ經濟的方面ハ世界ハ自給自足ノ強大ナル經濟單位ノ存スルニ對應シテ日滿支ノ三國力經濟的方面ニ於ケル相互連環關係ヲ結成シ密接ナル經濟的協力ニ依リ經濟單位ヲ強化セントスルニ外ナラスカカル關係ハ屢々經濟「ブロック」ナル言葉ニ依リテ呼ハルルコトアルモ此ノ場合ノ經濟「ブロック」ハ決シテ closed system of trade ヲ意味スルモノニ非ス若シ此ノ言葉ニシテ關係國以外ノモノヲ全然排斥

ストノ意ヲ含ムモノトセハカカル言葉ノ使用ハ不適當ナリト云フヘシ

近來稍モスレハ所謂日滿支經濟「ブロック」結成ノ結果日本ハ外國ノ企業、資本貿易等有ユル經濟活動ヲ東亞ヨリ排除センコトヲ考慮シラレリト解釋スル向スクナシトセス歐米ニ於ケル新聞雜誌ノ批評カ多ク此ノ如キモノナルコトハ遺憾ナリ元來商業上ノ機會均等ハ從來日本ノ世界ニ向テ強ク主張シ來リタル所ナルカ事實ハ必スシモ日本ノ主張通りニハ行カス良質廉價ノ日本品ハ到ル處差別待遇ヲ與ヘラレタリ日本ハ今日ニ於テモ商業上ノ機會均等カ各國ノ繁榮ト世界ノ繁榮トヲ來スモノナリト信シヨリ日本ノ經濟活動カ世界ノ何レノ部分ニ於テモ原則トシテ自由ナル可キヲ主張スルモノナリ從テ東亞ヨリシテ歐米各國ノ經濟活動ヲ全然排除セントハ考ヘヨラサルノミナラス此ノ如キハ不可能事ナリトサヘ考ヘヨルモノナリ然シ乍ラ資源ノ少キ日本、「マーケット」ヲソノ國內ニ持タサル日本、又經濟の二力弱キ支那トシテハ相倚リ相助ケテ必要物資ノ自給自足政策ニ必要ナル生産ノ確保ヲ計リ萬一ノ場合ニ於ケル「マーケット」ノ確保ヲ期スルコトハソノ存立上不可缺ト認ムルモ

ノニシテソノ範圍ニ於テ東亞以外ノ各國ノ經濟活動ノ制限サルコトハ之ヲ認メサルヲ得ス換言スレハ將來支那ニ於ケル第三國ノ經濟活動ハ新體制ニヨツテ結合サルル三國ノ國防及經濟の自主達成ニ必要ナル制限ヲ受クヘキモノニシテ且政治の特權ヲ伴フモノナラサルコトヲ必要トスル次ナルカ此種制限ハ各國何レモソノ必要ヲ認メサルモノニシテ英帝國、米國何レモ同様ナリト思考ス。然シテ此種制限カ加ヘラルルモ尙廣汎ナル商業的經濟的活動ノ分野カ列國ニ開カレラルナリ。

日滿支ニ於ケルカ如ク或程度緊密ナル相互關係ニ立ツ經濟集團カ存在シ組織サレタリトスルモ之ト他國トノ貿易ハ決シテ減少スルモノニアラス却テ之カタメ増加スルモノナリ、此機會ニ一言シ置キタキハヨク人ハ滿洲國ノ場合ニツキ列國カ之ヨリ閉出サレタリト云フコトナリ右ハ非當ナル誤謬ニシテ今之ヲ統計ニ見ルニ滿洲國ノ總貿易額ハ獨立後累年増加シ獨立前一九三〇年ニ於テ十億六千萬元タリシモノカ一九三七年ニハ十五億三千萬元トナレリ然シテ一九三七年ニ於ケル英、米、佛三國ヨリノ滿洲國ノ輸入額ト獨立前ノソレトヲ比較スルニ英ハ三五・三「パーセント」米ハ九

八・九「パーセント」佛ハ三三・二「パーセント」ノ激増ヲ示シヨリ之等三國ノ貿易ハ滿洲國ノ獨立ニ依リ著ク増進セラレタルモノト云フヲ得ヘシ尙カカル滿洲國ノ輸入ノ増大ハ機械、工具、車輛、金屬製品、木材等ノ建設材料ニ於テ特ニ顯著ニシテ今後滿洲ニ於ケル經濟建設ノ進捗ニ依リ之力需要ハ更ニ増加スヘシ又統計表ニ現ハレ居ラサルモ之等三國ヨリ日本經由行ハルル貿易ヲモ考慮スルノ要アリ更ニ又滿洲對英米佛屬領トノ貿易額モ累年増加シタルコトヲ注意スルノ要アリ。

要スルニ帝國ノ企圖スル東亞新秩序ノ建設ニ依リ東亞ノ天地ハ初メテ恆久的安定性ヲ與ヘラレ其ノ結果列國ノ東亞ニ於ケル經濟活動モ却ツテ確實ナル基礎ノ上ニ置カルルニ至ルヘキコトハ余ノ確信シテ疑ハサルトコロナリ。

(付記)

STATEMENT BY THE MINISTER FOR FOREIGN AFFAIRS, MR. HACHIRO ARITA, GIVEN TO THE FOREIGN CORRESPONDENTS ON DECEMBER 19, 1938.

As has been made clear by the statement of November 3rd made by the Japanese Government, what Japan desires is the establishment of a new order which will ensure the permanent stability of East Asia. or in other words, the establishment of a relationship of mutual helpfulness and co-ordination between Japan, Manchoukuo and China in political, economic and cultural fields.

That the formation of a closely co-operative relationship between the three countries is an imperious necessity is explained by the fact that it is, in its political aspect, a measure of self-defence against the Communist menace and of safeguarding the civilization and culture of the Orient, and in its economic aspect, a measure of self-preservation in presence of the world-wide tendency to erect high Customs barriers and to employ economic measures for political ends.

It is not only of benefit to the Chinese people themselves but to the whole of East Asia, to lift China from its present semi-colonial status to the position of a modern

State. The establishment of the new order, that is, of a relationship of mutual aid and co-ordination between Japan, Manchoukuo and China, simply signifies the creation of solidarity between these three countries for the common purpose of preserving the integrity of East Asia, while enabling each nation to maintain its independence and fully to develop its individuality.

It is the firm conviction of Japan that the establishment of such a new order will be perfectly in consonance with international justice and will contribute toward the peace and tranquillity of East Asia, and it is her inflexible resolution to carry out her policy in this regard. Leaving for a later occasion the political and cultural phases of the proposed tripartite relationship, I wish today to offer a few remarks on its economic aspect.

The new order envisages a certain degree of economic cohesion and co-ordination between Japan, Manchoukuo and China, and the formation of a single economic unit in presence of the similar units which already exist elsewhere

and which are both powerful and self-sufficient. Although the term "bloc economy" is frequently applied to such an arrangement, the proposed unit in East Asia is by no means to be a system of closed trade. If by "block economy" is meant the exclusion of all interests other than those of the parties directly concerned, the employment of the term is wholly improper in the present case.

At the moment, not a few observers seem inclined to feel as though Japan, by the inauguration of the so-called "Japan-Manchoukuo-China Economic Bloc" were aiming at the exclusion from East Asia of all enterprises, capital investments, trade and other economic activities on the part of foreigners. It is quite regrettable that some such idea is to be seen reflected in the comments of various newspapers and magazines published in Europe and America. Japan has long stoutly upheld before all the world the principle of equality of commercial opportunity — though as a matter of fact, that principle has received scant regard elsewhere, and Japanese products of good quality

and moderate price have everywhere been subjected to discriminatory treatment, Japan, nevertheless, still believes that the way to bring about the prosperity of each and every nation is to give effect to the principle of equality of commercial opportunity, and she upholds the freedom of economic activity in all parts of the world as a matter of principle. It is far from Japan's thought to aim at excluding European and American economic activities from East Asia.

However, it is most natural and proper that the two neighbour nations closely bound together by the ties of race and culture — Japan, poor in natural resources and without a large domestic market, and China, still economically weak — should work together in order to ensure their independence as regards vital supplies as well as their markets in times of emergency. Within those limits it must be admitted that the economic activities of the countries which lie outside the limits of East Asia world have to be regulated. In other words, it is imperative that

the economic activities of other Powers should be subject to certain restrictions dictated by the requirements of the national defence and economic security of the countries grouped under the new order, and that no political privileges should be attached to those activities. The necessity of such restrictions is recognized by "all modern states," including, I am sure, the British Empire and the United States. But even if these restrictions are put in force, there will remain vast fields of commercial and economic activity open to the people of other Powers.

The formation and existence of an economic co-partnership of nations, such as is contemplated for Japan, Manchoukuo and China, would by no means entail any diminution of the trade between that group and other countries. In this connection I might add a few words regarding Manchoukuo. To say that the new state has been closed to Powers other than Japan is a gross misstatement. Statistics show plainly the progressive increase that has characterized the foreign trade of Manchoukuo during the

past few years. The total value of the foreign trade of that

country, which was 1,060,000,000 yuan in 1930, the year before her independence, leaped to 1,530,000,000 yuan in 1937. As for the imports from other countries during the same period, they witnessed an increase of 35.3% for Great Britain, 98.9% for the United States, and 332.2% for France. Especially conspicuous was the increase in the importation of machinery, tools, vehicles, hardware and timber, the demand for which is expected to expand further, with the progress of the work of economic construction in Manchoukuo. We should also take into consideration the imports from Western countries via Japan, though these are not indicated in the statistics. Again, we should take note of the trade of Manchoukuo with the British and French colonies, which is fast developing with the years.

In brief, the proposed new order for East Asia, when established, will not only bring permanent stability to this part of the globe but will also serve, I am firmly convinced, to put the economic activities of Occidental Powers in East

Asia upon a far more solid foundation than at present.

271 昭和十三年十二月二十二日

日中国交調整の根本方針に関する近衛総理声明

近衛内閣總理大臣談

昭和十三年十二月二十二日

政府ハ本年再度ノ聲明ニ於テ明カニシタル如ク、終始一貫、抗日國民政府ノ徹底的武力掃蕩ヲ期スルト共ニ、支那ニ於ケル同憂具眼ノ士ト相携ヘテ東亞新秩序ノ建設ニ向ツテ邁進セントスルモノデアアル。今ヤ支那各地ニ於テハ更生ノ勢澎湃トシテ起リ、建設ノ氣運愈々高マレルヲ感得セシムルモノガアル。是ニ於テ政府ハ更生新支那トノ關係ヲ調整スヘキ根本方針ヲ中外ニ闡明シ、以テ帝國ノ眞意徹底ヲ期スルモノデアアル。

日滿支三國ハ東亞新秩序ノ建設ヲ共同ノ目的トシテ結合シ、相互ニ善隣友好、共同防共、經濟提携ノ實ヲ擧ゲントスルモノデアアル之ガ爲ニハ支那ハ先ヅ何ヨリモ舊來ノ偏狹ナル觀念ヲ清算シテ抗日ノ愚ト滿洲國ニ對スル拘泥ノ情トヲ一

擲スルコトガ必要デアル即チ日本ハ支那ガ進ンデ滿洲國ト完全ナル國交ヲ修メンコトヲ率直ニ要望スルモノデアル。次ニ東亞ノ天地ニハ「コミンテルン」勢力ノ存在ヲ許スベカラザルガ故ニ、日本ハ日獨伊防共協定ノ精神ニ則リ、日支防共協定ノ締結ヲ以テ日支國交調整上喫緊ノ要件トスルモノデアル。而シテ支那ニ現存スル實情ニ鑑ミ、コノ防共ノ目的ニ對スル充分ナル保障ヲ擧グル爲ニハ、同協定繼續期間中、特定地點ニ日本軍ノ防共駐屯ヲ認ムルコト及ビ内蒙地方ヲ特殊防共地域トスベキコトヲ要求スルモノデアル。日支經濟關係ニ就テハ、日本ハ何等支那ニ於テ經濟的獨占ヲ行ハントスルモノニ非ズ、又新シキ東亞ヲ理解シコレニ即應シテ行動セントスル善意ノ第三國ノ利益ヲ制限スルガ如キコトヲ支那ニ求ムルモノニモ非ズ、唯飽ク迄日支ノ提携ト合作トヲシテ實效アラシメンコトヲ期スルモノデアル。即チ日支平等ノ原則ニ立ツテ、支那ハ帝國臣民ニ支那内地ニ於ケル居住營業ノ自由ヲ容認シテ日支兩國民ノ經濟的利益ヲ促進シ、且ツ日支間ノ歷史的經濟的關係ニ鑑ミ、特ニ北支及内蒙地域ニ於テハソノ資源ノ開發利用上、日本ニ對シ積極的ニ便宜ヲ與フルコトヲ要求スルモノデアル。

日本ノ支那ニ求ムルモノノ大綱ハ以上ノ如キモノデアル。日本ガ敢テ大軍ヲ動カセル眞意ニ徹スルナラバ、日本ノ支那ニ求ムルモノガ區々タル領土ニ非ズ、又戰費ノ賠償ニ非ザルコトハ自ラ明カデアル。

日本ハ實ニ支那ガ新秩序建設ノ分擔者トシテノ職能ヲ實行スルニ必要ナル最少限度ノ保障ヲ要求セントスルモノデアル。日本ハ支那ノ主權ヲ尊重スルハ固ヨリ、進ンデ支那ノ獨立完成ノ爲ニ必要トスル治外法權ヲ撤廢シ且ツ租界ノ返還ニ對シテ積極的ナル考慮ヲ拂フニ吝ナラザルモノデアル。

272

昭和13年12月27日

在上海後藤總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

孔祥熙使者樊光との会談に関する土肥原内話
につき報告

上海 12月27日後発
本省 12月27日夜着

第三八二四號(極秘)

往電第三八一四號ニ關シ

樊光ハ二十一日歸滬シ二十七日AMニ内話シタル所ニ依レ

ハ王正廷ハ形勢觀望ノ形ニテ敢テ香港ヲ動かサルカ樊ハ二十六日夜中央社ノ「ラヂオ」放送ニ依リ蔣介石ノ汪精衛(脱?) (往電第三八二三號)ヲ知ルヤ直ニ孔祥熙宛將來ノ方針指示方電請シタルニ對シ二十七日孔ヨリ祕密協定ヲ結フモ可ナリトテ依然和議繼續方電命シ來レル趣ナルカ二十六日土肥原力森島ニ對スル内話ニ依レハ二十五日樊ト會見ノ際樊ハ日本側ヨリ進シテ停戦ヲ實行スルコトヲ希望シタルニ對シ土肥原ハ支那カ長期抗戦ノ一途ニ出テ居ル以上先ツ支那側ヨリ停戦ヲ實行スヘキモノニシテ右ナキ限り日本側限リニテハ考慮ノ餘地ナキ旨應酬セル趣ナリ

香港へ轉電アリタシ

北京、天津、南京へ轉電セリ

273 昭和14年1月4日 在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘離脱の背景には対日和平をめぐる蔣介石との確執があるとの情報に鑑み孔祥熙を通じた和平工作には警戒方意見具申

付記 昭和十四年一月十二日發在上海三浦(義秋)総

領事より有田外務大臣宛電報第五三三号

孔祥熙を通じた和平交渉を継続すべきとの樊

光内話について

香港 1月4日後発

本省 1月5日前着

第一二號(極秘、館長符號抜)

孔令侃ヨリ出テタル消息トシテ三日XYZノ内報スル所ニ依レハ汪脱出ノ原因ハ戦局ノ前途ニ對スル絶望カ其ノ主因ナルコト勿論ナルカ他面汪カ蔣介石ニモ議和ノ意アリ別ニ土肥原ト接洽セシメツツアルコトヲ薄薄感知シ自派勢力挽回ノ爲之カ先手ヲ打タントセルモノナルコトモ其ノ一因ナリ(孔祥熙ノ意ヲ承ケ樊光ト土肥原トノ間ニ接觸アルコトハ上海發閣下宛電報ノ通り)汪脱出ニ對シ蔣介石トシテハ最近英米ノ態度モ支那側ニ有利ニ展開セル一方日本側トシテハ之以上戦争繼續ノ力ナク和平ヲ熱望シ居ルコトトテ今暫ク粘ルニ於テハ直接交渉ニ依リ有利ナル條件ニテ講和ヲ爲シ得ヘシト考ヘ居タル矢先ナリシヲ以テ汪ノ拔駈的行動ニ依リ結局其ノ意圖スル和平計畫ヲ打毀ス結果トナリ憤慨シ居ル趣ナルカ卅一日重慶發申報航空便ニモ略同様趣旨ノ

消息ヲ傳へ居リ他方別電ノ通り汪側ニ於テ汪ノ聲明ニ對スル一日ノ東京發路透電ヲ大分氣ニシ居ル模様ニモアリ重慶側ニ對スル今後ノ工作上孔祥熙ヲ通スル和平交渉ニ付テハ餘程警戒ヲ要スルモノト認メラル

右二付テハ今井中佐モ同意見ニシテ五日當地發歸朝ノ途寄滬シ土肥原中將ニモ然ルヘク進言ノ筈ナリ

上海へ轉電セリ

編注 別電第一三号は本書第49文書として採録。

(付記)

上海 1月12日後発
本省 1月12日夜着

第五三號(極秘、館長符號抜)

⁽¹⁾ 香港發貴大臣宛電報第一二號ニ關シ

當地滞在中ノ樊光ハ十一日清水ニ對シ今回ノ汪兆銘ノ脱出事件ハ汪力和平解決ヲ餘リニ焦リ過キタル結果ニシテ斯ル方法ニテハ全般的和平解決ハ不可能ナリ蔣介石モ和平ヲ希望シ居ルコトハ決シテ汪ニ劣ラサレトモ其ノ方法ニ至ツテ

ハ別ニ考慮シ居ルモノト察セラル而シテ蔣ヲ動かスニハ孔祥熙ヲ通シテ工作スルコト最モ捷徑ナルヲ以テ此ノ際日本側トシテハ汪ノ失敗ニ懲リス従來通り孔ヲ通スル連絡工作ヲ續クル様努力セラレ度シ其ノ第一手段トシテハ平沼内閣ヨリ更メテ國民政府トノ和平解決ヲ斷念セルモノニアラサルカ如キ聲明ヲ發シテ夫レトナク國民政府ニ呼掛クルト共ニ汪ノ工作ハ一應失敗セルモノトシテ見切ヲ付ケ之ニ係リ合ハサル態度ヲ表明スルコト必要ナリト思考セラル

⁽²⁾ 自分(樊)モ最近二、三回書面ヲ以テ汪ノ事件ニ拘ラス日本側トノ連絡ヲ繼續シ和平解決ニ努力スルコト然ルヘキ旨進言シ置キタルカ土肥原將軍(十一日北上下旬歸滬ノ豫定)ト面會ノ上月末頃香港ニ赴ク豫定ナリト内話セル趣ナリ尙孔ヨリハ當地江藤豐次(事變前ヨリ事業關係ニテ孔ト密接ナル連絡ヲ有ス)ニ對シ舊臘以來數回ニ亘リ來香方電報シ來レルニ對シ江藤ヨリ孔ノ赴香ヲ促シ來レル處最近孔ヨリ代表者ヲ香港ニ派遣スヘキ趣ヲ以テ江藤ノ來香ヲ切ニ促シ來レルモ江藤ハ日本側關係方面トモ打合ノ上赴香ヲ見合セ居レリ右ニ依リ孔祥熙一派ノ動向ヲ窺フニ足ルヘク冒頭電ノ次第モアリ御參考迄

香港へ轉電アリタシ

274 昭和14年1月4日 沢田外務次官
在本邦オットー独国外使——會談

ドイツの和平斡旋提案をめぐる沢田・オットー

會談

日支和平交渉斡旋ニ關スル獨逸大使來談ノ件

一月四日、獨逸大使澤田次官來訪

在重慶獨逸代表者(代理大使ニハアラス)ヨリノ情報ナリトシテ

一、一月二日汪兆銘一味ノ二百名重慶ニ於テ監禁セラレタルコト

二、蔣介石ハ汪ノ國民黨剝奪ニハ自身贊成ニハアラサリシ

モ餘義ナク黨ノ決議ヲ容レサルベカラサリシコト

三、現下ノ重慶ノ空氣ニテハ汪兆銘聲明ハ反響薄キ様認メラ

ルルコト(獨代表者ノ觀測)

ヲ陳ベ、獨逸トシテハ何時ニテモ希望アラバ調停者ノ役目ヲ欣ンデ取ル様自分ヨリ伯林政府ニ進言スヘキ旨ヲ附言シタリ

尙獨逸大使ハ聲ヲ低クメナガラ近衛内閣ハ本日辭表提出シタル趣ナル處新内閣ニヨリ政策ヲ新タニスル趣旨ニテ蔣介石ヲモ相手トシテ和平ヲ講スルコトニハ行カサルモノニヤト質問セリ

右ニ對シ澤田ハ獨逸側ノ和平斡旋ニ付テノ好意ハ常ニ多トスル所ナルカ、最近又モヤ今一ト押シセバ日本ガ財政の二行詰ルベシトノ誤レル觀測ノ下ニ對支「クレディット」ナドヲ設定スル旨モアル折柄日本トシテハ如何ナル第三國ニ對シテモ調停ナト依頼スル意向ナシ、又近衛内閣辭職ノ結果如何ナル内閣成立ストモ日支事變處理方針ハ先月下旬政府ノ聲明セル所ヲ變更スルコトナシト思考スト答へ、尤モ重慶側ニテ右帝國政府聲明ニ呼應シテ彼ヨリ歩ミ寄り來ラバ其出方ニヨリ我方モ考ヘ様モアルベシト答ヘタルニ獨逸大使ハ獨逸トシテモ蔣介石ヲ「インデュース」シテ和平交渉ニ應スル様「インフルエンス」ヲ用ヒ見度シト言フニアリト答ヘタルニ付獨逸トシテハ顧問等ノ引揚ヲ行ヒ爲ニ重慶側トシテハ獨逸ニ對シテ不滿ナラント思ハルル位ナルカ而モ尙「インフルエンス」ヲ用ヒ得ル見込アル次第ナリヤト反問セルニ獨逸大使ハ之ヲ用ヒタル結果蔣介石ガ聽從ス

4 宇垣外相就任から第一次近衛内閣退陣まで

ルヤ否ヤハ疑問ナルモ實ハ顧問引揚ト共ニ獨逸ノ對支取引ハ著シク壓迫ヲ受クベシトテ在支獨逸商人ハ右引揚ニ非常ニ反對ナリシカ引揚ノ結果ハ別ニ獨逸商人モ支那側ヨリ不當ノ取扱モ受ケサル實情ナリ(此點獨逸ハ日本ニ好意ヲ表シタル結果對支取引ニハ不利ヲ招キ居ルトノ獨逸側ノ從來ノ言分ト多少異ナル所アルヤニ思ハル)即チ支那トシテモ依然獨逸ノ好意ヲ繫キ置キ度キ氣持アルヤニ認ムルヲ以テ茲ニ獨逸トシテ「インフルエンス」ヲ用フル餘地アリト考へ居ルモノナル旨答ヘタリ

